

山梨県北杜市
山崎第4遺跡

2011
北杜市役所建設部
北杜市教育委員会

山 梨 県 北 杜 市
やまざきだいよんいせき
山崎第4遺跡

2011
北杜市役所建設部
北杜市教育委員会

例　　言

1. 本書は北杜市教育委員会が公営住宅整備事業に伴い平成 21 年度に実施した山崎第 4 遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査地点は山梨県北杜市大泉町西井出 3000-2 番地ほかで、調査面積は 4,940 m² である。
3. 山崎第 4 遺跡は、遺跡番号 5-045、集落跡、縄文時代・平安時代として北杜市遺跡台帳に記載され、周知されている。
4. 調査は、北杜市役所建設部建築住宅課が所管する公営住宅整備事業市営山崎団地増築工事に伴い、平成 21 年度に北杜市教育委員会が記録保存のために実施した。
5. 調査期間は現地調査が平成 21 年 4 月 20 日から平成 21 年 11 月 27 日までの 79 日間に実施した。整理作業は現地調査終了後、平成 23 年 3 月 31 日まで発掘調査報告書作成のための調査記録、出土品の整理作業を実施した。
6. 本調査は、北杜市が山梨県地域住宅交付金の交付を受けて調査経費を負担し、北杜市教育委員会が実施した。
7. 調査組織は以下のとおりである。

　　調査主体　北杜市教育委員会教育長　井出武男

　　調査担当　北杜市教育委員会生涯学習課文化財担当　佐野隆・千葉毅

　　調査事務局　北杜市教育委員会生涯学習課

8. 本書の執筆、編集は、佐野があたった。
9. 調査において、石器実測業務を株式会社アルカ、空中写真撮影を株式会社スカイサーベイに委託した。
10. 本調査に係る調査記録および出土品は、北杜市埋蔵文化財センターが保管している。
11. 調査参加者（五十音順）
厚芝金夫、浅野好生、栗澤美香、石渡節子、板倉良広、井上町子、大綱信良、大橋晴子、小澤久恵、長田重子、小野一英、片山和江、柏木恵美、風間まゆみ、金井紋子、岸上学、窪田信一、小泉かおる、小松原俊一、小松原千津、佐野菜津子、清水和彦、清水さゆり、清水洋江、清水ヤス子、清水泰倫、鈴木節夫、鈴木照香、高木聰美、高田京子、田中彰、土橋清成、西川大、野口昭政、畠山己幸、長谷川規愛、藤原喜美子、三井照平、三井喜満、皆川禮子、森脇つや子、矢ヶ崎重浩、矢ヶ崎初、八巻五月、八巻まさ子、八巻久子、山田雅子、山路理恵、山中森男、渡辺陽子

凡　　例

1. 報告書中の地図は、国土地理院発行 2 万 5 千分の一数値地図『甲府』、北杜市役所発行『北杜市全図』、旧大泉町発行『大泉町全図』、北杜市役所地理情報システム収録図を用いた。
2. 報告書中の土壤および土器胎土の色調は、『新版標準土色帖』財団法人日本色彩研究所に拠った。
3. 報告書中の遺構図面および遺物実測図の縮尺は、各図版に付した。
4. 報告書中の遺構図面中のトーンは、焼土範囲を示す。
5. 報告書中の石器実測図中のトーンは、敲き痕を示す。
6. 上記以外のトーンに関しては、各図面に個別に凡例を付した。
7. 付録 CD-R には、「土坑観察表」「ピット観察表」「土器観察表」「石器観察表」「遺物集計表」が収録される。

例言

凡例

目次

第1章 調査の経過と遺跡の概要.....	1
第1節 調査の経過.....	1
第2節 遺跡の概要.....	1
第3節 調査の方法.....	2
第2章 調査された遺構と遺物.....	10
第1節 壁穴住居跡.....	10
第2節 土坑.....	23
第3章 山崎第4遺跡出土石器の分析.....	145
第1節 対象資料と所見の記載方法.....	145
第2節 使用痕分析.....	145
第4章 調査の成果と総括.....	155

写真図版

抄録

図版目次

第1図 周辺の遺跡	4
第2図 遺跡の位置図	9
第3図 調査区位置図	9
第4図 遺構配置図（壁穴住居跡）.....	27
第5図 遺構配置図（土坑・ピット(1)）.....	28
第6図 遺構配置図（土坑・ピット(2)）.....	29
第7図 1号・2号・3号住居跡	30
第8図 1号住居跡炉、出土遺物	31
第9図 1号住居跡出土遺物(1)	32
第10図 1号住居跡出土遺物(2)	33
第11図 1号住居跡出土遺物(3)	34
第12図 1号住居跡出土遺物(4)	35
第13図 1号住居跡出土遺物(5)	36
第14図 1号・2号住居跡出土遺物	37
第15図 3号住居跡・71号土坑出土遺物	38
第16図 4号住居跡、4号住居跡炉、出土遺物 ..	39
第17図 5号住居跡	40
第18図 5号住居跡出土遺物(1)	41
第19図 5号住居跡出土遺物(2)	42
第20図 5号住居跡出土遺物(3)	43
第21図 5号住居跡出土遺物(4)	44
第22図 5号住居跡出土遺物(5)	45
第23図 6号・13号・39号・40号住居跡	46
第24図 6号住居跡	47
第25図 6号住居跡断面図、6a号住居跡出土遺物	48
第26図 6a号住居跡出土遺物	49
第27図 6号住居跡出土遺物(1)	50
第28図 6号住居跡出土遺物(2)	51
第29図 6号住居跡出土遺物(3)、39・40号住居跡	52
第30図 39号住居跡出土遺物	53
第31図 13号住居跡、13号住居跡炉	54
第32図 13号住居跡埋甕、焼土・炭化材検出状況、出土遺物	55
第33図 9号住居跡、9号住居跡炉	56
第34図 9号住居跡出土遺物(1)	57
第35図 9号住居跡出土遺物(2)	58
第36図 9号住居跡出土遺物(3)	59
第37図 9号住居跡出土遺物(4)	60
第38図 9号住居跡出土遺物(5)、10号住居跡、出土遺物	61
第39図 12号住居跡、12号住居跡炉	62
第40図 12号住居跡出土遺物(1)	63

第 41 図	12 号住居跡出土遺物 (2)	64
第 42 図	17 号住居跡	65
第 43 図	17 号住居跡炉	66
第 44 図	17 号住居跡出土遺物 (1)	67
第 45 図	17 号住居跡出土遺物 (2)	68
第 46 図	17 号住居跡出土遺物 (3)	69
第 47 図	17 号住居跡出土遺物 (4)	70
第 48 図	18 号住居跡、18 号住居跡炉	71
第 49 図	18 号住居跡出土遺物 (1)	72
第 50 図	18 号住居跡出土遺物 (2)	73
第 51 図	20 号住居跡	74
第 52 図	20 号住居跡炉、柱穴、出土遺物 (1)	75
第 53 図	20 号住居跡出土遺物 (2)、21 号住居跡	76
第 54 図	21 号住居跡炉、埋甕、出土遺物 (1)	77
第 55 図	21 号住居跡出土遺物 (2)	78
第 56 図	21 号住居跡出土遺物 (3)、22 号住居跡、 炉、出土遺物	79
第 57 図	24 号住居跡	80
第 58 図	24 号住居跡炉、埋甕、柱穴	81
第 59 図	24 号住居跡出土遺物 (1)	82
第 60 図	24 号住居跡出土遺物 (2)	83
第 61 図	24 号住居跡出土遺物 (3)、25 号住居跡	84
第 62 図	25 号住居跡柱穴、出土遺物 (1)	85
第 63 図	25 号住居跡出土遺物 (2)	86
第 64 図	26 号住居跡	87
第 65 図	36 号・37 号住居跡	88
第 66 図	34 号住居跡	89
第 67 図	34 号住居跡炉	90
第 68 図	26 号住居跡出土遺物	91
第 69 図	36 号・37 号住居跡出土遺物	92
第 70 図	34 号住居跡出土遺物	93
第 71 図	27 号・35 号住居跡	94
第 72 図	27 号住居跡炉、柱穴	95
第 73 図	27 号・35 住居跡・73 号土坑出土遺物	96
第 74 図	28 号住居跡、柱穴、出土遺物	97
第 75 図	29 号・30 号住居跡	98
第 76 図	29 号・30 号住居跡炉、出土遺物	99
第 77 図	31 号住居跡	100
第 78 図	31 号住居跡出土遺物 (1)	101
第 79 図	31 号住居跡出土遺物 (2)	102
第 80 図	32 号住居跡、出土遺物 (1)	103
第 81 図	32 号住居跡出土遺物 (2)、33 号住居跡	104
第 82 図	33 号住居跡出土遺物 (1)	105
第 83 図	33 号住居跡出土遺物 (2)	106
第 84 図	33 号住居跡出土遺物 (3)	107
第 85 図	33 号住居跡出土遺物 (4)	108
第 86 図	33 号住居跡出土遺物 (5)	109
第 87 図	33 号住居跡出土遺物 (6)	110
第 88 図	38 号住居跡、出土遺物	111
第 89 図	41 号・42 号住居跡、42 号住居跡出土遺物	112
第 90 図	43 号住居跡、出土遺物	113
第 91 図	44 号・45 号住居跡、出土遺物	114
第 92 図	46 号住居跡、46 号住居跡炉	115
第 93 図	46 号住居跡出土遺物 (1)	116
第 94 図	46 号住居跡出土遺物 (2)	117
第 95 図	46 号住居跡出土遺物 (3)	118
第 96 図	46 号住居跡出土遺物 (4) (1/2)、47 号住 居跡、出土遺物	119
第 97 図	48 号住居跡、出土遺物	120
第 98 図	1 号・2 号土坑、出土遺物	121
第 99 図	4 号・5 号土坑、出土遺物	122
第 100 図	8 号土坑、出土遺物	123
第 101 図	39 号・44 号・62 号土坑、出土遺物	124
第 102 図	72 号・97 号・112 号土坑、出土遺物	125
第 103 図	77 号土坑、出土遺物	126
第 104 図	113 号・119 号・123 号土坑、出土遺物	127
第 105 図	127 号・130 号土坑、出土遺物	128
第 106 図	135 号土坑、出土遺物	129
第 107 図	137 号・147 号土坑、出土遺物	130
第 108 図	151 号土坑、出土遺物	131
第 109 図	151 号土坑出土遺物、183 号・187 号・ 200 号土坑、出土遺物	132
第 110 図	205 号・207 号・209 号土坑、出土遺物	133
第 111 図	213 号・214 号土坑、213 号土坑出土遺物	134
第 112 図	214 号土坑出土遺物、217 号土坑、出土遺物	135
第 113 図	229 号・235 号・243 号・245 号土坑、出土 遺物	136
第 114 図	252 号土坑、出土遺物	137
第 115 図	その他の土坑出土遺物 (1)	138
第 116 図	その他の土坑出土遺物 (2)	139
第 117 図	その他の土坑出土遺物 (3)	140
第 118 図	その他の土坑出土遺物 (4)	141
第 119 図	その他の土坑出土遺物 (5)	142
第 120 図	ピット出土遺物	143
第 121 図	その他の遺構・試掘溝・遺構外出土遺物	144
図版 1	PJ33- 中越式期	148
図版 2	PJ01- 諸磯 a から b2 式期	149
図版 3	PJ17- 曽利 I・II 式期 (1)	149
図版 4	PJ17- 曽利 I・II 式期 (2)	150
図版 5	その他 (1)	150
図版 6	その他 (2)	151
図版 7	その他 (3)	152

表目次

第 1 表	周辺の遺跡地名表	5
表 1	石器器種別集計表	153
表 2	石器石材別集計表	154
表 3	石器器種別集計表 (土坑)	154

第1章 調査の経過と遺跡の概要

第1節 調査の経過

平成16年度に8町村が合併して発足した北杜市では、老朽化した公営住宅の整理統合と再整備を進めており、平成21年度には大泉町西井出3000-2番地ほかで市営山崎団地の増築と住宅のための市道工事が計画された。市営山崎団地では、それまでに住宅建設に伴い旧大泉村教育委員会が平成元年と平成4年に発掘調査を実施し、縄文時代と平安時代の集落跡が調査されていた。新しい団地の増築用地は平成4年調査地点の南に隣接するため縄文時代等の集落跡が連続することが明らかであった。そこで公営住宅整備を担当する北杜市役所建設部建築住宅課と市教育委員会生涯学習課とで工事計画と遺跡の保護措置との調整協議を重ねたが、遺構の検出深度が浅いなど、計画された住宅棟は木造2階建が3棟、計20戸分と規模の大きな建築物であること、入居者用駐車場の必要性から用地全体の3段造成が必要なこと、交通の便を図るための延長320m、幅4.5mの市道新設も必要なことなどの理由により、遺跡の現地保存は困難であると判断し、着工前に埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査を実施することとした。

調査は平成21年4月20日に重機により荒廃した用地の除草作業から着手した。事前の試掘調査を実施していないため、住宅と市道用地に19本の試掘溝を重機を用いて発掘し、遺構の分布範囲と密度、時代を確認した。その結果、用地のほぼ全面に遺構が分布することを確認し、調査区域4,940 m²を設定した。開発事業者と調査者がともに北杜市役所（教育委員会）であることから、調査に際して協定書等は作成せず、調査に必要な予算を市教育委員会が計上し、建築住宅課は調査費財源として地域住宅交付金を計上し調査費に充当する予算措置を講じた。調査対象としたのは大泉町西井出3000-2番地ほかの用地5,560 m²（うち住宅部分4,120 m²、道路部分1,440 m²）で、実際に発掘調査を実施した面積は、遺構が検出されない急傾斜地を除く4,940 m²である。調査は平成21年11月27日に完了した。調査経費は平成21年度の現地調査11,612,571円、平成22年度に実施した整理作業費が6,360,706円、計17,973,277円で、北杜市が55%を出し、山梨県地域住宅交付金45%を充当した。

本調査に係る公文書等を以下に挙げる。

- 北杜建住第111号 平成21年4月17日 埋蔵文化財発掘の通知について
- 北杜生学第117号 平成21年4月21日 埋蔵文化財発掘調査の報告について
- 教学文第337号 平成21年5月15日 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
- 北杜生学第725号 平成21年11月30日 埋蔵文化財調査終了報告
- 北杜生学第726号 平成21年11月30日 埋蔵文化財保管証
- 北杜生学第727号 平成21年11月30日 埋蔵物発見届
- 北杜生学第728号 平成21年11月30日 埋蔵文化財保管請証

第2節 遺跡の概要

調査対象となった周知の埋蔵文化財「山崎第4遺跡（やまとさきだい4せいせき）」は北杜市遺跡台帳に遺跡番号5-045、集落跡・縄文時代・平安時代として登録され周知されている。

本格的な発掘調査は、昭和53年度に旧大泉村教育委員会が県営圃場整備事業に伴い、東に隣接する山崎第1遺跡（現在は寺所第2遺跡として周知）で実施した試掘調査と昭和54年度の山梨史学研究会による発掘調査が最初である。このときには縄文時代中期藤内式期の住居跡3軒、土坑2基が検出されている。

先述したとおり平成元年と平成4年には、村営山崎団地建設に伴い旧大泉村教育委員会が3次にわたる発掘調査を2,269 m²において実施し、縄文時代前期前葉の住居跡3軒、前期後葉の住居跡7軒、平安時代の住居跡2軒、土坑75基、集石遺構9基を調査している。

本書に報告する平成21年度実施の発掘調査は、第4次調査となるが、4,940 m²の調査面積において、縄

文時代前期の住居跡 20 軒、中期の住居跡 15 軒、土坑 250 基、平安時代の住居跡 1 軒が検出され、コンテナ 57 箱分の主に縄文時代の土器と石器が出土している。

山崎第4遺跡は、八ヶ岳南麓の標高 830m から 805m 付近に位置している。八ヶ岳南麓には八ヶ岳の湧水を水源とする小河川が南流し、大小の河谷を形成している。本遺跡の西方 50m には東衣川が流れ、東方 350m には泉川が流れる。遺跡はこの両河川にはさまれた緩く南に傾斜する山麓台地に展開している。遺跡のすぐ東側には泉川の旧河道と思われる谷地形が入り、この谷の西側を山崎第4遺跡、東側を天神遺跡、寺所第2遺跡と呼んでいる。

大泉町は大規模な縄文時代遺跡が濃密に分布することで知られる。縄文時代前期には八ヶ岳南麓の拠点的な地域として大規模な集落遺跡が形成され、晩期の国指定史跡金生遺跡にまで連続と土地利用されている。山崎第4遺跡はこれらの大規模集落遺跡のなかにあっては短期間、小規模な遺跡であるが、東側の谷地形の先には大規模集落遺跡があり、それらと一体となった集落跡とみるべきであろう。

周辺の遺跡を概観しておく。

遺跡の北東 280m には縄文時代前期後葉から中期初頭の集落跡、天神遺跡がある。昭和 56 年と 57 年に山梨県教育委員会が県営圃場整備事業に伴い発掘調査し、諸磯 b 式から c 式期の住居跡 49 軒、五領ヶ台式期の住居跡 12 軒、曾利式期の住居跡 5 軒、平安時代の住居跡 8 軒、土坑 500 基以上を検出している。諸磯式期には直径 150m にもおよぶ環状集落を形成し、諏訪湖地域からの黒曜石流通の拠点としても注目されている。

遺跡の南東 250m には寺所第2遺跡がある。県営圃場整備事業に伴い平成 7 年度に旧大泉村教育委員会が発掘調査し、9,652 m² の調査範囲で縄文時代中期初頭から末葉の住居跡 93 軒、平安時代の住居跡 37 軒、土坑 250 基などが検出されている。

遺跡の南東 1.2km には縄文時代前期前葉から中期末葉に及ぶ大規模な集落跡、甲ッ原遺跡がある。平成元年から平成 9 年にかけて県道建設等に伴い山梨県教育委員会と旧大泉村教育委員会が繰り返し発掘調査を実施し、100 軒を超える住居跡と多数の土坑を検出している。時期が異なる複数の環状集落跡が重複しているとみられ、長坂町酒呑場遺跡とともに八ヶ岳南麓の最大規模の集落跡と目される。

遺跡の北東 1km には縄文時代中期中葉の集落跡、古林第4遺跡がある。平成 4 年度に県営圃場整備事業に伴い旧大泉村教育委員会が発掘調査し、中期中葉の住居跡 20 軒、土坑 177 基などを検出している。

国史跡に指定された縄文時代後期から晩期の集落跡、金生遺跡は、本遺跡から南南西 0.9km 地点にある。石棺墓を中心とする配石群と住居跡から構成される晩期の集落跡は、八ヶ岳山麓中、最大規模であり、昭和 58 年に史跡指定されている。

このほかにも大泉町には多数の縄文時代遺跡が知られており、遺跡が多い北杜市域でも特に重要な地域となっている。雄大な八ヶ岳の景観、広大な南麓の豊かな自然環境、八ヶ岳西麓経由で黒曜石原産地につながる地理環境が、こうした特異な状況の背景にあるものと思われる。

第3節 調査の方法

調査の方法を記しておく。住宅増築用地は、荒廃した畠であった。0.7t 重機を用いて除草し、表土を剥ぎ取った。長年の荒廃で雑木が繁茂した箇所もあり、雑木の根を慎重に抜根し、あるいは残しながら表土を剥ぎ取った。浅いところでは地表から 20cm 程度で縄文時代の土器と石器が出土し始める。これらを取り上げながら、擾乱が少なく遺構が確認できる深さまで慎重に掘り下げた。

表土剥作業と併行して、調査に伴う測量の基準点を設置した。基準点は住宅建設の測量のために設置された世界測地系第Ⅷ系に基づく基準点を用い、必要に応じて下位基準点を設置した。遺構の形状、遺物の出土位置などは光波測量器を用いて、公共座標系により測量、記録した。調査の記録写真は中判カラーネガフィルムと 35mm 判デジタルカメラにより撮影した。

出土遺物は、作業の能率を勘案し、概ね 3cm 以上の土器破片、石器、石材は全点を光波測量器をもつ

て出土位置を記録した。3cm未満の土器破片、黒曜石などの微小な剥片は、遺構一括、遺跡一括として取り上げた。

測量の都合上、遺構と遺物の出土位置は以下の略記号をもって表現した。遺物は以下の遺構記号の下位に遺物番号を付した。遺物の注記には注記専用プリンターを用い、山崎第4遺跡のコード番号「5-045」に、遺構記号と番号、さらに遺物番号を記載した。「5-45 PJ-001 0001」は、山崎第4遺跡1号住居 取り上げ番号1を意味する。

PJ-000 繩文時代の住居跡

DK-000 土坑

PT-000 ピット

IG-000 遺構外出土遺物

必要に応じ遺構の微細図を作成した。作図は1/10、1/20を基本とし、作図原点は光波測量器をもちいて測量記録した。

整理作業では、遺構図面、土器および石器等の実測図を作成した。遺構図面は光波測量器を用いて作図した測量原図をAdobe社製Illustratorで編集加工し作成した。作業員による遺構微細図、遺物実測図も同じソフトを用いてデジタルトレースし、報告書原稿とした。

報告書中の遺構、遺物の時期については、山梨県史に従った（山梨県1999）。

報告書に掲載した遺物は、図版番号順に整理し、市埋蔵文化財センターが収蔵保管している。

参考文献

- 伊藤公明 1996 「寺所第2遺跡」『年報 平成7年度』北巨摩市町村文化財担当者会
大泉村 2002 『古林第4遺跡II 大泉村埋蔵文化財調査報告書第16集』
山梨県 1998 『山梨県史資料編1 原始・古代1 考古(遺跡)』
山梨県 1999 『山梨県史資料編2 原始・古代2 考古(遺構・遺物)』



第1図 周辺の遺跡 (1/50,000)

第1表 周辺の遺跡地名表

縄文前期初期

遺跡番号	遺跡名	遺構数
5-045	山崎第4	墻穴住居6軒(前期初頭～前期中葉)。土坑257基(前期初頭～中期後葉)
3-184	東郷堂	時期不明の土坑63基(縄文早崩～世紀)。
4-064	小屋敷	墻穴住居2軒。墻穴造構2軒。縄文と平安の土坑30基(木造式1・前期初頭以前1を含む)とビット58基。
4-102	酒呑場	墻穴住居(前庭初頭2・中期後葉38・中期初頭29・中期前葉38・中期中葉84・中期後葉38・後期初頭1・古墳前葉14・縄文中期3・中期後葉～中葉)。井戸尻(曾利1)。
5-054	金生	墻穴住居1軒。
5-063	甲ヶ原	縄文前葉初頭～平安までの住居118軒(前期初頭22・五個タ台7・勝沢新道9・藤内戸戸尻31・井戸尻～曾利1・曾利22・中期6・中期後葉～後期初頭1・平安4・不明9)。柱立建物6棟(藤内戸戸尻1・曾利3・不明2)。諸磯～曾利までの土坑669基(諸磯29・五個タ台2・勝沢新道3・藤内戸戸尻21・曾利50・中期7)。

縄文前期中期

遺跡番号	遺跡名	遺構数
3-089	西ノ原B	墻穴住居(縄文前期前葉6・中期後葉1)。土坑1基(中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・縄文3)
4-190	泡之平北	墻穴住居3軒。土坑数軒(縄文～中期)。
5-042	寺所第2	墻穴住居1軒。
5-063	甲ヶ原	墻穴住居1軒。

縄文前期後葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
5-063	甲ヶ原	前期中葉～中期後葉の土坑94基(前期中葉1・中期後葉2・中期後葉の土坑群)。
5-042	寺所第2	墻穴住居2軒。土坑1軒。
5-045	山崎第4	墻穴住居6軒(前期初頭～中期中葉)。土坑257基(前期初頭～中期後葉)

縄文中期後葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
3-175	米田	墻穴住居10軒。時期不明の土坑5基(縄文)。
3-176	米田北	墻穴住居1軒。土坑17基(中期3基・時期不明)。
3-194	持井	土坑1基。
4-069	右原田北	墻穴住居(諸磯1・中期前葉6・中期9・前葉～中葉1・平安19・中世1・平安4・中世1・不明2)。縄文～中葉の土坑・ビット289基(早期～前葉1・諸磯2)・中期後葉～中期前葉1・中期後葉2・中期後葉の土坑群)。
4-102	酒呑場	墻穴住居(前庭初頭2・前庭後葉38・中期初頭29・中期前葉38・中期中葉84・中期後葉38・後期初頭1・古墳前葉14・縄文中期3・中期後葉～中葉)。井戸尻(曾利1)。約580基の土坑(諸磯～曾利v)。
4-173	健康村	墻穴住居の土坑11軒。時期不明の掩土坑2。時期不明の野外9基・墓1基。
5-017	東原	縄文時代の須磨石原石埋納土坑1基。
5-038	原田	前期前葉～中期前葉の土坑5基(中期後葉～中期前葉)。
5-041	今所	墻穴住居2軒。縄文初期～弥生の廐用木舟に使用された湧き水跡。
5-043	天神	墻穴住居49軒。土坑488基(うち中期初期の土坑を除くほとんどの土坑が諸磯で329基以上)。
5-045	山崎第4	墻穴住居4軒。土坑257基(前期初頭～中期後葉)。
5-057	御所	墻穴住居1軒(諸磯3・縄文)。墻穴造構1基。集石1基。土坑8基。
5-063	甲ヶ原	縄文前葉初頭～平安までの住居127軒(前期初頭1・諸磯23・五個タ台7・勝沢新道10・藤内戸戸尻34・井戸尻～曾利1・曾利24・中期6・中期後葉～後期初頭1・縄文5・平安4・不明10)。柱立建物6棟(藤内戸戸尻1・曾利1・不明2)。諸磯～曾利までの土坑859基(前期中葉1・諸磯35・五個タ台2・勝沢新道9・藤内戸戸尻21・井戸尻23・曾利54・中期7)。

縄文中期末葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
3-089	西ノ原B	墻穴住居(縄文前期前葉6・中期後葉1)。土坑1基(中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・縄文3)
4-092	清春白樺美術館前	土坑181基(うち前期中葉13基)。墓1基。
5-045	山崎第4	墻穴住居2軒(前中期葉～中期初頭)。土坑257基(前期初頭～中期後葉)

縄文中期初期

遺跡番号	遺跡名	遺構数
3-089	西ノ原B	墻穴住居(縄文前期前葉6・中期後葉1)。土坑1基(中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・縄文3)
3-169	日影田	墻穴住居(五個タ台3・曾利1・不明1)。縄文中期～近世までの土坑113基。墻穴造構4基(うち五個タ台1)・ビット群(縄文中期～近世)。
3-195	持井	墻穴住居1軒。土坑1基(中期の土坑11基(中期1・時期不明10)と諸磯1)。
4-017	西下屋敷	土坑7基(五個タ台1・時期不明4)。ビット10基(縄文後葉4・晚期1・時期不明)。時期不明の溝4条。
4-062	横坪	墻穴住居1軒。14基の土坑(中期後葉1～後期初期1・中期後葉～後期初期1・縄文)。
4-064	小屋敷	墻穴住居1軒。土坑30基(縄文～中期)。大型石造構2基(縄文中期～中期後葉)。
4-100	高松	墻穴住居(縄文中期初期1)。土坑13基(縄文1)。大型石造構4基(縄文～中期)。
4-102	酒呑場	墻穴住居(前期初期2・中期後葉38)。中期初期1・中期前葉23・中期後葉38・中期中葉84・中期後葉38・後期初期1・古墳前葉14・縄文中期3・中期後葉～中期前葉1・中期初期1・中期後葉)。井戸尻(曾利1)。
4-173	健康村	埋葬1基。土坑1基。時期不明の野呂谷9基(縄文)。
4-182	柳坪	墻穴住居3軒。土坑7基(中期初期1・後葉)。屋外埋葬2基(中期初期1～後葉)。
5-017	東原	縄文時代の須磨石原石埋納土坑1基。
5-042	寺所第2	墻穴住居7軒。屋外埋葬2基。土坑約19軒。
5-043	天神 C	墻穴住居9軒。土坑6基(五個タ台3・十三世普良在3)

5-044	天神 A	堅穴住居2軒。土坑(曾利 1を含む時期不明の16基)A・B・C。
5-045	山崎第4	堅穴住居2軒(前期末葉～中期後葉)。土坑257基(前期初頭～中期後葉)
5-063	甲ヶ原	礎穴(前期初頭～平安時代の住居127軒)・中期後葉 1・礎構 23・五個口台 8・勝沢新道 10・藤内井戸尻 34・井戸尻～曾利 1・曾利 24・中期 6・中期後葉～後期初頭 1・礎文 4・平安 4・不明 10)。獨立柱建物6棟(藤内井戸尻 1・曾利 3・不明 2)。諸機～曾利までの土坑669基。諸機～曾利までの土坑765基(諸機 33・五個口台 2・勝沢、新道 9 藤内、井戸尻 23・曾利 54・中期 7)。
5-068	谷戸氏館跡	礎穴住居2軒。礎文～近世の土坑114基(中期初頭 1・中世～近世 16・古世以降 7)。
5-073	小坂	堅穴住居3軒。礎文の土坑1軒(中期初頭～中期後葉)。
4-102	酒呑場	堅穴住居(前期初期 2・後期後葉38・中期初期 29・中期前葉 38・中期中葉 84・中期後葉 39・後期初頭 1・古墳前期 14・礎文中期 3・礎文 3・中期後葉～中葉1・井戸尻～曾利1)。約5850基の土坑(諸機～曾利 v)。
4-211	上条宮久保	堅穴住居1軒。土坑18基(井戸尻 2・曾利 6・時期不明)。

縄文中期前葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
3-089	西ノ原B	堅穴住居(鶴文の前期前葉 4・前期末葉 1)・中期初期 3・中期前葉 1・中期中葉 4・中期後葉 1・中期 2・礎文 3)
3-127	梅の木	堅穴住居 1 軒。
3-162	社口	堅穴住居 1 軒。土坑・ビット約300基(うち中期前葉 1・中期後葉 23・籠之内 19)。加害利 B 1・後期 26・平安 6)。
3-195	持井	礎構 2 基。礎文と中期の土坑 11 基(中世 1・中期不確 10)。古墳 1 軒。
4-049	小和田館跡	堅穴住居(中期前葉 2・平安 1・中期不明 1)。時期不明の土坑・ビット多数。
4-069	石原田北	堅穴住居(礎構 1・中期前葉 6・中葉 1・前葉 1)・中期 1・平安 1・中世 1・不明 2)。礎文～中世の土坑・ビット 289 基(早期～前葉 1・礎構 2・中期前葉～中期前葉 1・中期後葉 13・藤内 1・礎文 1・中期 1・中葉 2・近世 1)。
4-100	高松	堅穴住居(縄文中期初頭～後葉)。土坑 13 基・礎 1 条(縄文中期初頭～後葉)。
4-102	酒呑場	堅穴住居(前期初期 2・後期後葉 38)・中期初期 29・中期前葉 38・中期中葉 84・中期後葉 39・後期初頭 1・古墳前期 14・縄文中期 3・中期前葉～中葉 1・井戸尻～曾利 1)。約5850基の土坑(諸機～曾利 v)。
4-182	柳坪北	堅穴住居 2 軒。土坑 7 基(中期初頭～後葉)。屋外埋葬 2 基(中期初頭～後葉)。
5-042	寺所第2	堅穴住居 1 軒。土坑 6 基。
5-063	甲ヶ原	礎穴(前期初期～平安時代の住居127軒)(前期初頭 1・礎構 23・五個口台 8・勝沢新道 10・藤内井戸尻 34・井戸尻～曾利 1・曾利 24・中期 6・中期後葉～後期初頭 1・礎文 4・平安 4・不明 10)。獨立柱建物6棟(藤内井戸尻 1・曾利 3・不明 2)。諸機～曾利までの土坑669基。諸機～曾利までの土坑765基(諸機 33・五個口台 2・勝沢、新道 9 藤内、井戸尻 23・曾利 54・中期 7)。
5-088	原田	堅穴後葉～中期前葉の土坑 5 基(前期後葉～中期前葉)。
5-068	谷戸氏館跡	堅穴住居 2 軒。

縄文中期中葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
2-203	西川	堅穴住居 1 軒。時期不明の土坑 1 基・礎構 1 基・堅穴状構造・中期後葉構造・中世を中心とした時期不明の土坑(中世 2 基)・ビット數十基。
3-040	野沼	堅穴住居 1 軒。時期不明の土坑多数。
3-089	西ノ原B	堅穴住居(鶴文前期前葉 4・前期末葉 1)・中期初期 1・中期前葉 1・中期中葉 4・中期後葉 1・中期 2・縄文 3)
3-098	海道前C	堅穴住居(鶴文中期中葉 9・後葉 8・時期不明 4)。縄文中期～後葉の土坑 68 基(うち中期後葉 10・中葉 2)。
3-114	官尾根C	堅穴住居 1 軒。土坑群。
3-162	社口	堅穴住居 1 軒。土坑 88 基(鶴文中期中葉 9・後葉)。單孔柱便器 1 基・廣口 1 基(縄文中期中葉～後葉)。
3-170	上の原	堅穴住居 1 軒。土坑約 200 基(井戸尻～鉢名寺)。單孔理便器 2 基(井戸尻～鉢名寺)。
3-171	藏原東久保	礎文時代の住居 90 軒(縄文中期中葉～後葉)。土坑 50 基以上。
4-069	石原田北	堅穴住居(礎構 1・中期前葉 6・中葉 1・前葉 1)・中期 1・平安 19・中世 1・平安 19～中世 1・不明 2)。礎文～中世の土坑・ビット 289 基(早期～前葉 1・礎構 2・前期後葉～中期前葉 1・中期前葉 13・藤内 1・縄文中期 1・中世 2・近世 1)。
4-092	清音白塚美術館前	堅穴住居 3 軒。土坑 181 基(うち前期末葉 13 基)。
4-100	高松	堅穴住居(縄文中期初頭～後葉 8)。土坑 13 基・礎 1 条(縄文中期初頭～後葉)。
4-102	酒呑場	堅穴住居(前期初期 29・中期前葉 38・中期中葉 84・中期後葉 39・後期初頭 1・古墳前期 14・縄文中期 3・中期前葉～中葉 1・井戸尻～曾利 1)。約5850基の土坑(諸機～曾利 v)。
4-182	柳坪北	堅穴住居 2 軒。土坑 7 基(中期初頭～後葉)。屋外理便器 2 基(中期初頭～後葉)。
4-195	藏原	堅穴住居 2 軒。土坑 25 基(藤内 1・縄文 4・中世 10・時期不明 10)。縄文～中世までの時期不明の堅穴状構 1 基・廣口 1 条・ビット 7 基。
4-211	上条宮久保	中期中葉～後葉の住居 6 軒・土坑 10 基・鑿土石 1 基・屋外理便器 1 基。
5-042	寺所第2	堅穴住居 37 軒。土坑 12 基。理便器 3 基。
5-054	金生	築石 1 基。
5-080	吉林第4	堅穴住居 20 軒。土坑約 200 基(平分は中近世)。小ビット數十基。
4-062	柳坪	堅穴住居(内 2・曾利 18・礎 2・弥生前期 1・古墳前葉 1・古墳後葉 7・平安 12)。藤内・曾利を含む縄文中期の土坑 29 基。
4-208	設道	土坑(井戸尻 1・曾利 8)。時期不明の 2 基。
5-063	甲ヶ原	縄文中期初頭～平安時代の住居 127 軒(前期初頭 1・礎構 23・五個口台 8・勝沢新道 10・藤内井戸尻 34・井戸尻～曾利 1・曾利 24・中期 6・中期後葉～後期初頭 1・縄文 4・平安 4・不明 10)。獨立柱建物 6 棟(藤内井戸尻 1・曾利 3・不明 2)。諸機～曾利までの土坑 669 基。諸機～曾利までの土坑 765 基(諸機 33・五個口台 2・勝沢、新道 9 藤内、井戸尻 23・曾利 54・中期 7)。

縄文中期後葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
2-207	飯糸	堅穴住居 4 軒。中期後葉にと思われる石垣が 10 基。時期不明の(堅穴造構 49 基・土坑 74 基・集石造構 2 基・廣口 2 基・石積造構 1 基)。
3-040	野沼	堅穴住居 1 軒。時期不明の土坑多数。
3-089	西ノ原B	堅穴住居(鶴文前期前葉 4・前期末葉 1)・中期初期 1・中期前葉 1・中期中葉 4・中期後葉 1・中期 2・縄文 3)
3-098	海道前C	堅穴住居(鶴文中期中葉 9・後葉 8・時期不明 4)。縄文中期～後葉の土坑 68 基(うち中期後葉 1 基・中葉 2)。屋外理便器 1 基。築土財 1 基。

3-114	宮尾根C	堅穴住居2軒。
3-118	新井	堅穴住居2軒。時期不明土坑2基。集石土坑1基。
3-155	小池神の前	縄文時代の中期堅穴遺構2軒。
3-170	上の原	堅穴住居6軒。石垣1基。土坑約200基(井戸戸へ~称名寺)。単独埋甕2基(井戸戸へ~称名寺)。
3-171	藏原東久保	縄文時代の住居30軒(縄文中期中葉~後葉)。土坑60基以上。
3-175	米田	堅穴住居1軒。時期不明の土坑5基(縄文)。
3-176	米田北	堅穴住居1軒。土坑17基(中世基~時期不明)。
3-187	原家の前	縄文文化中期の土坑173基(縄文中期後葉、後期初期を含む)。
3-188	宮の前	堅穴住居(縄文中期後葉1・平安2・縄文1)。時期不明の土坑53基・ピット103基・燒土跡16基・集石2基・塹21基。
4-018	新田森	堅穴住居(縄文中期後葉1・中期後葉2・後期初頭2・後期前葉4)。土坑18基(加曾利2・基・称名寺2・塹/内1)。
4-072	越中久保	堅穴住居4軒。時期不明の土坑2基(縄文)。
4-211	上桑宮久保	堅穴住居4軒。堅理塗1基。土坑18基(井戸戸へ~曾利6・時期不明)。
5-008	大和田	堅穴住居7軒。縄文2基(曾利5・(も)曾利3・中世1)。
5-011	方城第1	堅穴住居7軒。縄文時代の堅穴3基(うち曾利2)。縄文時代の土坑10基(うち曾利1)。縄文時代の集石3基。
5-015	越津	堅穴住居12軒。中期後葉~後期中葉の土坑68基(うち曾利4・称名寺1・祖之内2・加曾利2・3)。単独埋甕2基(曾利1・後期1)。
5-016	東詫神B	堅穴住居(縄文中期前半1・平安8・不明1)。縄文・平安・中世の土坑66基(うち中期後葉1・加曾利1または祖之内1・平安3・中世14)。
5-042	寺所第2	堅穴住居2軒。土坑18軒。單独埋甕2基。紀石。方形石状遺構。
5-045	山崎第4	堅穴住居7軒。土坑257基(前期初期~中期後葉)。
5-063	甲ヶ原	前期中期~中期後葉の土坑94基(前期中期1・中期後葉1・土坑群)。
5-074	大和田第2	旧河内村近辺に中期後葉の遺物有る。
2-208	宮田・笠置	堅穴住居2軒。
3-134	川又板上	堅穴住居(中期後葉2・後期初頭4・後期後葉1・平成2)。土坑(中期後葉4・中期中葉~後葉4・後期初頭4・中葉~後葉1・不明6)
3-137	石堂B	縄文中期後葉~後期前葉の堅穴住居8軒(うち敷石住居3)。集石遺構4基。砾状遺構9基。石柱状遺構14基。縄段状遺構1基。土坑18基。
3-140	西原	堅穴住居1軒。土坑5基(近世2・時期不明)と清1条。
3-147	西の入	土坑1基。時期不明の清1条。
3-149	下風呂	堅穴住居2軒。
3-162	社口	堅穴住居2軒。土坑88基(縄文中期中葉~後葉)。单独埋甕2基・清2条(縄文中期中葉~後葉)。
3-169	日影田	堅穴住居(五個ケ台3・曾利1・不明1)。堅穴住居~中期までの土坑113基。堅穴遺構4基(うち五個ケ台1)ビット群(縄文中期~中近世)。
4-011	延屋敷	堅穴住居1軒。
4-017	西下屋敷	堅穴住居(縄文中期末~後期初頭1), 土坑75基(五個ケ台1・時期不明)。ビット10基(縄文後期4・焼跡1・時期不明)。時期不明の清4条。
4-062	柳坪	堅穴住居8軒。高木の土坑(中期後葉1・中期後葉~後期初頭1・焼跡1)。
4-064	小星屋	中期後葉の約150基の土坑群。土坑30基(縄文~中世)。堅穴遺構2基(縄文~中世)。焼跡遺構4基(縄文~中世)。
4-092	滑春白樺美術館南	堅穴住居4軒。土坑181基(うち前期中期135基)。
4-100	高松	堅穴住居(縄文中期初頭~後葉8)。土坑13基・清1条(縄文中期初頭~後葉)。
4-102	酒呑場	堅穴住居(前期初頭2・前中期後葉38・中期初頭29~中期前葉38・中期後葉38・後期初頭1・古墳前頭14・縄文中期3・中期前1~中葉1・井戸戸へ~曾利1)。約580基の土坑(諸葛~曾利1)。
4-117	頭廻A	堅穴住居21軒。y跡1基。土坑(中期後葉11・秀生中期1・時期不明55)。ビット(中期後葉1・不明129)。時期不明の清7条と堅穴遺構1基。集石遺構。
4-129	宮久保	堅穴住居(縄文中期後葉~後期前葉が焼跡)。土坑101基(うち中期末~後期初頭1・祖之内2~後葉2)。時期不明のビット921基(祖之内5)。
4-173	健康村	堅穴住居1軒。理塗1基。時期不明の焼跡1基(祖之内1)。
4-182	柳坪	堅穴住居3軒。堅穴柱建物1棟。理塗1基。土坑13基。
4-186	山本	土坑1基。時期不明の遺塗。
4-208	段道	堅穴住居6軒。配石遺構1基。土坑(井戸戸へ~曾利8を含む52基)。室外埋甕1基。時期不明の清1条。
4-211	上桑宮久保	中期中期~後葉の堅穴柱建物1軒。土坑10基・集石土坑1基・屋外埋甕1基。
5-017	東原	縄文時代の堅穴原石柱建物1軒。
5-041	寺所	堅穴住居1軒。難波1基。時期不明の堅穴柱建物1軒。
5-044	天神	堅穴住居5基(A5G)。堅壁4基(A5G)。土坑(曾利1を含む時期不明の16基)(A+B5G)。
5-052	城下	土坑2基(曾利1)。
5-054	金生	堅穴住居2軒。中期後葉~後葉手後の土坑7基。
5-063	甲ヶ原	縄文中期初葉~平安までの住居12軒(後期初頭1・法縫23・五個ケ台2・浜坂新道10・藤内井戸戸34・井戸戸へ~曾利1・曾利24・中期6・中葉末~後葉初頭1・萬文5・平安4~不明10)。堅穴柱建物6棟(藤内井戸戸1・曾利3~不明2)。諸葛~曾利までの土坑669基。証記~曾利までの土坑765基(諸葛33・五個ケ台2・浜坂新道9・藤内井戸戸23・曾利54・中葉7)。

平安時代

遺跡番号	遺跡名	遺跡数
2-206	蟹坂	堅穴住居3軒。時期不明の堅穴柱建物1軒。
2-243	蟹坂東	堅穴住居2軒と時期不明の堅穴遺構2基・土坑20基・石柱遺構3基・清13条・小ビット多数。
3-089	西ノ原B	堅穴住居6軒。堅穴柱建物3軒。
3-097-1	大林上	堅穴住居6軒。土坑126基。堅石土坑1基。塙状遺構。
3-098	海道前C	地土塙1基。
3-173	妻の神	堅穴住居1軒。時期不明の土坑2軒。
3-188	宮の前	堅穴住居(縄文中期後葉1・平安2・縄文1)。堅穴柱建物10棟。時期不明の土坑83基・ピット103基・燒土跡16基・集石2基・塙21条。
2-203	西川	堅穴住居15軒。堅穴遺構1基。水田跡。時期不明の植生遺構・L型塙状遺構。中世を中心とした時期不明の土坑(中世2基)・ピット数十基。堅穴柱建物3軒・塙1条。
2-204	夏目原	堅穴住居2軒。時期不明の右列・圓・ピット群。

2-207	飯米	堅穴住居2軒。時期不明の(堅穴造構49基・土坑74基・集石造構2基・塹2基・石積造構1基)。
2-208	宮田・笠置	堅穴住居4軒。時期不明の土坑約3ヶ所。
3-092	御所	堅穴造構1基・土坑2基。時期不明の廣1条。
3-125	海道前	堅穴住居1軒。堅穴造構1基。耐立柱建物1棟・土坑2基。
3-128	青木北	堅穴住居12軒。耐立柱建物5棟。土坑約10基。
3-132	東久保	堅穴住居38軒(鐵冶工房または2合む)。耐立柱建物7棟・土坑160基・塹2条。
3-133	旭東久保	堅穴住居1軒。中世を主とする土坑68基。
3-134	川又坂上	堅穴住居(中期後葉2~後期初頭4~古墳後葉1~平安2)。土坑(中期後葉4~中期中葉~後葉4~後期初頭4~中期~後期1~不明6)
3-140	西原	堅穴住居4軒。土坑5基(近世2~時期不明)と塹1条。
3-150	横森赤台(東下)	堅穴造構1基。
3-155	小池神の前	堅穴住居1軒。
3-162	社口	堅穴住居10軒。ビット基と時期不明の土坑329基。土坑・ビット約300基(うち中期前葉1~中期後葉23~塹之内19~加曾利B1~後葉26~平安6)。鐵冶工房3基。
3-169	日影田	堅穴住居(玉置ヶ台3~曾利1~不明1)。圓文中期~近世までの土坑113基。堅穴造構4基(うち玉置ヶ台1)平安以降の耐立柱建物2棟。
3-179	八ツ牛	堅穴住居4軒。時期不明の土坑8基。
3-184	裏葉師	堅穴住居6軒(5~1軒は施失住跡)。時期不明の土坑63基(圓文早葉~中世)。
3-191	藤林寺	堅穴住居3軒。耐立柱建物1棟。
3-193	八ツ牛北	堅穴住居4軒。土坑10基。
3-197	西原北	堅穴住居4軒。
3-198	高内	堅穴住居7軒。時期不明の堅穴造構2基と耐立柱建物。
4-045	小和田	堅穴住居(平安1~時期不明2)。時期不明の耐立柱建物1棟とビット群。
4-048	南新井西	堅穴住居6軒。
4-049	小和田館跡	堅穴住居(中期前葉2~平安22~時期不明1)。耐立柱建物10棟(平安3~時期不明)。時期不明の土坑・ビット多数。
4-053	羅田	堅穴住居10軒。耐立柱建物1棟・土坑1基・塹16基。
4-062	柳坪	堅穴住居(塹内1~曾利18~越1~弥生末期1~古墳前期1~古墳後葉7~平安50~平安以降2)。塹内と曾利を含む圓文中期の土坑29基。
4-064	小屋敷	堅穴住居9軒・塹3条。圓文と平安の土坑30基(本島式1~前葉初期以前1を含む)とビット83基。
4-069	石原田北	堅穴住居(諸磯1~中期前葉6~中期後葉9~前葉1~中期4~平安20~中期4~平安への塹1~不明3)。圓文~中世の土坑・ビット289基(早期~中期1~後葉2~中期後葉4~中期後葉13~塙内1~圓文中期1~中期4~後葉1~近世1)。時期不明の耐立柱建物3棟。
4-117	頭無A	堅穴住居(弥生末~古墳初期1~古墳後葉1~平安9)。時期不明の堅穴造構1基・土坑102基(圓文~中世)とビット132基・塹24条。
4-129	宮久保	堅穴住居4軒。耐立柱建物10基。圓文~ない(集石造構2基)。土坑101基(うち中期末~後期初期1~塹之内3~後葉2)。時期不明のビット921基(うち塹之内5)。
4-169	龍角西	堅穴住居7軒。耐立柱建物3棟。土坑(うち曾利1~圓文4~弥生1~古墳前期1を含む)252基。時期不明のビット629基。塹14条(中世3~古墳以降2)。
4-171	長坂上・条	堅穴住居4軒。
4-173	健康村	堅穴住居14軒。
4-190	池之平北	堅穴住居18軒。耐立柱建物1棟・土坑群(圓文~中世)。
4-195	細屋	堅穴住居10軒。土坑20基(塹内1~圓文4~平安2~中世6~45~時期不明16)。圓文~中世までの時期不明の堅穴状造構1系・塹1条・ビット約70基。小殿の遺構5基。
4-203	深草	堅穴住居7軒。時期不明の土坑17基。
4-210	蟻塚	堅穴住居6軒。耐立柱建物1棟・土坑1基・塹16基・ビット16基。平安以降の塹1条。
5-016	東津神B	堅穴住居(圓文中期後半1~平安8~不明1)。平安と中世の耐立柱建物9棟(平安2~中世1)。圓文~平安~中世の土坑66基(うち中期後葉1~加曾利若松または塹之内1~平安3~中世14)。
5-017	東原	堅穴住居12軒。耐立柱建物2棟。土坑(圓文1~平安9~平安~中世2)。塹3条。小ビット群2群。特殊造構1基。
5-038	原田	堅穴住居5軒。耐立柱建物1棟。
5-041	寺所	堅穴住居6軒。耐立柱建物1棟・土坑1基・塹1条。
5-042	寺所第2	堅穴住居37軒。耐立柱建物。
5-043	天神 C	堅穴住居4軒。
5-044	天神 A	堅穴住居5軒(A区1軒、B区4軒)。土坑(曾利1を含む時期不明の18基)A・B区。
5-052	塙下	堅穴住居26軒。耐立柱建物10棟。平安以降の塹5条。
5-054	金生	堅穴住居6軒。
5-063	甲ヶ原	圓文中期前葉~平安までの住居115軒(前葉初期1~圓文22~五領7台~勝沢新道9~藤内井戸戸戸31~井戸戸~曾利1~曾利22~牛窓6~中期1~後期初期1~平安6~不明9)。耐立柱建物6棟(藤内井戸戸3~1~曾利3~不明2)。諸磯~曾利までの土坑668基(諸磯29~玉置ヶ台2~勝沢新道3~藤内井戸戸21~曾利5~中世7)。
5-064	木ノ下・大坪	堅穴住居1軒。時期不明の土坑8基・塹3条(平安1~時期不明)。
5-065	豆生田第3	堅穴住居6軒。耐立柱建物2棟・圓文~中世の土坑16基(塹之内2~後期の石棺墓1~圓文1~平安8~中世2)。
5-068	谷戸氏館跡	堅穴住居1軒。
5-089	史跡谷戸城跡 周辺	堅穴住居4軒。耐立柱建物2棟。圓文時代を主とする時期不明の土坑33基。時期不明の集石1基・廣削6条。



第2図 遺跡の位置図 (1/10,000)



第3図 調査区位置図 (1/2,500)

第2章 調査された遺構と遺物

前章に触れたとおり、繩文時代前期の住居跡20軒、中期の住居跡15軒、土坑250基、平安時代の住居跡1軒が検出されている。遺構番号順に調査所見を報告する。土坑は付属CD-R収録の第2表に調査所見を報告し、報文中では主要なものに触れる。報告文中の土器細分型式は山梨県史（山梨県1999）に従った。

第1節 積穴住居跡

1号住居跡（第7～14図、写真図版2）

調査区北西隅に位置する。2号、3号、4号住居と重複する。4号住居に切られ、2号、3号住居を切る。住居中央部分を大きく深く搅乱されている。本住居は1号と命名したが、調査の過程で規模、深さが異なる3軒の住居が同一地点に重複していることが判明した。以下1a号、1b号、1c号住居と区別して報告する。

1a号住居はもっとも大きなプランで、積穴の深さは20cmと浅い。削平と搅乱により上部土がなり失われていて、埋土下層部がかろうじて残る程度である。埋土断面図の第1層と第2層が本住居の埋土下層に該当する。1層、2層直下、28層、29層上面に本住居の床面があるはずだが、軟弱で明確に検出できなかつた。炉跡、焼土跡は検出されておらず、搅乱により破壊されたものと思われる。

柱穴は、168号、170号、173号、187号ピットなどが該当するとと思われるが、やや少ない感がある。1b号住居の暗褐色の埋土にまぎれて検出できなかつた柱穴もあるう。

1b号住居は1a号より一回り小さく、やや深い遺構である。埋土断面図の5層、28層、29層、30層以下、9層、32層上面までが本住居の埋土である。28層から30層には多量の炭化木材片を含んでおり、焼失住居であった可能性がある。床面は1c号住居の埋土上にあつたはずだが、やはり軟弱で明確に検出できない。住居の中央から相当に南西に偏った地点で埋甕跡と焼土跡を検出した。1e号住居床面から15cmほど上方にあたる。第8図1の埋甕跡は諸磯b式である。柱穴は105号ピットが該当するとと思われるが、それ以外には検出できなかつた。浅いピットである場合には1c号住居の埋土にまぎれて検出できなかつた可能性がある。

1c号住居は最も小型で深い遺構である。地山が床面で明瞭に検出された。炉跡は搅乱により失われている。壁沿いに周溝が検出された。柱穴は106号、105号、102号、172号、174号ピットなど壁沿いに並ぶ浅い小ピットと思われる。床面で第10図20の深鉢破片が出土した。

出土遺物を第8図から第14図に示す。第8図1は1b号住居の炉体土器で、諸磯b2古から中段階と思われる。第10図20は1c号住居床面で出土した土器で、細分型式はよく分からないが器形から新しい段階ではないと思われる。第9図4、第10図3～7などは諸磯a古から中段階、第9図1・2は諸磯a新段階で、1号住居全体で出土した土器のなかで古い段階に位置づけられる。これらが1c号住居に伴う遺物と思われる。

幅広の爪形文充填の平行弦線文の第9図11、炉体土器は諸磯b2古から中段階で、1b号住居の時期を示す遺物である。結節浮線文による第9図8・10などは諸磯b2古段階から中段階で、b2新段階の細い浮線文はみられないから、1a号住居は1b号住居と大きな時期差はないとしてよい。

石器では石鎚5点、石錐1点、磨石類4点などが出土している。

以上の調査所見から本住居は諸磯a式からb式期に位置づけられる。

2号住居跡（第7・14図、写真図版2）

調査区北西隅に位置する。1a号住居に切られるが、1b号、1c号住居との新旧関係は確認できなかつた。71号土坑を切る。埋土断面図の2層、6層までが本住居の埋土で、18層、21層以下は71号土坑埋土である。壁沿いの床面で浅い小ピットが検出されており、柱穴と思われる。71号土坑は本住居より古く、住居とは別個の遺構と判断し命名したが、土坑底面は1c号住居とほぼ同じである。2号住居と1号住居の西壁沿いには大きな地山の礫が露出しており、想像をたくましくすれば、当初深い住居を建設しようと試みたが、これらの大きな地山礫に阻

まれ、埋め戻して浅い2号住居を建設したとみることもできようか。

出土遺物は第14図5～21である。18・19の浅鉢は諸磯b2式中段階に位置づけられよう。石器では使用痕のある剥片5点、黒曜石剥片40点ほど、珪質頁岩剥片1点が出土した。

以上の調査所見から本住居は諸磯b2式期に位置づけられる。

3号住居跡（第7・15図、写真図版2）

調査区北西隅に位置する。1a号住居に切られる。1b号、1c号住居との新旧関係は埋土から確認できない。出土土器から1c号住居より新しいと判断される。3号住居は1a号住居との重複で西半分が失われている。残る東半分の床面には僅かな段差があり、3号住居と1号住居にまたがってさらに別の住居跡1軒が存在したことを示唆する。埋土断面図の36層が想定される住居の埋土であるから、1a号住居と2号住居に切られることとなる。1b号住居の東壁の可能性もあるが1b号住居の西壁沿いの床面高よりは、2号住居側の床面がやや高い。2号住居で検出されたピットが柱穴と思われる。

出土土器を第15図に示す。3・10は諸磯b2式古段階から中段階に位置づけられる。

石器はスリガラス状の縁面が残る44gの黒曜石残核1点、使用痕剥片4点、磨石類2点が出土した。

以上の調査所見から本住居は諸磯b2式期に位置づけられる。1号住居、2号住居と本住居との関係は必ずしも明らかでないが、土器細分型式では分離できないほどの時間幅のなかで同一地点に繰り返し、少なくとも5回、住居を構築していることが分かる。頻繁な移動と回帰による土地利用が想定されよう。

4号住居跡（第16図、写真図版2）

調査区北西隅に位置する。1号住居を切る。57号土坑に切られる。58号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。遺構の東側に新しい時代の溝状遺構が走り、床面が削平されている。保存状態の悪い住居跡で壁面は検出されず、焼跡、柱穴が確認されたのみである。焼跡は浅いくぼみを囲うように扁平礫を床面に並べた形状である。焼底は強く焼土化している。柱穴は北側から185号、183号、182号、186号、181号ピットの5基で、59号土坑と60号土坑が南側の柱穴になる場合は7基となる。炉の形状から曾利I式頃の遺構と思われるから、南北に梢円形プランを想定し、59号土坑と60号土坑まで柱穴とみてもよいかもしれない。

本住居の東側の溝跡に重複して石圍炉のような石組みが検出されている。184号、197号ピットはこの石組みに伴う柱穴であろう。なおこの石組みは現地調査の段階で住居と認定して測量することなく調査を終了した。遺物も出土していないが、曾利II式期以降の曾利II式期住居の可能性がある。

出土遺物はほとんどない。わずかに曾利I式かII式と思われる土器の小破片1点と黒曜石の使用痕剥片1点、石錐1点、黒曜石剥片30点、磨石類1点が出土したのみである。

以上の調査所見から、本住居は曾利I式からII式頃と推測されるが、曾利II式期には炉石を垂直に埋め込むやや細長い石围炉が一般的になるから、曾利I式期に位置づけておきたい。

5号住居跡（第17～22図、写真図版2・3）

調査区北端に位置する。円形の住居跡で、200号土坑と201号土坑に切られる。周溝、柱穴、焼跡が検出された。東壁はやや掘り過ぎた可能性があり、本来は周溝に沿った形状であるかもしれない。南壁と北壁沿いに2本の周溝が検出されているが、建替、拉張の形跡は他に検出されていない。柱穴は440号、441号、444号、445号、447号ピットの5基である。26cmとやや浅い446号ピットは、柱痕が検出されたことから柱穴である。対になるピットが201号土坑に切られて失われているとすれば、446号ピットともう1基のピットをあわせて7基の柱穴配置となる。焼跡は炉石が抜かれたくぼみと焼土跡が検出されたのみである。炉のくぼみはごく浅く、炉石を垂直に立てて埋める曾利II式以降の構造ではない。

遺物は住居中央の埋土下層を中心に比較的多く出土した。これらは住居廃絶後の堅穴に投棄された遺物と考え

られる。床面上に遺棄された遺物は出土していない。投棄された深鉢のひとつには磨石が収められていた。出土した土器は曾利I式にまとまる。第18図9は脚付の有孔鉗付土器で珍しい器形である。5の曾利I式土器は、内部に磨石が納められていた。

石器も多量に出土している。頁岩製横型石匙1、珪質頁岩製の縦型石匙1、ホルンフェルス製打製石斧1、ホルンフェルス製の粗製縦型石匙1、黒曜石製の石鏃1、未成品2、安山岩の打製石斧素材と思われる剥片1、頁岩製打製石斧2、砂岩製打製石斧2、頁岩製の石槍1、ハンマー破片1、緑色岩の磨製石斧破片1、安山岩製の磨石類3、黒曜石の使用痕剥片12などである。

以上の調査所見から本住居は曾利I式期に位置づけられる。

6号住居跡（第23～29図、写真図版3・4）

調査区中央南東寄りに位置する。39号住居と重複する。6号住居と39号住居はともに同一地点で建替え、拡張を繰り返し、両者の新旧関係は検出時点では全く確認できなかった。6号住居は4重の周溝が検出され、最低3回の建替え・拡張を経ていることが想定される。以下、最も新しく大きな住居を6a号住居、最も古く小型で窓穴も深い住居を6b号住居、6c号住居と6b号住居の中間に位置する住居を6c号住居として報告する。6c号住居は東壁沿いに残された周溝からその存在が想定される住居で、床面高は6a号住居より5cmほど低い。6号住居埋土断面図の11層が6b号住居埋土である。

6a号住居は南北軸6.4m、東西軸5.4mの隅丸長方形プランの住居と思われる。北壁で119号土坑、西壁で131号土坑、東壁で183号土坑に切られる。114号土坑も新しい遺構である。もっとも深い6b号住居の埋土上に床面があるため6b号住居プラン内の床は黒褐色かつ軟弱で明確に床を把握できなかった。柱穴もはっきりせず、6b号住居の黄褐色の地山をそのまま床面としたレベルまで下げるようやくピットを検出した。以下に報告する柱穴はその配置と深さから想定したものである。6a号住居のほぼ中央、6b号住居埋土の暗褐色土中にわずかに焼土跡があり、これが地床炉と思われる。

柱穴は338号、305号、379号、369号ピットの4基と思われる。6号住居全体には多数の小ピットが検出されているが、大半は非常に浅く10cmに満たない。そのなかで、上記の4基のピットは20cmを超える深さがある。6b号、6c号、6a号のいずれもこの4本主柱穴を踏襲しているように思われる。

6c号住居は東壁の周溝から想定されたもので、主柱穴は338号、353号もしくは357号、413号、369号ピットの4基と思われる。6a号住居よりも幾分南壁が北に縮小したプランが想定される。焼跡は検出できなかった。

6b号住居は最も小型で深い住居である。古い時期の住居が小型でもっとも深いのは1号住居でみられた状況に似ている。6a号住居の床面から30cm近く深い。6b号住居とした深い床面でも周溝が二重に検出され1回の建替え・拡張が想定される。柱穴は337号、401号、410号、411号ピットの4基の組み合わせと177号、179号、360号、382号ピットの4基の組み合わせが想定できる。

6b号住居の壁沿いには周溝が明顯に検出され、周溝内には浅い小ピットがほぼ等間隔で並んでいる。壁を支持する構造がうかがえる。住居中央から北寄りに342号ピットと命名した浅いくぼみがあり、底部が焼土化している。これが6b号住居の地床炉と思われる。さらに西側、367号ピット周辺もくぼんで焼土化している。これも地床炉であろう。367号ピットは地床炉を切って掘り込まれたピットであるが、6b号住居のなかで何處か柱穴を掘り直し、炉位置を変更したものかもしれない。

以上のように、6号住居は同一地点で建替え・拡張を繰り返した遺構で、埋土を発掘している過程では遺構の全容は皆目把握できなかつたため、埋土に含まれている遺物を各住居ごとに分離しきれなかった。6号住居全体では、諸磯a式から諸磯c式、十三菩提式併行、五領ヶ台式土器の破片が出土している。諸磯c式以降の新しい土器型式はごく一部で埋土に混入したものとみてよいと思われるから、本住居は諸磯a式古段階からbl式の時期幅のなかで建替を繰り返したことになる。

光波測量器により測量して取り上げた出土位置が特定できる土器資料を、6a、6b、6c号住居それぞれの想定さ

れる床面高を基準に分離してみた。その結果が第25図から第27図である。第25・26図、第27図1～8までが6a号住居に分類されたもの、第27図9～18が6b号住居に分類されたものである。6c号住居は6a号住居との床面レベル差が小さく、分離しきれなかった。その結果は、第26図10のような後世の混入、第25図1の閑山式、第25図9の神ノ木式、第27図9の中越式などの混入もあるものの、6a号、6b号住居ともに諸磯a式古段階から諸磯b1式土器が出土しており、明瞭な時期差を見出すことはできなかった。

出土した石器は6号住居全体で、黒曜石石鏃14、赤チャート石鏃1、珪質頁岩の石鏃1、水晶製石鏃1、黒曜石石錐2、石匙5、石錐1、蛇紋岩製の定角式を含む磨製石斧3、磨石類13、台石3、26gの黒曜石原石などが出土地している。黒曜石の原石、石核、剥片類が多い。

以上の調査所見からあえて時期を比定すると、6a号住居は諸磯b1式期、6b号住居は諸磯a式期と思われるが、後述するとおり、本住居は39号住居とも重複しており、正確な時期は絞り込めない。

39号住居跡（第23・29・30図、写真図版4）

調査区中央南東寄りに位置する。13号住居に切られ、6号、40号住居と重複する。6号住居から39号住居を縱断する埋土断面の観察から6号住居に切られることが確認される。39号住居も4重か5重の周溝が検出され、建替え・拡張を繰り返したことが分かる。住居の中央と思われる地点で4ヶ所の焼土跡が検出され、地床炉と考えられる。これらの地床炉のうち145号ピット西側の浅いくぼみを伴う焼土跡が最も新しい段階の地床炉と思われる。この焼土跡の南側、280号ピット東側にも同様のくぼみを伴う焼土跡があり、想定される住居主軸線上に並ぶ。こちらの焼土跡の上には黄褐色の貼床がのっており、一段階古い地床炉と思われる。これらの2基の焼土跡の西側にも2カ所で床面が焼土化している。39号住居が主に東壁を拡張して建替えていることから、さらに古い段階の地床炉と考えられよう。

柱穴は6号住居と同様、検出位置と深さから想定した。偶然と思われるが、北側の柱穴は6a号住居の南側の柱穴とほぼ同位置で完全に重複し、あるいは切り合っている。最も新しい段階の柱穴は316号、355号、313号、248号ピットの4基と思われる。建替え・拡張の都度、316号ピットを基点に、北東側の柱穴は328号、306号、355号ピットと掘り直し、南東側の柱穴は387号、292号、313号ピットへと変遷し、南西側の柱穴は281号、282号、248号ピットに掘り直されていると思われる。南側の柱穴は南辺を示す2本の周溝に近く、このような柱穴の配置は37号住居でもみることができる。

出土遺物は一部で6号住居と混在し、分離しきれなかった。そこで6号住居と重複していない範囲から出土した土器資料を中心に第30図に示した。40号住居とも重複するが、本住居と床面高がほとんど変わらず、39号住居の想定範囲から出土した遺物は本住居に帰属するものと判断した。

第30図5と21は釈迦堂Z3式、同図4と20は神ノ木式、同図1・3・18は中越式である。40号住居と重複することから、中越式、神ノ木式は40号住居に帰属するものと思われる。

石器は黒曜石の石鏃19、石錐1、チャート石鏃1、珪質頁岩の削器1、磨石類6、多数の黒曜石剥片などが出土している。

以上の調査所見から本住居は前期中葉の釈迦堂Z3式期に位置づけられると思われるが、建替えに伴う時期幅まではつきとめられなかった。

40号住居跡（第23・29図、写真図版4）

調査区中央南東寄りに位置する。13号、39号住居に切られる。円形プランと思われる南壁を検出し、地床炉と思われる焼土跡2基を検出したのみである。南壁沿いには深いピットが検出されているが柱穴とするには浅い。13号住居、39号住居の柱穴を差し引いて消去法的に考えても287号ピットのみが34cmと深いだけで、これに対応するピットを見出すことができない。39号住居の柱穴と完全に重複している可能性は否定できないが、柱穴配置は不明とせざるを得ない。

出土遺物はごく少数で図示できる土器は得られていない。39号住居埋土中に中越式、神ノ木式が含まれていて、これらが本住居に由来する可能性がある。石器類も黒曜石剥片7点を数えるのみである。

以上の調査所見から本住居は中越式期に位置づけられる可能性がある。

13号住居跡（第23・31・32図、写真図版4～6）

調査区南東端に位置する。39号、40号住居を切る。円形住居と思われるが、縄文時代前期の39号、40号住居に重複する。両住居の埋土内に構築された住居であったため、明確に遺構確認ができず、壁を検出できなかった。床面も軟弱で炉跡の検出面と埋甕の高さから床面高を想定した。埋土断面図と遺構断面図中の床面線は本住居の下層の39号、40号住居の床面で、本住居の床面は11層、13層、20層、24層面上に相当する。焼土と炭化材、断片的な周溝、柱穴、炉跡を検出した。柱穴は209号、210号、211号、212号、217号ピットの5基で、炉は住居中央からやや212号ピット寄りに設けられる。炉石は抜かず、浅いくぼみと炉底の焼土のみが検出された。南壁沿い、210号ピットの南側で埋甕1基を検出した。曾利V式土器の胴部下半を打ち欠いて正位で埋設してある。埋甕周辺の床面には大小の跡5点が検出されている。

住居壁沿いの埋土下層で焼土と炭化材がまとまって検出された。焼土と炭化材は壁に沿って環状に分布し、一部は住居中央部分でも検出されている。南壁では埋甕を覆うように焼土と炭化材が出土している。焼土中から曾利V式土器の大形破片が出土した。焼失住居と思われるが、第32図の壁線はこの環状の焼土と炭化材の分布と埋土断面観察から想定したものである。

焼土は炭化材を覆うよう炭化材の上から検出されている。住居竪穴を埋める埋土は、竪穴の中央、埋土の上層にいくほど黒くなり（第1層、2層など）、壁際ではやや色調が明るくなる（第4層、21層、22層など）。自然埋没した状況を示すと考えられるが、北壁沿いではやや複雑な堆積状況が観察された。

炭化材は、木質繊維の方向を観察すると、壁沿いでは壁に平行に繊維が走り、壁から離れ住居中央寄りでは、住居中心に向かう方向に放射線状に繊維が走っている。このことから検出された炭化材は廃棄された竪穴に乱雑に投棄されたものではなく、垂木と、垂木を壁面部で連結するような横方向の部材が炭化したものと推測することができる。さらに竪穴住居の上屋構造の一部とみなせるこれらの炭化材を覆う焼土は、垂木上にあって屋根葺材を構成した土が焼失過程で焼土化し、炭化した建築部材とともに竪穴内に落ち込んだものと推測される。

ただし、焼土と炭化材、特に焼土は焼失住居とみるにはやや検出量が少なく、壁沿いにまとまっていて不自然である。屋根葺材であれば住居内に万遍なく検出されてもよいように思われる。また床面からやや浮いた位置に検出されている点も気になる。

岩手県一戸町の国史跡、御所野遺跡の史跡整備では土葺屋根構造の復原住居の焼失実験が行われている。それによると屋根葺土と炭化材が落ち込む際に上下が逆転することがあること、意図的に焼かない上屋がある竪穴住居では酸欠状態になってうまく焼失しないという（一戸町教育委員会2003）。本住居に意図的に燃やした場合には、あらかじめ屋根葺土を落とすなど準備した可能性もある。壁際では土中の垂木尻が燃え残り、結果、垂木が浮いた状態に残ることもあり得よう。御所野遺跡の実験から本住居の焼土と炭化材が土葺屋根構造を示す可能性があることがうかがえる。

以上の調査所見から本住居は曾利V式期に位置づけられる。

9号住居跡（第33～38図、写真図版6・7・32）

調査区北東隅に位置する円形の住居で、北東隅を深い搅乱で破壊されている。203号土坑に切られる。保存状態の良い遺構で竪穴埋土から自然埋没したと判断される。周溝、柱穴、炉跡が検出された。柱穴は450号、451号、452号、453号、457号、458号、459号ピットの7基で、450号ピットと453号ピットに寄り添うようにピットが検出されているから、部分的な建替えを経た可能性がある。461号ピットは床下で検出された本住居より古い遺構である。炉跡は住居中央から北寄りで検出された。浅いくぼみの周囲に扁平礫を敷いた形状で井戸戻式後半か

ら曾利 I 式期に特徴的な形態である。炉底は弱く焼土化していた。炉石には黒色の煤が付着していた。周溝は全周し、周溝内には小ピットが検出された。

遺物は住居埋土下層に投棄された状態で出土した。投棄された土器に混じってヒスイ大珠が出土した。住居内に遺棄された状況がうかがえる遺物はなかった。出土した土器は井戸尻式 3 段階から曾利 I 式でまとまる。個々の土器の細分型式上の位置づけは意見が分かれるところであろうが、第 34 図 1・5、第 35 図 11 などが混じることから、井戸尻式最終末に位置づけるべきであろう。5 号住居出土土器と接合する資料もある。また本住居からは、土偶 2 個体が出土している。

石器は、ヒスイ大珠 1、岩製の大型銀衝縁の石鎧 1、珪質頁岩製の銀衝縁の削器 1、黒曜石製石鎧 1、頁岩製打製石斧 1、頁岩製の鉈衝縁削器 1、磨製石斧 1、白色の凝灰岩製の垂飾 1、黒曜石の使用痕剥片、53.3g の黒曜石原石 1、安山岩製磨石類 4、ハンマー破片 1、石皿 1、石柱を思わせる柱状節理の安山岩などが出土している。ヒスイ大珠は投棄された土器破片に混じって床面から 3cm ほど浮いた状態で出土した。周囲に廃屋敷を思わせるような土坑、遺物、礫の配置は確認されず、土器とともに無造作に廃棄されたように感じられた。

以上の調査所見から本住居は井戸尻式 3 段階から曾利 I 式期に位置づけられる。出土した土器は井戸尻式から曾利式への移行段階に位置づけられよう。

10号住居跡（第 38 図、写真図版 7・8）

調査区北端に位置する平安時代の住居跡である。遺構の北半分は調査区外で、平成 4 年に旧大泉村教育委員会が実施した調査の南端、7 号住居跡と同一遺構である。この平安時代住居の西側に平成 4 年度調査の 10 号住居跡の南端が検出されるべきであるが、攪乱のため検出できなかつた。

本住居の南半分では周溝が検出され、東壁南寄りにカマドを設けている。カマドは焼土と袖石を埋め立てたくぼみ、カマド構築材と思われる礫 3 点が出土したのみで原形を留めていない。意図的な破壊か土地の削平に伴い破壊されたかは判断できないが、南東角に焼土がまとまって出土したことから、住居廃絶時にカマドを破壊棄棄したと推測される。

出土遺物は少ない。住居南西隅附近の埋土下層で鉄製鐵が折れて出土した。

以上の調査所見から本住居は平安時代、10 世紀前半に位置づけられる。

12号住居跡（第 39～41 図、写真図版 8）

調査区中央北東寄りに位置する円形住居跡である。周溝、柱穴、炉跡が検出された。遺構確認面は搅乱が多く、そのためであろうが北西壁はやや掘りすぎた可能性がある。断片的だが周溝が二重にめぐり、柱穴は計 8 基が検出され、1 回の建替えが想定される。423 号、422 号、421 号、424 号、426 号の 5 基が建替え前の柱穴、422 号、427 号、425 号、428 号、423 号ピットの 5 基が建替え後の柱穴である。炉跡は住居中央からやや北寄りに設けられる。浅いくぼみを囲うように扁平礫が敷かれる曾利 I 式期に特徴的な形態である。炉底は弱く焼土化している。炉のすぐ南側の床面は強く焼土化しており、地床炉とみられる。

出土遺物は少なく埋土下層と床面に投棄された状態で出土している。住居内に遺棄された状況を示す遺物はない。出土した土器は曾利 I 式にまとまる。

以上の調査所見から本住居は曾利 I 式期に位置づけられる。

17号住居跡（第 42～47 図、写真図版 8・9）

調査区中央北寄りに位置する。100 号土坑と 102 号土坑を切り、196 号土坑と 208 号土坑に切られる。196 号土坑は住居を建設する際に地山礫を抜き取ろうと試みた痕跡かもしれない。円形の住居跡で周溝、柱穴、炉跡が検出された。かろうじて竪穴が残る程度の保存状態であったが、住居の全容が良好に把握された。わざわざ竪穴埋土から自然埋没したと判断される。床面は軟弱で、炉石が若干浮く程度に掘り下げすぎてしまった。

周溝は北壁沿いと西壁で二重に検出され、柱穴も多数検出されており、2回程度の建替、拡張が想定される。最も外側に広がり大型化した段階の柱穴は北壁側から 231 号、230 号、309 号、229 号、333 号、384 号、326 号、325 号、111 号ビットの 9 基である。先行する段階の柱穴は 231 号、381 号、309 号、327 号、233 号、315 号、312 号、391 号、110 号ビットの 9 基である。もっとも古く小型の段階は 231 号、310 号、314 号、308 号、412 号ビットの 5 基である。

炉跡は住居中央から北壁に寄った位置に設けられる。浅いくぼみを圍うように扁平な炉石を敷く曾利 I 式期によくみられる形態である。炉底は弱く焼土化している。炉南側の床面が強く焼土化し、地床炉とみられる。炉の状況は 12 号住居とよく似ている。

出土遺物は少なく、埋土下層に投棄された状態で出土している。住居内に遺棄された状況を示す遺物はない。土器は曾利 I 式でまとまる。匙形土製品が出土した。石器は頁岩製打製石斧 1、砂岩製打製石斧未成品 1、砂岩の鋸歯縫削器 2、ホルンフェルス製削器 1、珪質頁岩製削器 3、頁岩製打製石斧 1、ホルンフェルス製打製石斧 1、黒曜石石鏃 3、頁岩製石鏃 1、頁岩製磨製石斧 1、円盤状石製品 1、黒曜石の両極石器 2、珪質頁岩製石鏃 1、黒曜石の使用痕剥片 7、緑色岩の磨製石斧破片を転用したハンマー 1、安山岩製の台石 1、安山岩製の磨石類 4 などが出土した。

本住居では埋土観察のためのセクションベルトから 12 ヶ所の埋土コラムサンプルを採取し、自然乾燥の後、フレイにかけて炭化物等の回収を試みた。その結果、クルミ外殻、コナラ・クヌギ類の子葉破片を検出した。

以上の調査所見から本住居は曾利 I 式期に位置づけられる。

18 号住居跡（第 48 ~ 50 圖、写真図版 9）

調査区に中央北寄り位置する。隅丸方形の住居跡で周溝、柱穴が検出された。198 号土坑、399 号ビット、419 号ビットは本遺構より新しい。本住居の柱穴は炉奥側から 394 号、398 号、420 号、414 号ビットで、おそらく 198 号土坑に切られて失われた柱穴がもう 1 基あると思われる。配置上気になるが 419 号ビットが柱穴となる可能性もある。計 5 基の柱穴になる。炉は住居中央からやや北西寄りに設けられる。浅いくぼみを围むように扁平の石を敷いた形態である。

出土遺物は少數で埋土下層からの出土である。住居内に遺棄された遺物はない。土器は曾利 I 式の深鉢が出土している。石器は砂岩素刃削器 1、頁岩鋸歯縫削器 1、砂岩の板状剥片 1、珪質頁岩の石錐未成品 2、砂岩打製石斧 1、砂岩石匙 1、黒曜石の使用痕剥片 1、石柱状の柱状節理の安山岩 1、安山岩磨石類 1 が出土した。

以上の調査所見から本住居は曾利 I 式期に位置づけられる。

20 号住居跡（第 51 ~ 53 圖、写真図版 9）

調査区西端に位置する。保存状態が悪い円形住居で周溝、ビット、炉跡が検出された。西壁は搅乱により失われている。東壁沿いで周溝が検出された。炉跡は住居中央に設けられる。くぼみと焼土が検出された。大小のビットが概ね想定される住居の壁沿いに巡り、これらは柱穴であろう。87 号土坑は本遺構よりも新しい。

出土遺物は少量で埋土下層から出土している。第 52 図 1 は楕円形の鉢形土器である。その他の本住居出土土器は、諸磯式の小破片が主体を占める。石器は、178g と大きな礫面を残す黒曜石核 1、黒曜石剥片 60 点ほど、珪質頁岩の鋸歯縫削器 1、頁岩の横型石匙 1、石鏃 3、石錐未成品 3、磨石類 4、台石破片 1、黒曜石原石、使用痕剥片などが出土している。

本住居では埋土断面観察のセクションベルトから 11 ヶ所の埋土コラムサンプルを採取し、炭化物の回収を試みた。サンプルから微小な黒曜石と珪質頁岩の剥片、押圧剥離に伴う微小剥片が多数回収され、石器製作に伴う剥片が本住居に廃棄されたか混入したことがうかがえる。そのほかクルミ外殻が検出された。

以上の調査所見から本住居は諸磯 a 式中段階から新段階に位置づけられる。

21号住居跡（第53～56図、写真図版10）

調査区中央東寄りに位置する。椭円形の住居で周溝、柱穴、炉跡、埋甕が検出された。竪穴は深さ25cmほどがあり、暗褐色の自然堆積した土で埋没していた。壁際に幅広で深い周溝が検出された。床面は樹根による擾乱のためか軟弱で、やや掘り下げすぎてしまった。炉は住居中央からやや北寄りに設けられる。浅いくぼみを埋むように扁平の炉石が敷かれる形態で、炉底は焼土化していた。炉のすぐ南側の床面が強く焼土化していて、地床炉とみられる。柱穴は奥壁側から389号、393号、388号、319号、321号、392号、317号ピットの7基である。この柱穴の組み合わせ以外にも415号、416号、320号、417号ピットの南半側の柱穴の組み合わせ、さらに入り口部の404号と405号ピットの組み合わせが認められる。371号と385号ピットはやや浅い柱穴とみればもっとも初期段階の5基柱穴の組み合わせも想定でき、3回程度の建替えを経ていることがうかがえる。

埋甕は曾利I式深体の頸部を輪切りにしたもので正位に埋設している。床面を掘り下げすぎたため、検出時には大分浮いてしまっているが、本来は床面と埋甕上端がほぼ同高となっていたと思われる。住居内の埋甕としては出現期の貴重な事例であろう。

住居内から318号、322号、334号ピットが検出されている。318号ピットでは石器がまとまって出土しており、これらのピットの大きさと位置から住居内の貯蔵施設の可能性もある。

出土遺物はごく少なく、埋甕を図示し得たのみである。石器は黒曜石石鏹1、玦状耳飾1、石錐1、打製石斧11、素刃削器1、安山岩の多孔石1などが出土している。

以上の調査所見から本住居は曾利I式新段階に位置づけられる。

22号住居跡（第56図、写真図版11）

調査区中央で検出された保存状態の悪い住居跡で、炉跡と柱穴の可能性があるピット1基が検出されたのみである。炉は浅いくぼみを埋むように扁平な炉石を敷いた曾利I式期によくみられる形態である。遺物はごく少なく、黒曜石石鏹未成品1、打製石斧1、頁岩の鋸齒縫削器1、磨石類1が出土したのみである。

以上の調査所見から本住居は曾利I式期に位置づけられる可能性があろう。

24号住居跡（第57～61図、写真図版11・12）

調査区中央南西寄りに位置する。円形の住居で周溝、柱穴、炉跡、埋甕が検出された。8号土坑を切る。壁沿いで周溝が巡り、炉は住居中央から北寄りに設けられる。扁平の炉石を垂直に埋め立てたいわゆる掘り炬燵状の石圓炉で、炉底は焼土化している。炉の南側の床面はややくぼみ強く焼土化している。地床炉であろう。この地床炉の西側に浅い落ち込みが検出された。本住居より古い土坑の可能性もあるが、深さ、大きさが地床炉のくぼみによく似ており、地床炉の造り変えも考えられるかもしれない。柱穴は7号、8号、9号、10号ピットの4基に炉奥、北壁沿いの周溝内で検出されたピットを加え計5基である。

住居南端で埋甕を検出した。埋甕の上には安山岩礫2個があり、埋甕はその下から検出されている。曾利IV式の深体の底部と口縁部を欠いたものを正位に埋設している。

出土遺物は少なく、埋土下層で出土している。住居内に遺棄された遺物はない。土器は曾利IV式とV式がみられる。石器は黒曜石石鏹7、打製石斧1、ハンマー状の棒状礫1などである。本住居で埋土断面観察のためのセクションベルトから12ヶ所のコラムサンプルを採取し、炭化物等の回収を試みた。サンプル中には黒曜石、珪質頁岩、チャート、石英の剥片、押圧剥離に伴う微小な剥片が含まれ、本遺跡内での石器製作を示唆する。炭化物ではクルミ殻が検出された。

以上の調査所見から本住居は曾利IV式期に位置づけられる。

25号住居跡（第61～63図、写真図版12）

調査区中央南東寄りに位置する。自然埋没した円形の住居で、周溝、柱穴が検出された。北壁沿いで周溝が検

出されたが、南側では検出できなかった。床面は硬くしまり、容易に確認できた。柱穴は 86 号、88 号、89 号、91 号ピットの 4 基である。住居中央に地山礫が露出し、その脇でわずかながら焼土跡が検出された。地床炉であろう。

出土遺物はごく少量である。第 62 図 1・2 は縄文時代前期前葉の中越式、3 は胎土に纖維を含み、口縁部に擦状隆帯を貼り付けた在地化した下吉井式系統（坂平式）と思われる土器、4 は開山式の可能性がある羽状縄文を施文した土器破片である。石器は黒曜石石鑿 4、打製石斧 1、磨石類 1、黒曜石の石核 1、黒曜石剥片 40 点ほどが出土した。

以上の調査所見から本住居は前期前葉の中越式期に位置づけられる。

26 号住居跡（第 64・68 図、写真図版 12・13）

調査区中央南西寄りに位置する。34 号、37 号住居、26 号土坑に切られ、36 号住居と重複する。36 号住居との新旧関係は判断できなかった。東壁以外の壁面は良好に検出され円形プランであることは明らかである。東西方向の埋土断面図には 34 号住居との重複関係が現れるはずであるが、耕作による搅乱のためか、埋土断面から 34 号住居、あるいは 36 号、37 号住居との重複を読み取ることはできなかった。本住居の柱穴は 65 号、67 号、73 号、77 号ピットの 4 基である。住居中央がややくぼみ焼土が残されている。これが地床炉であろう。当地域の中越式期の住居に一般的な構造である。

出土遺物は少ないが、土器は中越式、神ノ木式、開山式が主で、木島式が僅かに混じる。石器は黒曜石、チャート、珪質頁岩製の石鑿 8、石鑿未成品 1、珪質頁岩の石匙 1、砂岩の素刃削器、珪質頁岩の削器、黒曜石の楔形石器、磨石類 2、磨製石斧破片 1 である。黒曜石の剥片類が 100 点ほどと多い。本住居の埋土断面からコラムサンプル 9 カ所を採取し、炭化材等の回収を試みた。黒曜石、石英、珪質頁岩、チャートの微小な剥片、押圧剥離による剥片が回収され、本住居の時期の遺跡内で石器製作が行われていたことが分かる。植物遺体では炭化したクルミ、クリが回収された。

以上の調査所見から本住居は中越式期に位置づけられる。

36 号住居跡（第 65・69 図、写真図版 13）

調査区中央南西寄りに位置する。26 号住居と重複し、34 号住居と 37 号住居に切られる。26 号住居との新旧関係は確認できなかった。26 号、34 号、36 号、37 号住居が重複する部分で、消去法で残った壁とピット、焼土跡を 36 号住居とした。やや東西に長い長方形プランとなるが、複数の遺構がなお重複している可能性がある。108 号、128 号、129 号土坑に切られる。37 号住居の南辺の周溝に重複して焼土跡が検出された。117 号ピットの東側である。これが本住居の地床炉と思われる。柱穴となる可能性があるピットには、153 号、125 号、133 号、126 号、127 号、131 号、79 号、142 号ピットなど、焼土跡の周りをめぐるものが考えられるが深さがまちまちである。またこれらとは別にやや大きめで深いピット、140 号、139 号、138 号、154 号、114 号、113 号、143 号、115 号、128 号ピットも柱穴の組み合わせとして想定してもよいように思われる。それぞれが柱穴となるなら 36 号住居は 2 軒の住居の重複ということになる。

出土遺物はこの調査地点で出土した遺物から 34 号住居、37 号住居、26 号住居と差し引いて、36 号住居以外の遺構が重複しない範囲からの出土品のみを本住居の遺物として抽出した。その結果、僅かな土器の小破片が残った。第 69 図 7 の五領ヶ台式を除くと中越式、神ノ木式などがある。石器はホルンフェルス製打製石斧 2、頁岩製打製石斧 1、黒曜石の石鑿未成品 1、磨石類 1 である。

以上の調査所見から本住居は中越式期かと思われるが、当地域の中越式期には打製石斧はさほどに一般的な石器でなく、打製石斧の多さがやや気になる。五領ヶ台式期という可能性もあるが、29 号住居、30 号住居のようないわゆる甕焼は検出されていない。37 号住居とおなじく曾利 II 式期以前としか判断できないが、住居の構造から前期前葉から後葉に位置づけられよう。

37号住居跡（第65・69図、写真図版13）

調査区中央南西寄りに位置する。26号、36号住居を切り、34号住居に切られる。複雑に重複しあう住居のなかで、東西5.5m、南北3.8mの周溝で囲まれた長方形のプランが検出され、これを37号住居とした。北壁の一部が残るが、東、西、南の壁面は他の住居との重複により検出できなかった。周溝は明瞭に検出され、周溝上に貼床は認められなかったことから、26号、36号住居よりも新しい遺構と判断した。130号土坑に切られる。

柱穴は周溝の四隅と周溝上に位置する68号、120号、123号、118号、117号、80号ピットの6基と思われる。71号、152号、81号ピットも該当するかも知れない。34号住居の焼土層の下には138号ピットなどがあるが、それらの柱穴に切られながらも37号住居の地床が検出された。ほぼ住居の中央に相当する。これら以外に本住居の付属施設は一切検出されなかつた。

本住居は他の住居跡と複雑に重複していて当初は一括して14号住居として発掘し始めた。37号住居を認識してからは努めて遺物の帰属先を注意深く判断しながら遺物を取り上げたが、34号住居に切られるうえに37号住居の床面上にも遺物は多くなかつた。そのため図示した資料は少數である。出土した土器は中越式から諸磯c式まで幅広いが、全体の印象では諸磯a式が多い。曾利II式期の34号住居に先行する住居であることは明らかだが、他の住居との新旧関係の判断は難しい。石器は黒曜石剥片3、磨石類3点である。

以上の調査所見から本住居の時期を特定するのは難しく、曾利II式期以前としか分からぬ。しかし住居の構造から前期中葉から後葉に位置づけられるものと思われる。

34号住居跡（第66～68・70図、写真図版13～15）

調査区中央南西寄りに位置する。26号、36号、37号住居と重複する。曾利I式期の遺構で最も新しいが、周囲の遺構と完全に重複し、一部を除き壁面と床面を検出できなかつた。北壁の一部を検出したが、その形状からおそらく円形プランであろう。埋甕、柱穴、焼跡を検出した。当初、本住居と、本住居に重複する遺構全体を一体の遺構と判断して14号住居と命名したが、調査の過程で複数の時期の異なる住居跡が複雑に重複することが判明したため、本住居を34号住居、他の遺構を36号、37号住居と命名し、個別に調査することとした。

柱穴は炉西側の72号、82号、119号、156号、116号ピットの5基と思われる。150号ピットから曾利I式土器が出土しており、120号ピットとともに柱穴とみて7基の組み合わせを想定することも可能であろう。炉は浅いくぼみを囲うように扁平な炉石を立てて埋めた石壠がで、炉底は僅かに焼土化している。東側の炉石は抜き取られている。136号土坑は石皿破片などが出土し、貯藏穴の可能性があろう。

本住居は、特異な遺構である。本住居は古い遺構埋土内に住居を構築しているため床面は軟弱で検出することができなかつた。しかし、石壠炉から東へ2.5mまでの間50cmから80cm幅、厚さ10cmほどで床面を貼るように焼土が敷かれ、その表面は硬くしまつていた。住居内の装飾的あるいは呪術的效果を狙った施業とも思ったが、石壠炉の炉石を抜き取った後に炉内にまで焼土が敷かれていることから、住居建設時に焼土で床を貼たったとは考えられない。住居の廃絶時に住居を焼却したと解釈することは可能だが、住居主軸線上にのみ厚い焼土が検出されるることは不自然であるし、柱穴内には多量の焼土、炭化材は検出されていない。また床面上で火を使用したとしても地中10cmに焼土化が及ぶのは尋常な被熱ではない。炉石にも埋甕にも相当な被熱の痕跡が認められてよいが、そのような形跡は確認されない。

炉の東側1.5mほどで埋甕が検出された。曾利II式の深鉢の胴下半部を正位に埋設している。曾利II式期の住居で一般化する埋甕であるが、この埋甕は不自然に炉に近く、想定される柱穴配置からみても埋設位置が通例とは異なる。埋甕上端は炉石の高さから想定される床面高よりも明らかに突出しており、貼床のような焼土を切って埋設されている。埋設された深鉢の上半部は、埋甕上面の住居内で出土しており、接合すると口縁部まで復元が可能であった。この点も一般的な埋甕の様子とは明らかに異なる。なおこの埋甕は、偶然であろうが先行する古い住居の柱穴上に埋設されている。

炉石が抜き取られた炉の東辺の厚い焼土層には曾利I式ないしII式の小型深鉢が正位で埋め込まれている。注

意深く土器と焼土の関係を観察したが、埋甕のように焼土を切って埋設した形跡は確認されない。土器自体にも強い二次被熱は認められない。焼土を敷き詰めると同時に埋め込まれたと考えるべきであろう。

出土遺物は曾利II式の埋甕、曾利I式からII式の小型深鉢、ミニチュア土器、鉢形土器などである。石器は黒曜石の石鎚1、石鎚未成品2、石錐1、楔形石器5、頁岩製の石鎚1、打製石斧1、磨石類1などであるが、古い住居に帰属すべきものが混入している可能性がある。

以上、調査所見を報告したが、特異な焼土の評価は難しい。炉跡の形状は曾利II式期とみてもよいと思われるから、埋甕など出土品との齟齬はない。住居廃絶時に住居外から多量の焼土を搬入して主軸線上に焼土を敷き詰めながら小型深鉢を埋め込み、その後、大型の深鉢を胴中位で破壊して下半部を埋甕のように埋設したという特異な住居廃絶時の行為を想定するほかない。埋甕が曾利II式期の別個の住居に帰属するもので、その住居は削平されて失われている可能性も考慮したが、34号住居の保存状態を踏まえると、想定される別個の住居が埋甕以外に全く痕跡をとどめないと考える方が不自然であろう。

27号・35号住居跡（第71～73図、写真図版15）

調査区南端に位置する。重複しあう2軒の住居跡で、27号住居が新しい。検出時には27号住居が最も新しく、ついで北側に隣接する73号土坑と竪穴遺構、そして35号住居の順にみえた。27号住居では壁と一致しない周溝、ピット、焼土跡が検出された。35号住居はピットのみが検出されたが、27号住居西壁沿いの27号住居床面で検出された焼土跡は35号住居の地床炉と思われる。27号住居の柱穴は1号、2号、3号、4号、5号、6号ピットの6基と北壁沿いの小ピットの計7基が想定される。住居中央の焼土跡が地床炉で、土坑状の掘り込みは地床炉のくぼみである。床面上で検出された小ピットには35号住居の柱穴が含まれようが、多くは樹根の搅乱と思われる。27号住居の柱穴配置、検出された壁面、地床炉の位置を考慮すると、検出された周溝は北壁を除いて評価に苦しむ。

35号住居は西側半分の床面と壁、地床炉と思われる焼土跡が検出されたのみである。柱穴配置はよく分からぬ。検出されたピットはいずれも浅く柱穴と認めるべきか分からぬものばかりである。

27号住居の北側、73号土坑と重複する竪穴状の遺構は小さく浅いピットが検出され住居跡の可能性がある。埋土断面から73号土坑が新しい。

27号住居と35号住居の出土土器は、第73図1と6が木島式、7が中越式、5と8が諸磯式と、大きく前期前葉段階と前期末葉段階とに分離される。石器は27号住居で黒曜石の石鎚10、珪質頁岩の石鎚1、砂岩の素刃削器1、砂岩の石匙1、磨石類5が出土している。35号住居では砂岩製のミニチュア石匙1、黒曜石、珪質頁岩、頁岩の剥片が出土している。73号土坑では中越式、諸磯式、磨製石斧破片などが出土している。

以上の調査所見による遺構の新旧関係を踏まえると、27号住居が諸磯式期、35号住居が中越式期に位置づけられると推測される。

28号住居跡（第74図、写真図版16）

調査区中央南東寄りに位置する。楕円形のプランで、断片的な周溝と柱穴らしい小ピットを検出した。炉跡は検出されなかつた。8基のピットが検出されたが、柱穴らしい配置になるのは92号、94号、95号、96号ピットの4基である。出土土器は第74図3が内外面条痕調整で外面爪形列が施文される早期末の鉢皿式、同図1が前期初頭の板平式、2と4は縄文施文の土器である。このほか諸磯式、曾利式土器の小破片も出土している。石器は黒曜石の石鎚未成品1、石鎚2、磨石類1などが出土している。

遺物が少なく判断に迷うところだが、中越式期の住居と比較すると柱穴配置、炉跡が不明瞭であり、出土土器に従い、早期末から前期初頭段階に位置づけておきたい。

29号・30号住居跡（第75～76図、写真図版16）

調査区西端から南に細く延びる市道用地に位置する。2軒以上の住居が重複していると思われる。個々の住居は円形プランと思われるが全容は不明である。地床炉、柱穴と思われる小ピットを検出した。深耕作物用のトレンチャーによる搅乱が調査範囲の真ん中を破壊している。3基の埋甕炉が検出され、東側の埋甕炉を中心としたピットと壁面を29号住居、西側の2基の埋甕炉を中心とした造構を30号住居としたが、個々の埋甕炉ごとに1軒の住居とみて3軒の重複を想定すべきであろう。30号住居とした2基の埋甕炉近くの床面は強く焼土化していて、地床炉と考えられる。11号、14号、17号ピットの3基は40cmから62cmと深く、中央の埋甕炉に対応する柱穴の可能性があるが、他のピットはいずれも浅い。

第76図1が29号住居とした最も東側の埋甕炉の炉体土器である。7は中央の炉体土器、8は最も西側の炉体土器である。土器の細分型式上の位置づけ、炉体土器の設置高の比較でも新旧は付けがたい。石器は29号住居で黒曜石の石錐1、珪質頁岩剥片が出土している。30号住居では石器は出土していない。

以上の調査所見から3軒の住居はいずれも五頭ヶ台I式期に位置づけられるが、新旧関係は判別しがたい。

31号住居跡（第77～79図、写真図版17）

調査区南端に位置する。32号住居に接するが、新旧関係は確認できなかった。方形プランで壁沿いに4重の周溝を検出し、柱穴と思われる小ピット、中央部に焼土跡を検出した。竪穴を埋める埋土は壁際が黄褐色、住居中央部が黒褐色で、自然埋没した状況を示すと思われる。周溝の検出状況から同一地点で4回の建築を繰り返したと想定されるが、南半分が調査区外であるため柱穴配置を十分に確認できない。それでも482号ピットあるいは483号ピットと484号ピット、486号ピットと491号ピット、487号ピットと489号ピット、485号ピットと490号ピットと4組の北側の柱穴の組み合わせを想定することができる。住居中央から北寄りにかけて複数ヶ所の焼土跡を検出した。いずれも床面が強く焼土化していて地床炉と考えられる。

出土した土器は第78図24、第79図9が中越式、第78図6・14、第79図2などが神ノ木式、第78図12・15・16、第79図1は木島式、第78図5は関山式、同図19・20が駿迎王Z3式、同図1が諸磯a式と時期幅がある。素直にみれば前期前葉から諸磯a式にかけて繰り返し住居を経営したことになろう。石器は黒曜石の石錐20、未成品1、チャート製の横型石匙1、頁岩製打製石斧1、黒曜石の石錐1、磨石類10が出土している。

以上の調査所見から4軒ほどに想定される本住居は、中越式期から諸磯a式期にかけて位置づけられる。

32号住居跡（第80・81図、写真図版17）

調査区南端に位置する。31号住居、45号住居と重複するが、造構の保存状態が悪く、新旧関係は確認できなかった。212号土坑、213号土坑、214号土坑と重複するが、新旧関係は確認できなかった。本住居は西壁と小ピットが検出されたのみであるが、住居跡と認識して良いと思われる。出土遺物は第80図1が中越式土器、2が木島式、3・4が神ノ木式で、石器では黒曜石の石錐1、未成品1、珪質頁岩の削器1、石錐未成品1、磨石類2、砂岩のハンマー1などである。

以上の調査所見から本住居は中越式期に位置づけられる。

33号住居跡（第81～87図、写真図版18）

調査区南端に位置する。方形の住居で周溝、柱穴らしいピット、焼土跡を検出した。周溝は西壁から北壁にかけて検出された。住居中央付近の2ヶ所に浅いくぼみがあり、くぼみは焼土化している。地床炉であろう。東壁沿いの216号土坑と217号土坑は本住居を切る新しい造構である。462号、463号、466号、480号ピットの4基が柱穴とみられる。

出土遺物は埋土下層と床面で出土したが、住居内に遺棄された遺物はない。第82図3・4は神ノ木式、8は貝殻腹縫文が施文される土器、15は内面に条痕調整があり外面に瘤状隆起がある下吉井系の土器である。19は関

山式、17・18は諸磯a式と思われる。石器は黒曜石石鏃5、未成品2、石錐1、珪質頁岩の石匙1、頁岩の削器2、磨石類4が出土している。

諸磯式があるものの出土遺物は前期前葉段階が多くまとまっていることから本住居は、中越式期に位置づけられると思われる。

38号住居跡（第88図、写真図版18）

調査区中央東寄り、25号住居の西に隣接して位置する。保存状態が悪い住居跡で柱穴と炉跡と思われる焼土跡が検出されたのみである。周囲には中期中葉段階の土坑群がある。本住居を認定したきっかけは土坑群の調査中、120号土坑の脇で焼土跡を検出し、その傍らから井戸尻式末から曾利I式の土器破片がまとまって出土したことによる。早速に柱穴を探索したところ、浅いながらも188号ピット、139号土坑、448号ピット、449号、160号、184号土坑、442号ピットの7基を検出した。ピットが浅いのは本住居の堅穴と床面がすでに削平されていたことに加え、周辺の土坑を検出するために遺構確認面を掘り下げたことにもよる。炉と思われる焼土跡と北側の188号ピットが近接する点がやや気になるが、本遺跡のほかの曾利I式期の住居の柱穴配置に類似した住居構造がうかがえる。

出土遺物は炉周辺の井戸尻式末から曾利I式の土器破片のみである。

以上の調査所見から本住居は曾利I式期に位置づけられる。

41号住居跡（第89図）

調査区中央南東寄り、6号、39号住居東側に位置する。保存状態が悪い遺構で、扁平縁を伴う焼土跡とピットが検出されたのみである。出土遺物もなく時期は不明である。

42号住居跡（第89図、写真図版18）

調査区中央東寄り、46号住居南に位置する。保存状態が悪い住居跡で柱穴、炉跡と思われる焼土跡が検出されたのみである。柱穴は454号、488号、494号、456号、455号もしくは497号ピットの5基である。これらのピットに囲まれた中心に焼土跡が検出された。出土遺物は少なく、曾利式土器の小破片と前期前葉の貝殻腹縁文を施文した土器の小破片のみである。

柱穴配置から本住居は曾利式期に位置づけられると思われる。

43号住居跡（第90図、写真図版18）

調査区南端、33号住居の東側で焼土跡とピット2基を検出し、第90図1の加曾利E III式土器破片がまとまって出土したことから住居跡と認定した。保存状態が悪く、遺構の評価ができないが、住居跡として報告しておく。

44号・45号住居跡（第91図、写真図版18）

調査区南端に位置する。32号住居と重複するが、遺構の保存状態が悪く新旧関係は不明である。方形にめぐる周溝と柱穴と思われるピットが検出された。柱穴の可能性があるピットは6基あるが、周溝との位置関係が整合せず、評価が難しい。両住居の出土遺物は中越式、木島式、神ノ木式、五領ヶ台式の小破片、珪質頁岩の使用痕剥片1、黒曜石剥片4のみである。

五領ヶ台式土器が僅かながら出土しているものの、29号、30号住居のような埋甕炉は確認されていないことから、2軒の住居は中越式期に位置づけられると推測される。

46号住居跡（第92～96図、写真図版19）

調査区中央北東寄りに位置する。保存状態が悪く堅穴はほとんど残っていない。楕円形プランで、周溝、柱穴、

痕跡が検出された。柱穴の数と配置から建替が想定される。痕跡は住居中央から北寄りに位置し、浅いくぼみを囲うように扁平な炉石を敷いている。痕跡の南西側の床面が強く焼土化しており、地床炉と考えられる。

柱穴は北壁沿いから 499 号、513 号、496 号、508 号、511 号、506 号、504 号ピットの 7 基である。また 499 号、500 号、498 号、507 号、510 号、505 号、503 号ピットの 7 基の組み合わせも想定され、建替以前の旧柱穴と思われる。519 号ピットと 520 号ピットは住居の床面を切る新しい遺構だが、その位置から埋甕が埋設されていた可能性も考えられる。後世に発掘されてしまったものかも知れない。

出土した土器は炉内とその周辺の床面から出土していて、曾利 I 式土器である。石器は黒曜石の石鏃 1、未成品 1、磨製石斧 1、頁岩の打製石斧 2、鋸齒縫削器 1、珪質頁岩の両面加工の石槍 1、63g の黒曜石原石、磨石類 4 などが出土している。

以上の調査所見から本住居は曾利 I 式期に位置づけられる。

47 号住居跡（第 96 図、写真図版 19）

調査区南端、39 号住居の南側に位置する遺構である。ほんやりと円形の落ち込みが検出され、土器破片と安山岩製の台石、扁平な礫が検出されたため 47 号住居と認定した。北壁沿いで周溝を検出したものの痕跡、柱穴らしきピットは検出されず、住居としてよいか不明である。

出土遺物は中越式、木島式、神ノ木式、曾利式土器の小破片と安山岩の台石、黒曜石の石鏃 3、黒曜石の使用痕剥片 1、黒曜石の剥片 40 点ほどである。

住居であるならば中越式期に位置づけられる可能性がある。

48 号住居跡（第 97 図、写真図版 19）

調査区東端に位置する。保存状態が悪い遺構で北西側の壁の一部、柱穴、痕跡と思われる焼土跡を検出した。柱穴の数と配置から建替が想定される。竪穴がほとんど残っていないうえに遺構確認面には搅乱が多く、柱穴を検出するために焼土跡から想定される床面高を超えて掘り下げた。その結果、522 号、523 号、524 号、529 号ピットを検出したが、図示したとおりの遺構断面図となった。この結果、柱穴と想定されるのは北側から 518 号、522 号、524 号、529 号、517 号ピットの 5 基である。これらのピットに囲まれて焼土跡があり、これが痕跡と思われる。出土した遺物は曾利 I 式土器の小破片、黒曜石の剥片 2 点のみである。

以上の調査所見から本住居は曾利 I 式期に位置づけられる。

第 2 節 土坑

1 号土坑（第 98 図、写真図版 20）

24 号住居北東 2m に位置する。黒褐色土で埋まり、土坑底面に安山岩礫が敷かれていた。神ノ木式、諸磯式、曾利 I 式、II 式土器破片が出土している。

2 号土坑（第 98 図、写真図版 20）

22 号住居南東 2m に位置する。1.5m 径ほどの円形で浅い土坑である。壁沿いから井戸尻式土器、礫がまとまって出土した。

4 号土坑（第 99 図、写真図版 20）

26 号住居西側で検出された浅い保存状態が悪い土坑である。曾利 I 式の同一個体の土器破片がまとまって出土したが、不思議なことに割れ口が丸まるほどに顕著に摩滅した土器破片と、さほどに摩滅していない破片とがある。土器の下から砂利が検出されているが、これは遺構確認面でみられた搅乱によるものであろう。

5号土坑（第99図、写真図版20）

20号住居南で検出された浅い土坑で、底面から礫がまとまって検出された。ミニチュア石皿、磨石、井戸尻式と思われる土器破片が出土した。

8号土坑（第100図、写真図版20）

24号住居北東にあり、24号住居に切られる。土坑というより小窓穴状の遺構で、曾利I式とII式土器がまとまって出土した。

39号土坑（第101図、写真図版20）

調査区南西角から南へ延びる道路部分の北端で検出された。被熱した礫と井戸尻式3段階の土器がまとめて出土している。

44号土坑（第101図、写真図版21）

調査区南西の道路部分で検出された浅い円形土坑で、底面から扁平礫と焼土が検出された。井戸尻式土器破片が出土している。

62号土坑（第101図、写真図版21）

4号住居南東で検出された円形土坑で、五領ヶ台式土器破片が出土した。

71号土坑（第7・15図、写真図版21）

2号住居と重複する土坑で、2号住居埋土下で検出された。1号、2号住居と接合する土器が出土している。底面から人頭大の礫がまとまって出土した。

72号土坑（第102図、写真図版22）

27号住居東側で検出された土坑で、土坑の埋土上層で礫がまとまって出土したほか、諸磯c式土器破片が出土している。本遺跡では諸磯c式土器破片が少量出土しているが、この土坑は当該時期の数少ない遺構のひとつかもしれない。

77号土坑（第103図、写真図版22）

調査区南端に位置するやや大型の土坑である。特異な構造で底部壁沿いに小ピットがめぐる。石柱状の棒状礫が壁に立てかけられるように検出され、その横から炭化材が出土した。土坑中央の底面には細かい炭化材と滑石製のビーズ状石製品、骨片が検出された。曾利I式の把手付深鉢破片が出土している。土坑内にピットがめぐる例は長野県富士見町の居平遺跡にみることができる。

97号土坑（第102図、写真図版23）

20号住居北5mに位置するやや小ぶりの円形土坑で土坑底面に礫がまとまっている。井戸尻式3段階と思われる土器破片が出土した。

112号土坑（第102図、写真図版23）

24号住居北東で検出された土坑で、埋土上層に人頭大の礫がまとまり、土坑底面で土器破片がばらまいたように出土した。土器は曾利I式である。

113号土坑（第104図、写真図版24）

39号住居西に隣接する浅い土坑で、底面から礫、磨石、打製石斧、神ノ木式と諸磯式土器破片が出土した。

119号土坑（第104図、写真図版24）

6号住居北壁を切る土坑で、井戸尻式の鉢形土器、礫が出土した。

123号土坑（第104図、写真図版24）

27号住居北側で検出された円形土坑で、井戸尻式3段階から曾利I式の深鉢と礫が埋土中に出土した。

127号土坑（第105図、写真図版25）

24号住居東で検出された円形土坑で埋土中から礫と土器破片が出土した。土坑中央に人頭大の礫3個があり、その下から曾利V式土器底部が出土している。壁沿いには諸磯式土器の小破片がまとまって出土した。

130号土坑（第105図、写真図版25）

37号住居を切って掘り込まれた土坑で、井戸尻式土器がまとまって出土した。埋土上層には住居の貼床のような粘質でかたくなった黄褐色土が検出された。当初は37号住居より古い土坑で37号住居床面が貼られたものかと考えたが、36号住居の焼土を切って掘り込まれ、かつ出土する土器は36号、37号住居よりも新しい型式であった。34号住居の床面が本土坑にまで及ぶとも考えられない。すでに削平されて失われた、本土坑よりも新しい時期の住居跡があったのだろうか。

135号土坑（第106図、写真図版25）

40号住居南壁に重複して掘り込まれた円形土坑で、礫が出土している。神ノ木式、木島式、関山式土器が出土した。

137号土坑（第107図、写真図版25）

39号住居西側で検出された土坑で、埋土から中越式土器破片がまとまって出土している。

147号土坑（第107図、写真図版26）

24号住居北東で検出された土坑で、埋土中から井戸尻式深鉢が出土している。深鉢は耕作による搅乱で上半が欠損しているが、本来は完形のまま埋納されていた可能性がある。

151号土坑（第108・109図、写真図版26）

24号住居北東で検出された土坑で、埋土上層には人頭礫、中層に石皿、土坑底面近くには割られた曾利I式土器が敷かれるように出土した。土器は土坑内で割りながら埋納したと思われる。この土器の下からミニチュアの石皿が出土した。

187号土坑（第109図、写真図版26）

47号住居東で検出した円形の土坑で、壁に沿って礫が並んで出土した。磨石類2点が出土した。

200号土坑（第109図、写真図版27）

5号住居内で検出された土坑で、土坑底面で曾利I式かII式の小形深鉢底部が出土した。5号住居より新しい遺構か、あるいは住居の貯蔵穴の可能性もあろう。

205号土坑（第110図、写真図版27）

46号住居南西で検出した土坑で、土坑底面近くで曾利I式土器が出土した。土器は縦に割り、内面を上に向けて、口縁部を甕棺のように合わせて埋納されていた。

207号土坑（第110図、写真図版27・28）

31号住居を切って掘り込まれた土坑で、埋土上層で多数の焼礫が出土した。礫には20cm角の大きなものも1点含まれるが、大半は拳二つ分程度から卵大である。礫は340点ほどである。遺跡周辺で容易に採集できる安山岩の亜角礫が主で、被熱し赤色、黒色に変色している。土坑埋土内に炭化材と焼土粒子が多量に検出されるわけがない。

209号土坑（第110図、写真図版28）

44号住居を切って掘り込まれた土坑で、土坑底面から礫がまとまって出土した。中越式、神ノ木式、諸磧a式土器破片、台石破片、石皿破片が出土した。

213号・214号土坑（第111・112図、写真図版28）

32号住居を切って掘り込まれた2基の土坑で213号土坑が新しい。214号土坑は埋土下層に地山由来の黄褐色土層があり、堆積状況が特異である。214号土坑には前期の土器破片のほか曾利式土器破片が混じる。

217号土坑（第112図、写真図版28）

33号住居内で検出された土坑で、本土坑が新しい。土坑内から礫がまとまって出土した。神ノ木式、諸磧式と思われる土器破片を伴う。

229号土坑（第113図、写真図版28）

25号住居東側で検出した円形土坑で、土坑底面から礫がまとまって出土した。曾利I式土器破片が出土している。

235号土坑（第113図、写真図版28）

47号住居東側、調査区南東角付近で検出した円形土坑で、土坑内から礫がまとまって出土したほか、井戸尻式3段階から曾利I式期にかけての土器のやや大き目の破片が出土した。

243号土坑（第113図、写真図版28）

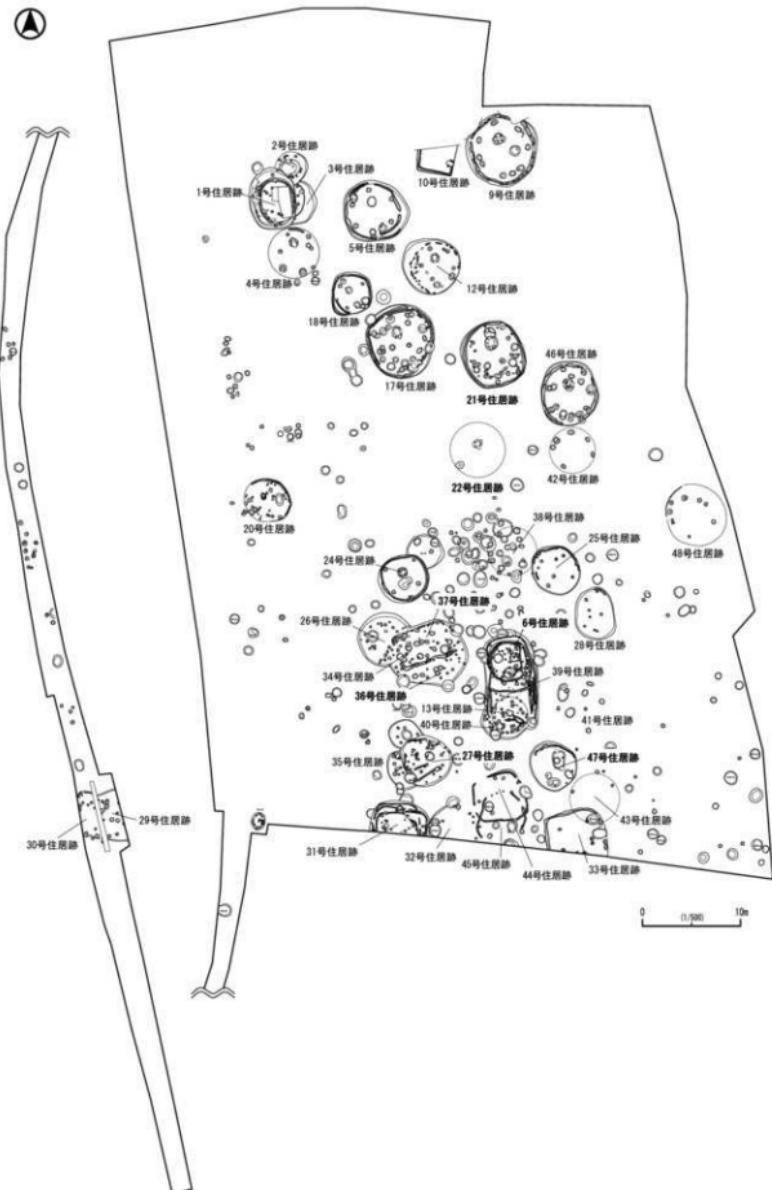
調査区南東角で検出された円形土坑で、底面近くから礫と曾利I式土器の大きな破片が出土した。

245号土坑（第113図、写真図版29）

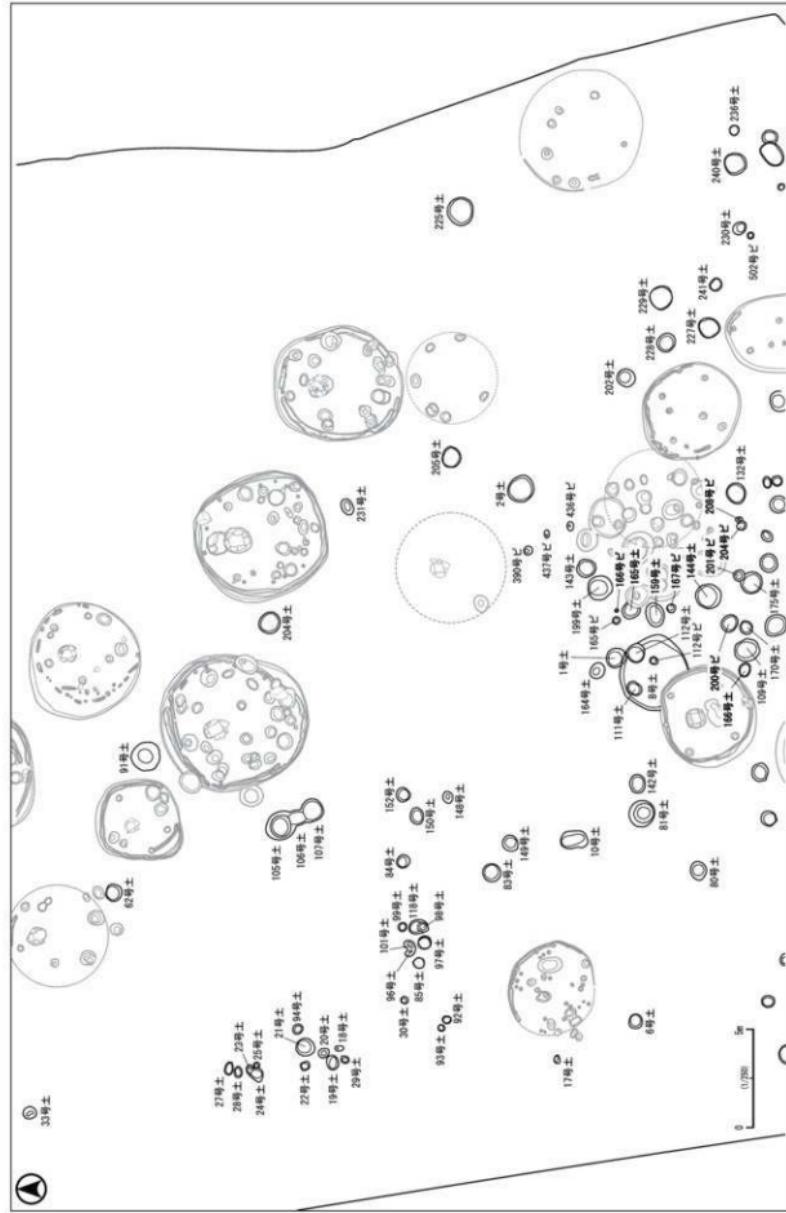
調査区南東角で検出された円形土坑で、内部から礫がまとまって検出された。243号土坑などに類似した土坑で、土器資料から時期を特定できないものの、曾利I式期頃と推測される。

252号土坑（第114図、写真図版29）

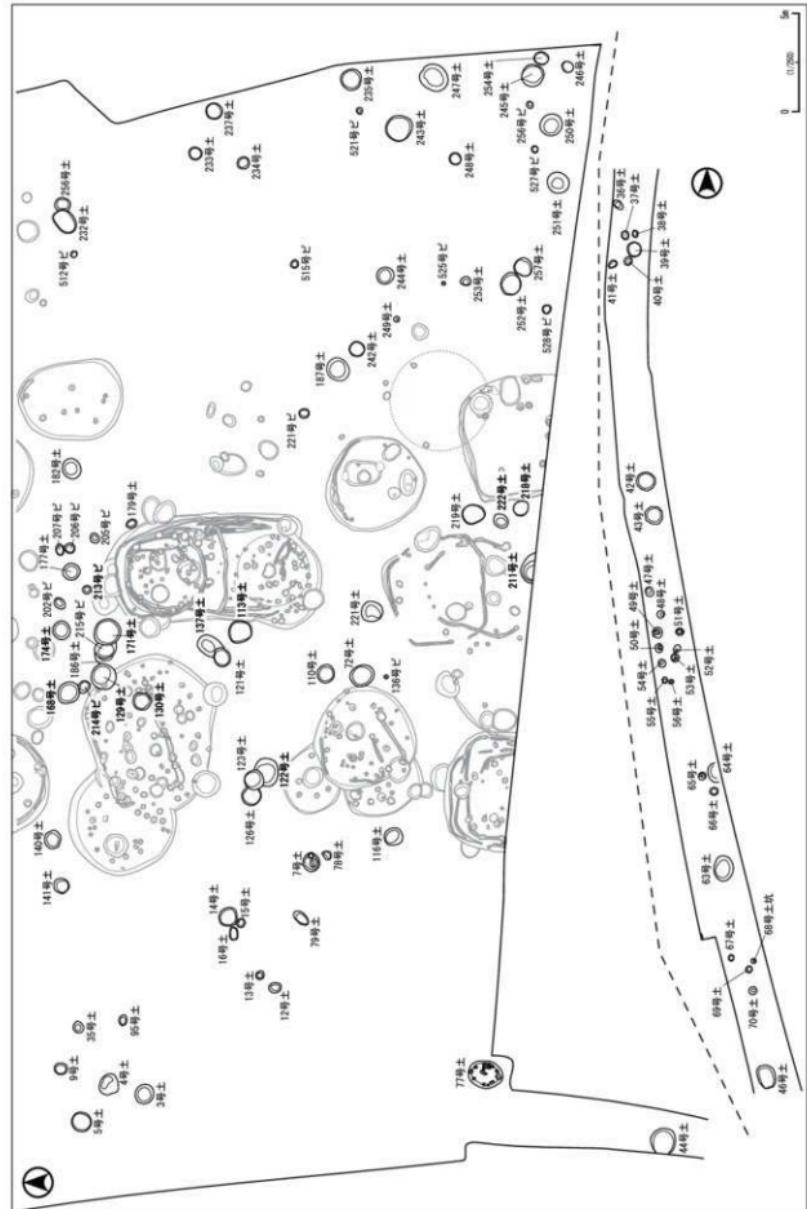
33号住居東側で検出された円形土坑で、土坑埋土中に人頭大の礫と曾利I式の小形深鉢が出土した。



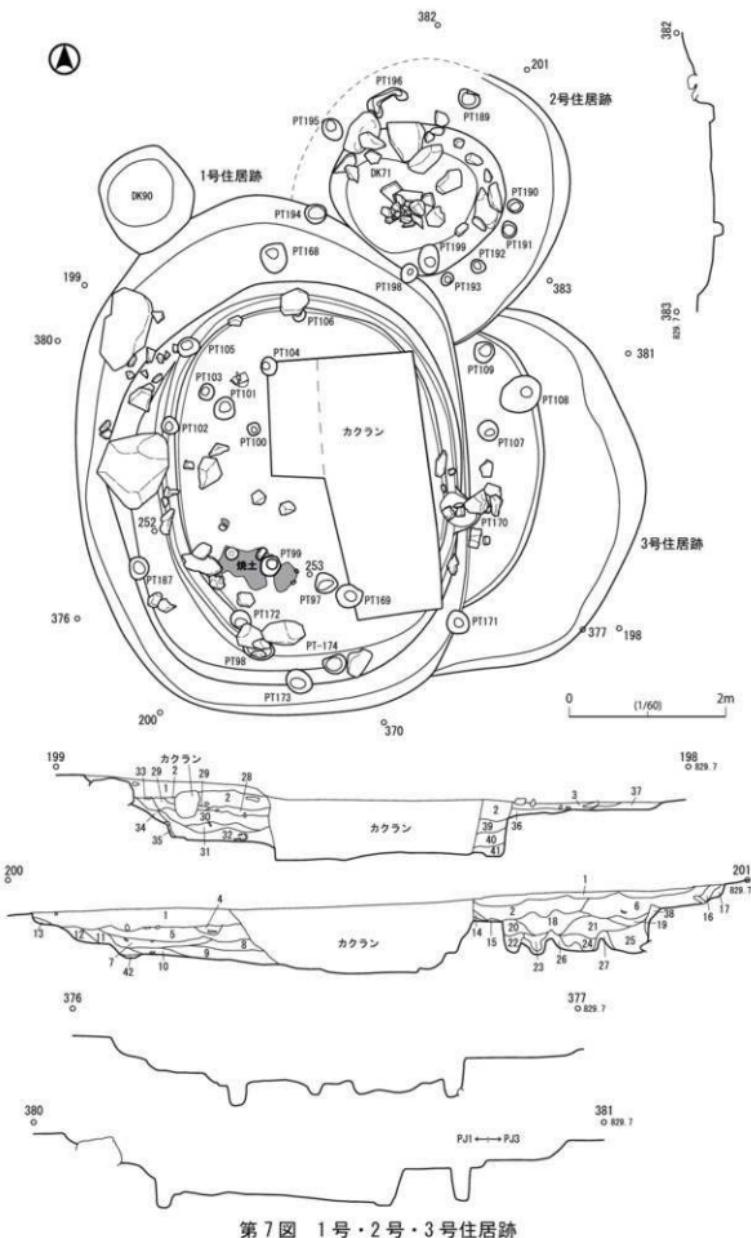
第4図 遺構配置図（竪穴住居跡）



第5図 遺構配置図（土坑・ピット(1)）

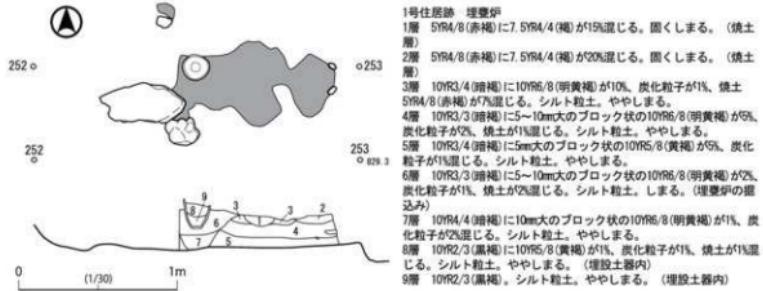


第6図 遺構配置図（土坑・ピット(2)）

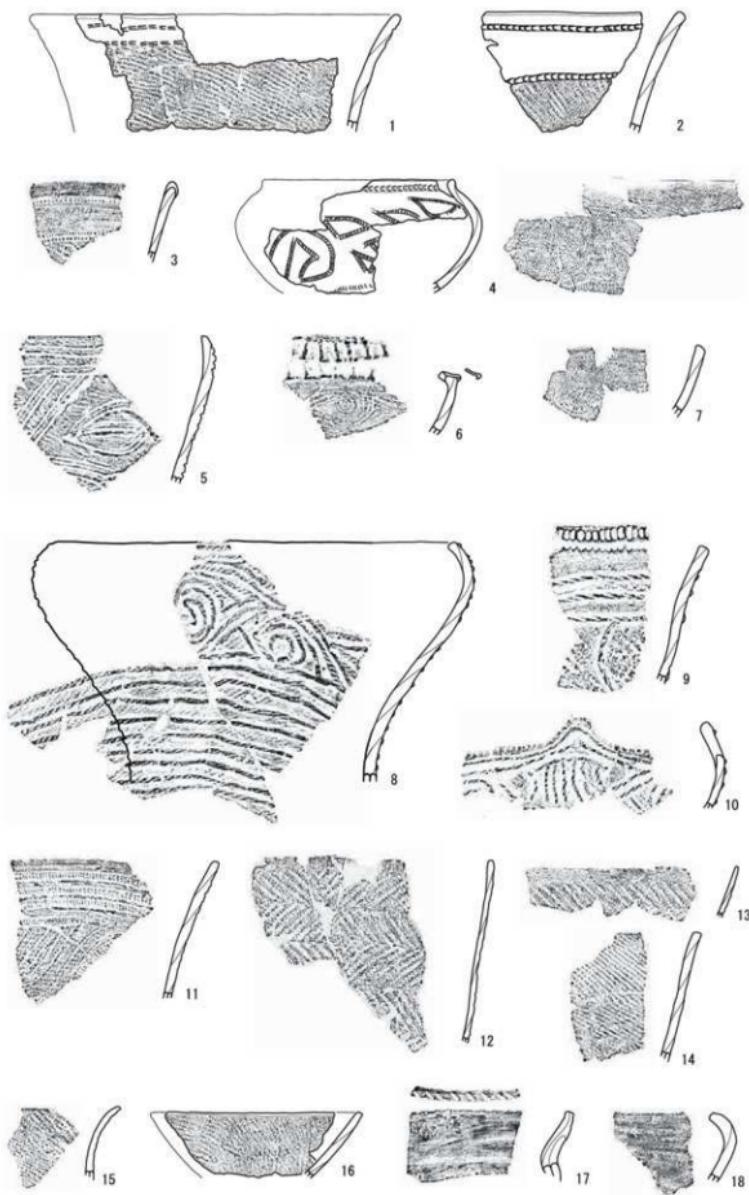


第7図 1号・2号・3号住居跡

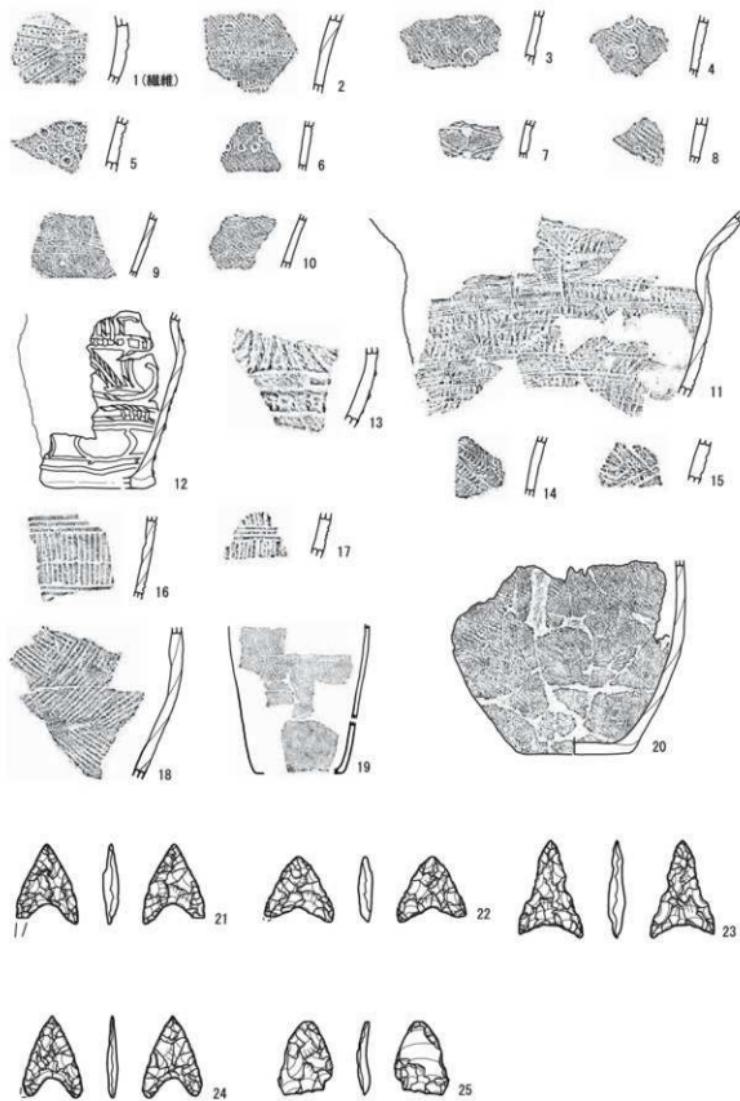
- 1号住居跡
- 1層 10YR6/4(暗褐色)に10YR6/8(明黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 10YR3/3(暗褐色)に10YR6/6(暗褐色)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 3層 10YR2/3(暗褐色)に10YR6/6(暗褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 4層 10YR3/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が3%、炭化粒子が1%、焼土が3%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 5層 10YR3/3(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 6層 10YR3/3(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 7層 10YR3/4(暗褐色)に10YR6/6(暗褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 8層 10YR3/3(暗褐色)に10YR6/6(暗褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 9層 10YR3/4(暗褐色)に5mm大のブロック状の10YR5/8(黄褐色)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 10層 10YR3/4(暗褐色)に5mm大のブロック状の10YR5/8(黄褐色)が5%、焼土が1%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 11層 10YR3/4(暗褐色)に5mm大のブロック状の10YR5/8(黄褐色)が10%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 12層 10YR4/4(暗褐色)に10YR5/8(黄褐色)が10%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 13層 10YR4/4(暗褐色)に10YR5/8(黄褐色)が10%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 14層 10YR3/3(暗褐色)に10YR5/8(黄褐色)が10%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 15層 10YR5/8(黄褐色)に10YR3/4(暗褐色)が5%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 16層 10YR4/6(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が5%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 17層 10YR4/4(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が5%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 18層 10YR3/3(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 19層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 20層 10YR2/3(黒褐色)に2cm大のブロック状の10YR6/6(黄褐色)が2%、炭化粒子が3%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 21層 10YR3/3(暗褐色)に10YR6/6(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 22層 10YR2/3(暗褐色)に10YR5/8(黄褐色)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 23層 10YR3/3(暗褐色)に10YR5/8(黄褐色)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 24層 10YR3/3(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 25層 10YR2/4(暗褐色)に10YR5/8(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 26層 10YR4/6(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%混じる。シルト粒土、固くしまる。
 - 27層 10YR4/4(暗褐色)に10YR5/8(黄褐色)が5%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 28層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 29層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が3%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 30層 10YR2/3(暗褐色)に5mm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐色)が3%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 31層 10YR2/3(暗褐色)に5mm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐色)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 32層 10YR2/3(暗褐色)に5mm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐色)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 33層 10YR2/3(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が3%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 34層 10YR4/4(暗褐色)に5mm大のブロック状の10YR5/6(黄褐色)が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。
 - 35層 10YR4/4(暗褐色)に5mm大のブロック状の10YR5/6(黄褐色)が7%混じる。シルト粒土、固くしまる。
 - 36層 10YR4/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が15%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 37層 10YR5/6(黄褐色)に10YR4/4(暗褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 38層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。
 - 39層 10YR2/3(暗褐色)に5mm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 40層 10YR2/3(暗褐色)に2cm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐色)が3%混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 41層 10YR2/3(暗褐色)に2cm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐色)が3%混じる。シルト粒土、しまる。
 - 42層 10YR2/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。(周溝)
 - 地山 犀 10YR5/8(黄褐色)に10YR4/4(暗褐色)が7%混じる。シルト粒土、固くしまる。
 - 地山 床 10YR5/8(黄褐色)に10YR4/4(暗褐色)が10%混じる。シルト粒土、固くしまる。



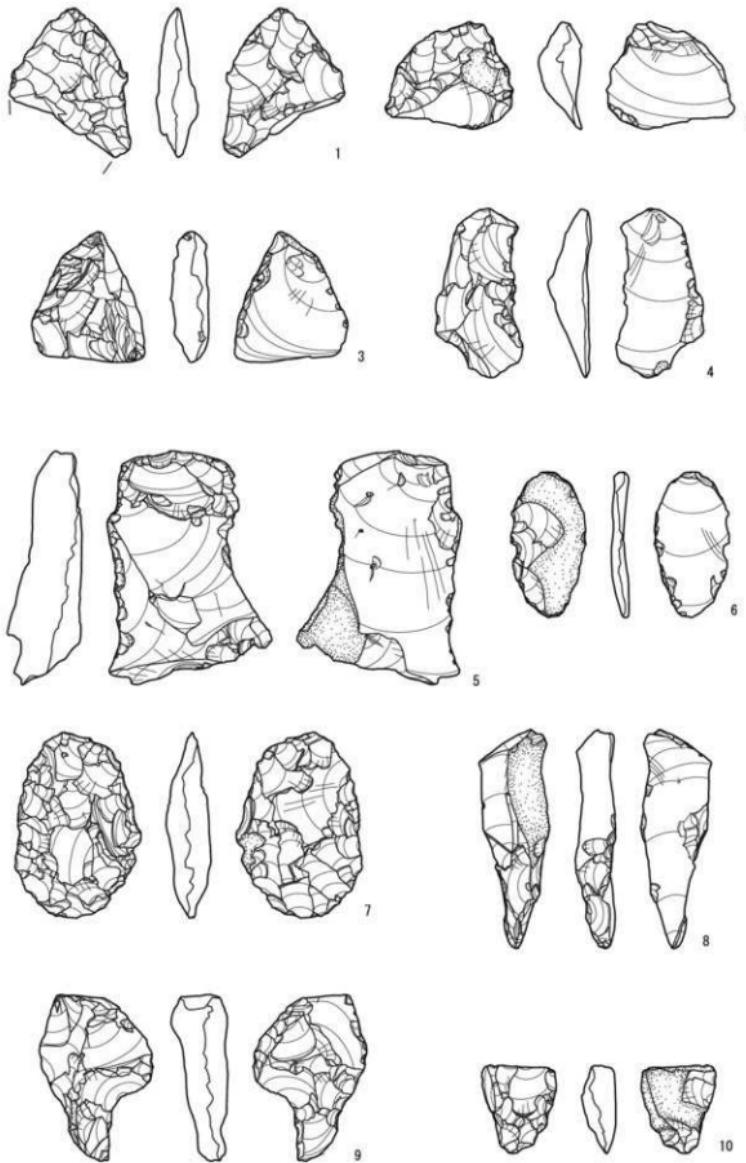
第8図 1号住居跡炉、出土遺物 (1/4)



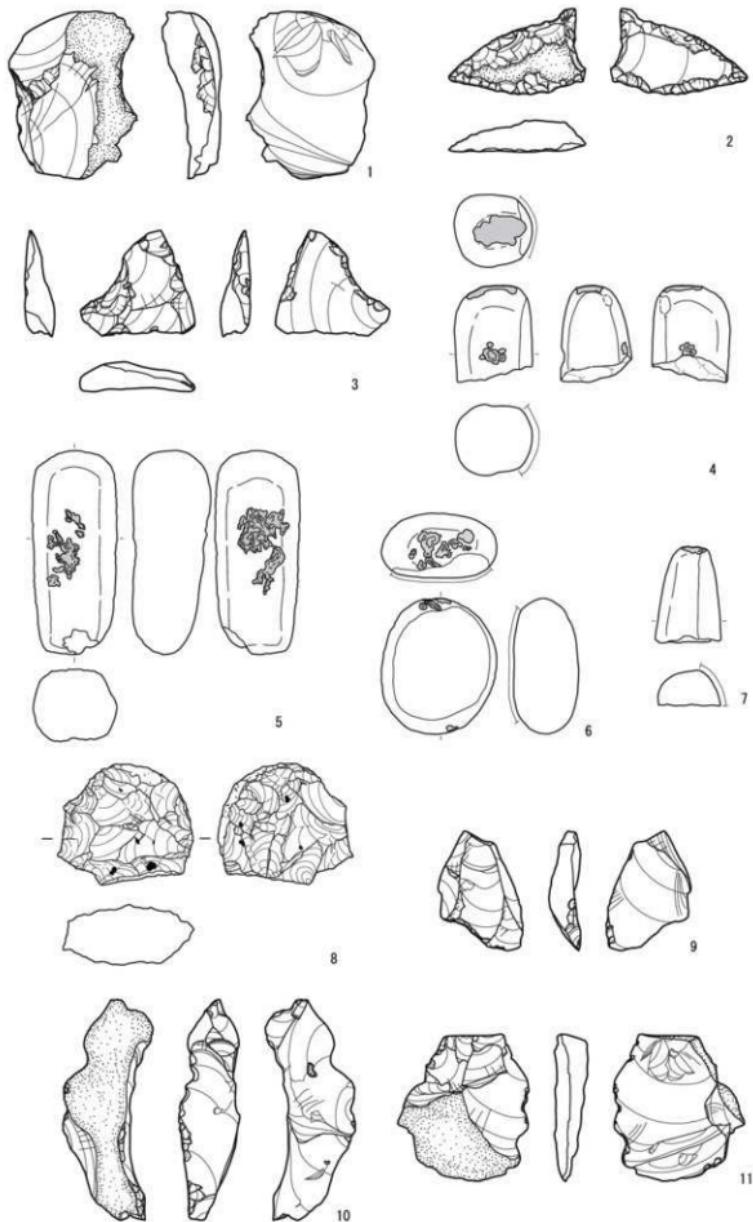
第9図 1号住居跡出土遺物(1)(1/4)



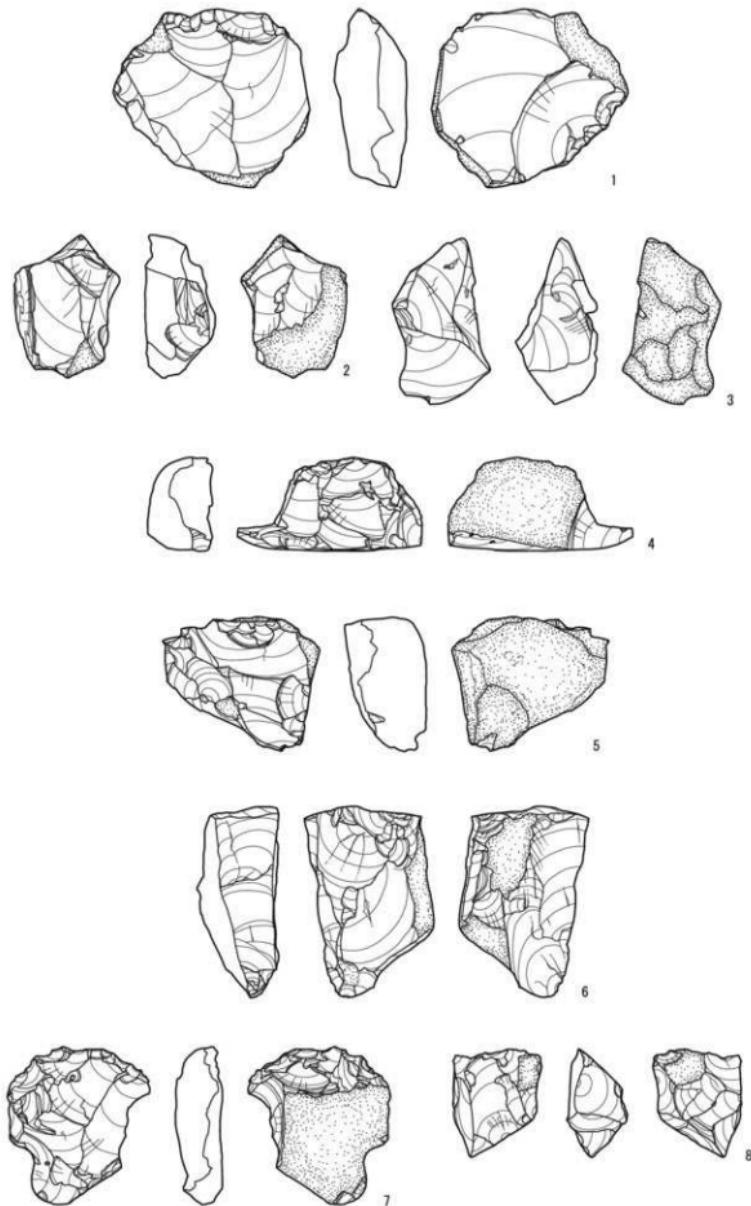
第10図 1号住居跡出土遺物(2) (1/4、但し19は1/8、21~25は1/1)



第 11 図 1 号住居跡出土遺物 (3) (1/1)

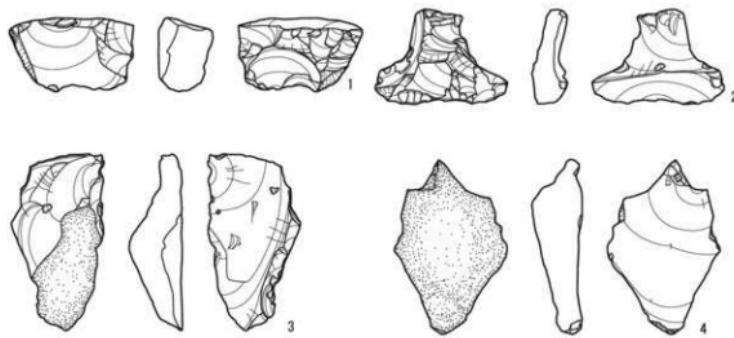


第12図 1号住居跡出土遺物 (4) (1~3・9~11は1/1、8は1/2、4~7は1/4)

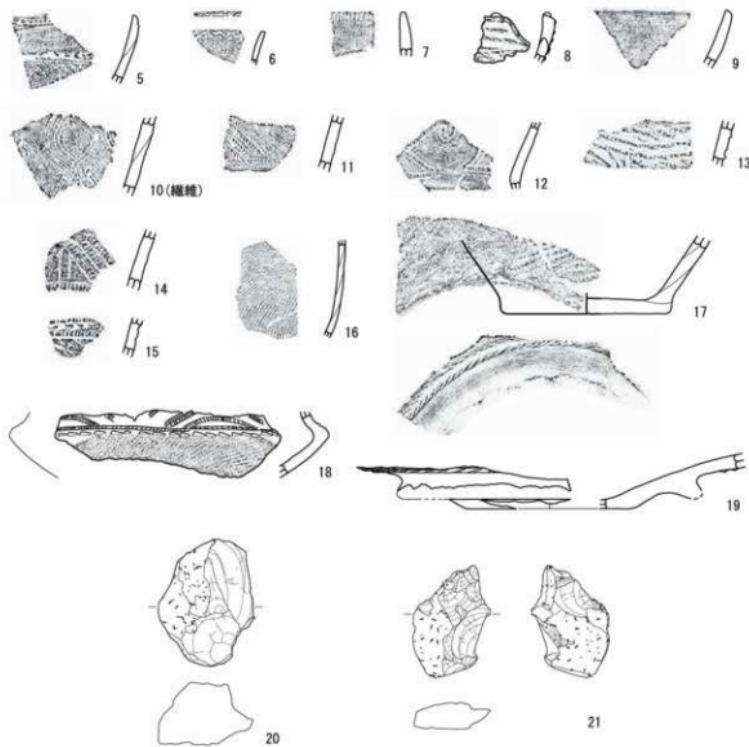


第13図 1号住居跡出土遺物(5)(1/1)

1号住居跡

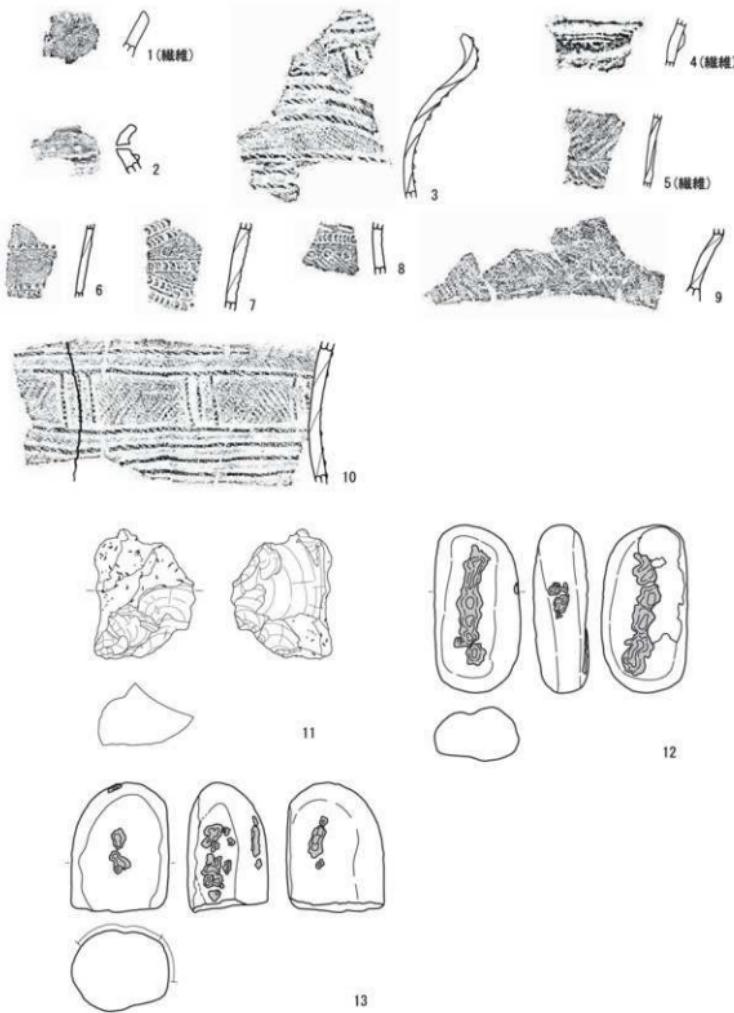


2号住居跡



第14図 1号・2号住居跡出土遺物 (1～4は1/1、5～15・17～19は1/4、16は1/8、20・21は1/2)

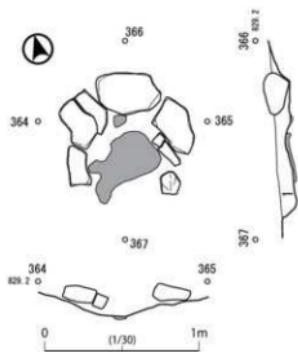
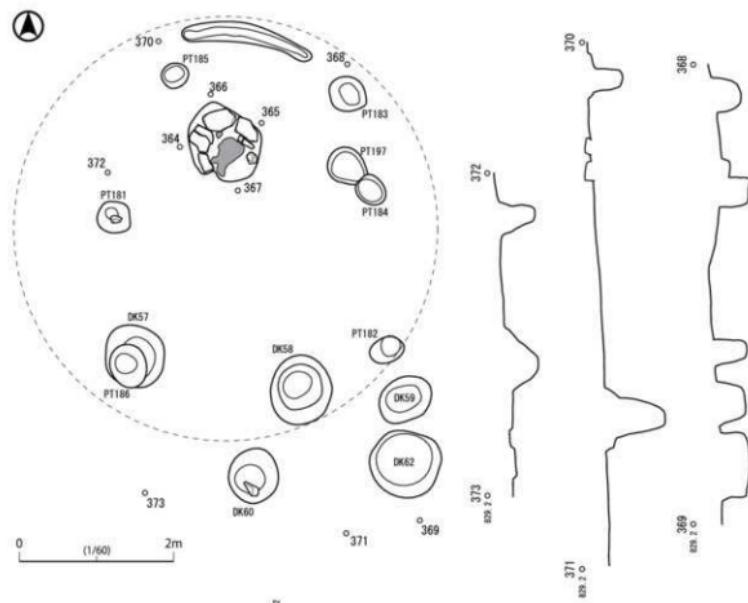
3号住居跡



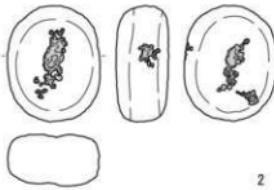
71号土坑



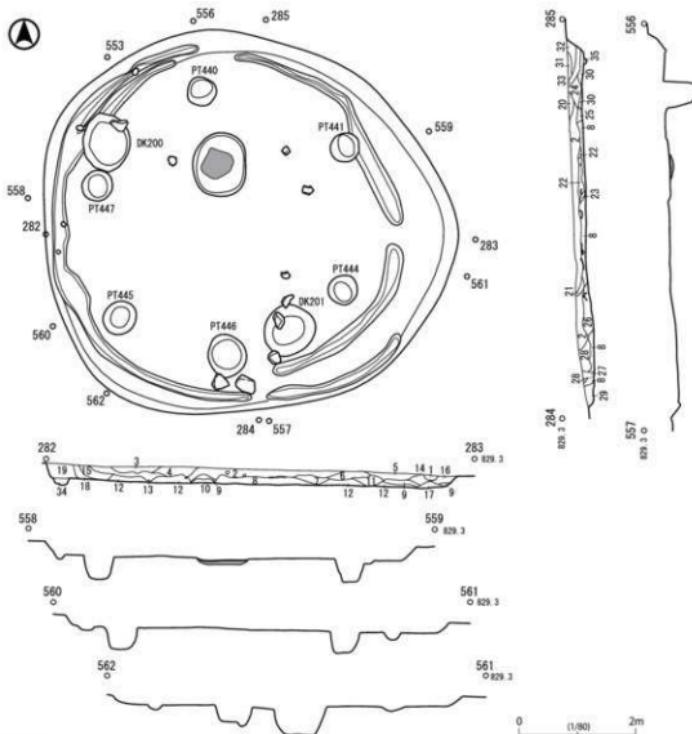
第15図 3号住居跡・71号土坑出土遺物 (1/4、但し4・11は1/2)



4号住居跡 石炭炉
1層 7.5YR4/6(褐) シルト粒土に7.5YR3/3(暗褐) シルト粒土が15%、炭化粒子1%。焼土粒子5%混じる。ややしまる。



第16図 4号住居跡、4号住居跡炉、出土遺物（1/4）



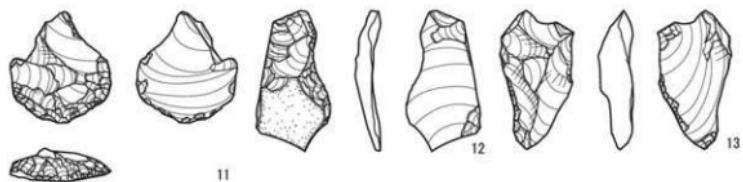
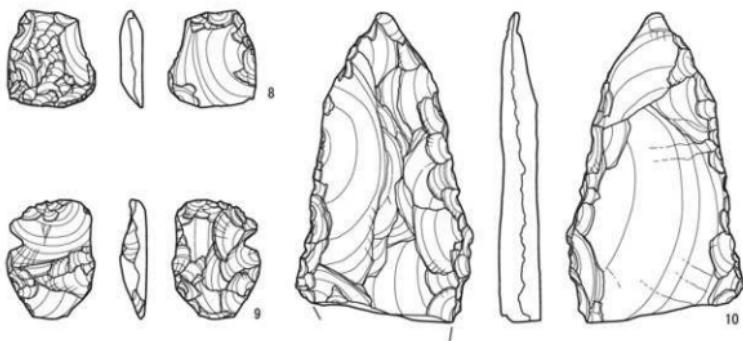
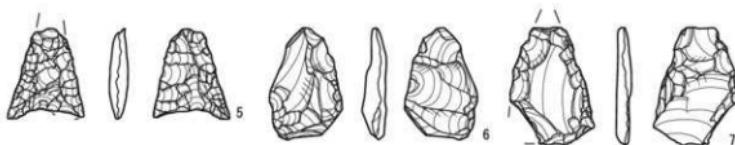
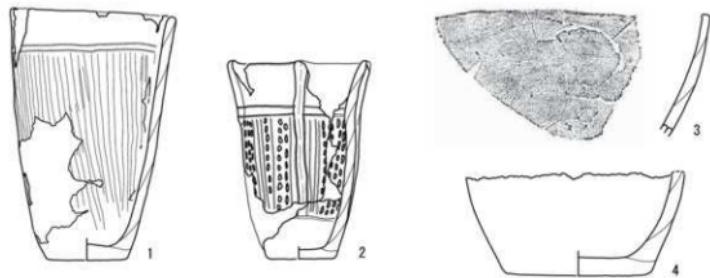
5号住居跡

- 1層 10YR2/3(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が1%混じる。シルト粒土。しまなし。
（いも穴）
- 2層 10YR2/3(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 3層 10YR2/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が7%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 4層 10YR2/3(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 5層 10YR2/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が7%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 6層 10YR2/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 7層 10YR2/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 8層 10YR4/6(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 9層 10YR4/6(暗褐色)に1cm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 10層 10YR4/6(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が30%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 11層 10YR3/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 12層 10YR4/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
- 13層 10YR3/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
- 14層 10YR4/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 15層 10YR4/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 16層 10YR3/3(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%混じる。シルト粒土。やわらまる。
(14層と同じ)
- 17層 10YR4/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 18層 10YR4/6(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 19層 10YR4/6(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 20層 10YR2/3(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 21層 10YR3/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまなし。
- 22層 10YR3/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまなし。
- 23層 10YR3/4(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまなし。
- 24層 10YR3/4(暗褐色)に1cm大のブロック状の10YR5/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 25層 10YR2/3(黒褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 26層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 27層 10YR3/3(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 28層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 29層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 30層 10YR4/6(暗褐色)に10YR6/6(明黄褐色)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 31層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。
- 32層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 33層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が7%混じる。シルト粒土。しまる。
- 34層 10YR4/3(にふい黄褐色)に10YR3/3(暗褐色)が15%混じる。シルト粒土。しまる。(周溝)
- 35層 10YR4/3(にふい黄褐色)に10YR4/4(暗褐色)が10%混じる。シルト粒土。しまる。(周溝)
- 地山 床 10YR5/6(黄褐色)に10YR4/4(暗褐色)が7%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 地山 床 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。

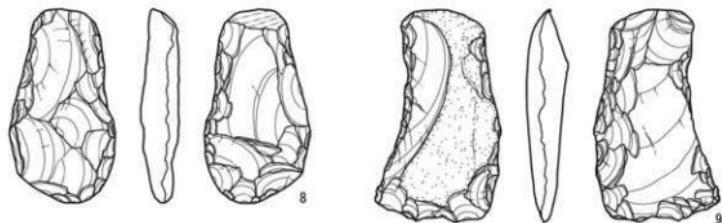
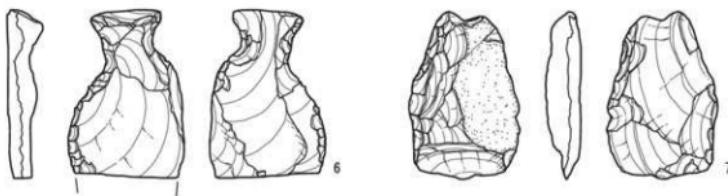
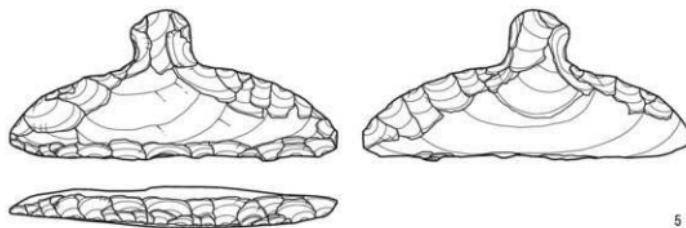
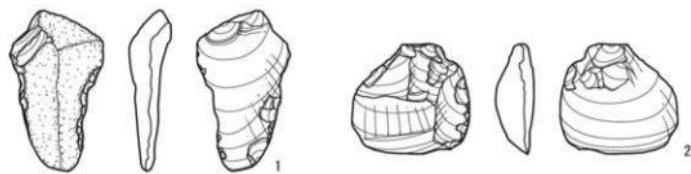
第 17 図 5号住居跡



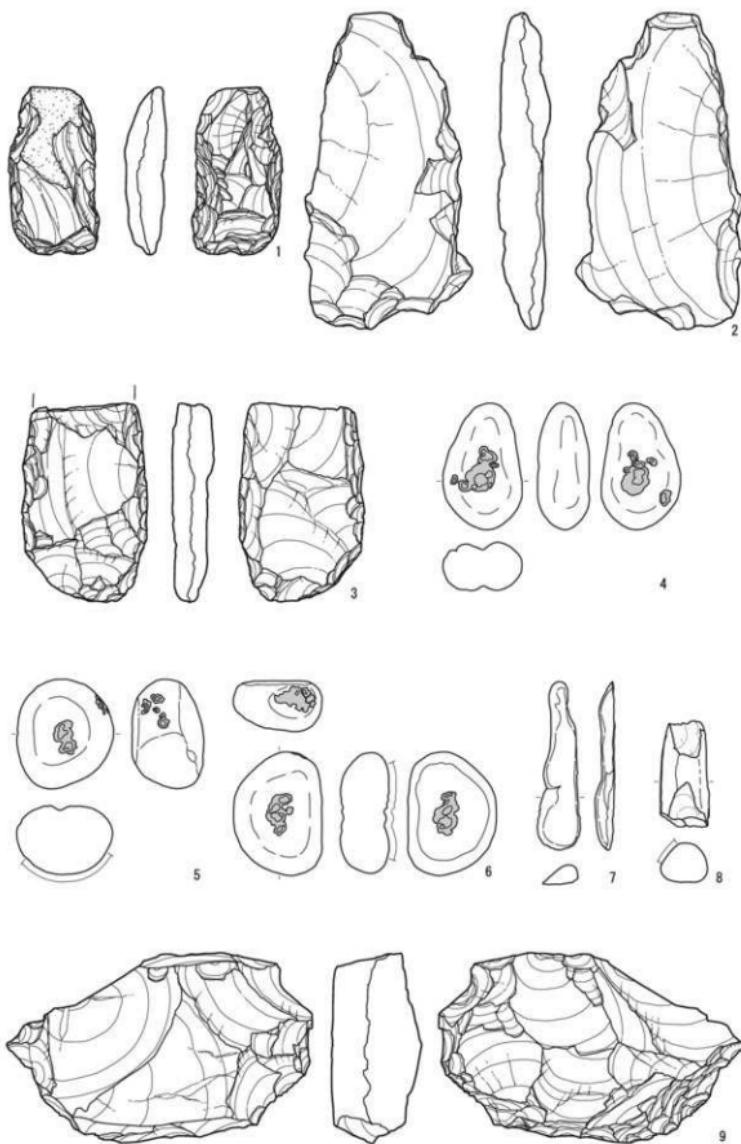
第18図 5号住居跡出土遺物 (1) (1/6、但し1・2は1/8)



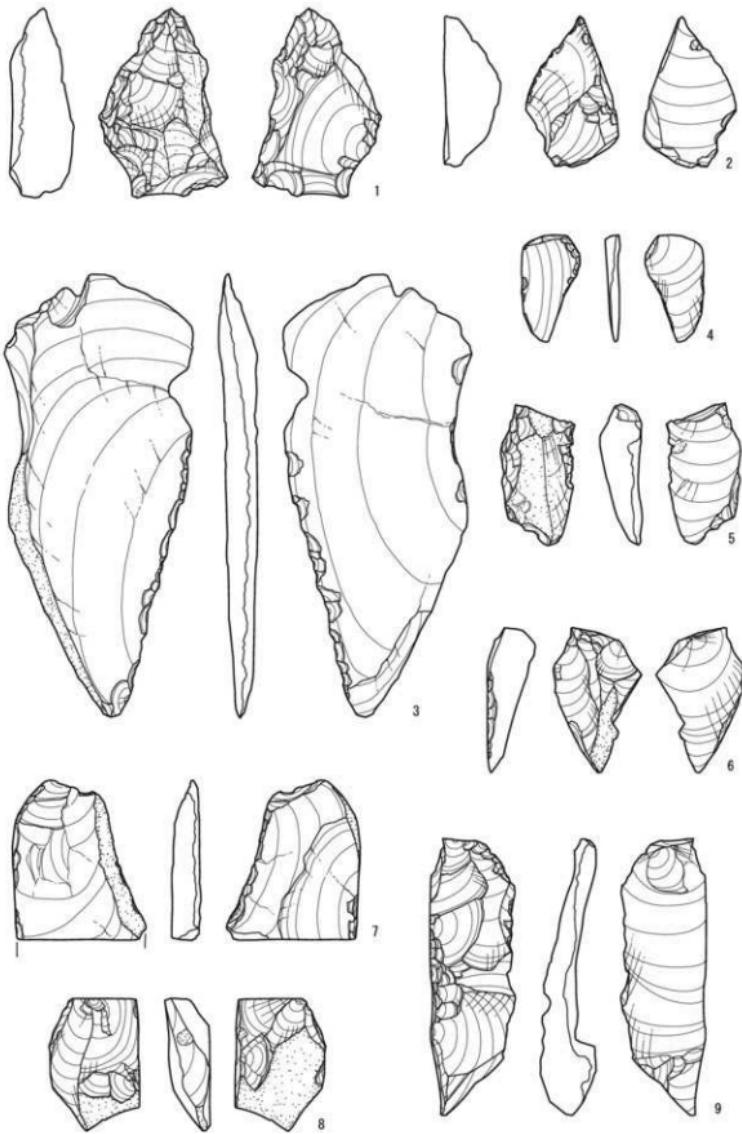
第19図 5号住居跡出土遺物(2)(1/1、但し1~4は1/4)



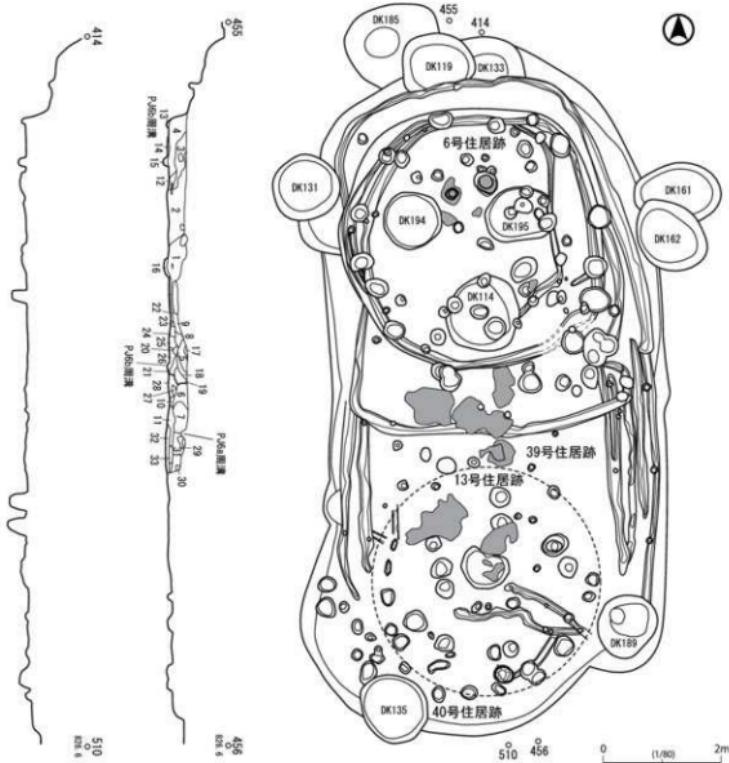
第20図 5号住居跡出土遺物(3)(1/1、但し7~9は1/2)



第21図 5号住居跡出土遺物 (4) (1~3は1/2、4~8は1/4、9は1/1)

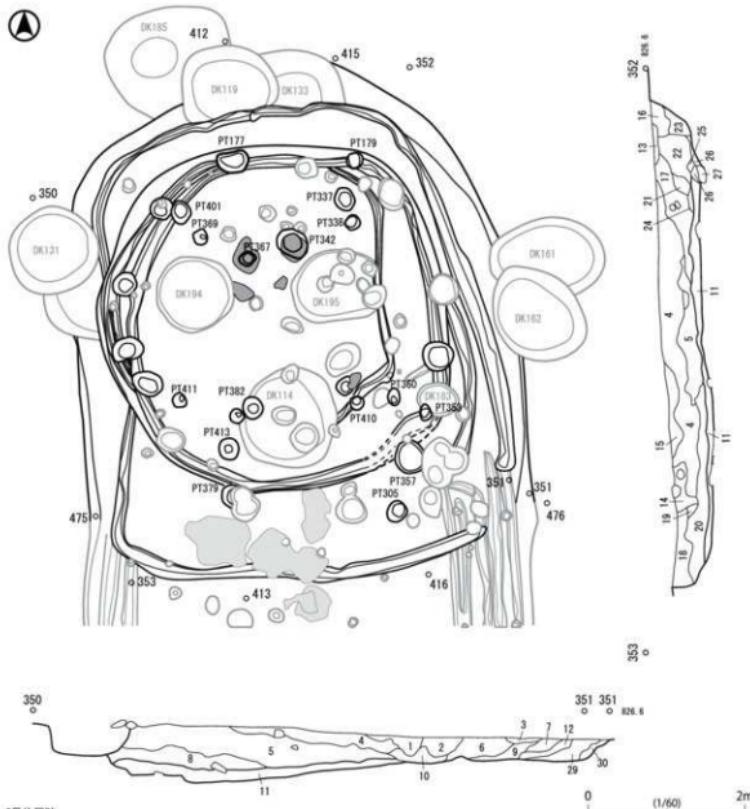


第22図 5号住居跡出土遺物(5)(1/1、但し7は1/2)

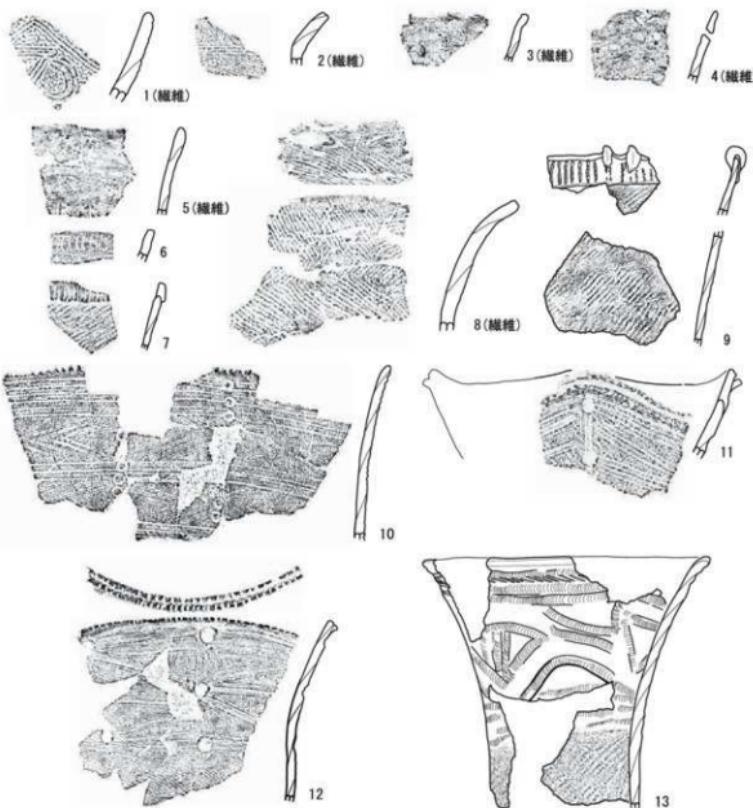
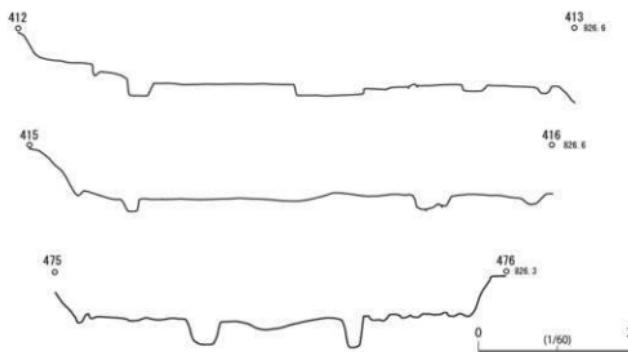


- 6号住居跡
- 1層 10YR2/2(黒褐色) シルト粘土に10YR5/8(黄褐色) シルト粘土が径5mmのブロックで3%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 2層 10YR2/3(黒褐色) シルト粘土に10YR5/6(黄褐色) シルト粘土が径3mmのブロックで5%、炭化粒子2%混じる。ややしまる。
 - 3層 10YR3/4(暗褐色) シルト粘土が径3mmのブロックで5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 4層 10YR3/3(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(黄褐色) シルト粘土が径5mmのブロックで5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 5層 10YR4/6(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(明黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 6層 10YR4/5(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(明黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 7層 10YR4/6(暗褐色) シルト粘土に10YR5/8(黄褐色) シルト粘土が径10mmで30%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 8層 10YR4/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/8(黄褐色) シルト粘土が7%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 9層 10YR4/3(くろい黄褐色) シルト粘土に10YR4/6(暗褐色) シルト粘土が5%混じる。ややしまる。
 - 10層 10YR3/3(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(黄褐色) シルト粘土が径5mmで3%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 11層 10YR3/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(黄褐色) シルト粘土が5mmで5%、炭化粒子2%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
 - 12層 10YR3/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(黄褐色) シルト粘土が3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 13層 10YR4/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(黄褐色) シルト粘土が10mmで5%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
 - 14層 10YR4/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
 - 15層 10YR3/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
 - 16層 10YR2/3(黒褐色) シルト粘土に10YR5/6(黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 17層 10YR3/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 18層 10YR3/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(明黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 19層 10YR3/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/8(黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 20層 10YR4/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(黄褐色) シルト粘土が3%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
 - 21層 10YR4/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/8(黄褐色) シルト粘土が3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 22層 10YR4/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(明黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 23層 10YR4/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/8(黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 24層 10YR3/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/8(明黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 25層 10YR3/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/8(黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 26層 10YR3/3(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(明黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 27層 10YR4/6(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(明黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。28層より明るい。
 - 28層 10YR4/6(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(明黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
 - 29層 10YR4/6(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(明黄褐色) シルト粘土が90%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 30層 10YR5/6(暗褐色) シルト粘土に10YR5/8(黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 31層 10YR4/4(暗褐色) シルト粘土に10YR5/6(明黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 32層 10YR2/3(黒褐色) シルト粘土に10YR5/6(明黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
 - 33層 5YR5/8(明黄褐色) シルト粘土。固くしまる。39号住居跡と床面。
 - 壁山 地山 壁山 10YR5/8(黄褐色) シルト粘土。10YR3/4(暗褐色) シルト粘土が7%混じる。固くしまる。
 - 地山 床 地山 10YR5/8(黄褐色) シルト粘土。固くしまる。

第23図 6号・13号・39号・40号住居跡



第24図 6号住居跡

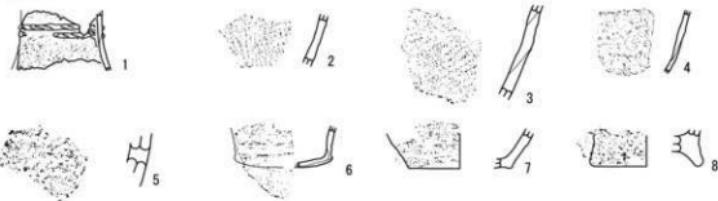


第25図 6号住居跡断面図、6a号住居跡出土遺物(1/4)

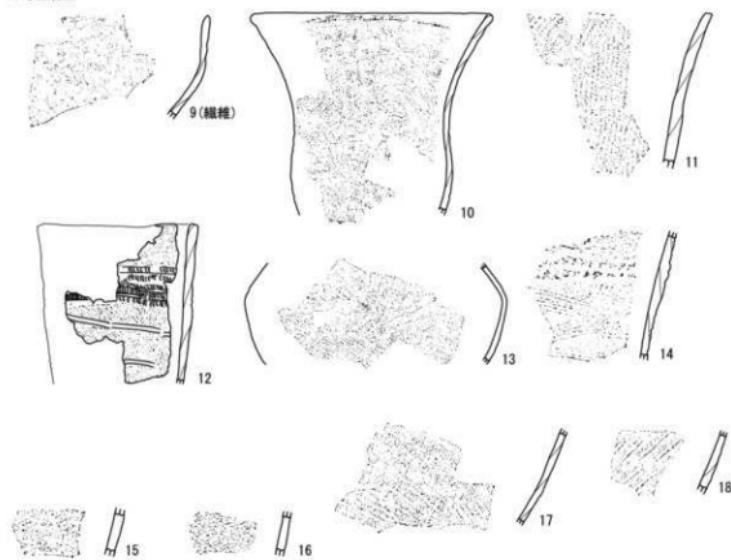


第26図 6a号住居跡出土遺物 (1/4、但し1・12は1/6)

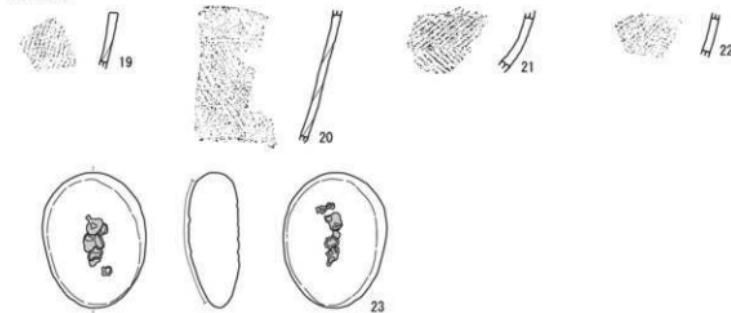
6a号住居跡



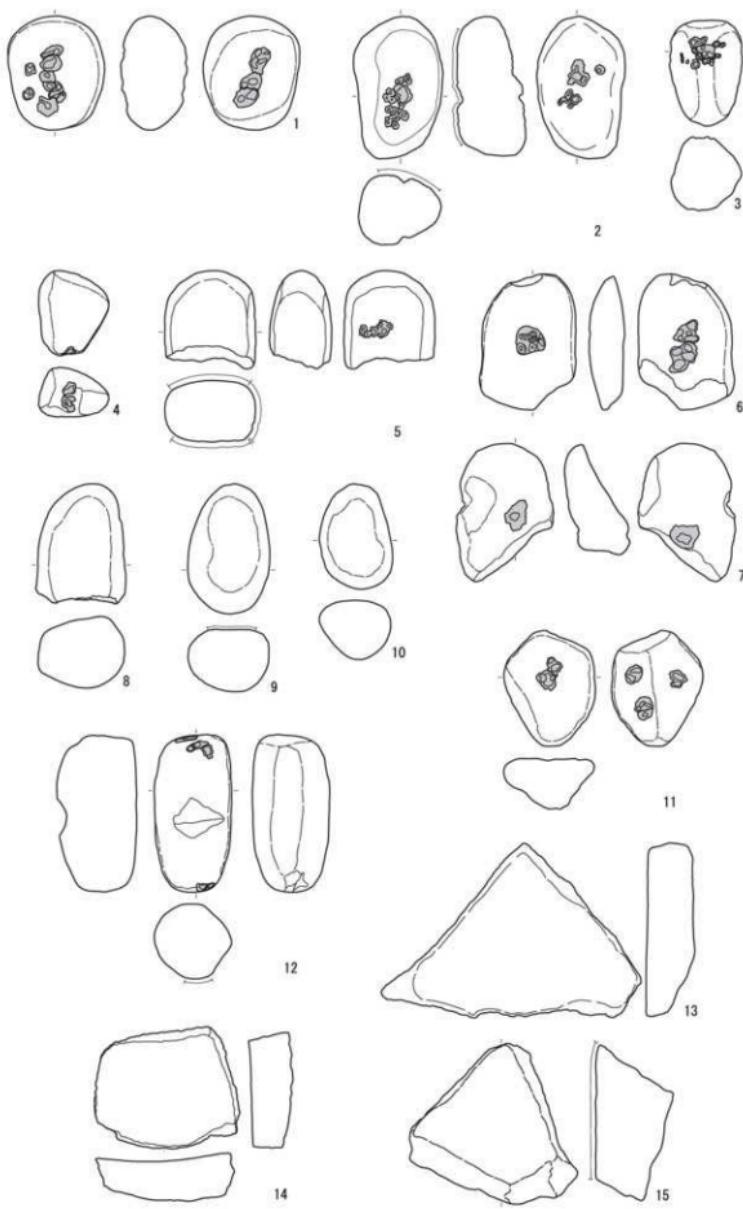
6b号住居跡



6号住居跡

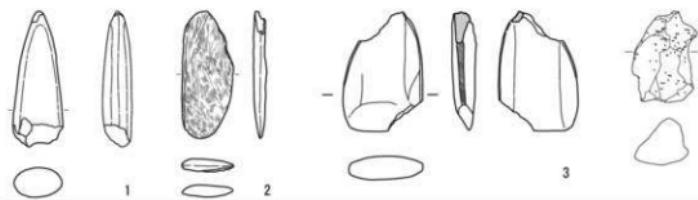


第27図 6号住居跡出土遺物 (1) (1/4、但し 10・13は1/6)

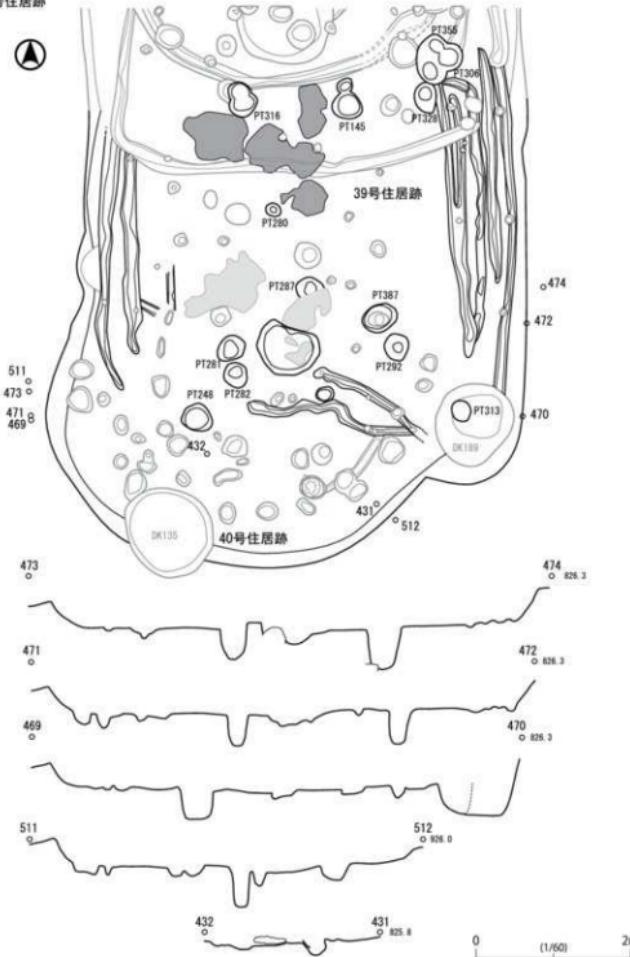


第28図 6号住居跡出土遺物(2) (1/4、但し4は1/8、13・14は1/10)

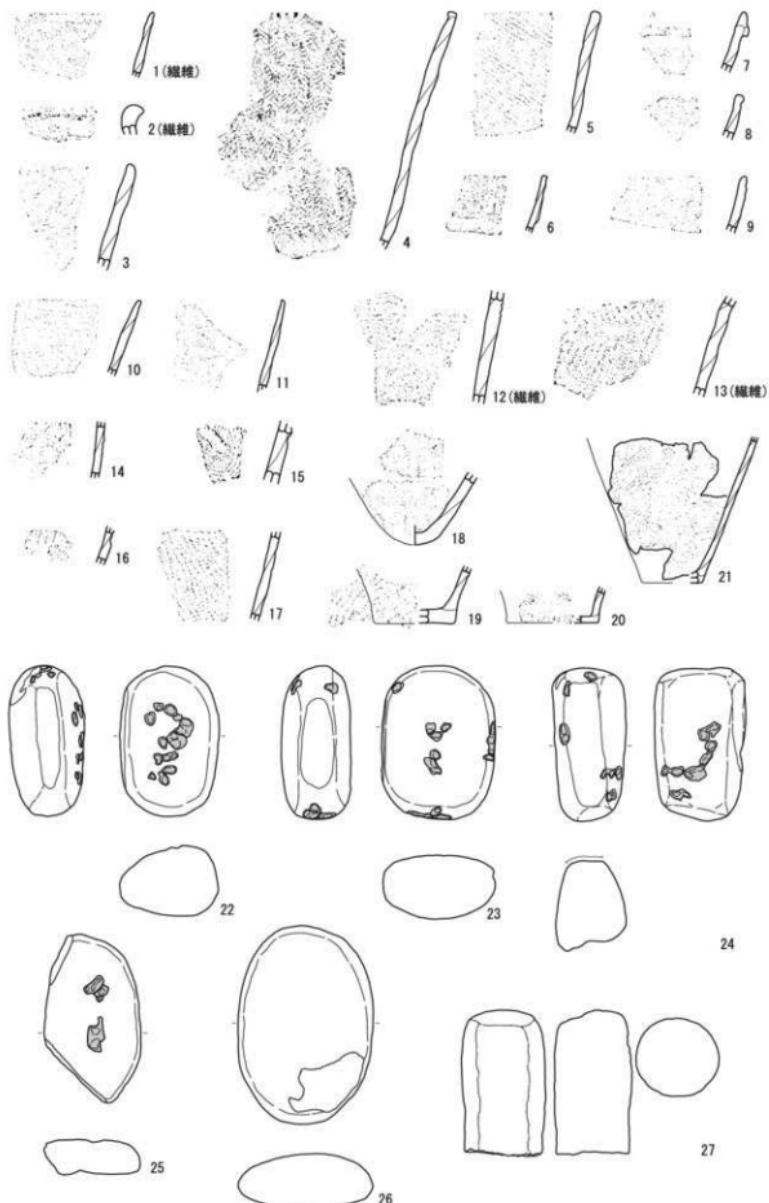
6号住居跡



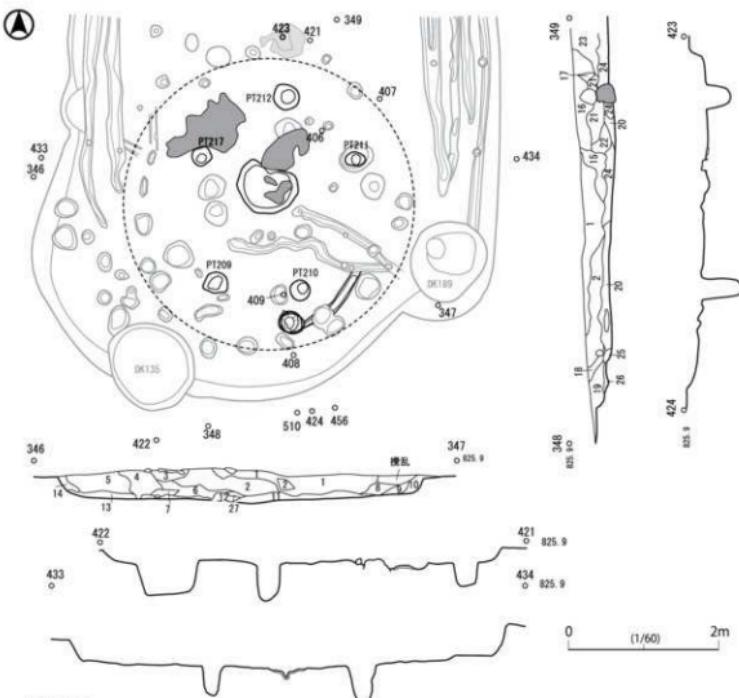
39号・40号住居跡



第29図 6号住居跡出土遺物(3)(1・2は1/4、3・4は1/2)、39号・40号住居跡



第30図 39号住居跡出土遺物 (1/4、但し15は1/2、21は1/6、27は1/10)



13号住居跡

- 1番 10YR2' (2 黒葉) : 在り10YR4' (4 黒)が10%、化粧粒子が15%と感じ。シルト粘土。します。

2番 10YR2' (2 黒葉) : 在り10YR4' (3 黒葉)が10%、化粧粒子が3%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。します。

3番 10YR2' (3 黒葉) : 在り10YR3' (3 黒葉)が15%、化粧粒子が5%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。ややします。

4番 10YR2' (3 黒葉) : 在り10YR3' (3 黒葉)が15%、化粧粒子が5%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。します。

5番 10YR2' (3 黑葉) : 在り10YR3' (3 黑葉)が15%、化粧粒子が5%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。します。

6番 10YR2' (2 黒葉) : 在り10YR2' (2 黒葉)が10%、化粧粒子が2%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。圓くしまる。

7番 10YR2' (2 黒葉) : 在り10YR2' (3 黑葉)が30%、化粧粒子が10%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。ややします。

8番 10YR2' (2 黑葉) : 在り10YR2' (3 黑葉)が7%、化粧粒子が1%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。します。

9番 10YR3' (3 黑葉) : 在り10YR2' (3 黑葉)が20%、化粧粒子が15%と感じ。シルト粘土。します。

10番 10YR4' (4 黑) : 在り10YR5' (1 黑葉)が20%、10YR5' (6 黑葉)が10%、化粧粒子が1%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。ややします。

11番 10YR4' (4 黑) : 在り10YR5' (1 黑葉)が20%、10YR4' (4 黑)が10%、化粧粒子が2%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。します。

12番 10YR2' (3 黑葉) : 在り10YR2' (2 黑葉)が20%、化粧粒子が15%と感じ。シルト粘土。します。

13番 10YR2' (3 黑葉) : 在り10YR4' (4 黑)が15%、化粧粒子が1%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。圓くしまる。

14番 10YR4' (4 黑) : 在り10YR3' (4 黑葉)が10%、化粧粒子が1%と感じ。シルト粘土。します。

15番 10YR2' (3 黑葉) : 在り10YR4' (4 黑)が10%、化粧粒子が7%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。します。

16番 10YR2' (2 黑葉) : 在り10YR4' (3 黑葉)が20%、化粧粒子が5%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。圓くしまる。

17番 10YR2' (2 黑葉) : 在り10YR4' (3 黑葉)が10%、化粧粒子が1%と感じ。シルト粘土。圓くしまる。

18番 10YR2' (2 黑葉) : 在り10YR4' (4 黑)が10%、化粧粒子が5%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。します。

19番 10YR2' (2 黑葉) : 在り10YR4' (4 黑)が10%、化粧粒子が5%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。します。

20番 10YR2' (1 黑葉) : 在り10YR3' (1 黑葉)が30%、10YR3' (2 黑葉)が10%、化粧粒子が3%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。します。

21番 10YR1' (1 黑葉) : 在り10YR3' (1 黑葉)が30%、化粧粒子が5%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。圓くしまる。

22番 10YR2' (1 黑葉) : 在り10YR2' (2 黑葉)が20%、10YR4' (3 [にぶい黒葉])が5%、化粧粒子が15%と感じ。シルト粘土。します。

23番 10YR2' (2 黑葉) : 在り10YR4' (4 黑)が10%、化粧粒子が5%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。圓くしまる。

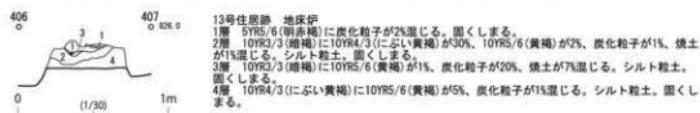
24番 10YR3' (3 黑葉) : 在り10YR4' (4 黑)が10%、化粧粒子が5%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。圓くしまる。

25番 10YR2' (2 黑葉) : 在り10YR3' (3 黑葉)が10%、化粧粒子が5%と感じ。シルト粘土。圓くしまる。

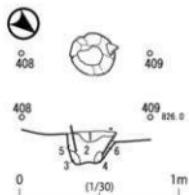
26番 10YR3' (3 黑葉) : 在り10YR3' (3 黑葉)が10%、化粧粒子が5%、鐵素1%が混じる。シルト粘土。圓くしまる。

27番 10YR2' (2 黑葉) : 在り10YR3' (3 黑葉)が10%、化粧粒子が15%と感じ。シルト粘土。ややします。

28番 10YR2' (2 黑葉) : 在り10YR3' (3 黑葉)が10%、生産粒子が1%、鐵素1%が15%になる。シルト粘土。圓くしまる。

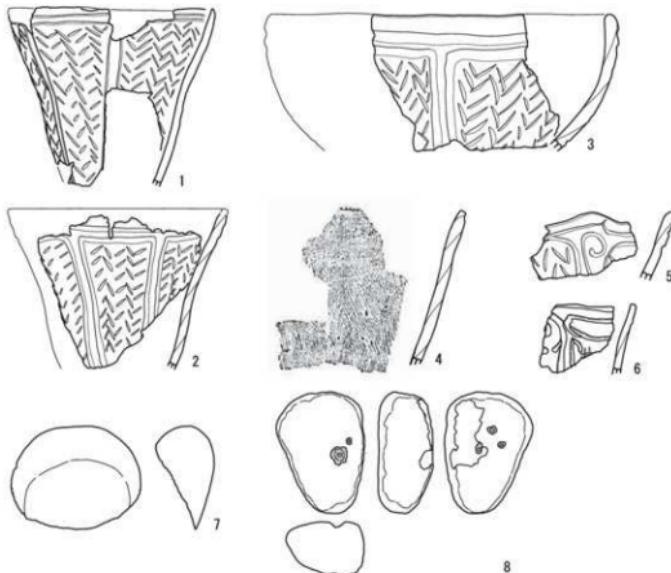
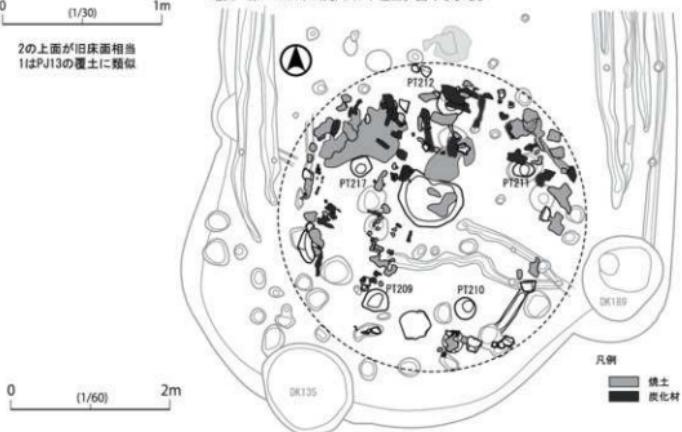


第31図 13号住居跡、13号住居跡炉

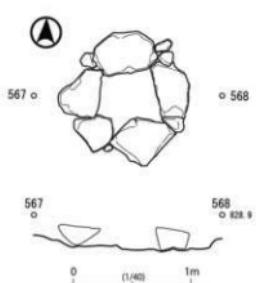
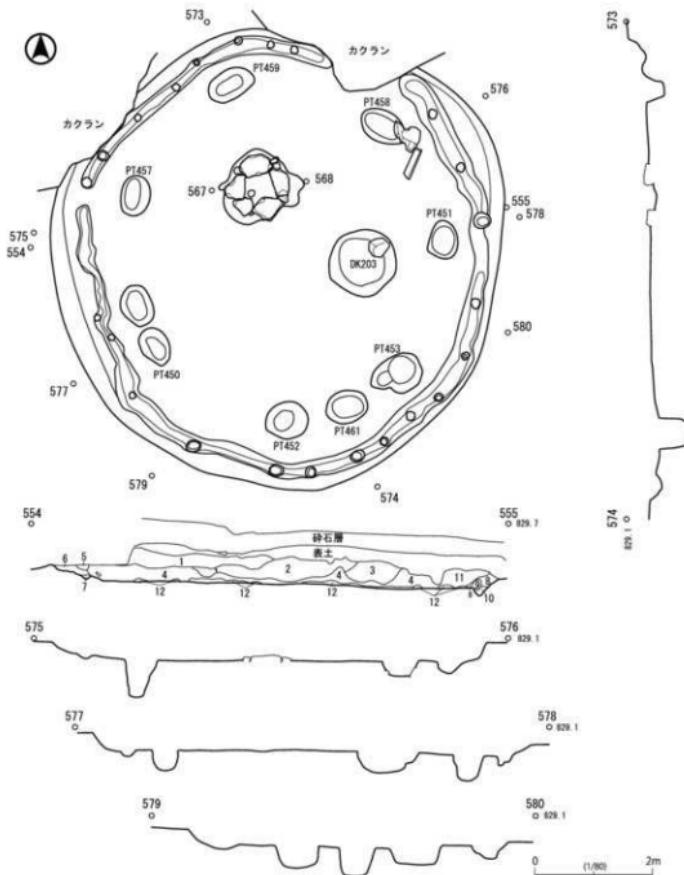


2の上面が旧床面相当
1はPJ13の覆土に類似

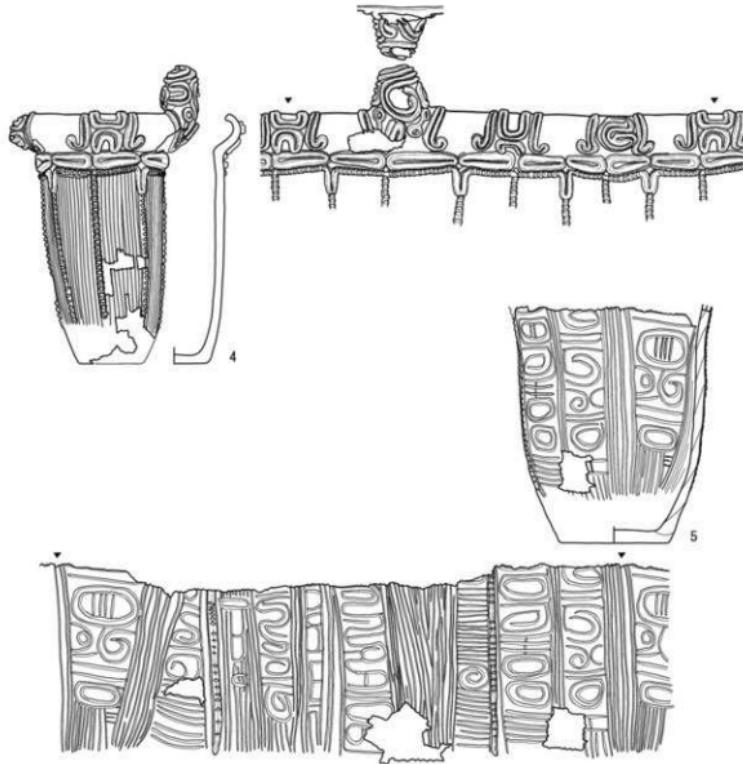
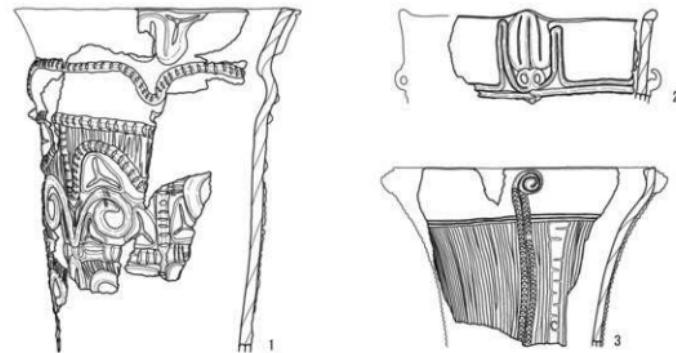
13号住居跡 埋甕
1層 10YR3/3(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化粒子が2%、焼土が2%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層 10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐色)が7% (径5mmブロック)炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
3層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/8(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
カクラン。
4層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%まじる。シルト粒土。しまりなし。
カクラン。
5層 10YR3/3(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
6層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が3%混じる。シルト粒土。しまる。
地山 離 10YR5/8(黄褐色)シルト粒土。固くしまる。
地山 床 10YR4/6(褐)シルト粒土。固くしまる。



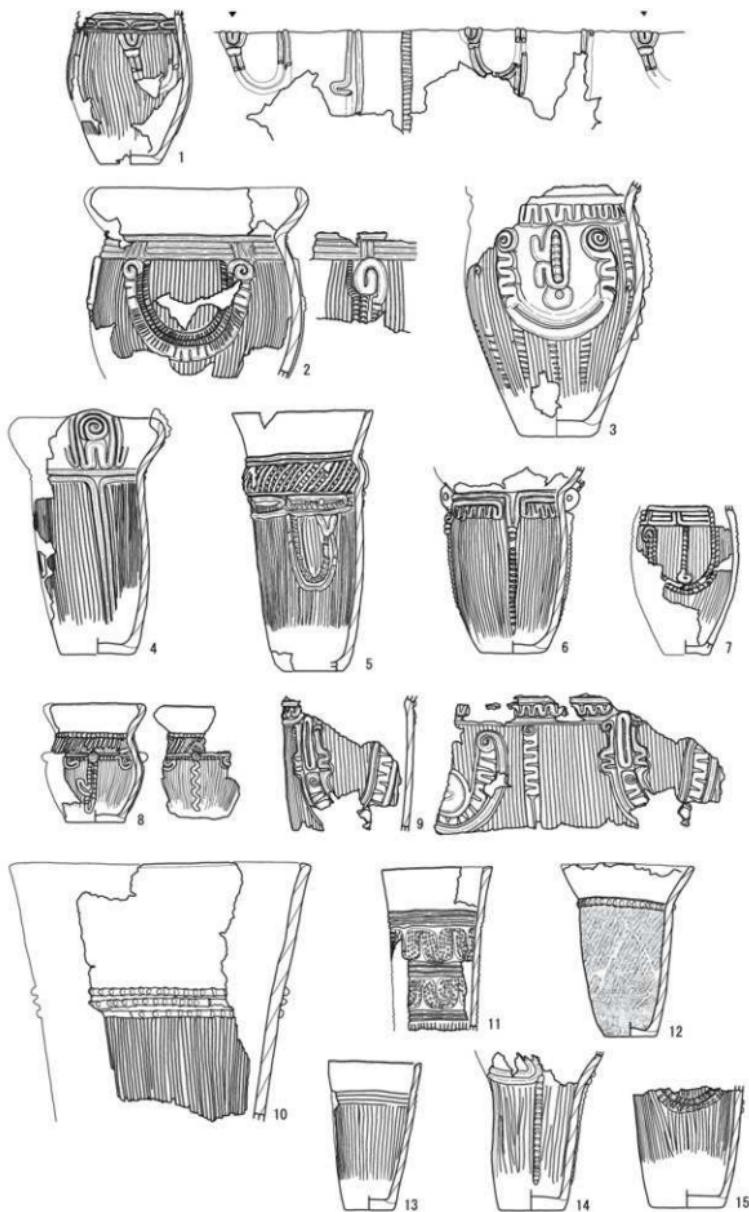
第32図 13号住居跡埋甕、焼土・炭化材検出状況、出土遺物 (1/4、但し1・2は
1/6、8は1/8)



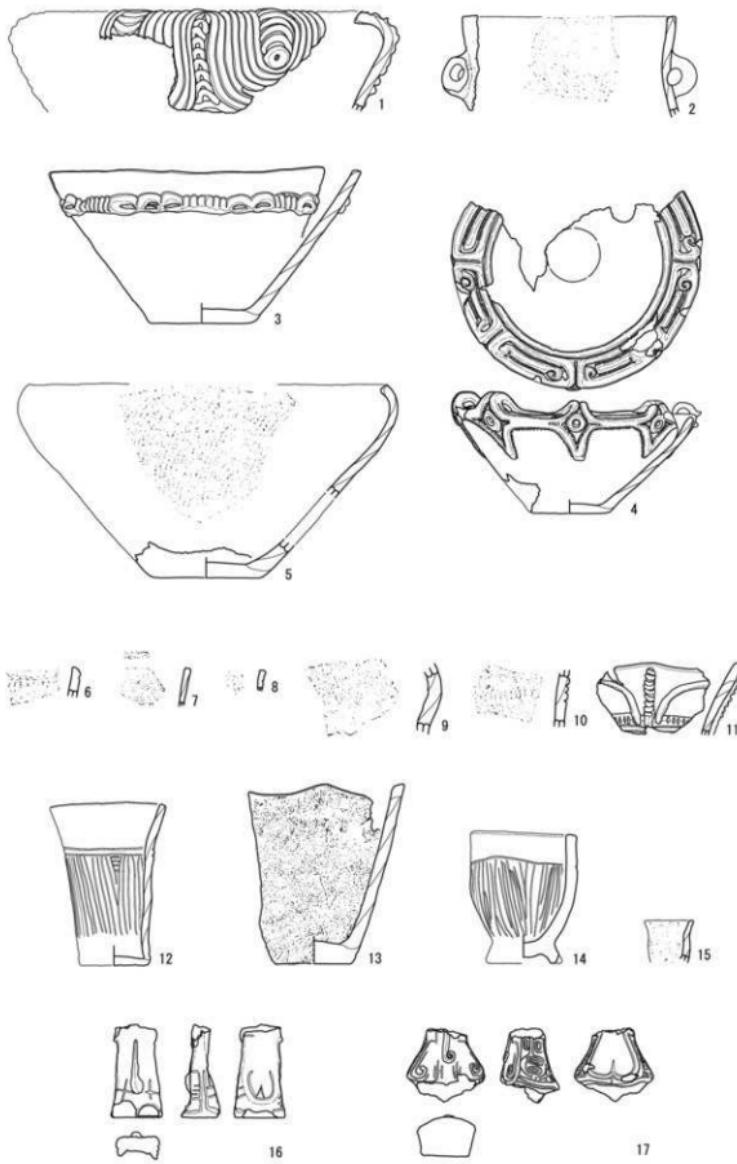
第33図 9号住居跡、9号住居跡炉



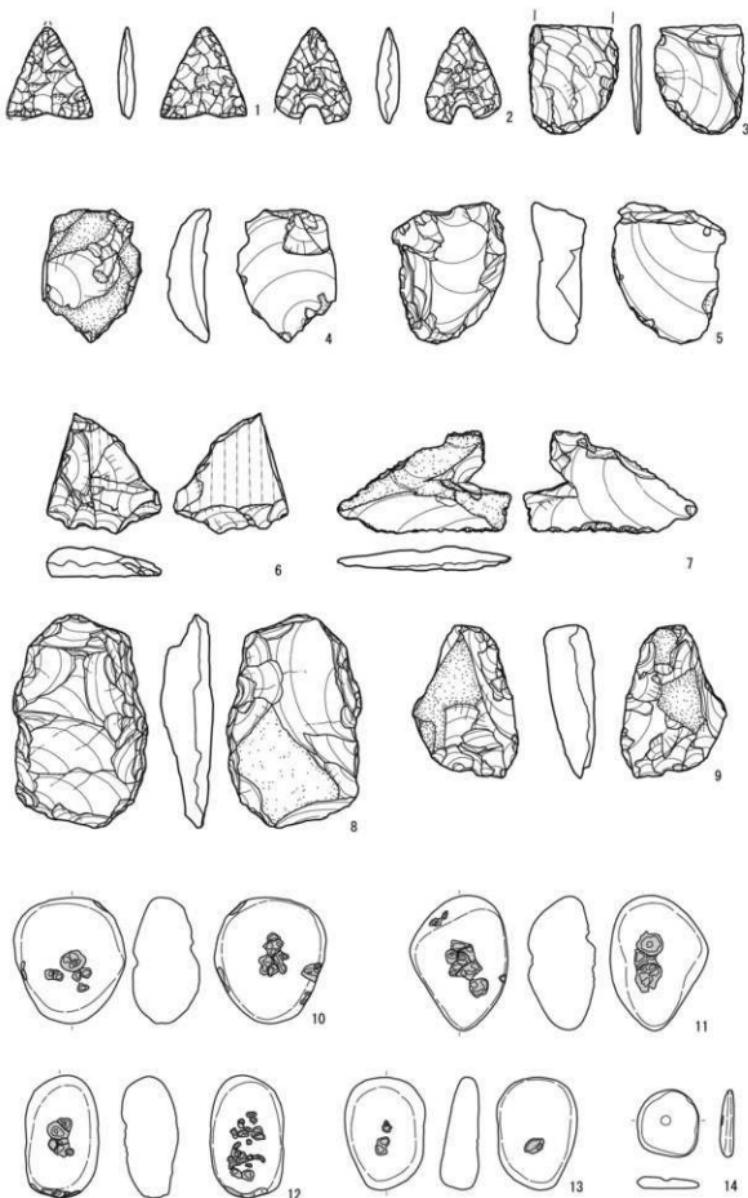
第34図 9号住居跡出土遺物(1)(1/6)



第35図 9号住居跡出土遺物(2)(1/6)

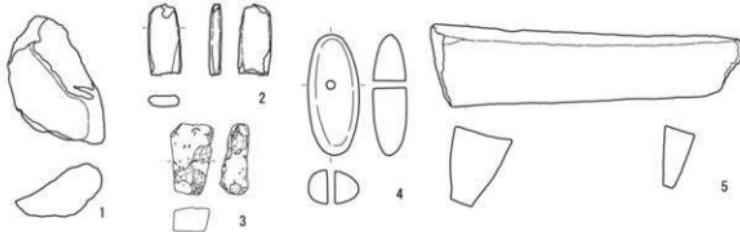


第36図 9号住居跡出土遺物(3) (1/4、但し1~5は1/6)

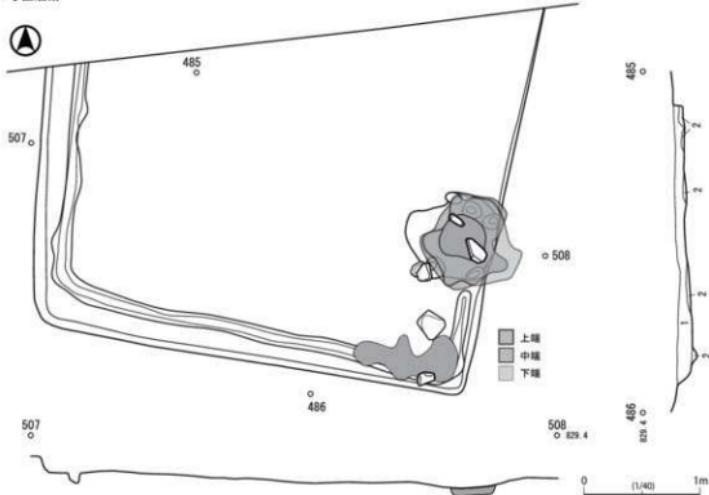


第37図 9号住居跡出土遺物(4)(1・2・4・5・9は1/1、3・6～8は1/2、10～14は1/4)

9号住居跡

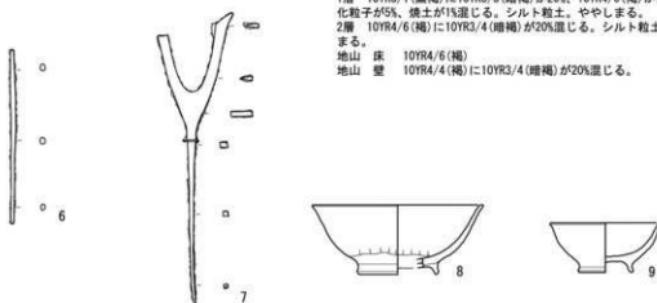


10号住居跡

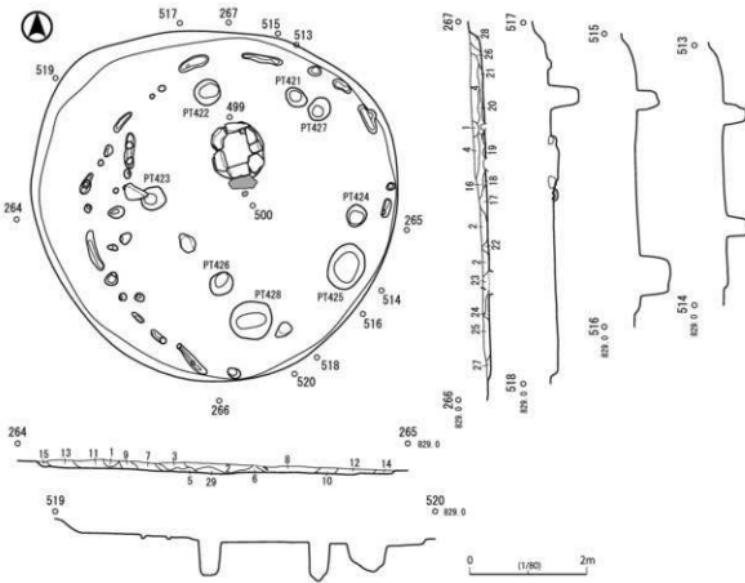


10号住居跡

1層 10YR3/1(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が20%、10YR4/6(褐)が7%、炭化粒子が5%、鐵土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層 10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐色)が20%混じる。シルト粒土。し
まる。
地山 床 10YR4/6(褐)
地山 壁 10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐色)が20%混じる。

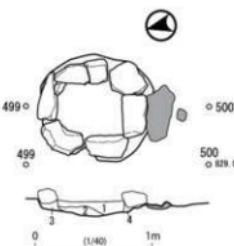


第38図 9号住居跡出土遺物 (5) (1/4、但し 1・5は1/8)、10号住居跡、出土遺物 (1/4)

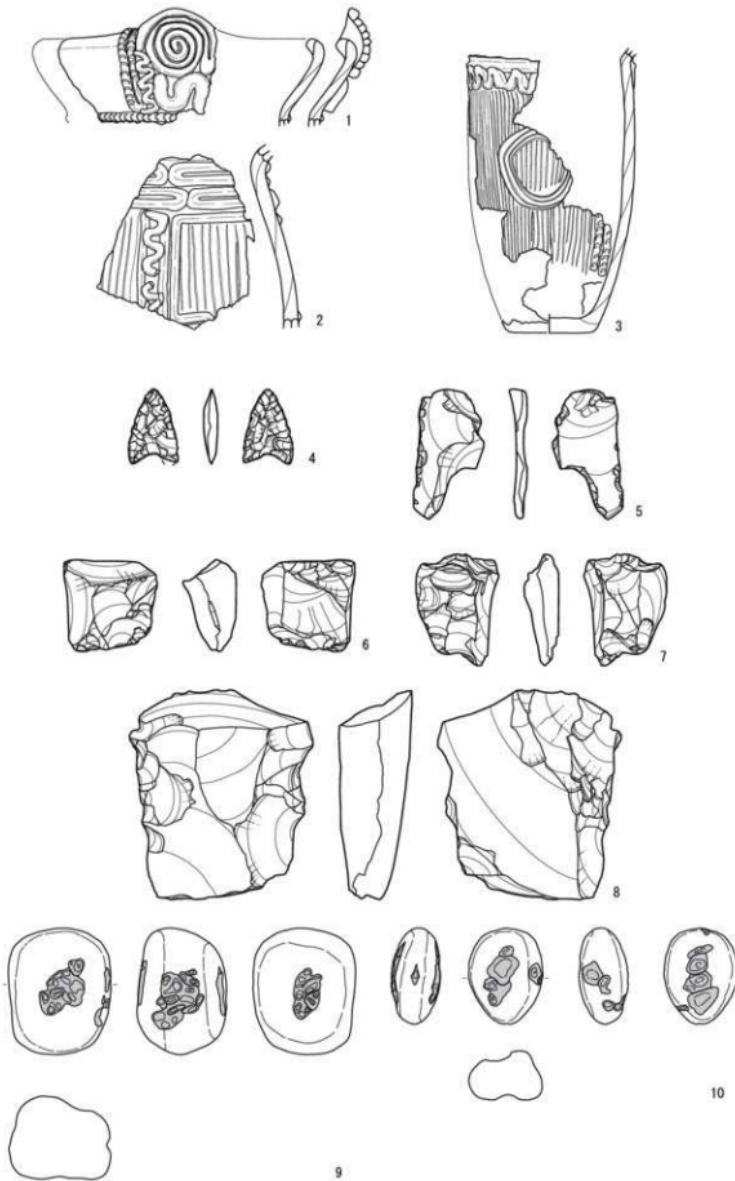


12号住居跡

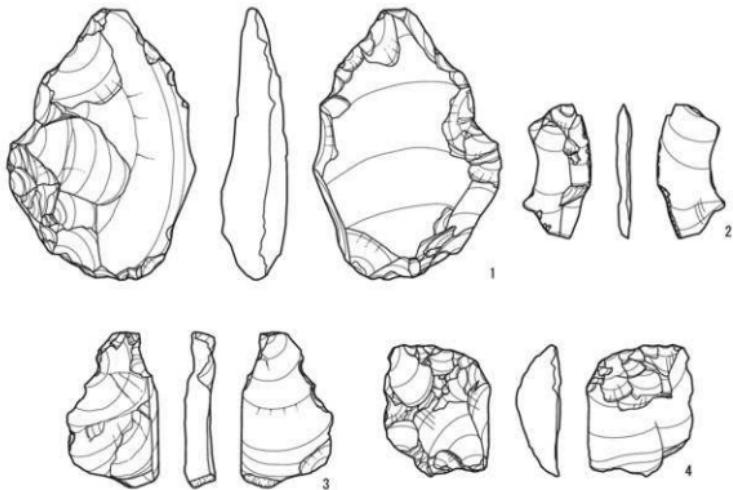
- 1層 10R2/3(黒褐色)に10R5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。(いも穴)
- 2層 10R2/3(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が5%混じる。シルト粘土。しまる。
- 3層 10R2/4(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 4層 10R2/4(暗褐色)に10R5/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
- 5層 10R4/6(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
- 6層 10R4/6(暗褐色)に10R5/8(明黄褐色)が5%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 7層 10R4/4(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が5%混じる。シルト粘土。しまる。
- 8層 10R4/4(暗褐色)に5mm大的のブロック状の10R5/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
- 9層 10R4/6(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が5%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 10層 10R4/4(暗褐色)に10R5/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
- 11層 10R4/4(暗褐色)に10R5/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
- 12層 10R4/4(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
- 13層 10R4/5(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 14層 10R4/5(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が15%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 15層 10R4/5(暗褐色)に10R5/6(明黄褐色)が10%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 16層 10R3/3(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
- 17層 10R4/4(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が10%混じる。シルト粘土。しまる。
- 18層 10R4/4(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が10%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 19層 10R4/4(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が10%、炭化粒子が1%、燒土が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 20層 10R3/4(暗褐色)に10R5/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
- 21層 10R4/4(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
- 22層 10R4/4(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 23層 10R3/4(暗褐色)に10R5/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 24層 10R4/6(暗褐色)に10R5/6(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
- 25層 10R4/4(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 26層 10R4/6(暗褐色)に10R5/6(明黄褐色)が10%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 27層 10R3/4(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が10%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 28層 10R3/3(暗褐色)に10R5/6(明黄褐色)が10%混じる。シルト粘土。しまりなし。
- 29層 10R3/3(暗褐色)に10R5/6(黄褐色)が10%混じる。シルト粘土。しまる。
- 地山 燐 10R5/8(黄褐色)に10R3/4(暗褐色)が5%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 地山 塵 10R5/8(黄褐色)。シルト粘土。固くしまる。
- 地山 底 10R5/6(黄褐色)。固くしまる。
- 地山 壁 10R5/6(黄褐色)に10R4/4(暗褐色)が5%混じる。シルト粘土。しまる。



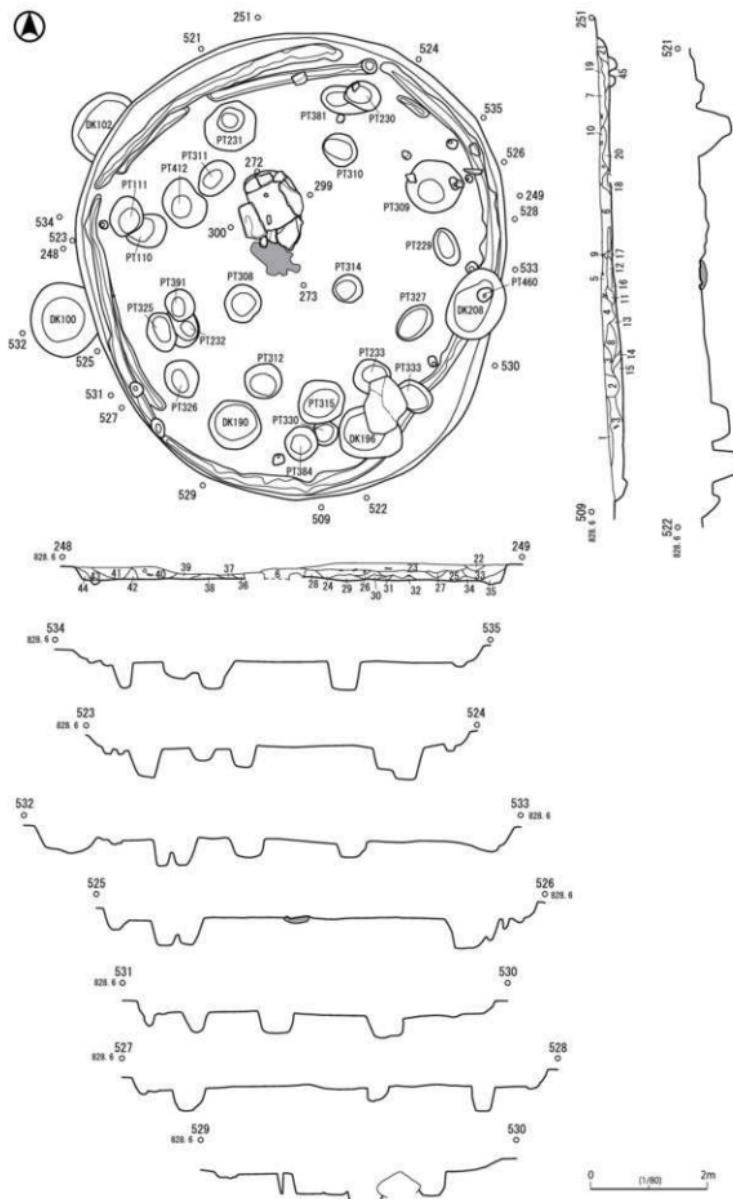
第39図 12号住居跡、12号住居跡炉



第40図 12号住居跡出土遺物 (1) (1/4、但し4~8は1/1)



第 41 図 12 号住居跡出土遺物 (2) (1/1)



第42図 17号住居跡

17号街尾站

17号住居跡 石器

- 1層 10YR2/3(暗緑)に10YR4/4(黒)が20%、10YR5/6(黄緑)
が1%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。やわ
します。

2層 10YR4/3(にふい黄緑)に10YR3/3(暗緑)が7%、
10YR5/6(黄緑)が1%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シ
ルト粒土。しまる。

3層 10YR4/3(にふい黄緑)に10YR3/3(暗緑)が15%、
10YR5/6(黄緑)が1%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シ
ルト粒土。しまる。

4層 10YR4/3(にふい黄緑)に10YR3/3(暗緑)が30%、
10YR5/6(黄緑)が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。やわ
します。

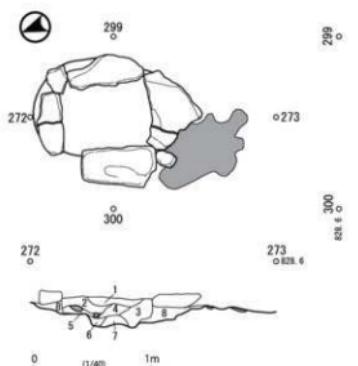
5層 10YR5/6(黄緑)に焼土5YR4/8(赤緑)が20%混じる。シ
ルト粒土。固くしまる。

6層 10YR4/3(にふい黄緑)に10YR5/6(黄緑)が1%、焼土が
1%混じる。シルト粒土。やわします。

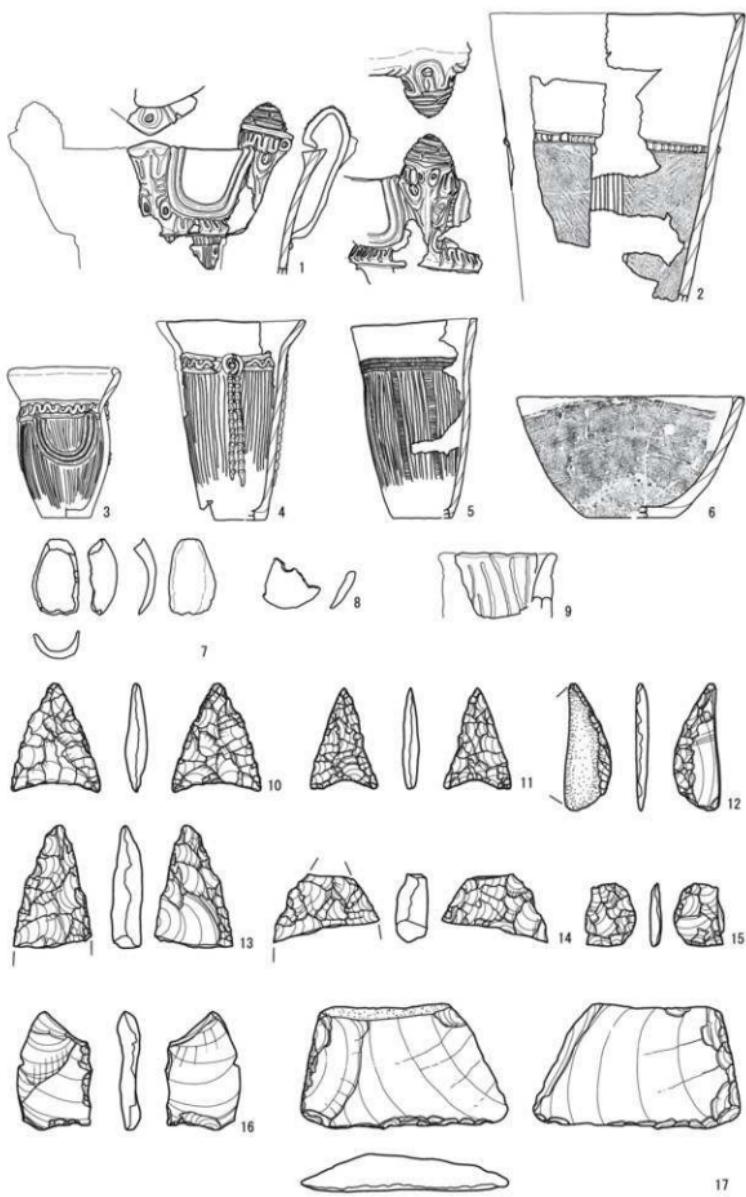
7層 10YR5/4(にふい黄緑)にブロックを含む10YR5/6(黄
緑)が15%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。

地山 堅 10YR5/6(黄緑)。シルト粒土。固くしまる。

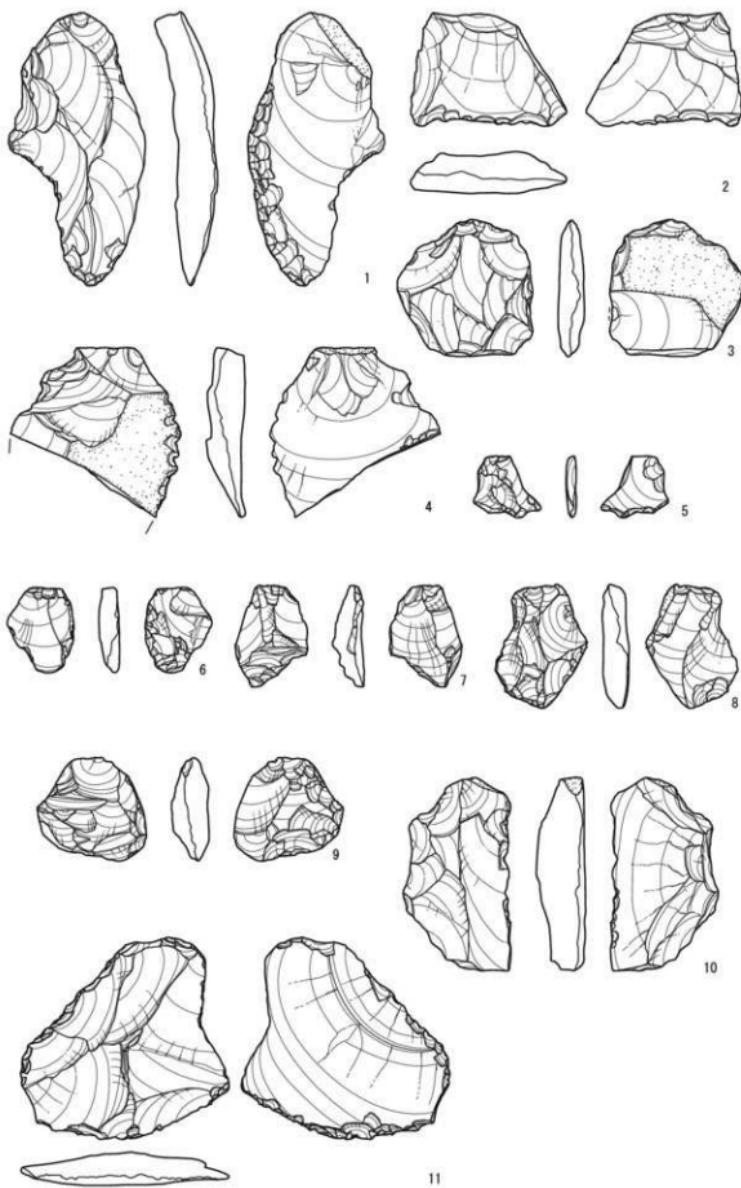
地山 地上 10YR5/6(黄緑)。シルト粒土。固くしまる。



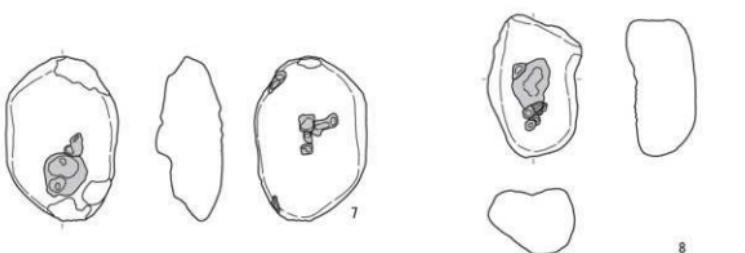
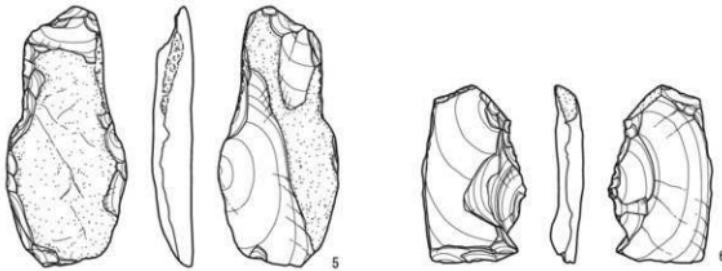
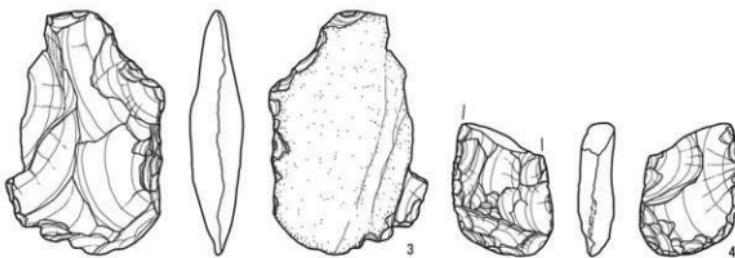
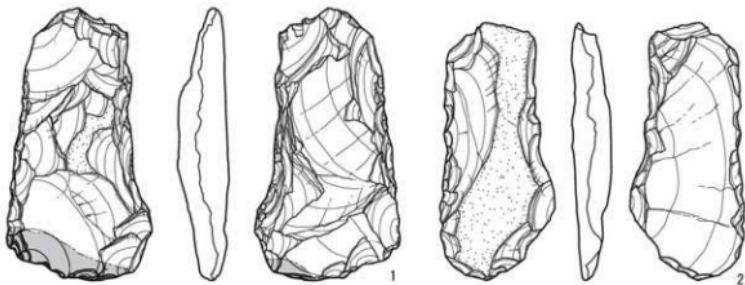
第43図 17号住居跡炉



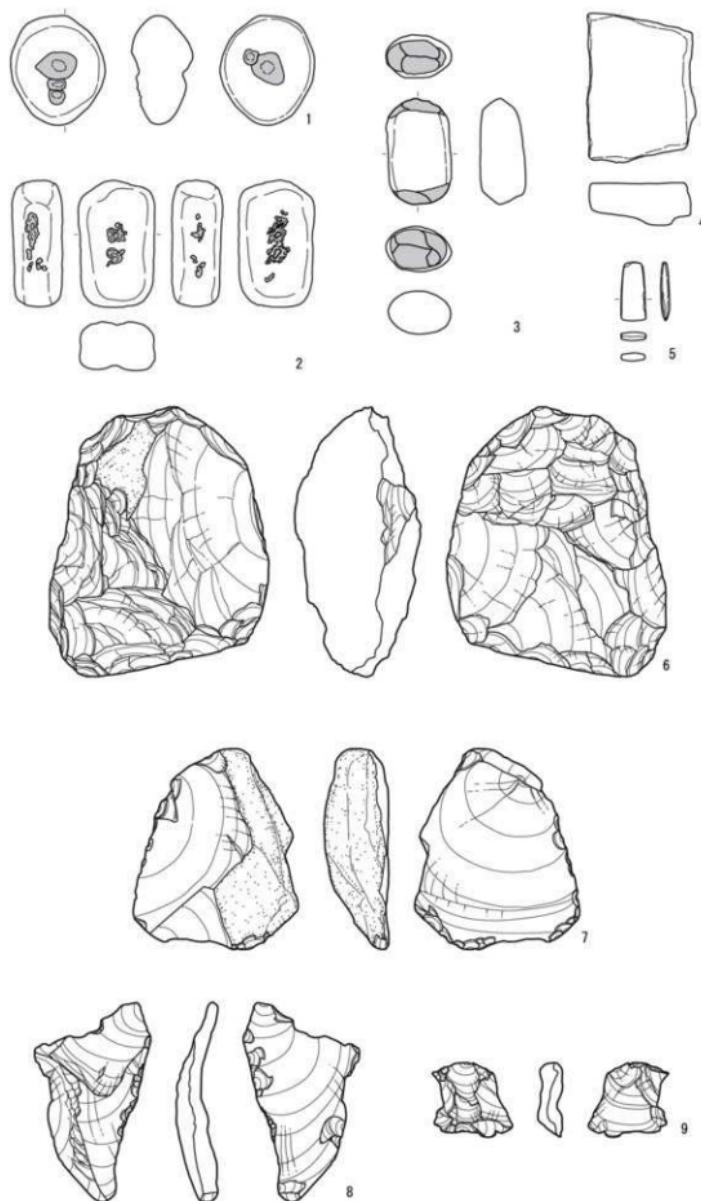
第44図 17号住居跡出土遺物 (1) (1~6は1/6、7・8は1/4、9・17は1/2、10~16は1/1)



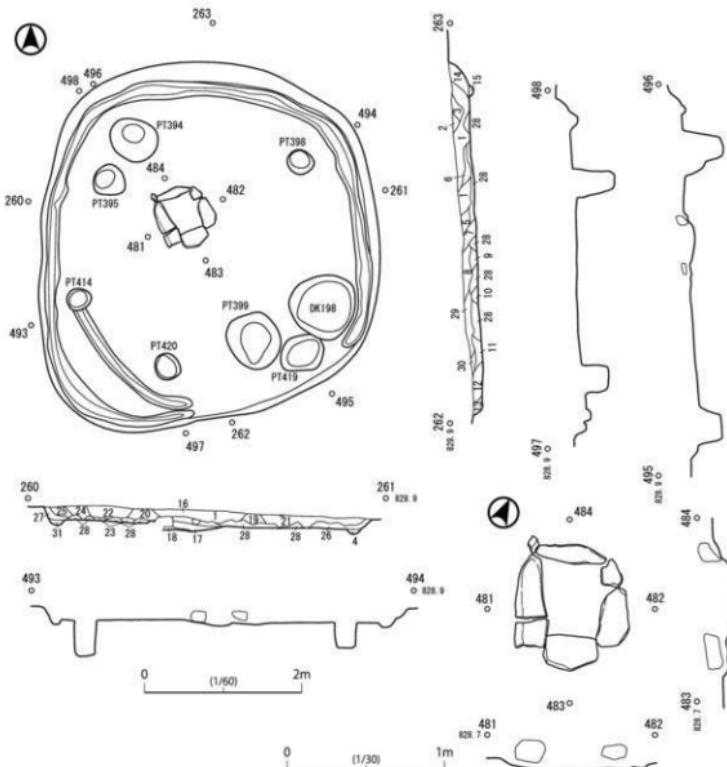
第45図 17号住居跡出土遺物(2)(1/1、但し2・3・10・11は1/2)



第46図 17号住居跡出土遺物(3)(1/2、但し7・8は1/4)



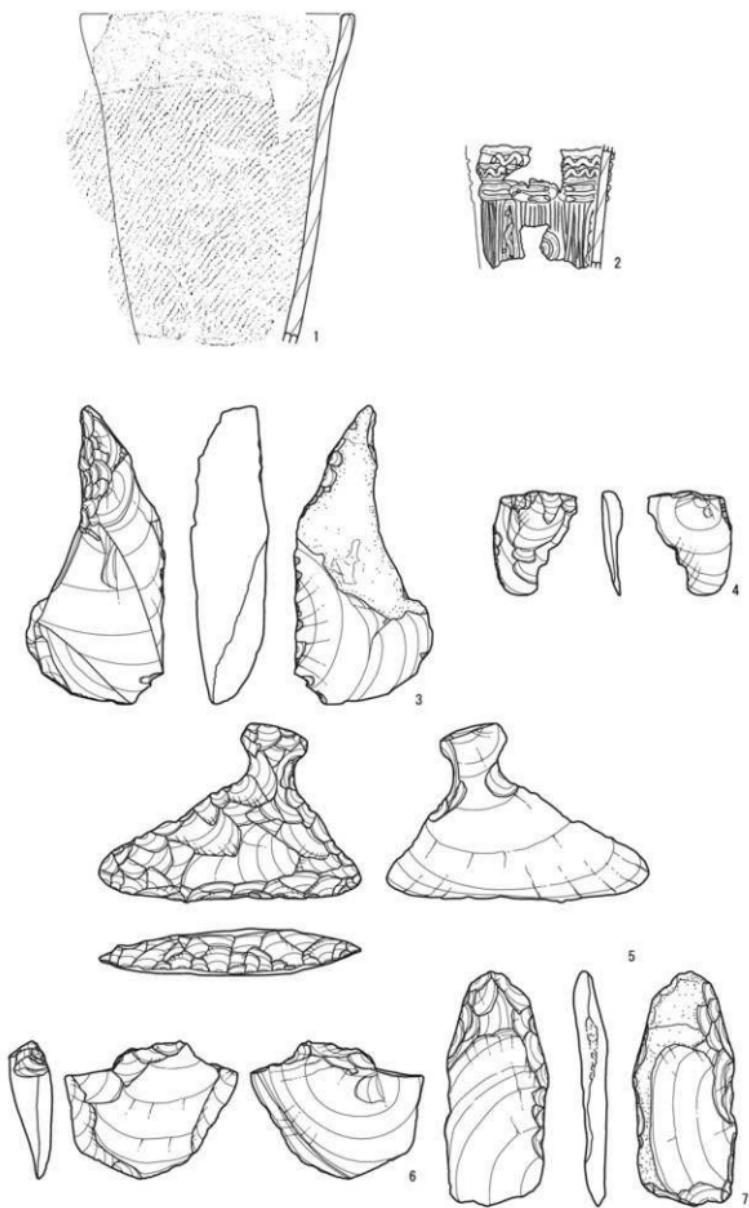
第47図 17号住居跡出土遺物 (4) (1/4、但し4は1/8、6・7は1/2、8・9は1/1)



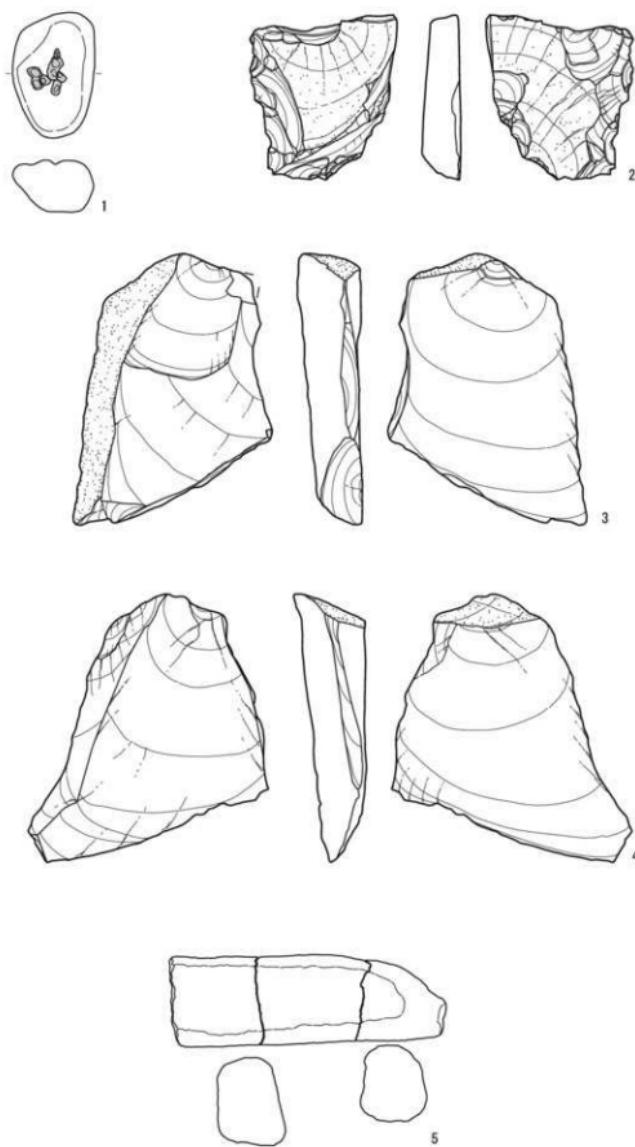
18号住居跡

- 1層 10YR4/4(暗緑) シルト粒土に10YR4/4(暗緑) シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
 - 2層 10YR2/3(暗緑) シルト粒土に10YR4/4(暗緑) シルト粒土が15%混じる。固くしまる。
 - 3層 10YR2/4(暗緑) シルト粒土に10YR4/4(暗緑) シルト粒土が50%、炭化粒子3%混じる。固くしまる。
 - 4層 10YR2/4(暗緑) [にいし(黄緑)] シルト粒土に10YR4/4(暗緑) シルト粒土が(50%)、炭化粒子1%混じる。やわらかくしまる。
 - 5層 10YR2/4(暗緑) シルト粒土に10YR4/4(暗緑) シルト粒土が15%、炭化粒子1%混じる。
 - 6層 10YR2/4(暗緑) シルト粒土に10YR4/6(暗緑) シルト粒土が15%、炭化粒子1%混じる。
 - 7層 10YR2/3(基岩) シルト粒土に10YR2/4(暗緑) シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。やわらかくしまる。
 - 8層 10YR2/4(暗緑) シルト粒土に10YR6/6(明黄緑) シルト粒土が15%、炭化粒子1%混じる。
 - 9層 10YR4/4(暗緑) シルト粒土に10YR6/4(にいし(黄緑)) シルト粒土が30%、10YR6/6(明黄緑) シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
 - 10層 10YR4/3(にいし(黄緑)) シルト粒土に10YR6/4(にいし(黄緑)) シルト粒土が40%混じる。やわらかくしまる。
 - 11層 10YR4/6(暗緑) シルト粒土に10YR4/4(暗緑) シルト粒土が40%、炭化粒子3%混じる。やわらかくしまる。
 - 12層 10YR4/6(暗緑) シルト粒土に10YR4/4(暗緑) シルト粒土が40%、炭化粒子3%混じる。しまりなし。
 - 13層 10YR4/6(暗緑) シルト粒土に10YR4/4(にいし(黄緑)) シルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。やわらかくしまる。
 - 14層 10YR4/4(暗緑) シルト粒土に10YR5/4(にいし(黄緑)) シルト粒土が10%、10YR6/6(明黄緑) シルト粒土が1%、炭化粒子3%混じる。固くしまる。
 - 15層 10YR4/4(暗緑) シルト粒土に10YR3/3(暗緑) シルト粒土50%、炭化粒子1%混じる。やわらかくしまる。
 - 16層 10YR3/4(暗緑) シルト粒土に10YR5/6(黄緑) シルト粒土51%、炭化粒子3%混じる。しまる。
 - 17層 10YR4/4(暗緑) シルト粒土に10YR5/6(黄緑) シルト粒土51%、炭化粒子2%混じる。しまる。
 - 18層 10YR5/6(黄緑) シルト粒土に10YR4/4(暗緑) シルト粒土が7%、炭化粒子2%混じる。しまる。
 - 19層 10YR3/4(暗緑) シルト粒土に10YR4/4(にいし(黄緑)) シルト粒土が15%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
 - 20層 10YR3/4(暗緑) シルト粒土に10YR4/4(暗緑) シルト粒土が40%、炭化粒子3%混じる。しまる。
 - 21層 10YR4/4(暗緑) シルト粒土に10YR4/4(暗緑) シルト粒土が40%、炭化粒子3%混じる。しまる。
 - 22層 10YR2/4(暗緑) シルト粒土に10YR4/4(暗緑) シルト粒土が51%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 23層 10YR4/4(暗緑) シルト粒土に10YR3/4(暗緑) シルト粒土が40%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 24層 10YR4/4(暗緑) シルト粒土に10YR4/6(暗緑) シルト粒土が40%、炭化粒子5%混じる。固くしまる。
 - 25層 10YR4/6(暗緑) シルト粒土が5%、炭化粒子3%混じる。固くしまる。
 - 26層 10YR4/6(暗緑) シルト粒土に10YR4/4(暗緑) シルト粒土が3%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
 - 27層 10YR6/6(明黄緑) シルト粒土に10YR5/4(にいし(黄緑)) シルト粒土が10%、炭化粒子3%混じる。固くしまる。
 - 28層 10YR5/6(暗緑) シルト粒土に10YR5/4(にいし(黄緑)) シルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 29層 10YR4/4(暗緑) シルト粒土に10YR5/4(にいし(黄緑)) シルト粒土が30%、炭化粒子3%混じる。しまる。
 - 30層 10YR4/4(暗緑) シルト粒土に10YR5/4(にいし(黄緑)) シルト粒土が30%、炭化粒子3%混じる。しまる。
 - 31層 10YR4/4(暗緑) シルト粒土に10YR3/3(暗緑) シルト粒土が50%混じる。しまる。
- 地山**
壁 10YR4/6(暗緑) シルト粒土。固くしまる。
床 10YR5/6(黄緑) シルト粒土。固くしまる。

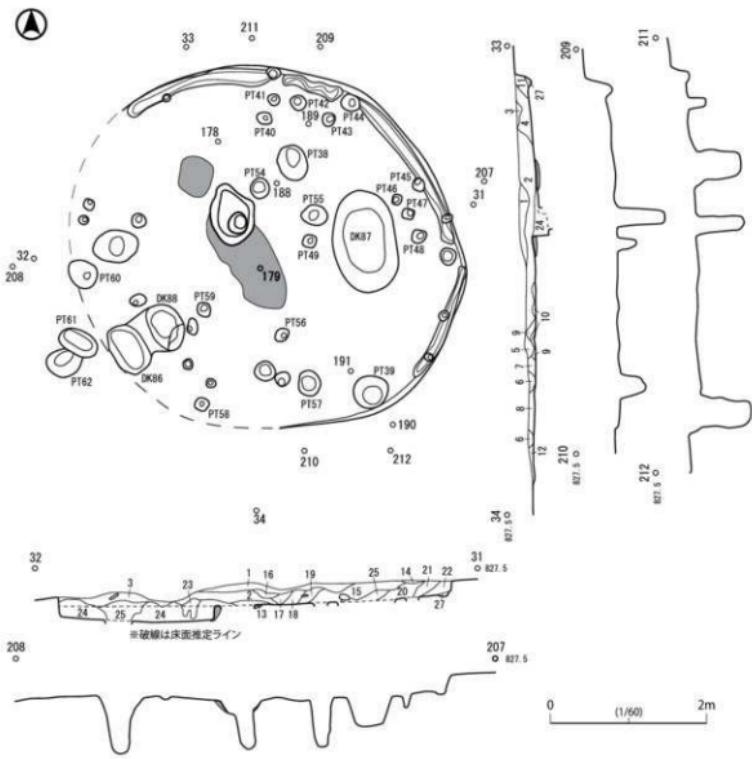
第 48 図 18号住居跡、18号住居跡跡炉



第49図 18号住居跡出土遺物 (1) (1・2は1/4、3～5は1/1、6・7は1/2)



第50図 18号住居跡出土遺物(2)(1は1/4、2は1/1、3・4は1/2、5は1/10)



2号住居底層

1層 10YR3/3(暗緑)に10YR4/6(暗緑)が1%、鐵土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

2層 10YR3/3(暗緑)に10YR4/6(暗緑)が1%、鐵土が1%、10YR3/3(暗緑)が2%、鐵土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

3層 10YR4/6(暗緑)に10YR4/6(暗緑)が1%、鐵土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

4層 10YR4/6(暗緑)に10YR4/6(暗緑)が1%、鐵土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

5層 10YR4/3(暗緑)に10YR4/6(暗緑)が5%、鐵土が1%混じる。シルト粒土。しまる。

6層 10YR4/4(暗)に10YR6/6(黄緑)が30%混じる。シルト粒土。しまる。

7層 10YR5/6(黄緑) シルト粒土。しまる。

8層 10YR5/6(黄緑)に10YR4/6(暗)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。

9層 10YR5/6(黄緑)に10YR4/6(暗)が1%、鐵土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。

10層 10YR5/6(黄緑)に10YR4/6(暗)が1%、鐵土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。

11層 10YR4/6(暗)に10YR4/4(暗)が1%混じる。シルト粒土。しまる。

12層 10YR5/6(黄緑)に10YR4/6(暗)が5%、鐵土が1%、炭化粒子が1%混じる。固くしまる。

13層 10YR5/8(黄緑)に10YR2/3(黒緑)が30%、鐵土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

14層 10YR5/6(黄緑)に10YR4/4(暗)が5%、鐵化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

15層 10YR4/4(暗)に10YR3/3(暗緑)が20%、10YR6/6(黄緑)が5%，炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。しまる。

16層 10YR3/3(暗緑)に10YR4/6(暗)が7%、鐵土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

17層 10YR3/3(暗緑)に10YR4/6(暗)が7%、鐵土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

18層 10YR3/3(暗緑)に10YR4/6(暗)が7%、鐵土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

19層 10YR4/4(暗)に10YR6/6(黄緑)が25%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。しまる。

20層 10YR4/4(暗)に~2mmの大さのブロック状の10YR6/6(黄緑)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

21層 10YR5/6(黄緑)に10YR4/6(暗)が5%，鐵土が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。

22層 10YR5/8(黄緑) シルト粒土。固くしまる。

23層 10YR3/3(暗緑)に10YR5/8(黄緑)が1%混じる。シルト粒土。しまる。

24層 10YR5/8(黄緑)に10YR5/6(黄)の粘土が5%混じる。固くしまる。

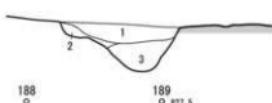
25層 10YR5/8(黄緑)に10YR4/4(暗)の10YR6/6(黄緑)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

26層 10YR4/4(暗)に10YR4/4(暗)の10YR6/6(黄緑)が5%混じる。シルト粒土。しまる。

27層 10YR4/4(暗)に10YR5/6(黄緑)が5%混じる。シルト粒土。しまる。

地盤
10YR5/8(黄緑) シルト粒土。固くしまる。
10YR5/8(黄緑) シルト粒土。固くしまる。

第51図 20号住居跡

178
o179
o 827.5

20号住居跡 地庄炉
1層 10YR2/2(黒褐色)に10YR6/8(明黄褐色)が3%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。
シルト粒土、しまる。
2層 10YR2/2(黒褐色)に5~10mm大のブロック状の10YR6/8(明黄褐色)が5%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土、しまる。
3層 10YR2/2(黒褐色)に10YR5/8(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
地山 10YR5/8(黄褐色)。シルト粒土、固くしまる。

38号ピット

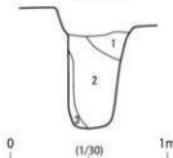


38号ピット (20号住居跡柱穴)

1層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が1%混じる。シルト粒土、しまる。
2層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。
3層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。
4層 10YR3/3(暗褐色)にブロックを含む10YR5/6(黄褐色)が5%混じる。シルト粒土、しまる。
地山 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土、固くしまる。

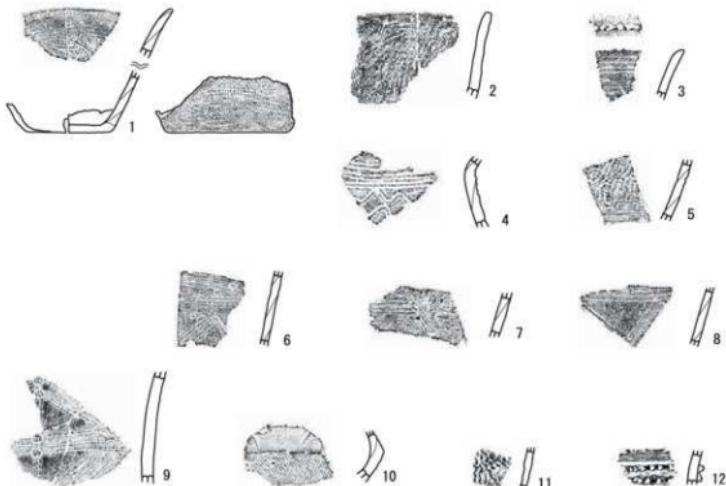
190
o191
o 827.5

39号ピット



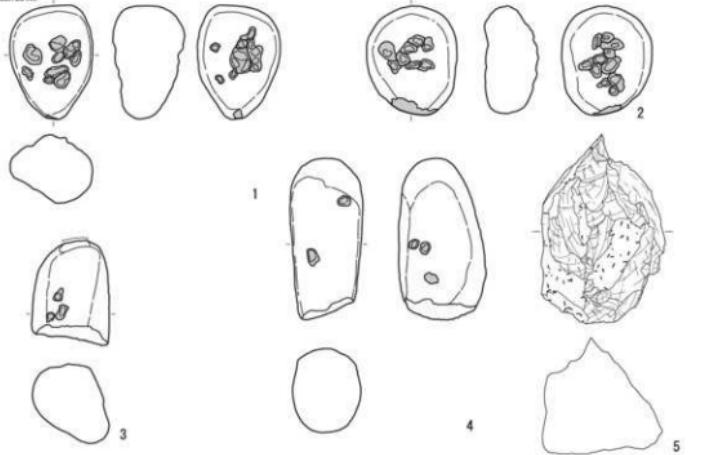
39号ピット (20号住居跡柱穴)

1層 10YR4/3(にぶい黄褐色)に10YR3/3(暗褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、しまる。
2層 10YR4/3(にぶい黄褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
3層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が30%、10YR5/6(黄褐色)が15%混じる。シルト粒土、しまる。
地山 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土、固くしまる。
地山 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土、固くしまる。

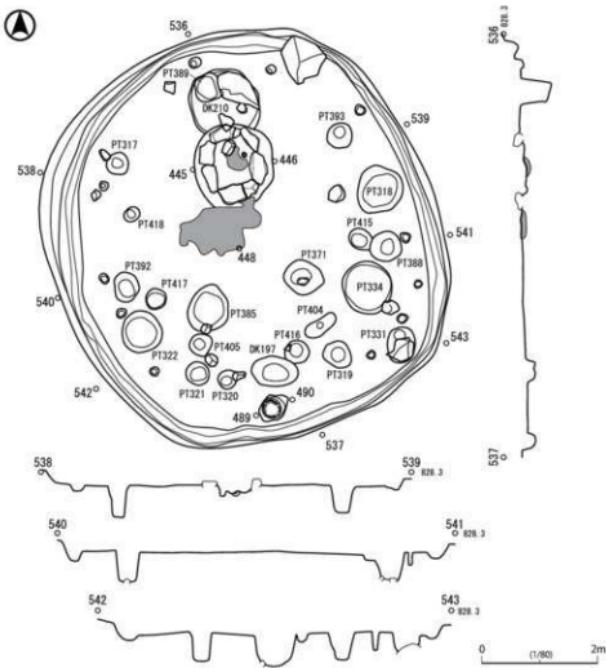


第52図 20号住居跡炉、柱穴、出土遺物 (1) (1/4)

20号住居跡



21号住居跡

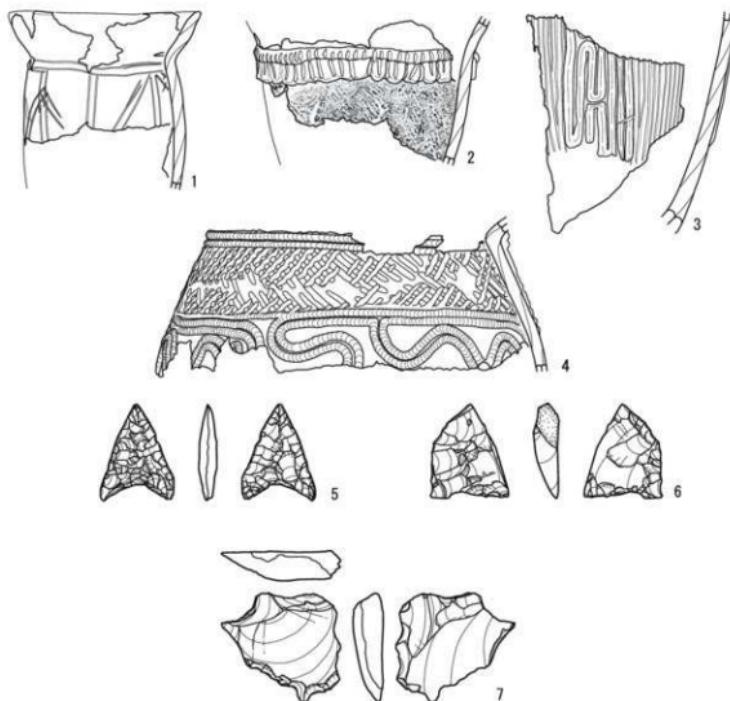


第53図 20号住居跡出土遺物(2)(1/4、但し5は1/2)、21号住居跡

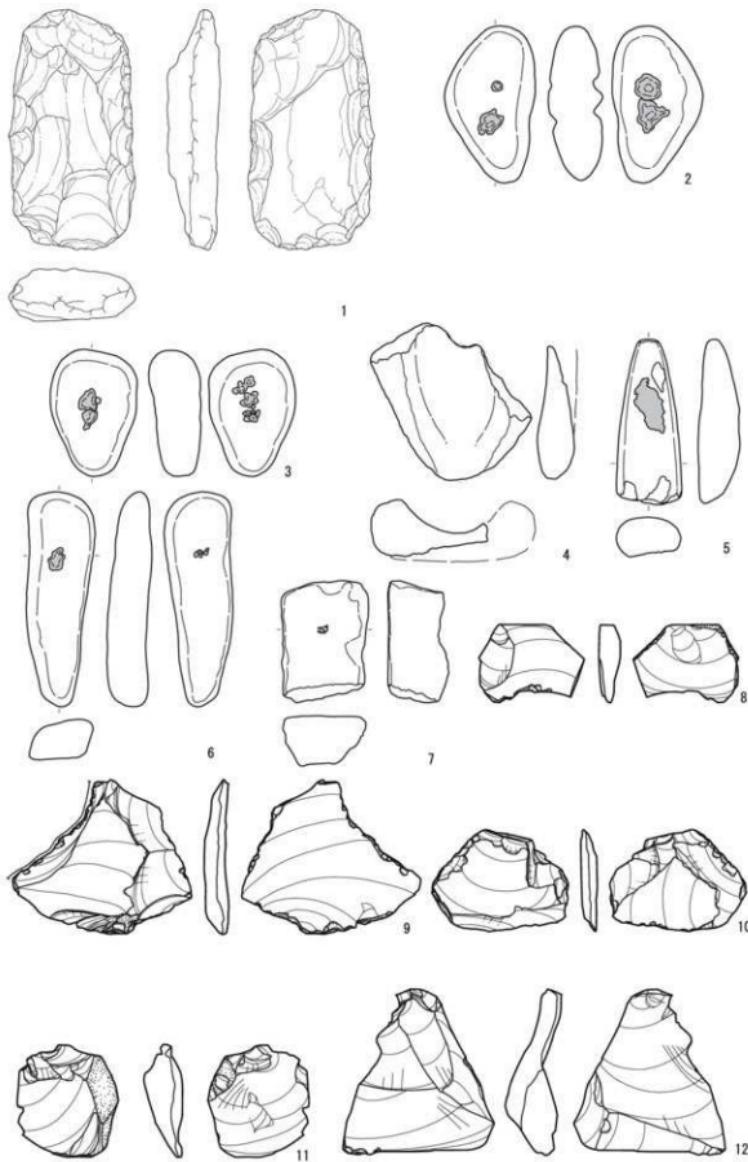


21号住居跡 石圓炉
1層 10YR5/4(暗褐色)に10YR2/2(黒褐色)が10%、10YR5/6(黃褐色)が1%、燒土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
地山 床 10YR3/4(暗褐色)。固くしまる。

21号住居跡 埋甕
1層 10YR2/2(黒褐色)に10YR2/1(黒)が30%、10YR4/6(褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
2層 10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐)が20%、10YR2/1(黒)が5%、焼土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
3層 10YR2/3(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が30%、10YR4/6(褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
4層 10YR2/4(暗褐色)に10YR4/6(褐)が40%、10YR2/2(黒褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
地山 壁 10YR2/2(黒褐色)に10YR4/6(褐)が40%混じる。固くしまる。

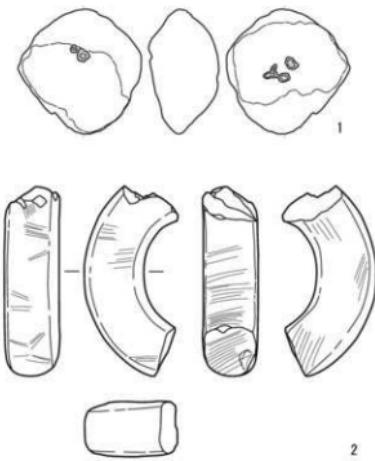


第54図 21号住居跡炉、埋甕、出土遺物 (1)(1/4、但し5・6は1/1、7は1/2)

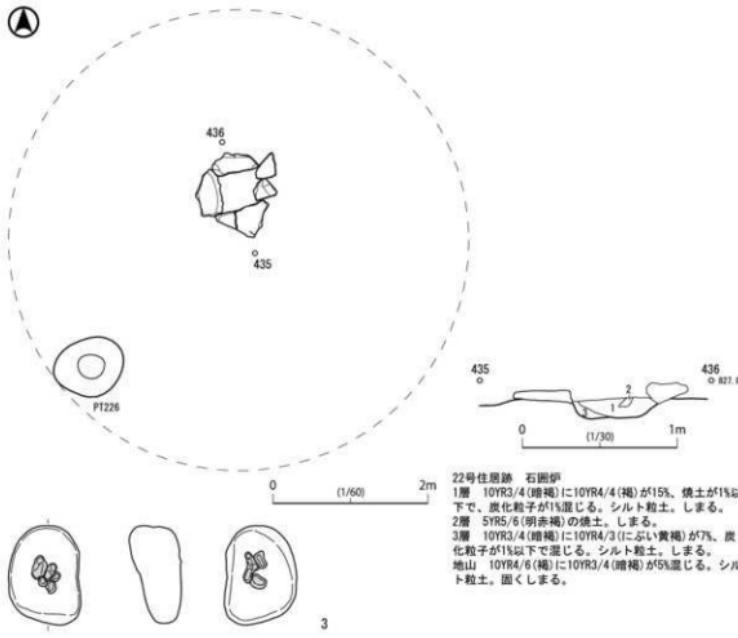


第 55 図 21 号住居跡出土遺物 (2) (1・9・10 は 1/2、2・3・5～7 は 1/4、4 は 1/8、8・11・12 は 1/1)

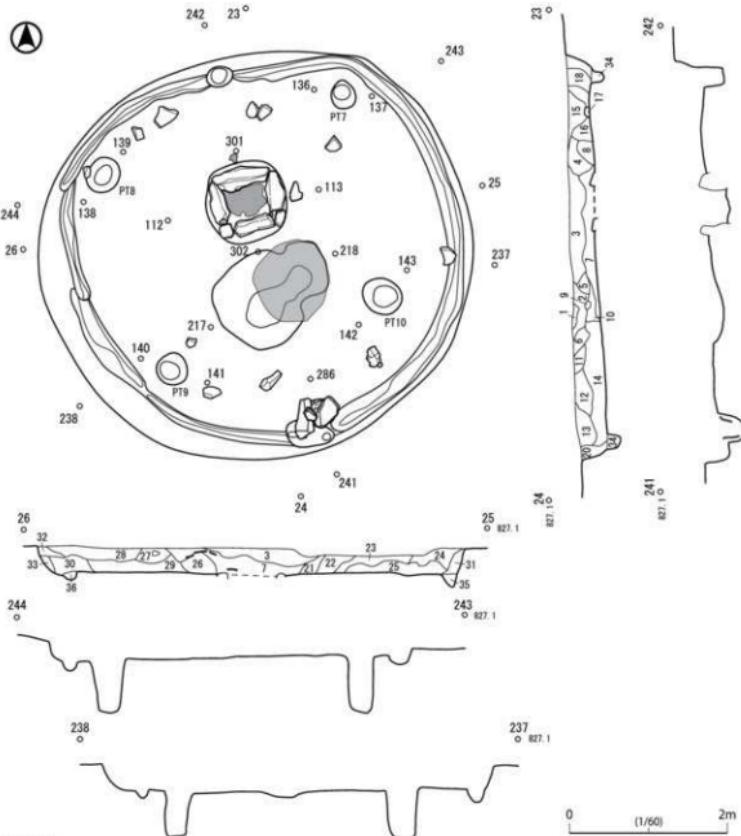
21号住居跡



22号住居跡



第56図 21号住居跡出土遺物(3)(1は1/8、2は1/1)、22号住居跡、炉、出土遺物
(1/4)



- 24号住居跡
- 1層 1094/4 (38) シルト粘土に1094/3(にぶい黄褐色) シルト粘土が5%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 2層 1094/3(にぶい黄褐色) シルト粘土に10% (黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 3層 1094/4 (38) シルト粘土に1094/6 (38) シルト粘土5%、砂土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 4層 1094/3(にぶい黄褐色) シルト粘土に10% (38) が10%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が1%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 5層 1094/4 (38) シルト粘土に1094/3 (38) シルト粘土が40%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 6層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (38) シルト粘土が2%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 7層 1094/3(にぶい黄褐色) シルト粘土に10% (38) シルト粘土が15%、1095/6 (黄褐色) が2%、焼土粒子3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 8層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (38) シルト粘土が15%、1095/6 (黄褐色) が2%、焼土粒子3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 9層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (38) シルト粘土が15%、1095/6 (黄褐色) が2%、焼土粒子3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 10層 1094/6 (38) シルト粘土に1094/4 (にぶい黄褐色) シルト粘土が10%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が1%、焼土粒子2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 11層 1094/3(にぶい黄褐色) シルト粘土に1094/6 (38) が10%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が1%、焼土粒子2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 12層 1094/6 (38) シルト粘土に10% (6) (黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 13層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (6) (黄褐色) シルト粘土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 14層 1094/3(にぶい黄褐色) シルト粘土に10% (6) (黄褐色) シルト粘土が2%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が2%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 15層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (6) (黄褐色) シルト粘土が10%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 16層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (6) (黄褐色) シルト粘土が10%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 17層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (6) (黄褐色) シルト粘土が10%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 18層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (6) (黄褐色) シルト粘土が10%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 19層 1095/6 (黄褐色) シルト粘土に1094/4 (38) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 20層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (5) (黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 21層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (5) (黄褐色) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 22層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (5) (黄褐色) シルト粘土が10%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が2%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 23層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (5) (黄褐色) シルト粘土が10%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が2%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 24層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (5) (黄褐色) シルト粘土が10%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が2%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 25層 1094/6 (38) シルト粘土に10% (5) (黄褐色) シルト粘土が10%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が2%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 26層 1094/6 (38) シルト粘土に10% (5) (黄褐色) シルト粘土が10%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が2%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 27層 1094/3(にぶい黄褐色) シルト粘土に10% (5) (黄褐色) シルト粘土が10%、1095/6 (黄褐色) シルト粘土が2%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 28層 1094/4 (38) シルト粘土に10% (5) (黄褐色) シルト粘土が10%、炭化粒子1%混じる。しまる。

第 57 図 24号住居跡

- The figure consists of two parts. The left part shows the 24th road section with various rock units labeled: 301 (top), 113 (interior), 302° (bottom), 302° (right), 113 (bottom right), 112° (left), 112° (bottom left), 0 (bottom center), and (1/30) (bottom center). The right part shows the 24th road section with labels: 301 (top), 217 (interior), 218° (right), 4 (bottom right), 3 (bottom center), 1 (bottom left), 113 (bottom left), 826.6 (bottom center), and 826.6 (bottom right).

- 24号住居路**

埋土
1層 10YR2/3(黒褐色)シルト粒土に10%5/6(黄褐色)シルト粒土が1%、炭化粒子が1%混じる。やわらまる。
2層 10YR3/3(暗褐色)シルト粒土に10%5/6(黄褐色)シルト粒土が5%混じる。やわらまる。

地山 硬 10YR5/6(黄褐色)シルト粒土。固くしまる。
地山 底 10YR5/6(黄褐色)シルト粒土。固くしまる。

7号ビット (24号住居路柱穴)

1層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐)が10%、10YR5/6(黄褐色)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。

地山 硬 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。
地山 底 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。

8号ビット (24号住居路柱穴)

1層 10YR3/3(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が10%混じる。シルト粒土。しまる。
2層 10YR3/3(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が30%(ブロック状)混じる。シルト粒土。しまる。
3層 10YR3/3(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が10%(ブロック状)混じる。シルト粒土。やわらまる。

地山 硬 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。
地山 底 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。

9号ビット (24号住居路柱穴)

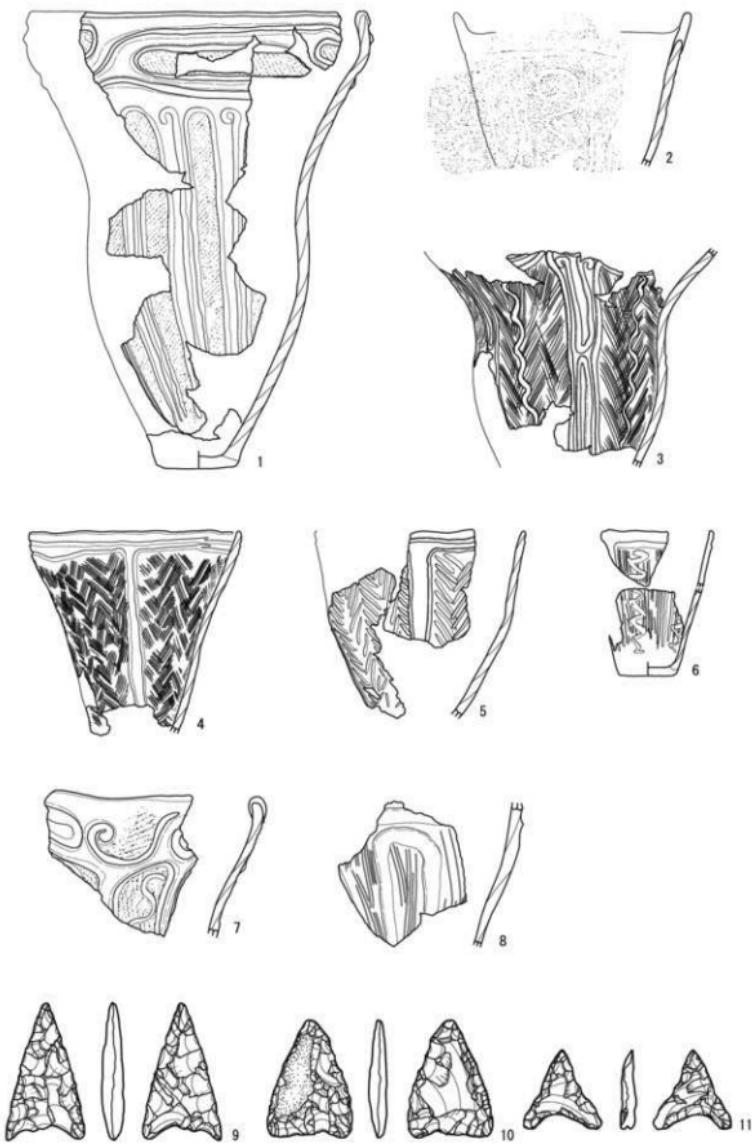
1層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/6(黄褐色)が3%、炭化粒子が3%混じる。シルト粒土。しまる。
2層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐)が7%、10YR5/6(黄褐色)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。

地山 硬 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。
地山 底 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。

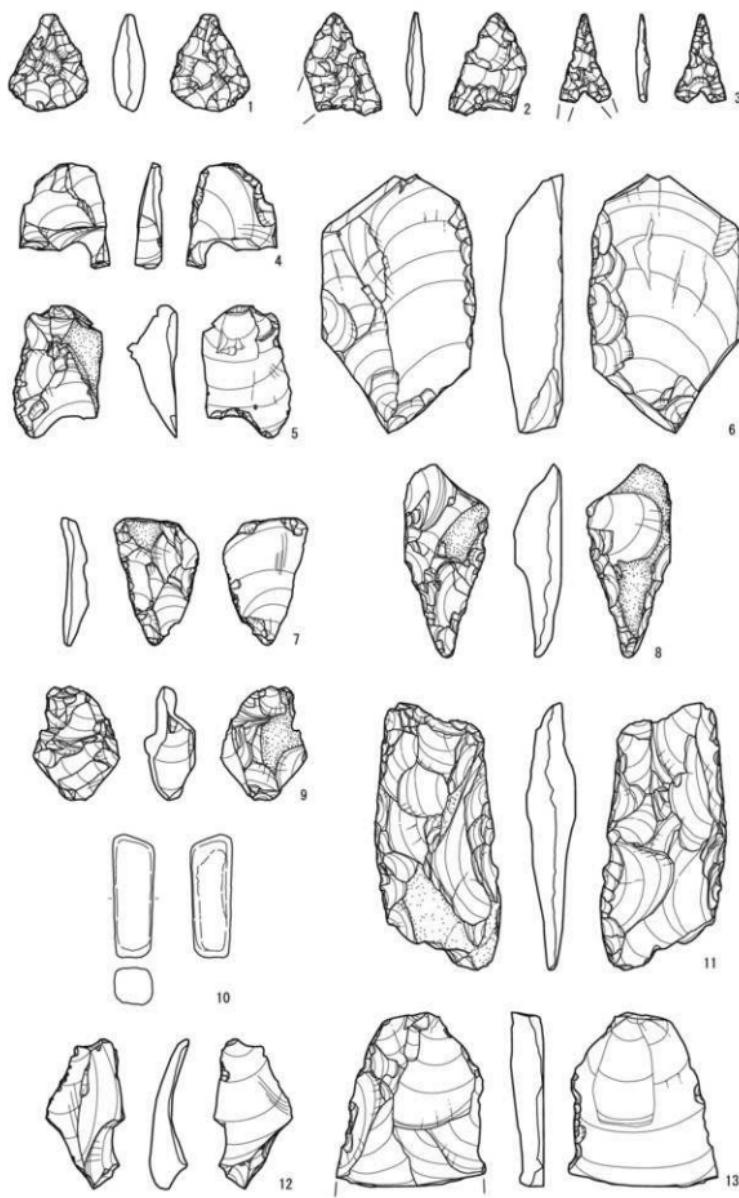
10号ビット (24号住居路柱穴)

1層 10YR3/3(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらまる。
2層 10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
3層 地山 硬 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。
地山 底 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。

第58図 24号住居跡炬 埋甕 柱穴

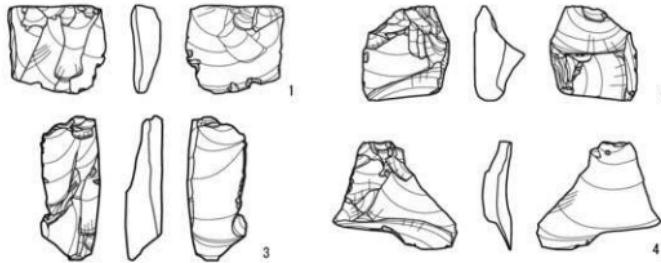


第59図 24号住居跡出土遺物 (1)(1/6、但し7・8は1/4、9~11は1/1)

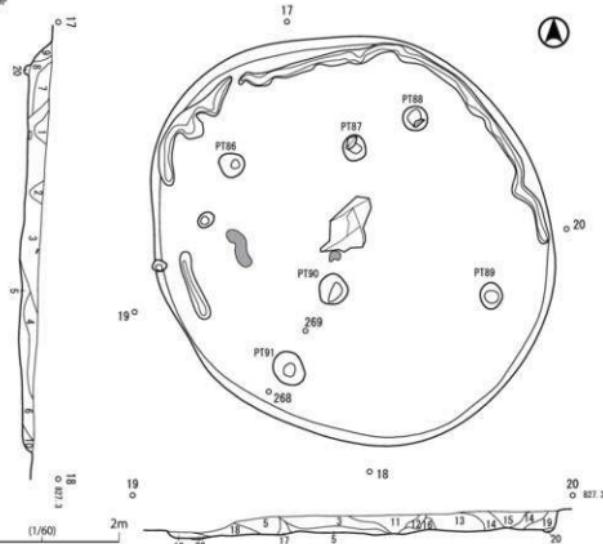


第 60 図 24 号住居跡出土遺物 (2) (1/1、但し 10 は 1/4、11 は 1/2)

24号住居跡



25号住居跡



25号住居跡

- 1層 10YR3/4(暗褐色)に10YR4/4(褐)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 2層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 3層 10YR3/4(暗褐色)に10YR2/3(黒褐色)が30%、10YR5/6(黄褐色)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 4層 10YR4/4(暗褐色)に10YR4/4(褐)が30%、炭化粒子が1%混じる。ややしまる。
 5層 10YR4/3(にぶい黄褐色)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/6(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 6層 10YR4/4(褐)に10YR5/4(にぶい黄褐色)が20%、10YR5/6(黄褐色)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 7層 10YR4/6(褐)に10YR5/4(にぶい黄褐色)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 8層 10YR4/6(褐)に10YR5/4(にぶい黄褐色)が30%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 9層 10YR4/6(褐)に10YR5/6(黄褐色)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 10層 10YR(褐)に10YR5/8(黄褐色)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 11層 10YR2/3(黒褐色)に10YR5/8(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 12層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/8(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 13層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/4(にぶい黄褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 14層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/8(黄褐色)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 15層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/4(にぶい黄褐色)が20%、10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 16層 10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐色)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 17層 10YR3/4(暗褐色)に炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。さりなし。
 18層 10YR4/4(褐)に10YR5/4(にぶい黄褐色)が1%、シルト粒土。ややしまる。
 19層 10YH4/6(褐)に10YR5/6(黄褐色)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 20層 10YR4/6(褐)に10YR5/4(にぶい黄褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が2%混じる。シルト粒土。しまる。
- 地山 壁 10YR4/6(褐)に10YR5/6(黄褐色)が30%混じる。シルト粒土。固くしまる。
 地山 床 10YR5/6(黄褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が15%混じる。シルト粒土。固くしまる。

第 61 図 24 号住居跡出土遺物 (3) (1/1)、25 号住居跡

91号ピット(25号住居跡柱穴)

1層 10YR4/3(にぶい黄褐色)に10YR3/3(暗褐色)が15%、10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらか。

2層 10YR5/6(黄褐色)に炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。

3層 10YR4/6(褐褐色)に10YR3/3(にぶい黄褐色)が5%、10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。

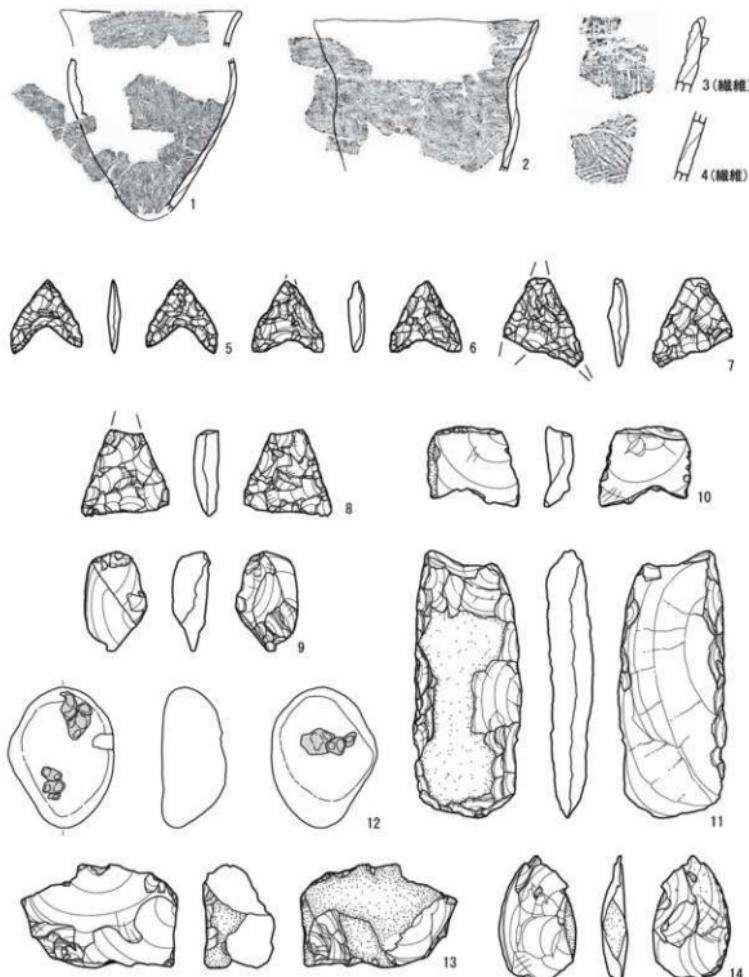
4層 10YR5/6(にぶい黄褐色)に10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。

5層 10YR5/6(黄褐色)に10YR5/4(にぶい黄褐色)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。

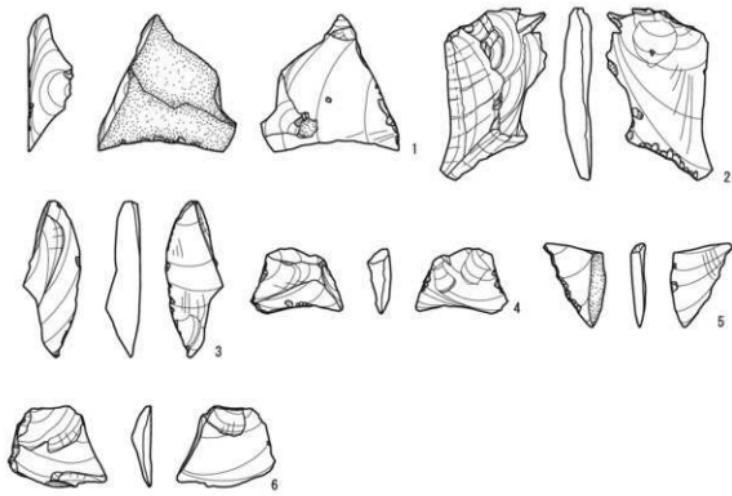
炭化物は2cmブロックを含む

地山 壘 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。

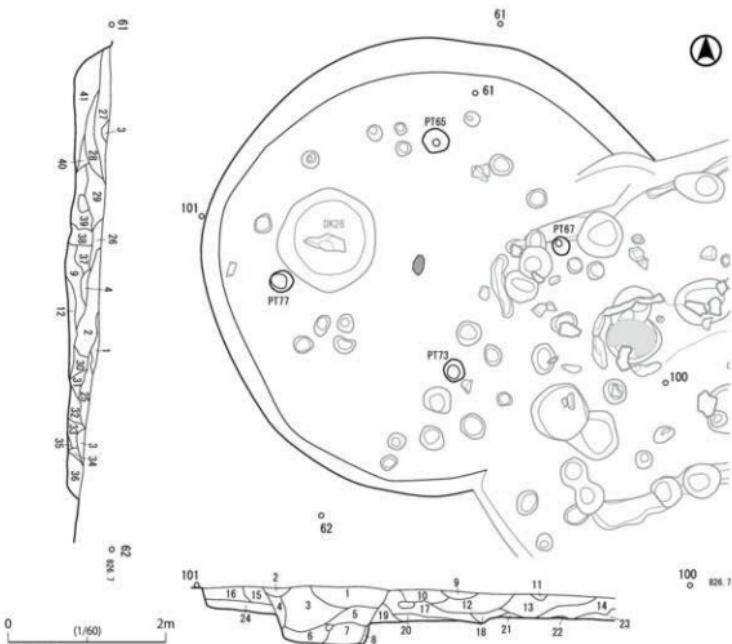
地山 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。

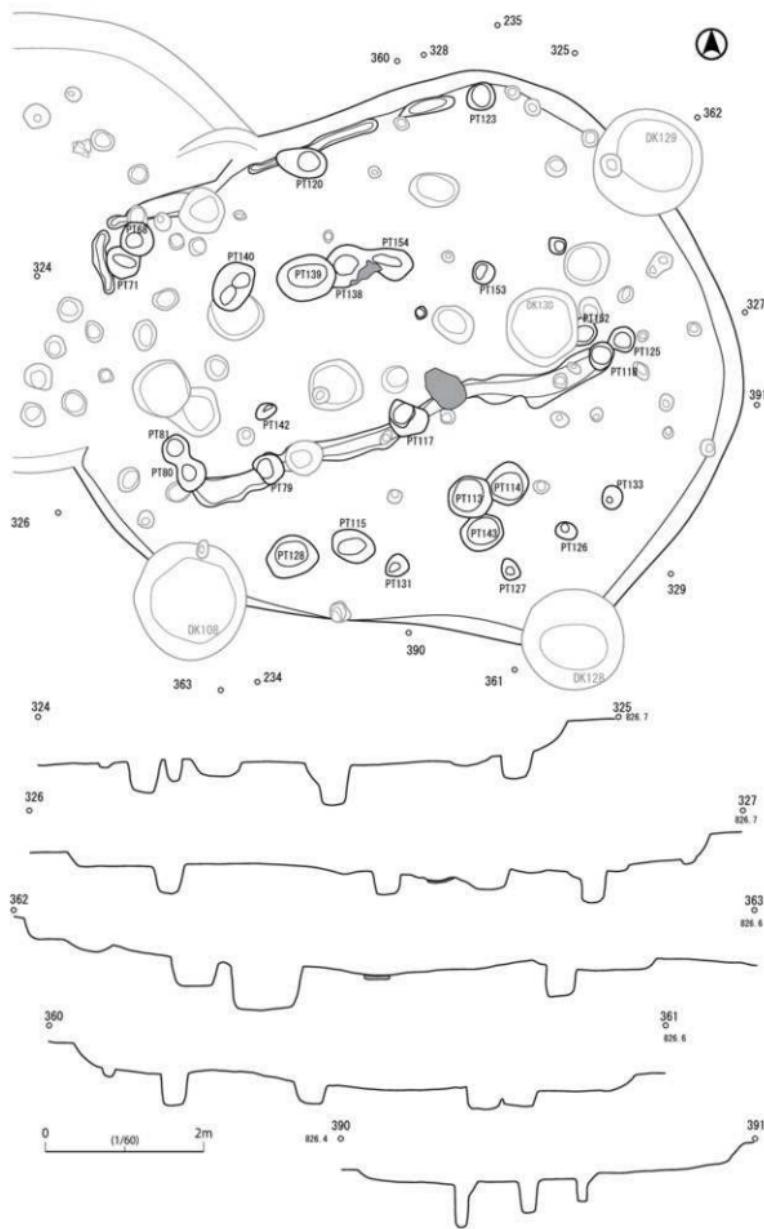


第62図 25号住居跡柱穴、出土遺物 (1)(1/1、但し1・2は1/6、3・4・12は1/4、11は1/2)

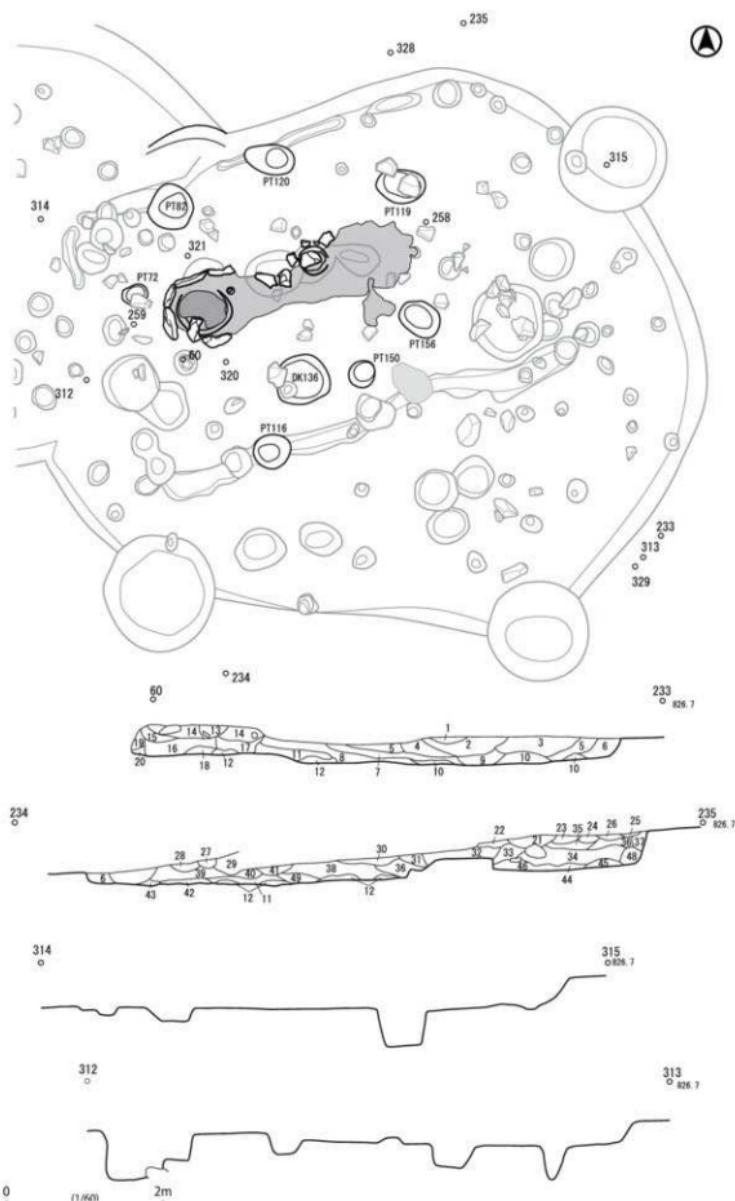


第 63 図 25 号住居跡出土遺物 (2) (1/1)



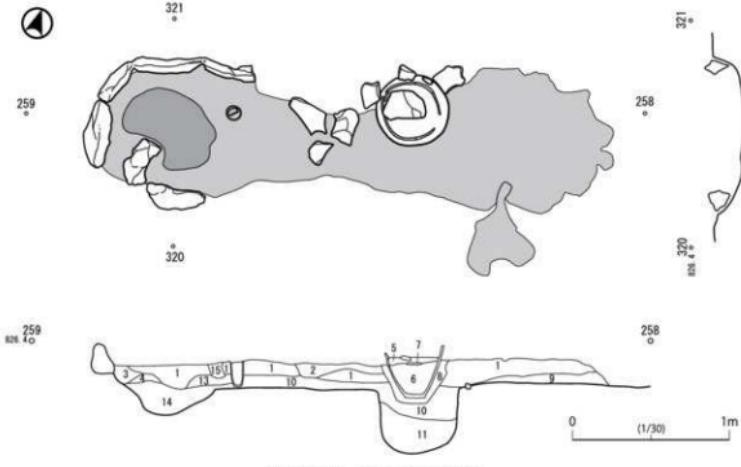


第 65 図 36 号・37 号住居跡



第66図 34号住居跡

- 34号住居跡
- 1層 10YR2.3(暗緑) シルト粘土に10YR4.4(M) シルト粘土が1%、炭化粒子が1%、焼土粒子が混じる。ややしまる。
 - 2層 10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土に10YR2.3(暗緑) シルト粘土が5%、炭化粒子が1%混じる。しまる。
 - 3層 10YR2.3(黒緑) シルト粘土に10YR4.4(M) シルト粘土が5%、炭化粒子が1%混じる。ややしまる。
 - 4層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR4.4(M) シルト粘土が5%、炭化粒子が1%混じる。ややしまる。
 - 5層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR4.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が10%、炭化粒子が5%、焼土粒子が混じる。しまりなし。
 - 6層 10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土に10YR4.4(M) シルト粘土が15%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が2%、炭化粒子が1%、焼土粒子が1%混じる。しまる。
 - 7層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR4.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が15%、炭化粒子が5%、焼土粒子が混じる。しまる。
 - 8層 10YR2.3(黒緑) シルト粘土に10YR4.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が15%、炭化粒子が1%混じる。ややしまる。
 - 9層 10YR2.3(暗緑) シルト粘土に10YR4.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が15%、炭化粒子が1%混じる。ややしまる。
 - 10層 10YR2.3(暗緑) シルト粘土に10YR4.4(M) シルト粘土が1%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が15%、炭化粒子が1%混じる。しまる。
 - 11層 10YR2.4(暗緑) シルト粘土に10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が5%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が1%、炭化粒子が1%混じる。しまる。
 - 12層 10YR5.6(黄緑) シルト粘土に10YR2.4(暗緑) シルト粘土が5%、炭化粒子が1%混じる。しまる。
 - 13層 10YR2.3(黒緑) シルト粘土に10YR2.3(暗緑) シルト粘土が5%、炭化粒子が1%、焼土粒子が混じる。ややしまる。
 - 14層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR4.4(M) シルト粘土が10%、炭化粒子が5%、焼土粒子が混じる。ややしまる。
 - 15層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR4.4(M) シルト粘土が15%、炭化粒子が5%、焼土粒子が混じる。しまる。
 - 16層 10YR5.6(黄緑) シルト粘土に10YR4.4(M) シルト粘土が10%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が5%、炭化粒子が1%混じる。しまる。
 - 17層 10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土に10YR2.3(暗緑) シルト粘土が15%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が5%、炭化粒子が1%混じる。しまる。
 - 18層 10YR2.4(暗緑) シルト粘土に10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が10%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が5%、炭化粒子が1%混じる。ややしまる。
 - 19層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が10%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が5%、炭化粒子が1%混じる。固くしまる。
 - 20層 10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土に10YR2.4(暗緑) シルト粘土が15%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が5%、炭化粒子が1%混じる。固くしまる。
 - 21層 5YR4.6(赤緑) シルト粘土に10YR5.6(黄緑) シルト粘土が50%、炭化粒子が1%混じる。固くしまる。
 - 22層 10YR2.3(暗緑) シルト粘土に10YR5.6(黄緑) シルト粘土が5%、炭化粒子が1%混じる。ややしまる。
 - 23層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR5.6(黄緑) シルト粘土が5%、炭化粒子が1%混じる。ややしまる。
 - 24層 10YR2.3(暗緑) シルト粘土に10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が20%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が10%（ブロックを含む）、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 25層 10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土に10YR2.3(暗緑) シルト粘土が20%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 26層 10YR2.3(暗緑) シルト粘土に10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が10%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 27層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が5%混じる。しまりなし。
 - 28層 10YR4.3(こぶし状黄緑) シルト粘土に10YR5.6(黄緑) シルト粘土が5%混じる。ややしまる。
 - 29層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR2.3(こぶし状黄緑) シルト粘土が5%、10YR2.3(暗緑) シルト粘土が5%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
 - 30層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR4.3(こぶし状黄緑) シルト粘土が20%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 31層 10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土に10YR2.4(暗緑) シルト粘土が20%、5YR4.8(赤緑) の焼土と灰化粒子が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 32層 10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土に10YR2.3(暗緑) シルト粘土が10%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が2%、5YR4.8(赤緑) の焼土と灰化粒子1%が混じる。しまる。
 - 33層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が5%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が10%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
 - 34層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR4.3(こぶし状黄緑) シルト粘土が15%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 35層 10YR4.3(こぶし状黄緑) シルト粘土に10YR5.6(黄緑) シルト粘土が15%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が2%、炭化粒子2%、焼土粒子1%混じる。しまる。
 - 36層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR5.6(黄緑) シルト粘土が20%、炭化粒子2%、焼土粒子1%混じる。しまる。
 - 37層 10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土に10YR2.3(暗緑) シルト粘土が5%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が15%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が5%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
 - 38層 10YR5.6(黄緑) シルト粘土に10YR2.3(暗緑) シルト粘土が15%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 39層 10YR4.3(こぶし状黄緑) シルト粘土に10YR2.3(暗緑) シルト粘土が15%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 40層 10YR4.3(こぶし状黄緑) シルト粘土に10YR5.6(黄緑) シルト粘土が25%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 41層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR4.3(こぶし状黄緑) シルト粘土が15%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
 - 42層 10YR5.6(黄緑) シルト粘土に10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が5%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が2%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 43層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が10%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 44層 10YR3.3(暗緑) シルト粘土に10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が10%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 45層 10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土に10YR5.6(黄緑) シルト粘土が1%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
 - 46層 10YR5.6(黄緑) シルト粘土に10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が1%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
 - 47層 10YR5.6(黄緑) シルト粘土に10YR5.4(こぶし状黄緑) シルト粘土が5%、10YR5.6(黄緑) シルト粘土が1%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
 - 地山 墓 10YR5.6(黄緑) シルト粘土、固くしまる。
 - 地山 床 10YR5.6(黄緑) シルト粘土、固くしまる。



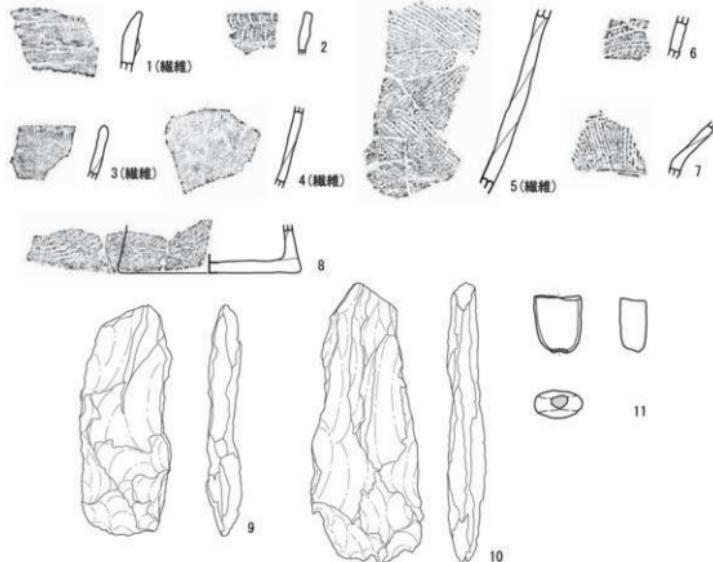
第67図 34号住居跡

- 34号住居跡 伊
- 1層 34号住の床面。ただし住居廃絶後の廃絶儀礼によるものか。焼土は住居外から搬入したもの。5YR3/6(暗赤褐色)に5YR4/8(赤褐色)が7%混じる焼土。
 2層 5YR2/4(極暗赤褐色)シルト粒土に5YR3/6(暗赤褐色)シルト粒土が3%、焼土ブロック1%混じる。ややしまる。
 3層 7.5YR2/2(黒褐色)シルト粒土に7.5YR2/2(暗褐色)シルト粒土が10%混じる。ややしまる。
 4層 5YR2/2(暗褐色)シルト粒土に5YR3/6(暗褐色)シルト粒土が5%混じる。ややしまる。
 5層 10YR2/3(黒褐色)シルト粒土に10YR3/4(暗褐色)シルト粒土が2%混じる。ややしまる。
 6層 7.5YR3/2(暗褐色)シルト粒土に10YR2/4(暗褐色)シルト粒土が30%混じる。ややしまる。
 7層 1層と同じく焼けり床土が焼土ではない。10YR5/4(こぶい黄褐色)シルト粒土がブロック状になっている。固くしまる。
 8層 5YR2/2(黒褐色)シルト粒土に5YR3/4(暗赤褐色)シルト粒土が1%混じる。固くしまる。
 9層 10YR3/4(暗褐色)シルト粒土に5YR4/8(赤褐色)焼土が5%混じる。固くしまる。
 10層 10YR2/2(黒褐色)シルト粒土に10YR4/4(暗褐色)シルト粒土が7%混じる。固くしまる。
 11層 10YR2/2(暗褐色)シルト粒土に10YR4/6(暗褐色)シルト粒土が5%混じる。ややしまる。
 12層 10YR2/1(暗褐色)シルト粒土。しまり。
 13層 5YR2/4(極暗褐色)シルト粒土に5YR4/8(赤褐色)シルト粒土が15%混じる。固くしまる。
 14層 7.5YR2/2(黒褐色)シルト粒土に7.5YR4/2(灰褐色)シルト粒土が15%混じる。固くしまる。
 15層 カクラン。

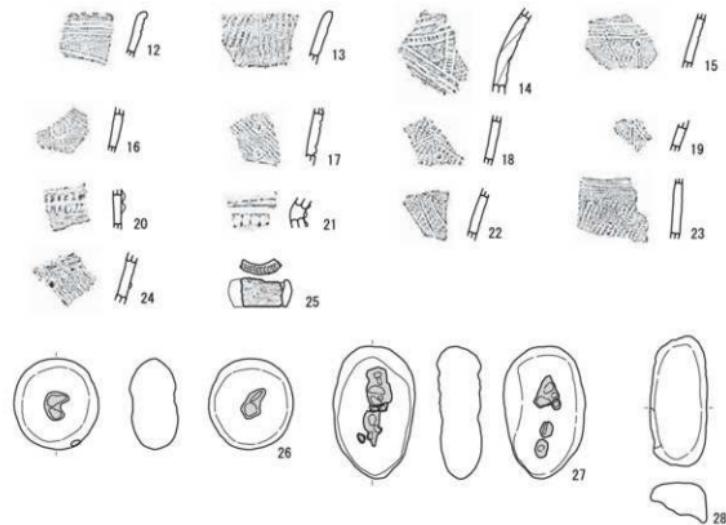


第68図 26号住居跡出土遺物 (1/4、但し5は1/8)

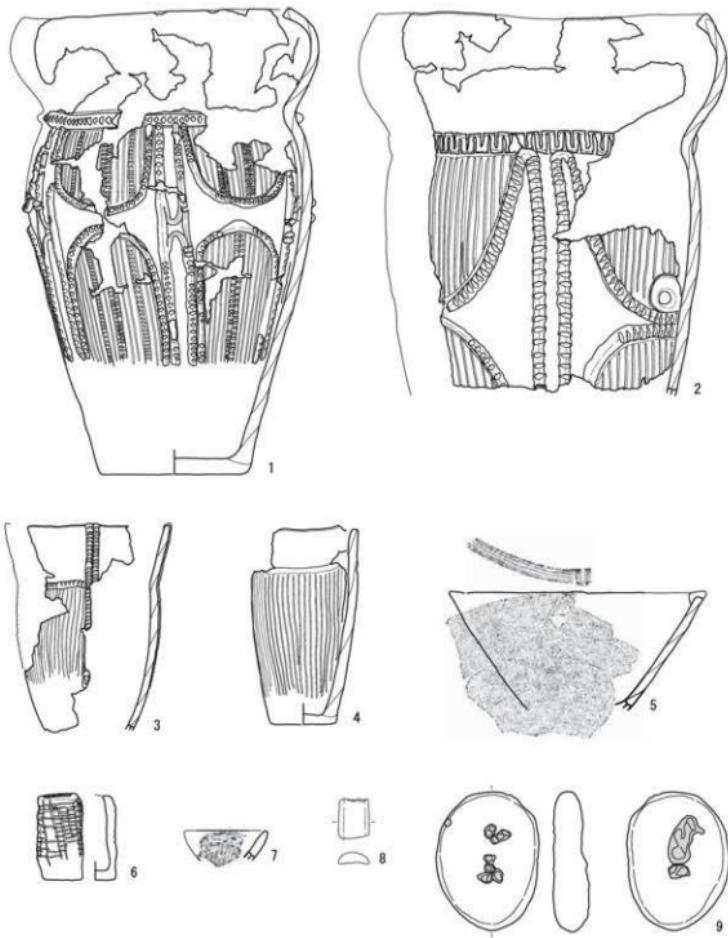
36号住居跡



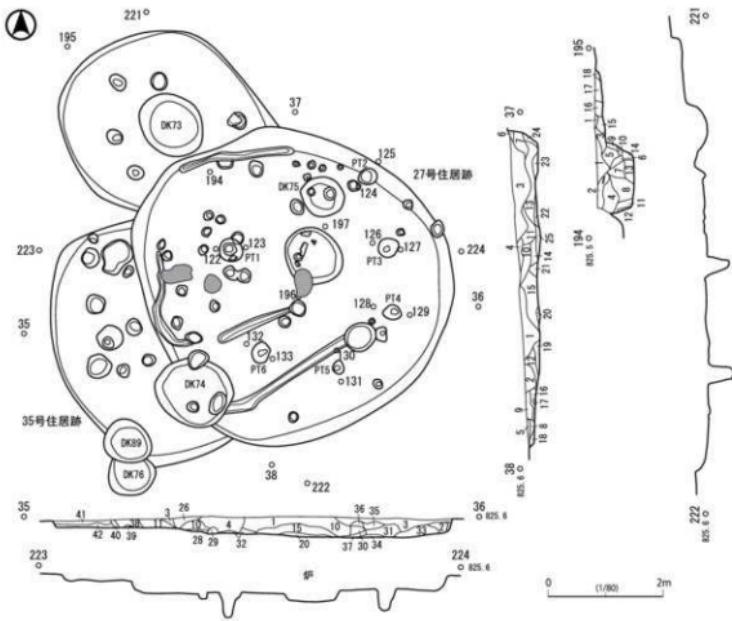
37号住居跡



第 69 図 36 号・37 号住居跡出土遺物 (1/4、但し 9 は 1/2)



第70図 34号住居跡出土遺物 (1/4、但し1・2・5は1/6)

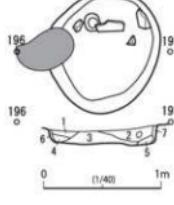


- 27号住居跡
- 1層 1093/1(黒緑) シルト粘土に1093/3(暗緑) シルト粘土が20%、1094/6(緑) シルト粘土がブロック状に1%、燒土粒子が1%混じる。しまる。
 2層 1094/4 (こぶし 黄緑) シルト粘土に1092/4 (黒緑) ルート粘土が10%、1095/6 (黄緑) シルト粘土が2%混じる。ややしまる。
 3層 1093/4 (黒緑) シルト粘土に1092/2 (黒緑) シルト粘土が15%、1095/8 (黄緑) シルト粘土が1%混じる。固くしまる。
 4層 1092/2 (黒緑) シルト粘土に1092/3 (黒緑) シルト粘土が20%混じる。しまりなし。
 5層 1092/2 (黒緑) シルト粘土に1092/3 (黒緑) シルト粘土が20%混じる。しまる。
 6層 1092/2 (黒緑) シルト粘土に1092/4 (暗緑) ルート粘土が1%混じる。ややしまる。
 7層 1093/2 (黒緑) シルト粘土に1094/3 (こぶし 黄緑) シルト粘土が10%混じる。ややしまる。
 8層 1094/4 (黒緑) シルト粘土に1093/1 (黒緑) シルト粘土7%混じる。固くしまる。
 9層 1092/3 (黒緑) シルト粘土に1094/4 (緑) シルト粘土が1%、1095/6 (明黄緑) シルト粘土のブロック状に1%混じる。ややしまる。
 10層 1092/3 (黒緑) シルト粘土に1092/4 (黒緑) シルト粘土が2%、1095/8 (黄緑) シルト粘土がブロック状に3%、炭化粒子混じる。しまる。
 11層 1094/6 (暗緑) シルト粘土に1092/3 (黒緑) シルト粘土が1%、1095/6 (黄緑) シルト粘土が5%混じる。
 12層 1092/3 (黒緑) シルト粘土をシルト粘土に1094/4 (緑) シルト粘土が1%、シルト粘土が1%混じる。固くしまる。
 13層 1092/3 (黒緑) シルト粘土に1094/4 (暗緑) シルト粘土が1%、1095/6 (黄緑) シルト粘土がブロック状に1%混じる。
 14層 1092/2 (黒緑) シルト粘土に1094/4 (緑) シルト粘土が10%、1095/6 (黄緑) シルト粘土が1%混じる。ややしまる。
 15層 1092/2 (黒緑) シルト粘土に1092/3 (黒緑) シルト粘土が10%、1095/8 (黄緑) シルト粘土がブロック状に1%混じる。ややしまる。
 16層 1092/1 (黒緑) シルト粘土に1092/4 (黒緑) シルト粘土が1%混じる。ややしまる。
 17層 1092/2 (黒緑) シルト粘土に1092/4 (黒緑) シルト粘土が1%混じる。しまる。
 18層 1092/1 (黒緑) シルト粘土に1092/4 (黒緑) (黄緑) シルト粘土が1%混じる。ややしまる。
 19層 1092/2 (黒緑) シルト粘土に1094/4 (暗緑) (黄緑) シルト粘土が1%混じる。ややしまる。
 20層 1092/2 (黒緑) シルト粘土に1094/4 (暗緑) (黄緑) シルト粘土がブロック状に1%混じる。ややしまる。
 21層 1092/3 (黒緑) シルト粘土に1094/4 (暗緑) シルト粘土が10%、1095/6 (黄緑) シルト粘土が1%、燒土粒子1%混じる。ややしまる。
 22層 1092/1 (黒緑) シルト粘土に1092/4 (黒緑) シルト粘土が1%混じる。固くしまる。
 23層 1092/3 (黒緑) シルト粘土に1093/4 (暗緑) シルト粘土が1%、1094/6 (緑) シルト粘土が3%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
 24層 1094/4 (暗緑) シルト粘土に1092/3 (黒緑) シルト粘土が2%混じる。固くしまる。
 25層 1092/4 (暗緑) シルト粘土に1095/6 (黄緑) シルト粘土が1%混じる。固くしまる。
 26層 1092/4 (暗緑) シルト粘土に1092/3 (黒緑) シルト粘土が1%混じる。1095/6 (黄緑) シルト粘土がブロック状で1%混じる。ややしまる。
 27層 1092/4 (暗緑) シルト粘土に1095/6 (黄緑) シルト粘土が1%混じる。燒土粒子、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 28層 1092/2 (黒緑) シルト粘土に1094/4 (暗緑) シルト粘土が10%、燒土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
 29層 1092/2 (黒緑) シルト粘土に1094/6 (緑) シルト粘土が1%、燒土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
 30層 1092/3 (黒緑) シルト粘土に1095/4 (暗緑) シルト粘土が1%、1095/6 (黄緑) シルト粘土が1%混じる。ややしまる。
 31層 1092/2 (黒緑) シルト粘土に1093/4 (暗緑) シルト粘土が1%、1094/6 (緑) シルト粘土が3%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 32層 1092/2 (黒緑) シルト粘土に1092/4 (暗緑) シルト粘土が1%混じる。ややしまる。
 33層 1092/3 (黒緑) シルト粘土に1095/6 (黄緑) シルト粘土が1%、1095/6 (明黄緑) シルト粘土が1%混じる。ややしまる。
 34層 1094/4 (暗緑) シルト粘土に1095/6 (黄緑) シルト粘土が1%混じる。ややしまる。
 35層 1094/4 (暗緑) シルト粘土に1094/4 (こぶし 黄緑) シルト粘土が1%混じる。ややしまる。
 36層 1092/3 (黒緑) シルト粘土に1093/4 (暗緑) シルト粘土が1%、燒土粒子1%混じる。ややしまる。
 37層 1093/3 (暗緑) シルト粘土に1092/3 (黒緑) シルト粘土が90%、1095/6 (黄緑) シルト粘土が3%、炭化粒子1%混じる。しまりなし。
 38層 1093/3 (暗緑) シルト粘土に1092/3 (黒緑) シルト粘土が90%、1095/6 (黄緑) シルト粘土が3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 39層 1094/4 (暗緑) シルト粘土に1093/3 (暗緑) シルト粘土が10%、1095/6 (黄緑) シルト粘土が1%、燒土粒子1%混じる。ややしまる。
 40層 1092/3 (黒緑) シルト粘土に1092/3 (黒緑) シルト粘土が1%、1095/6 (明黄緑) シルト粘土が1%、燒土粒子1%混じる。しまる。
 41層 1094/4 (こぶし 黄緑) シルト粘土に1095/6 (黄緑) シルト粘土が10%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
- 42層 1094/4 (暗緑) シルト粘土に1095/6 (黄緑) シルト粘土が10%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。

第 71 図 27 号・35 号住居跡

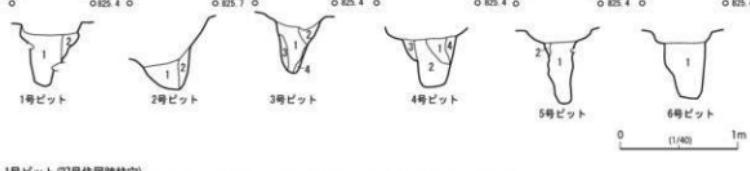
73号土坑

- 1層 10YR3/3(黒褐色)に10YR6/6(明黃褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 2層 10YR4/6(褐色)に10YR5/8(黃褐色)が30%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 3層 10YR4/4(褐色)に10YR5/8(黃褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 4層 10YR2/3(黒褐色)に10YR5/8(黃褐色)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 5層 10YR2/4(黒褐色)に10YR6/6(明黃褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 6層 10YR2/3(黒褐色)に10YR6/6(明黃褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 7層 10YR2/3(黒褐色)に10YR6/6(明黃褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 8層 10YR2/2(黒褐色)に10YR6/6(明黃褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 9層 10YR5/6(黃褐色)に10YR3/4(褐色)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
 10層 10YR5/6(黃褐色)に10YR4/4(褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 11層 10YR2/3(黒褐色)に5mmの大のブロック状を含む10YR5/8(黃褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 12層 10YR5/8(黃褐色)シルト粒土。ややしまる。
 13層 10YR2/2(黒褐色)に10YR6/6(明黃褐色)が3%、炭化粒子が1%、燒土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 14層 10YR4/4(褐色)に10YR6/6(明黃褐色)が20%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 15層 10YR4/6(褐色)に10YR6/8(黒褐色)が20%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 16層 10YR4/4(褐色)に10YR6/6(明黃褐色)が7%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 17層 10YR5/6(黃褐色)に10YR4/4(褐色)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
 18層 10YR5/6(黃褐色)に10YR4/4(褐色)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
- 地山 壁 10YR5/8(黃褐色)。シルト粒土。固くしまる。
 地山 床 10YR5/8(黃褐色)にブロック状の10YR5/4(にこい黃褐色)が30%混じる。2~5mmの大のレキあり。固くしまる。



27号住居跡 地床跡

- 1層 10YR4/3(にこい黃褐色)シルト粒土に10YR5/6(黃褐色)シルト粒土が5%、燒土粒土2%混じる。ややしまる。
 2層 10YR2/3(黒褐色)シルト粒土に10YR6/6(明黃褐色)シルト粒土が5%、燒土粒土、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 3層 10YR2/2(黒褐色)シルト粒土に10YR6/6(明黃褐色)シルト粒土が4%混じる。シルト粒土が3mmのブロックで。炭化粒子1%混じる。しまる。
 4層 10YR4/4(褐色)シルト粒土に10YR6/6(明黃褐色)シルト粒土が5%混じる。しまりなし。
 5層 10YR3/3(黒褐色)シルト粒土に10YR5/6(黃褐色)シルト粒土が3%混じる。ややしまる。
 6層 10YR6/6(黃褐色)シルト粒土に10YR4/4(褐色)シルト粒土が5%混じる。固くしまる。
 7層 地山 壁 10YR5/6(黃褐色)シルト粒土。固くしまる。
 地山 床 10YR5/8(黃褐色)シルト粒土。固くしまる。
 燃土 5YR4/8(赤褐色)



1号ビット(2号住居跡柱穴)

- 1層 10YR2/3(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が30%、10YR6/6(褐色)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 2層 10YR2/2(黒褐色)が30%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

2号ビット(2号住居跡柱穴)

- 1層 10YR2/4(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 2層 10YR4/4(褐色)に10YR2/3(黒褐色)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

3号ビット(2号住居跡柱穴)

- 1層 10YR2/3(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が20%、10YR5/4(にこい黃褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 2層 10YR4/4(褐色)に10YR2/3(黒褐色)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 3層 10YR4/4(褐色)に10YR3/3(にこい黃褐色)が30%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 4層 10YR4/4(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やや固い。

4号ビット(2号住居跡柱穴)

- 1層 10YR4/4(褐色)に10YR5/6(黃褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 2層 10YR4/3(にこい黃褐色)に10YR6/6(明黃褐色)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 3層 10YR5/8(黃褐色)に10YR4/4(褐色)が5%混じる。シルト粒土。固くしまる。
 4层 10YR5/8(黃褐色)に10YR4/4(褐色)が5%混じる。シルト粒土。固くしまる。

5号ビット(2号住居跡柱穴)

- 1層 10YR2/2(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が20%、10YR4/4(褐色)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 2層 10YR2/4(黒褐色)に10YR4/6(褐色)が70%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

6号ビット(2号住居跡柱穴)

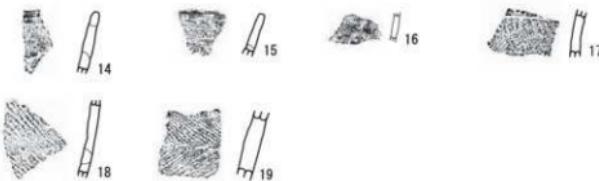
- 1層 10YR2/3(黒褐色)に10YR4/4(にこい黃褐色)が15%、10YR5/5(黃褐色)が5%(ブロックを含む)、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 地山 壁 10YR5/6(黃褐色)。シルト粒土。固くしまる。
 地山 床 10YR5/6(黃褐色)。シルト粒土。固くしまる。

第72図 27号住居跡炉、柱穴

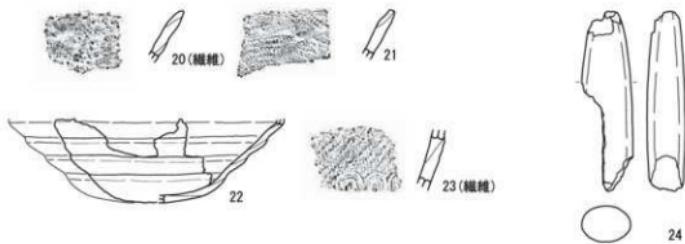
27号住居跡



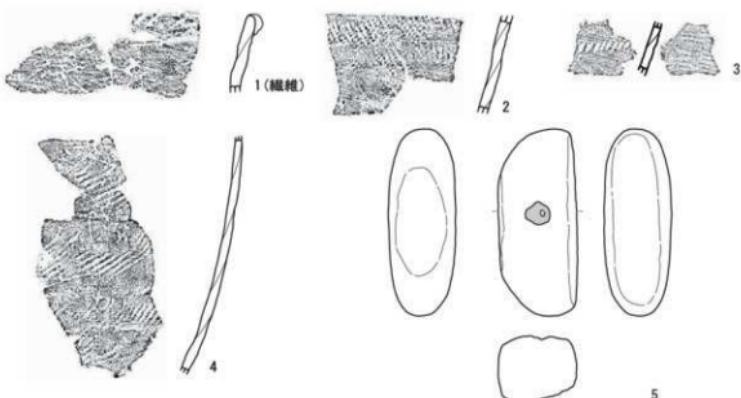
35号住居跡



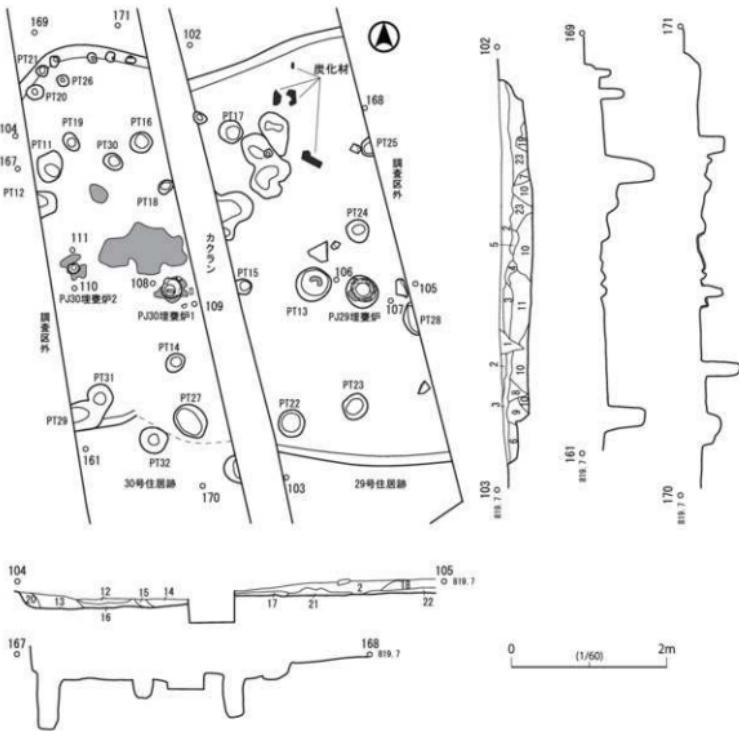
73号土坑



第73図 27号・35号住居跡・73号土坑出土遺物(1/4)

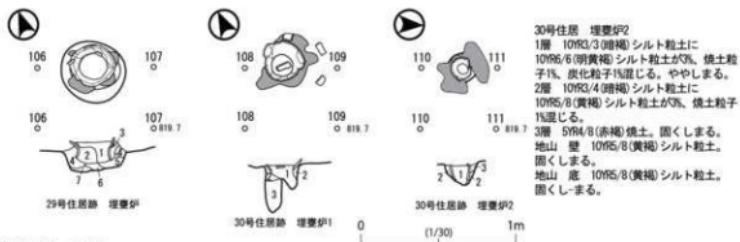


第74図 28号住居跡、柱穴、出土遺物(1/4)



- | 29号住居跡 |
|---|
| 1層 10YR2/2(黒楓)シルト粘土に10YR4/4(褐)シルト粘土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。 |
| 2層 10YR2/3(黒楓)シルト粘土に10YR3/4(暗褐)シルト粘土が30%、10YR5/6(黄褐)シルト粘土が5%、炭化粒子2%混じる。しまる。 |
| 3層 10YR3/4(暗褐)シルト粘土に10YR4/3(にぶい黄)シルト粘土が30%、10YR5/6(黄褐)シルト粘土が2%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。 |
| 4層 10YR3/3(暗褐)シルト粘土に10YR2/2(黒楓)シルト粘土が20%、10YR4/6(褐)シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。 |
| 5層 10YR3/3(暗褐)シルト粘土に10YR4/4(褐)シルト粘土が30%、炭化粒子1%混じる。しまる。 |
| 6層 10YR4/4(褐)シルト粘土に10YR3/2(黒楓)シルト粘土が10%炭化粒子1%混じる。ややしまる。 |
| 7層 10YR3/3(暗褐)シルト粘土に10YR3/2(黒楓)シルト粘土が10%、10YR4/4(褐)シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。 |
| 8層 10YR3/3(暗褐)シルト粘土に10YR3/2(黒楓)シルト粘土が10%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。 |
| 9層 10YR4/4(褐)シルト粘土に10YR2/2(黒楓)シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。 |
| 10層 10YR4/6(褐)シルト粘土に10YR2/2(黒楓)シルト粘土が5%、炭化粒子2%混じる。ややしまる。 |
| 11層 10YR4/4(褐)シルト粘土に10YR5/6(黄褐)シルト粘土が40%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。 |
| 12層 10YR3/3(暗褐)シルト粘土に10YR4/4(褐)シルト粘土が30%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。 |
| 13層 10YR2/3(黒楓)シルト粘土に10YR4/4(褐)シルト粘土が40%、炭化粒子2%混じる。ややしまる。 |
| 14層 10YR3/3(暗褐)シルト粘土に10YR4/3(にぶい黄)シルト粘土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粘土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。 |
| 15層 10YR2/3(黒楓)シルト粘土に10YR4/6(褐)シルト粘土が50%、炭化粒子1%、鐵土粒子1%混じる。しまる。 |
| 16層 10YR2/3(黒楓)シルト粘土に10YR4/6(褐)シルト粘土が40%、炭化粒子1%混じる。しまる。 |
| 17層 10YR2/3(暗褐)シルト粘土に10YR4/6(褐)シルト粘土が20%、炭化粒子1%混じる。しまる。 |
| 18層 10YR4/4(暗褐)シルト粘土に10YR4/6(褐)シルト粘土が20%、10YR4/6(褐)シルト粘土が5%、炭化粒子1%、鐵土粒子1%混じる。しまる。 |
| 19層 10YR3/4(暗褐)シルト粘土に10YR4/4(褐)シルト粘土が20%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。 |
| 20層 10YR3/3(暗褐)シルト粘土に10YR4/4(褐)シルト粘土が50%、炭化粒子1%混じる。しまる。 |
| 21層 10YR2/3(黒楓)シルト粘土に10YR4/4(褐)シルト粘土が10%、炭化粒子1%混じる。しまる。 |
| 22層 10YR4/3(にぶい黄)シルト粘土に10YR4/4(褐)シルト粘土が40%、10YR5/6(黄褐)シルト粘土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。 |
| 23層 10YR3/3(暗褐)シルト粘土に10YR4/4(褐)シルト粘土が40%、10YR5/6(黄褐)シルト粘土が5%、炭化粒子2%混じる。しまる。 |

第75図 29号・30号住居跡



- 29号住居跡 墓壙炉
- 1層 10YR2/4(暗褐色)シルト粘土に10YR5/6(黄褐色)シルト粘土が2%、炭化粒子1%、焼土1%混じる。しまりなし。
- 2層 10YR4/4(暗褐色)シルト粘土に10YR6/6(明黄褐色)シルト粘土が3%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
- 3層 5YR4/8(赤褐色)焼土に10YR4/4(暗褐色)シルト粘土が5%混じる。固くしまる。
- 4層 10YR3/3(暗褐色)シルト粘土に10YR5/6(黄褐色)シルト粘土が1%混じる。しまる。
- 5層 10YR4/4(暗褐色)シルト粘土に10YR5/6(黄褐色)シルト粘土が2%、焼土粒子2%混じる。固くしまる。
- 6層 10YR5/4(にじい黄褐色)シルト粘土に10YR5/6(黄褐色)シルト粘土が20%、焼土粒子2%混じる。ややしまる。
- 7層 10YR4/6(暗褐色)シルト粘土に10YR5/6(黄褐色)シルト粘土が1%混じる。固くしまる。
- 地山 壁 10YR5/6(黄褐色)シルト粘土。固くしまる。
- 地山 底 10YR5/6(黄褐色)シルト粘土。固くしまる。
- 30号住居跡 墓壙炉1
- 1層 10YR3/4(暗褐色)シルト粘土に10YR5/6(黄褐色)シルト粘土が2%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
- 2層 10YR4/8(赤褐色)焼土に10YR4/4(暗褐色)シルト粘土が5%混じる。しまる。
- 3層 10YR4/4(暗褐色)シルト粘土に10YR5/6(黄褐色)シルト粘土が2%混じる。しまる。
- 地山 壁 10YR5/6(黄褐色)シルト粘土。固くしまる。
- 地山 底 10YR5/6(黄褐色)シルト粘土。固くしまる。

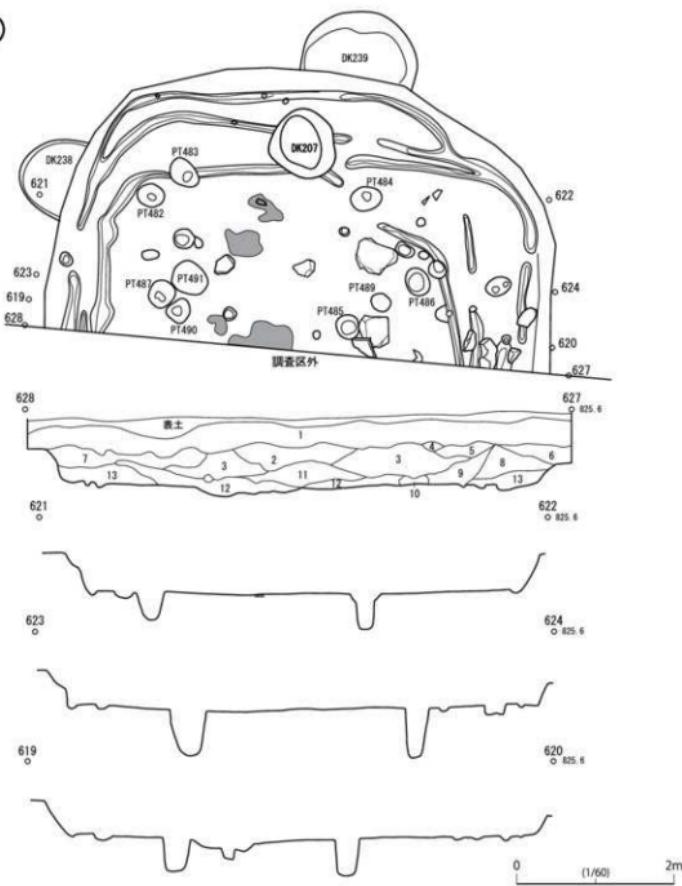
29号住居跡



30号住居跡



第76図 29号・30号住居跡炉、出土遺物 (1・7・8は1/6、2は1/4、3～5は1/1、6は1/2)



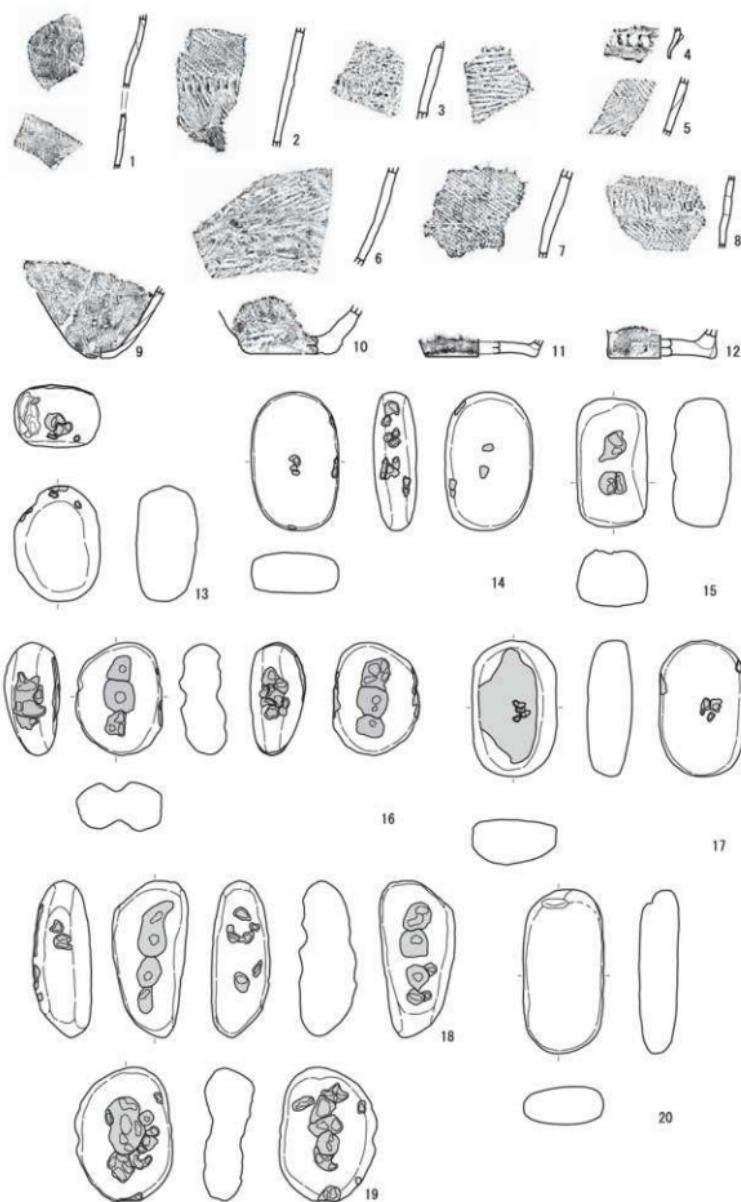
31号住居跡

- 1層 10YR2/3(黒褐色) シルト粒土に10YR5/3(暗緑) シルト粒土が35%、10YR5/6(黄緑) シルト粒土が2%、炭化粒子1%、燒土粒子1%混じる。ややしまる。
 - 2層 10YR2/3(黒褐色) シルト粒土に10YR3/3(暗緑) シルト粒土が40%、炭化粒子2%、燒土粒子1%混じる。ややしまる。
 - 3層 10YR3/4(暗緑) シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄緑) シルト粒土が1%、10YR5/6(黄緑) シルト粒土が1%、炭化粒子3%、燒土粒子1%混じる。しまる。
 - 4層 10YR5/4(にぶい黄緑) シルト粒土に10YR3/3(暗緑) シルト粒土が5%混じる。しまる。
 - 5層 10YR4/4(暗) シルト粒土に10YR3/3(暗緑) シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
 - 6層 10YR2/3(黒褐色) に10YR4/4(暗) シルト粒土が1%、10YR5/6(黄緑) シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
 - 7層 10YR5/4(にぶい黄緑) シルト粒土に10YR3/3(暗緑) シルト粒土が1%、10YR5/6(黄緑) シルト粒土が1%、炭化粒子5%混じる。ややしまる。
 - 8層 10YR5/4(にぶい黄緑) シルト粒土に10YR2/3(黒褐色) シルト粒土が1%、炭化粒子10%混じる。しまる。
 - 9層 10YR3/4(暗) シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄緑) シルト粒土が10%、10YR5/6(黄緑) シルト粒土が1%、炭化粒子5%混じる。しまる。
 - 10層 10YR2/3(黒褐色) シルト粒土に10YR5/5(黄緑) シルト粒土が1%、炭化粒子10%混じる。ややしまる。
 - 11層 10YR3/3(暗緑) シルト粒土に10YR5/5(黄緑) シルト粒土が1%、炭化粒子2%、燒土粒子1%混じる。ややしまる。
 - 12層 10YR2/3(黒褐色) シルト粒土に10YR4/4(暗) シルト粒土が10%、10YR5/6(黄緑) シルト粒土が1%、炭化粒子3%、燒土粒子5%混じる。しまる。
 - 13層 10YR4/4(暗) シルト粒土に10YR3/3(暗緑) シルト粒土が20%、10YR5/6(黄緑) シルト粒土が3%、炭化粒子2%、燒土粒子1%混じる。しまる。
- 地山 墓 10YR5/6(黄緑) シルト粒土。固くしまる。
- 地山 床 10YR5/6(黄緑) シルト粒土。固くしまる。

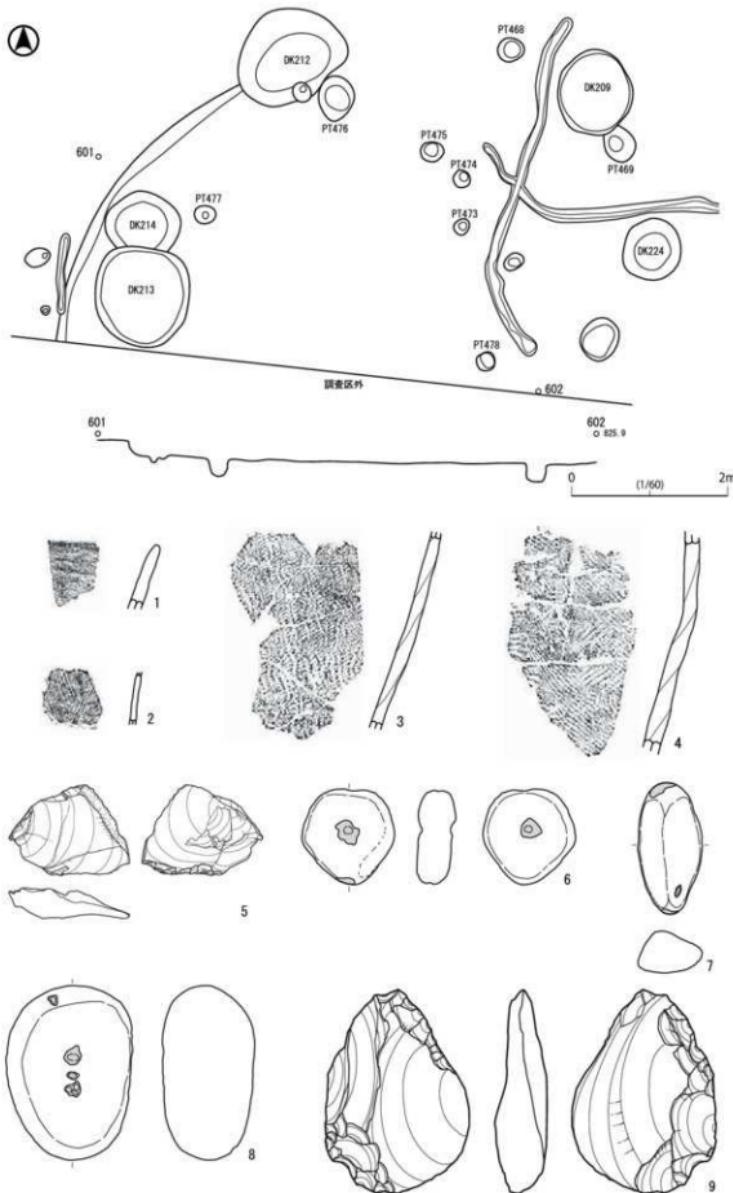
第 77 図 31 号住居跡



第78図 31号住居跡出土遺物 (1) (1/4、但し1・2は1/8、3・4は1/6)

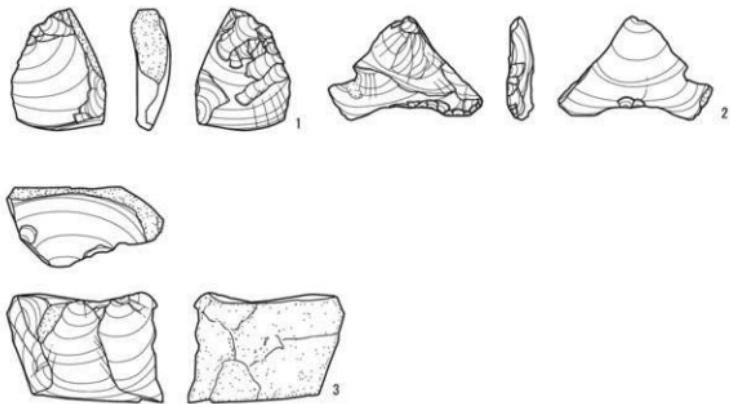


第 79 図 31 号住居跡出土遺物 (2) (1/4)

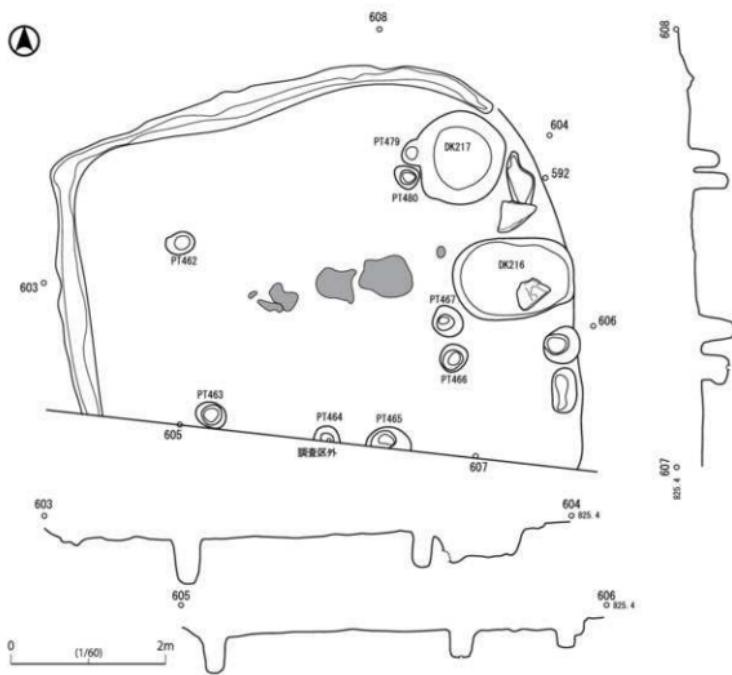


第 80 図 32 号住居跡、出土遺物 (1/4、但し 5 は 1/2、9 は 1/1)

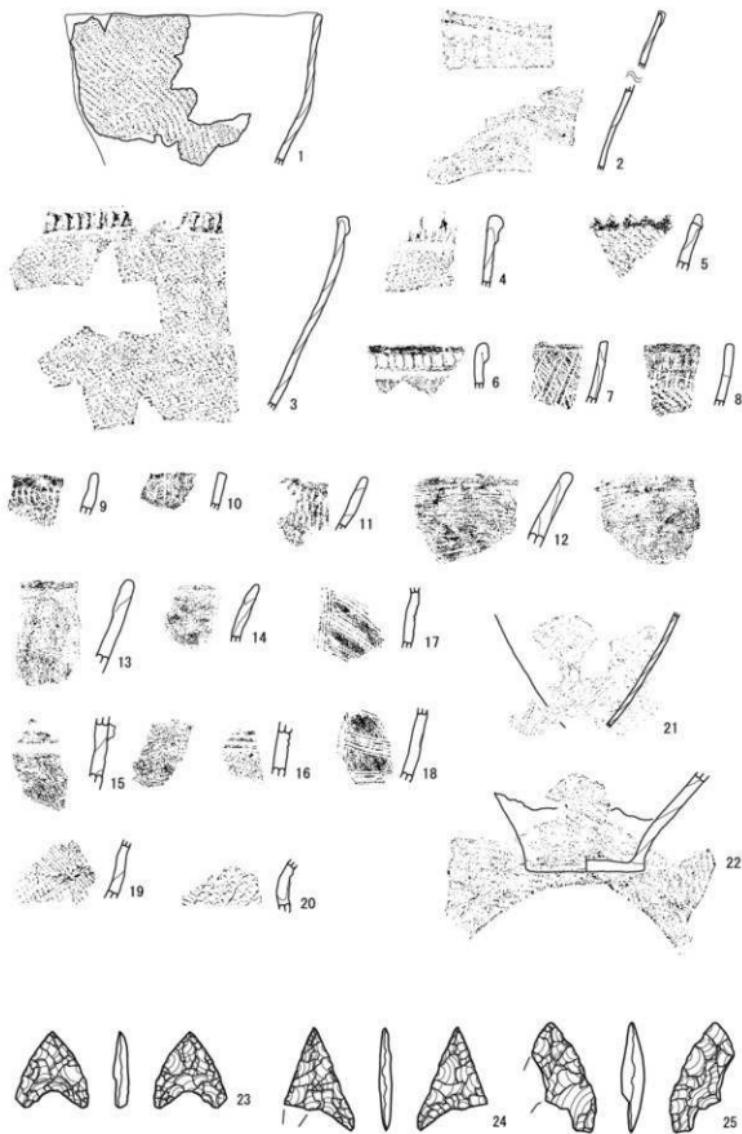
32号住居跡



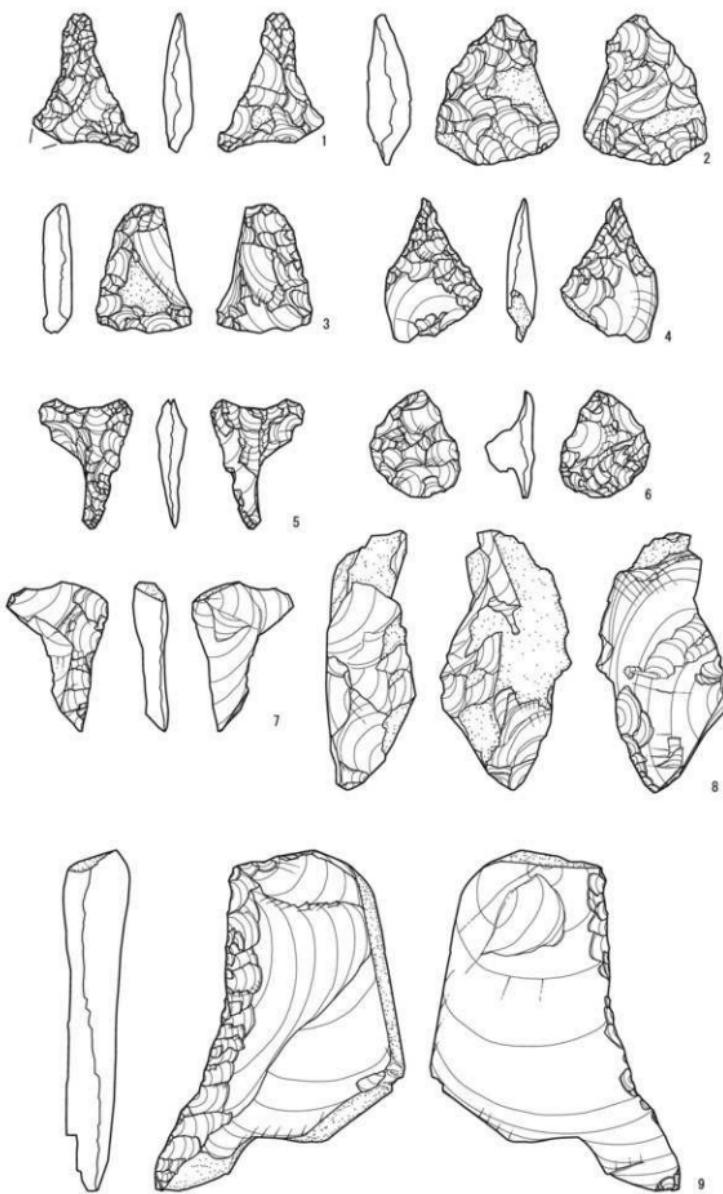
33号住居跡



第 81 図 32 号住居跡出土遺物 (2) (1/1)、33 号住居跡



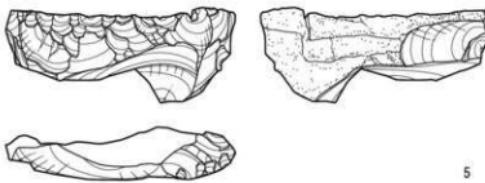
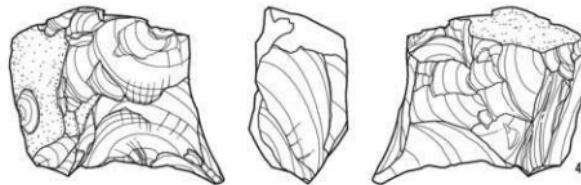
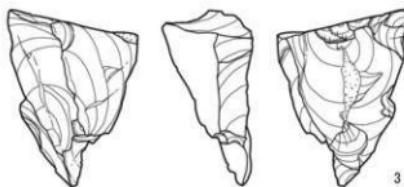
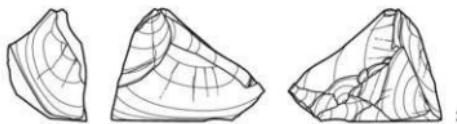
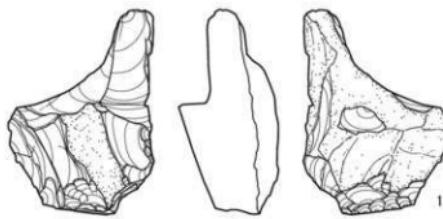
第82図 33号住居跡出土遺物 (1) (1/4、但し1・2は1/6、21は1/8、23～25は1/1)



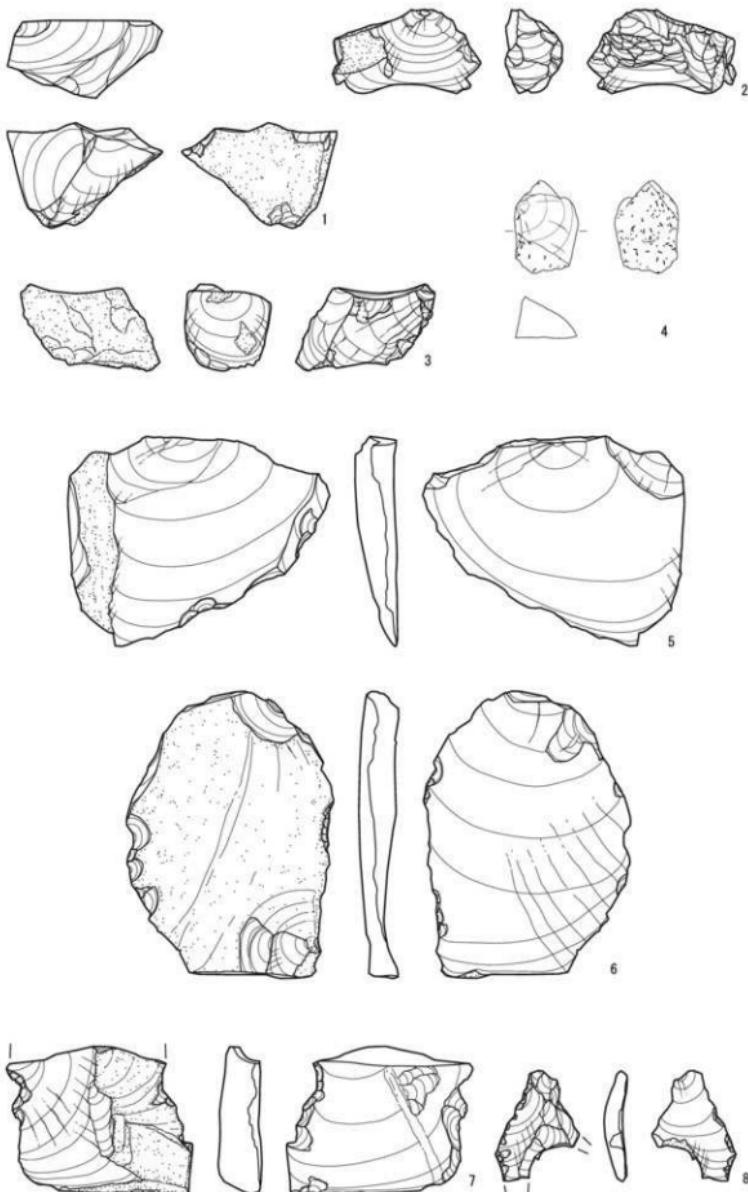
第 83 図 33 号住居跡出土遺物 (2) (1/1)



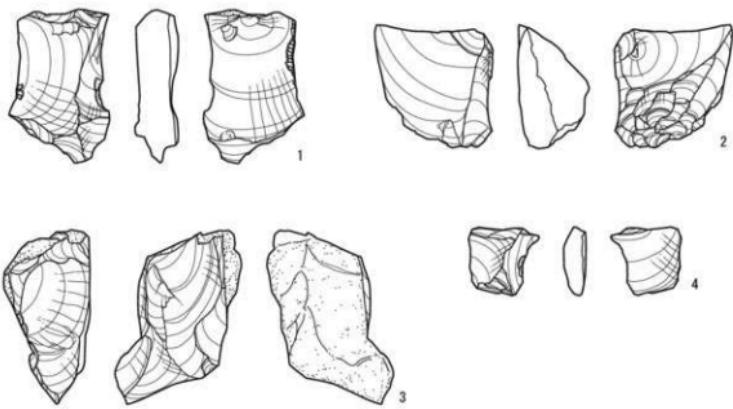
第 84 図 33 号住居跡出土遺物 (3) (1/1、但し 5 ~ 7 は 1/4)



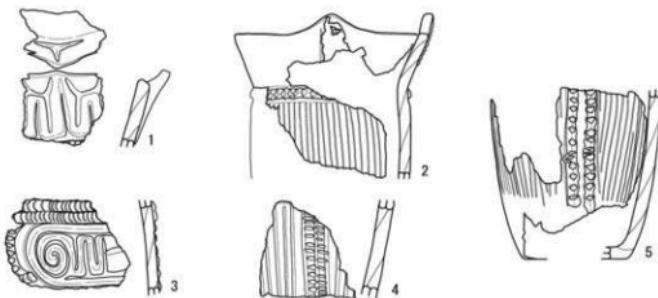
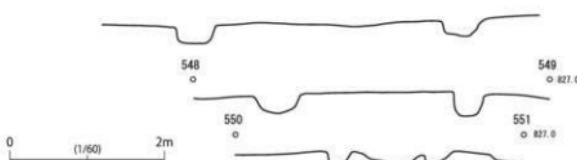
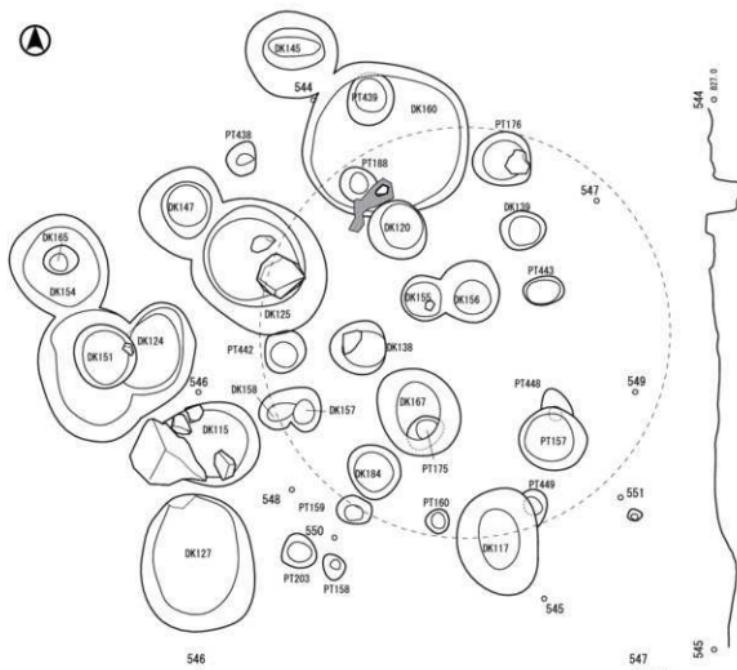
第 85 図 33 号住居跡出土遺物 (4) (1/1)



第 86 図 33 号住居跡出土遺物 (5) (1/1、但し 4 は 1/2)

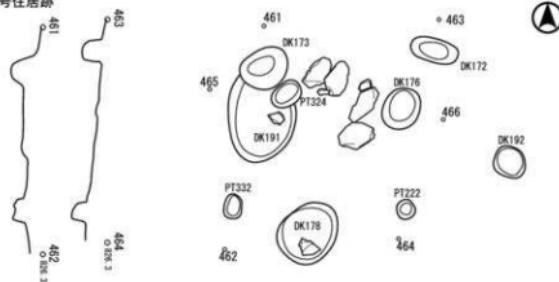


第 87 図 33 号住居跡出土遺物 (6) (1/1)

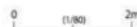
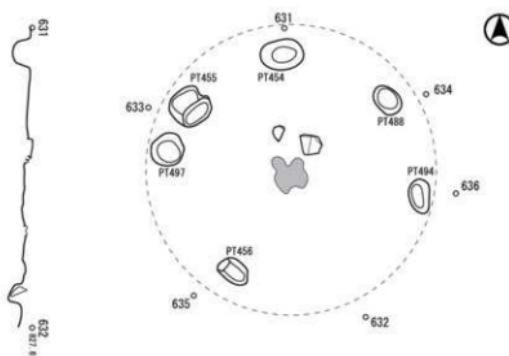


第88図 38号住居跡、出土遺物(1/4)

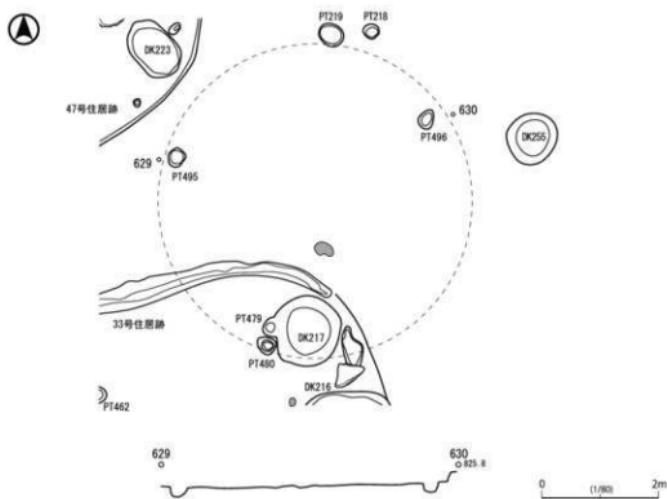
41号住居跡



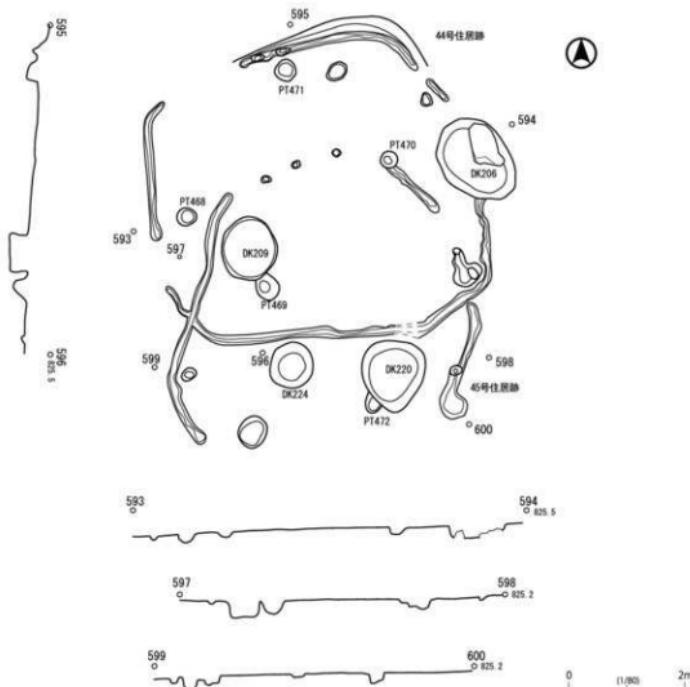
42号住居跡



第89図 41号・42号住居跡、42号住居跡出土遺物 (1/4)



第90図 43号住居跡、出土遺物 (1/6)



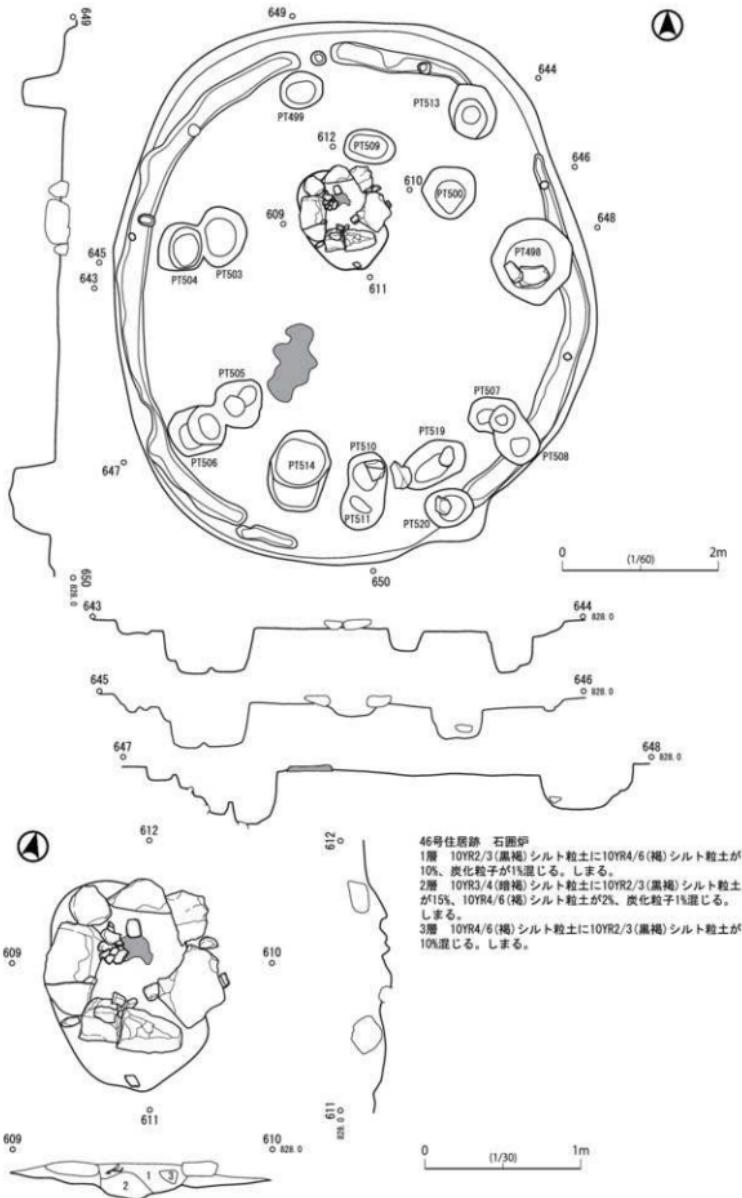
44号住居跡



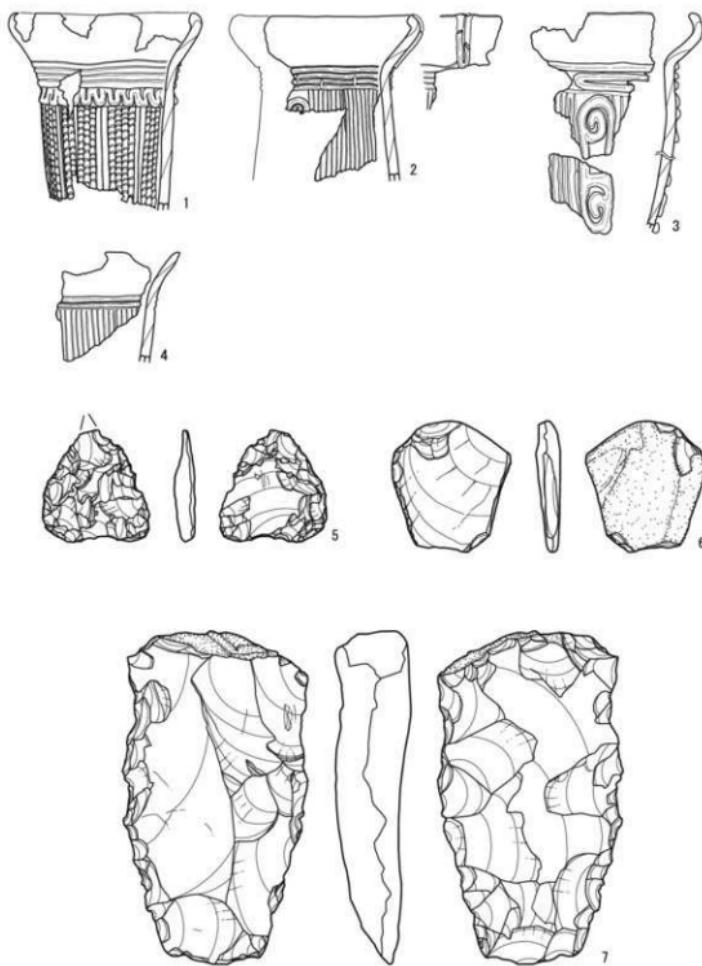
45号住居跡



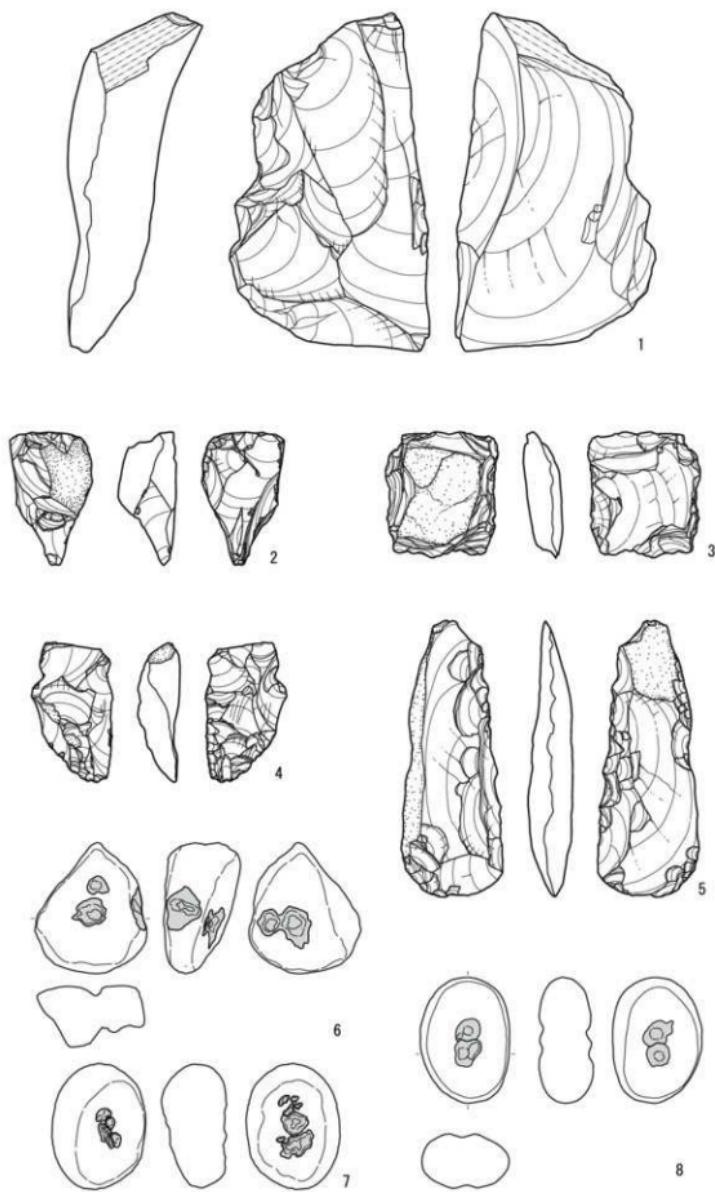
第 91 図 44 号・45 号住居跡、出土遺物 (1/4)



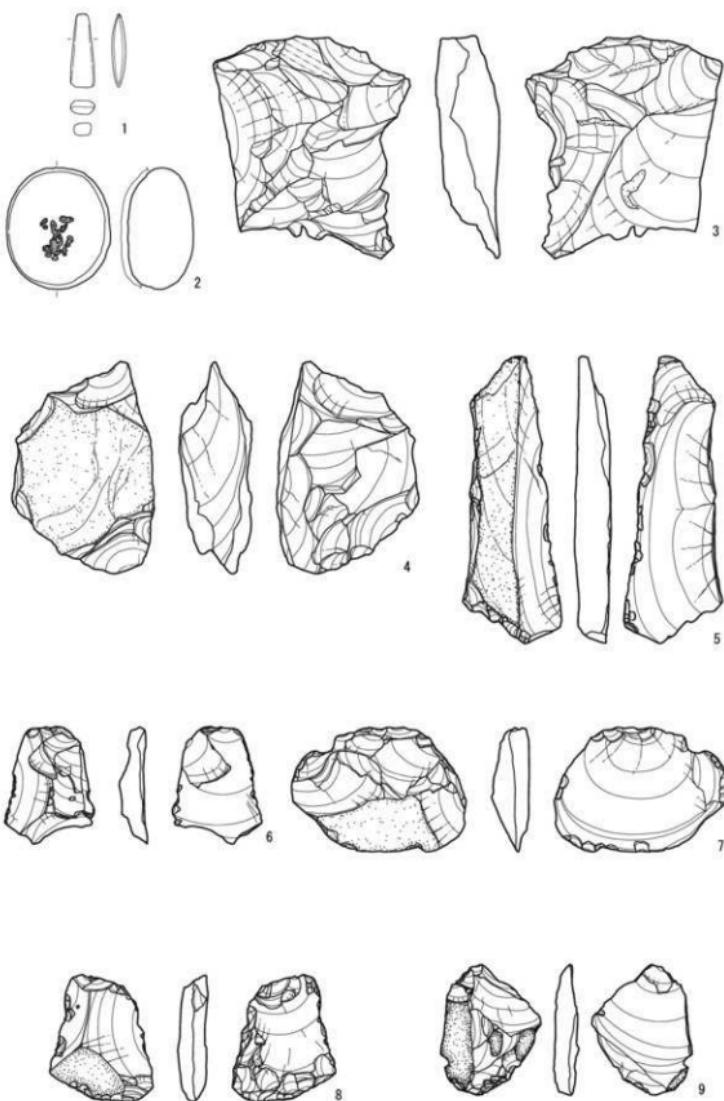
第92図 46号住居跡、46号住居跡炉



第93図 46号住居跡出土遺物 (1) (1/4、但し5・7は1/1、6は1/2)

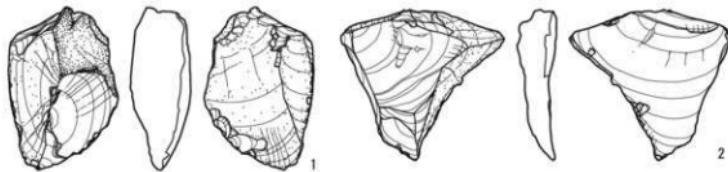


第94図 46号住居跡出土遺物 (2) (1・2・4は1/1、3・5は1/2、6～8は1/4)

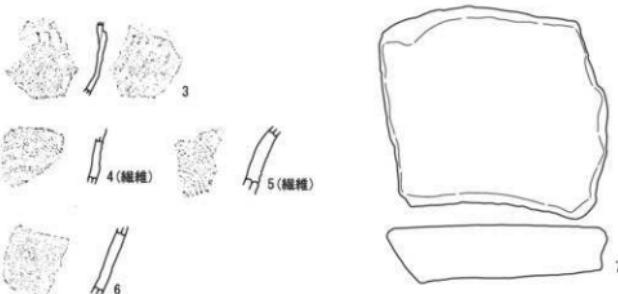
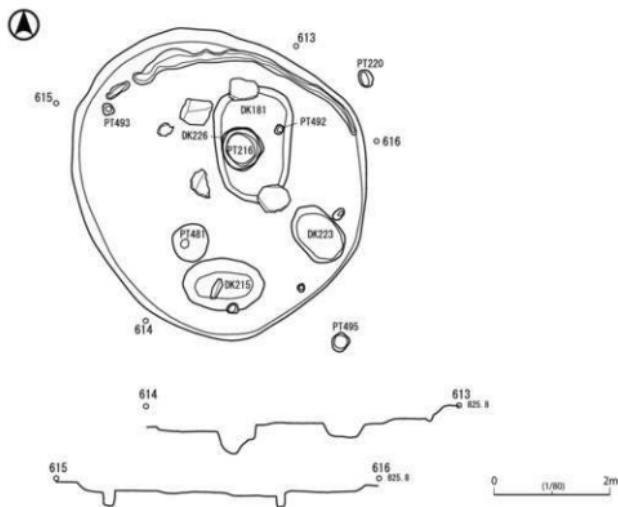


第95図 46号住居跡出土遺物 (3) (1・2は1/4、3・6・8は1/1、4・5・7・9は1/2)

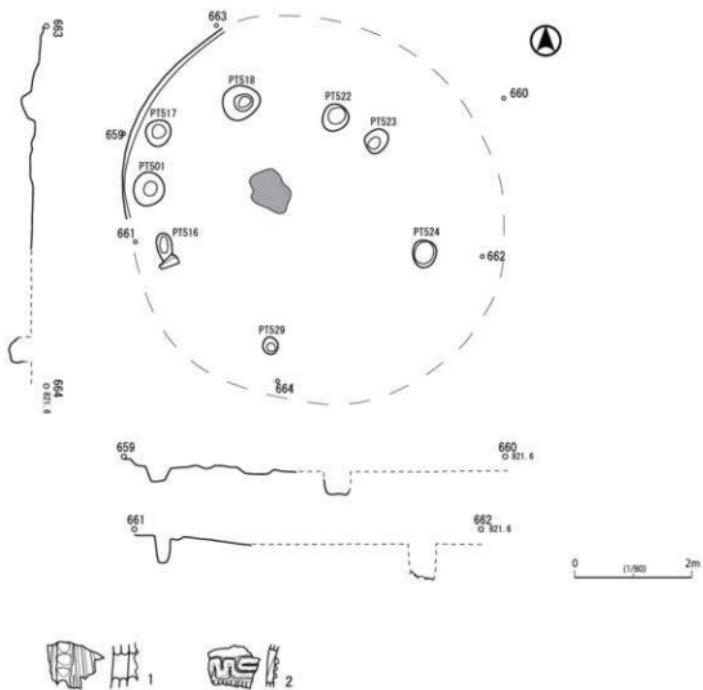
46号住居跡



47号住居跡

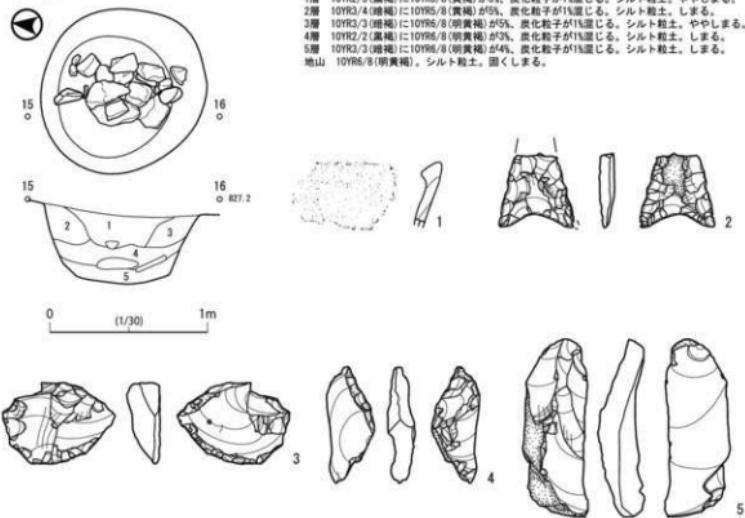


第96図 46号住居跡出土遺物(4)(1/2)、47号住居跡、出土遺物(1/4、但し7は1/10)

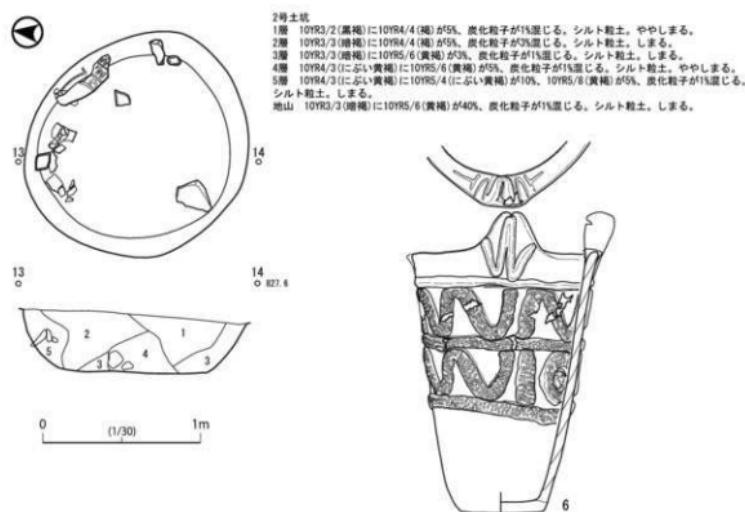


第97図 48号住居跡、出土遺物 (1/4)

1号土坑

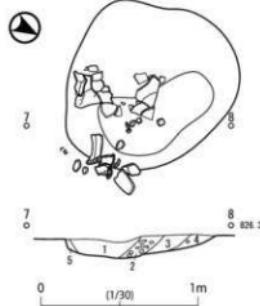


2号土坑



第98図 1号・2号土坑、出土遺物 (1/1、但し1は1/4、6は1/6)

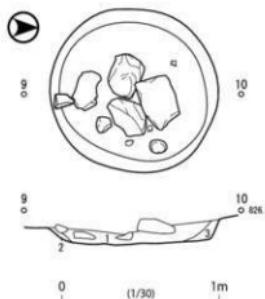
4号土坑



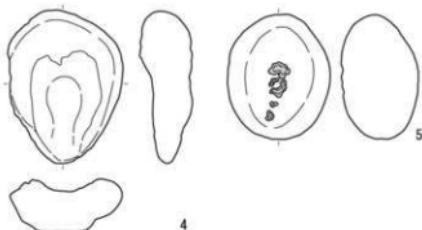
4号土坑



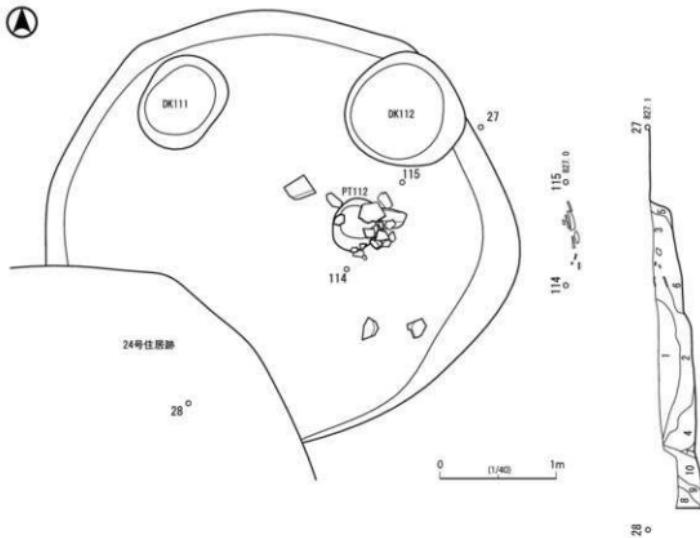
5号土坑



5号土坑
1層 10YR3/4(暗褐色)に10YR6/8(明黄褐色)が5%。炭化粒子が2%混じる。シルト粘土。ややしまる。
2層 10YR4/4(褐色)に10YR5/5(黃褐色)が7%混じる。シルト粘土。しまる。
3層 10YR4/6(褐色)に10YR6/8(明黄褐色)が7%。炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
地山 10YR6/8(明黄褐色)。シルト粘土。固くしまる。

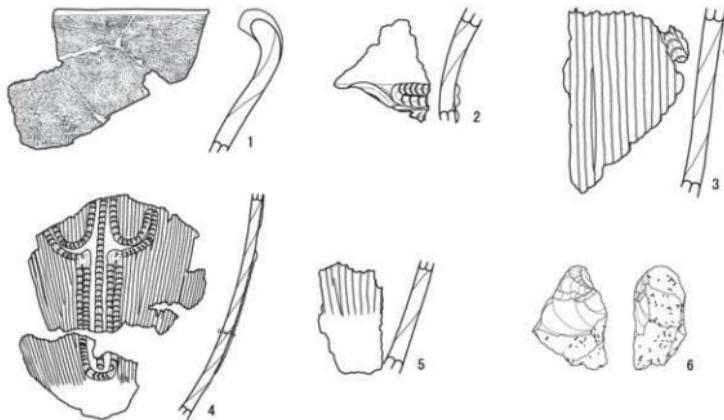


第99図 4号・5号土坑、出土遺物 (1/4、但し1は1/8、2は1/6)



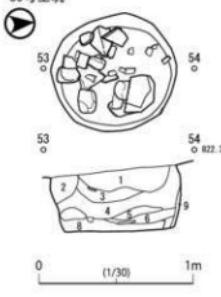
8号土坑・24号住居跡

- 1層 (DK8) 10YR4/3(赤褐色)に10YR4/4(黒)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
 - 2層 (DK8) 10YR2/3(暗褐色)に10YR4/4(黒)が2%、10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
 - 3層 (DK8) 10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐色)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
 - 4層 (DK8) 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐)が10%、10YR5/6(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
 - 5層 (DK8) 10YR4/4(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が20%、10YR5/6(黄褐色)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
 - 6層 (DK8) 10YR2/3(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が2%、炭化粒子が2%混じる。シルト粘土。ややしまる。
 - 7層 (DK8) 10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。
 - 8層 (PJ24) 10YR4/4(褐)に10YR4/4(こぶし状黄褐色)が20%、10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化粒子が1%、僕土が1%混じる。シルト粘土。しまる。
 - 9層 (PJ24) 10YR4/5(こぶし状黄褐色)に10YR4/4(褐)が1%，10YR5/6(黄褐色)が2%、炭化粒子が1%、僕土が1%混じる。シルト粘土。しまる。
 - 10層 (P-24) 10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化粒子が1%、僕土が1%混じる。シルト粘土。しまる。
- 地山 塵 10YR5/6(黄褐色)に10YR4/4(褐)が10%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 地山 泥 10YR5/8(黄褐色)。シルト粘土。固くしまる。

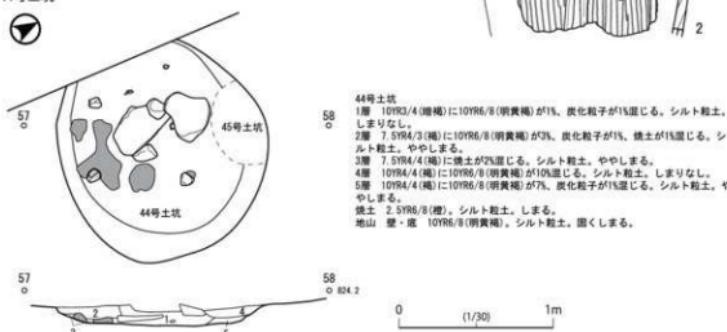


第100図 8号土坑、出土遺物 (1/4、但し4は1/6、6は1/2)

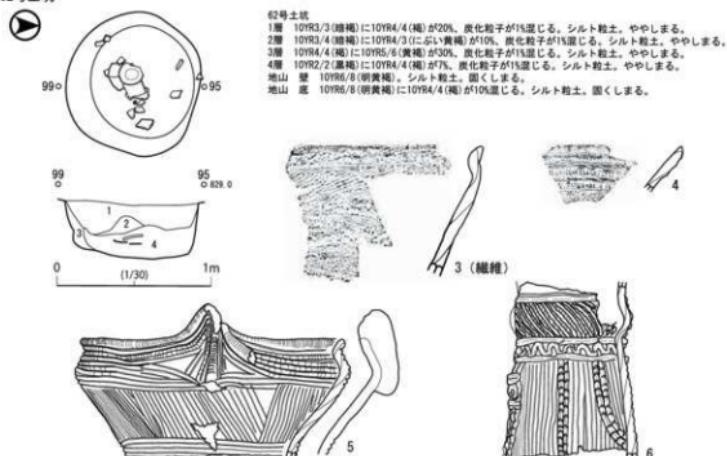
39号土坑



44号土坑

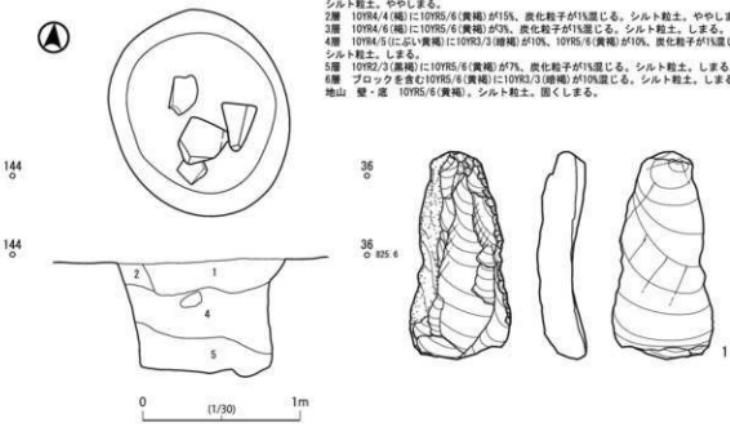


62号土坑

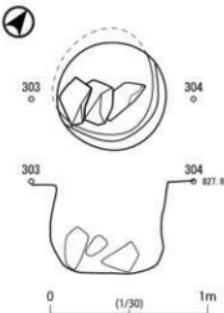


第101図 39号・44号・62号土坑、出土遺物 (1/4、但し1は1/6)

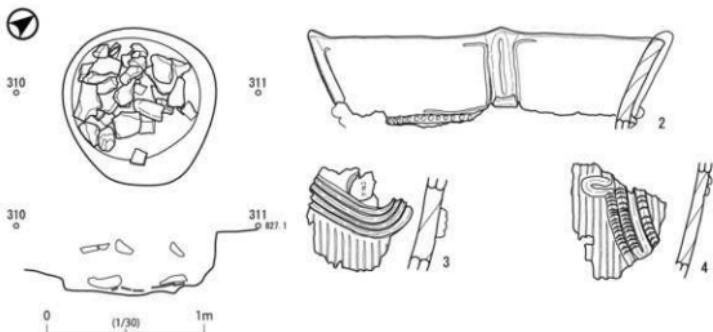
72号土坑



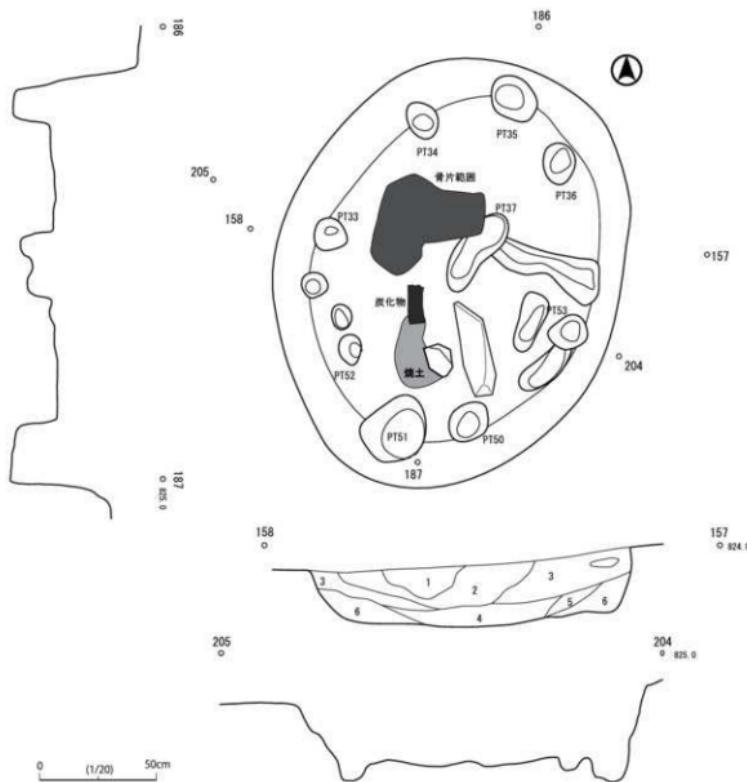
97号土坑



112号土坑



第102図 72号・97号・112号土坑、出土遺物 (1は1/1、2は1/6、3・4は1/4)



77号土坑

1層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐)が1%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。

2層 10YR3/4(暗褐色)に10YR4/4(褐)が1%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。

3層 10YR3/4(暗褐色)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。

4層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/2(褐)が1%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。

5層 10YR3/2(暗褐色)に10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。

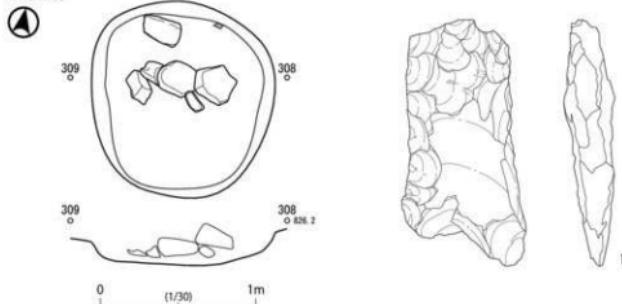
6層 10YR4/3(ふじく)に10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。

7層 10YR5/6(黄褐)のブロック。

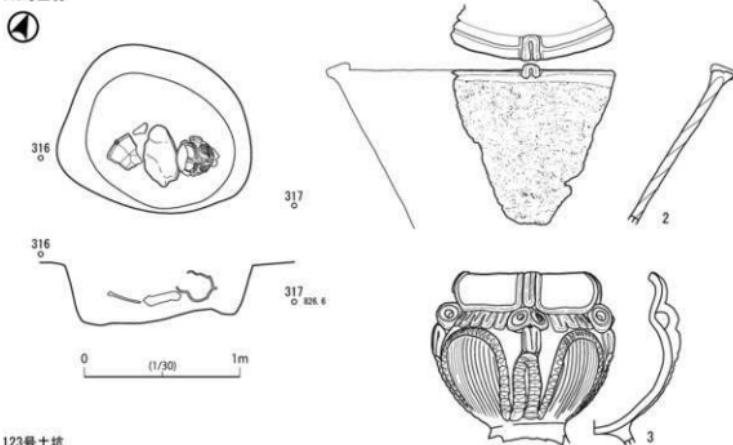
地山 登・底 10YR5/6(黄褐)。シルト粘土。固くしまる。

第103図 77号土坑、出土遺物 (1は1/4、2は1/1)

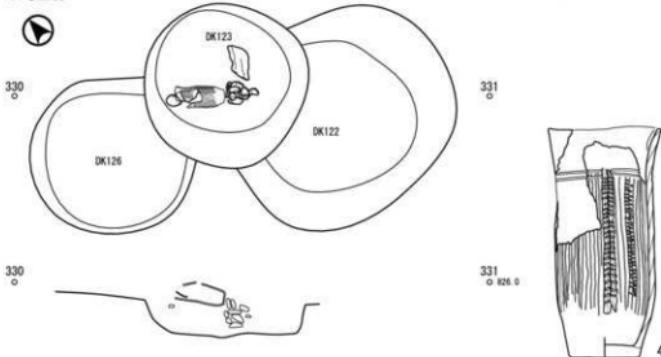
113号土坑



119号土坑

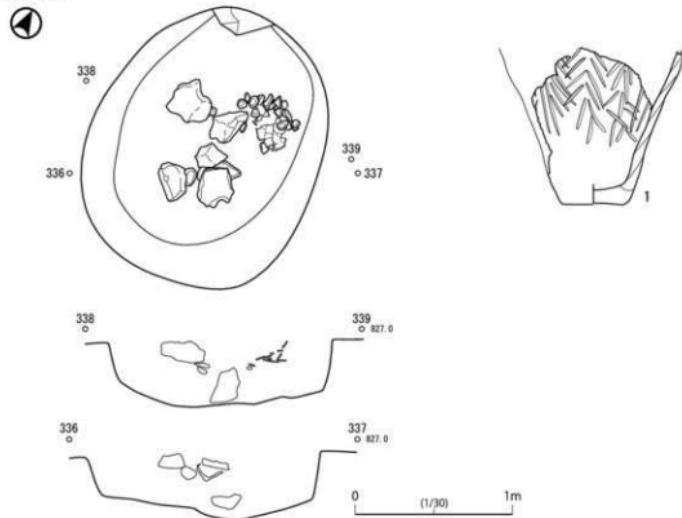


123号土坑

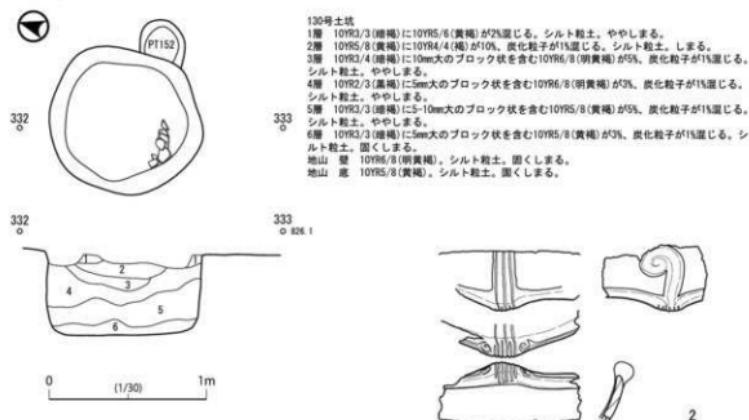


第104図 113号・119号・123号土坑、出土遺物(1/6、但し1は1/2)

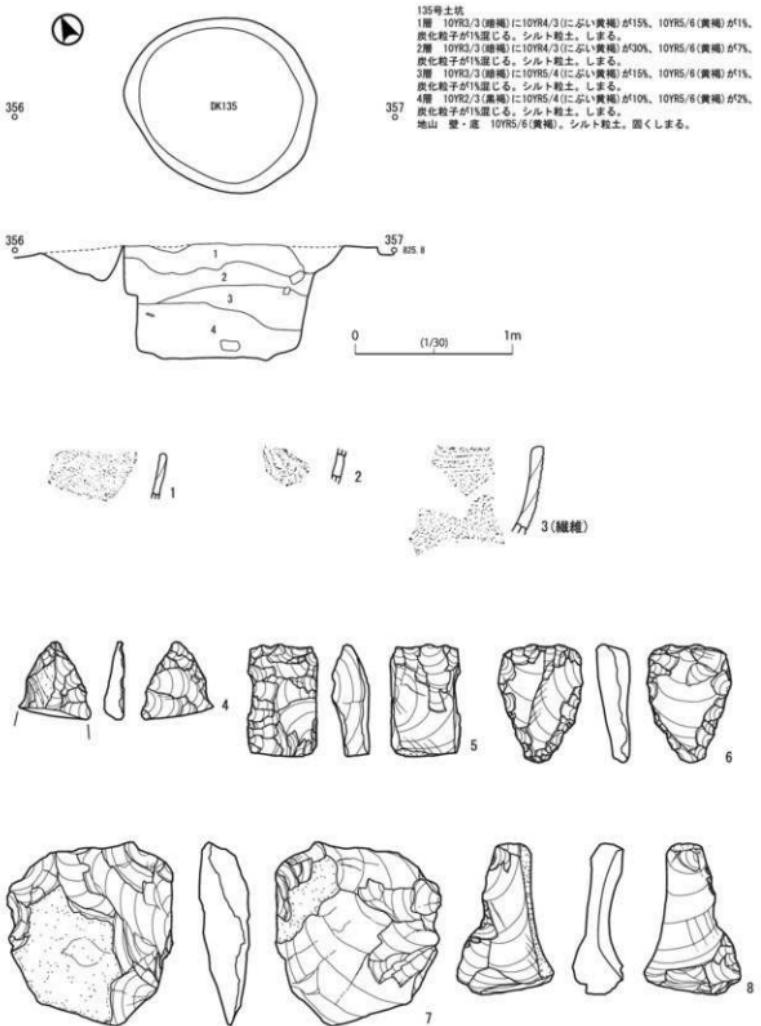
127号土坑



130号土坑

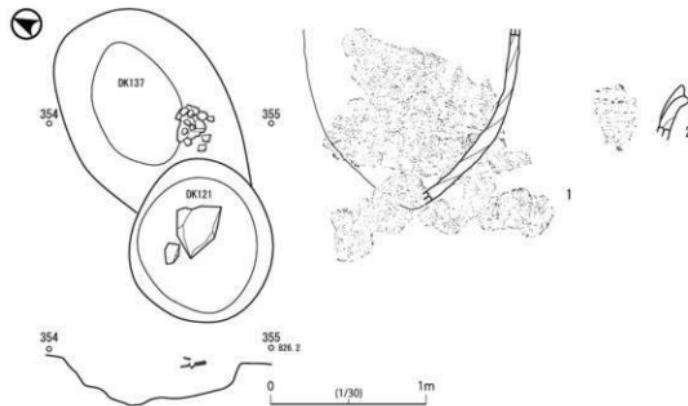


第 105 図 127 号・130 号土坑、出土遺物 (1/6)

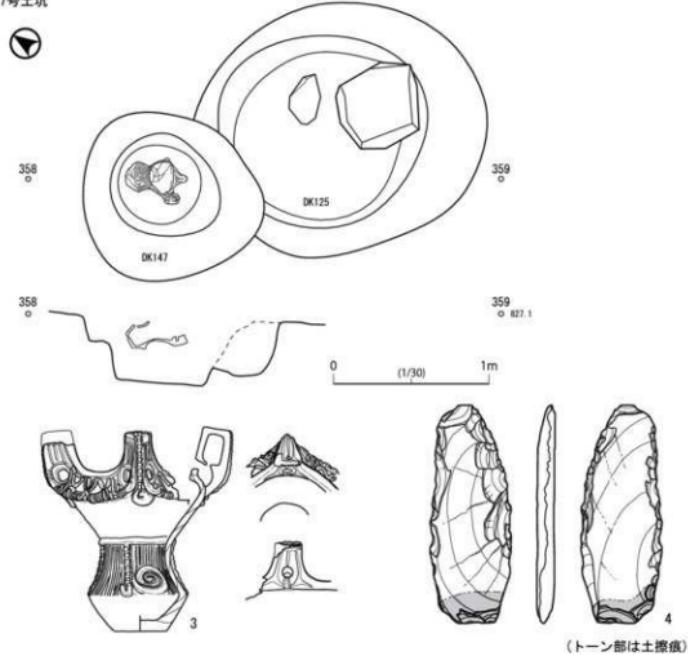


第106図 135号土坑、出土遺物 (1~3は1/4、4~8は1/1)

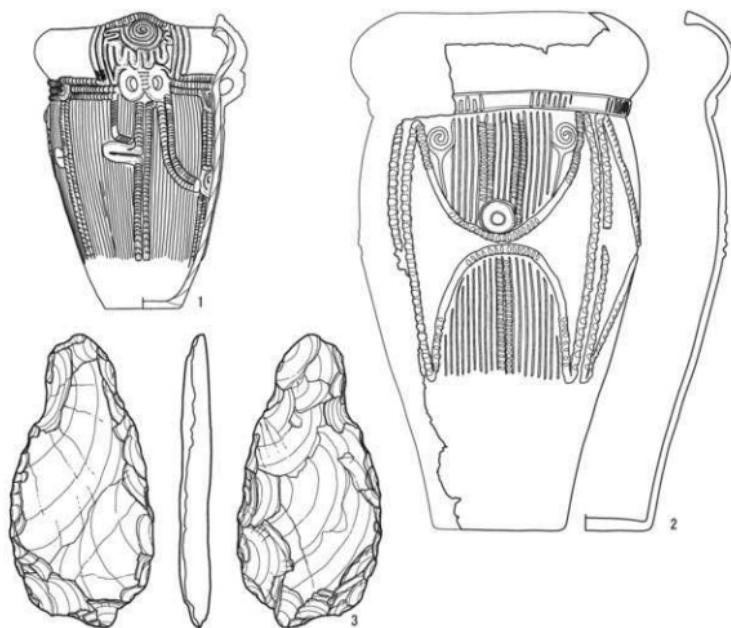
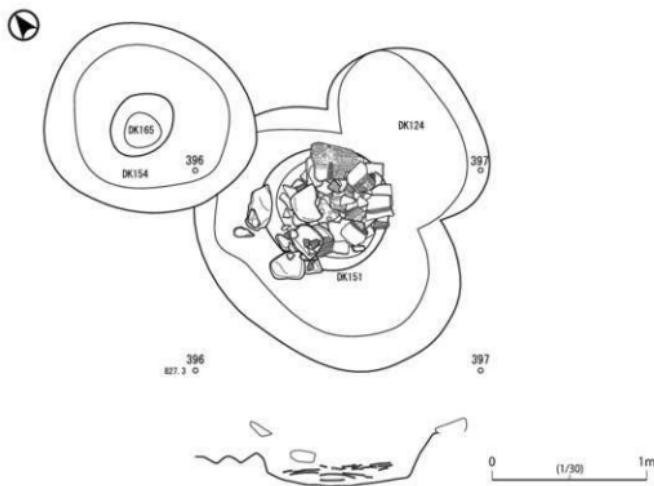
137号土坑



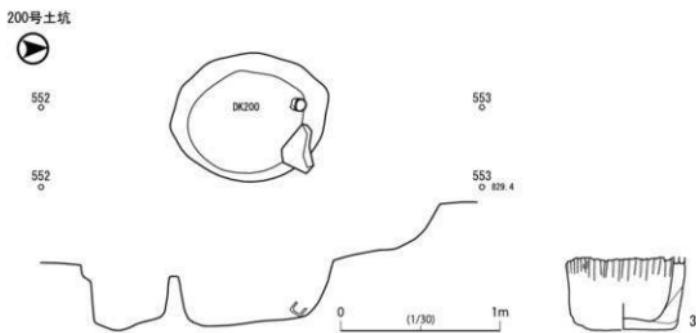
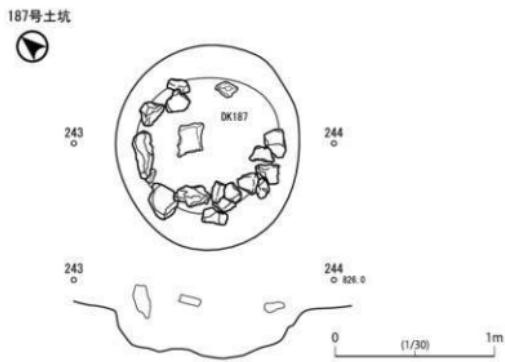
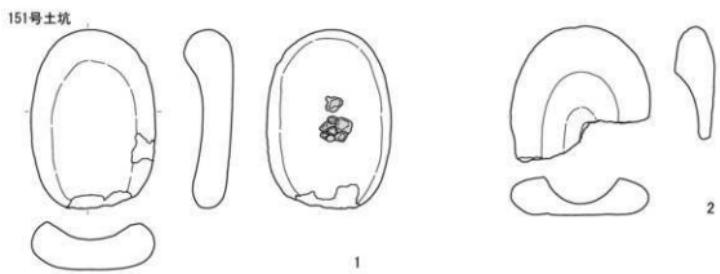
147号土坑



第107図 137号・147号土坑、出土遺物 (1は1/6、2は1/4、3は1/8、4は1/2)

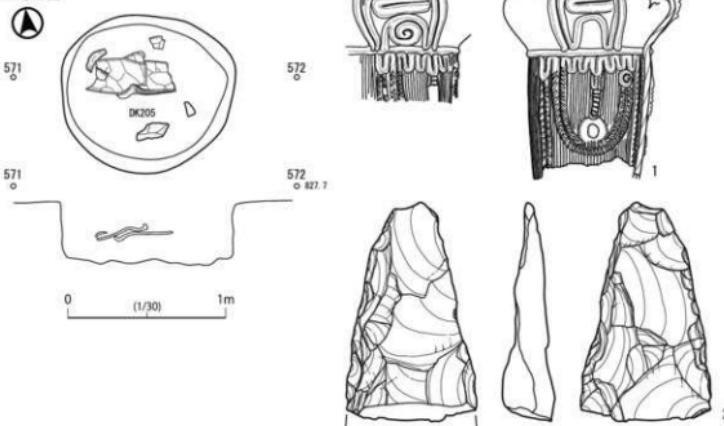


第 108 図 151 号土坑、出土遺物 (1/8、但し 3 は 1/2)

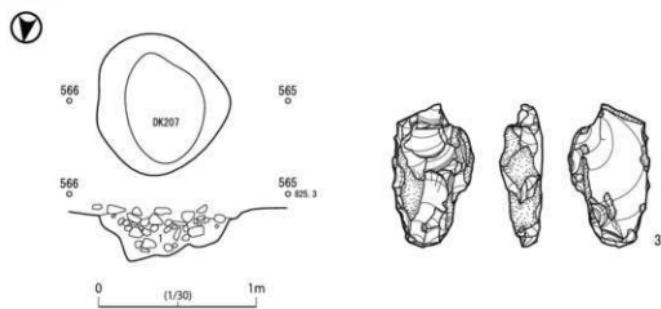


第109図 151号土坑出土遺物(1は1/4、2は1/8)、187号・200号土坑、出土遺物(1/4)

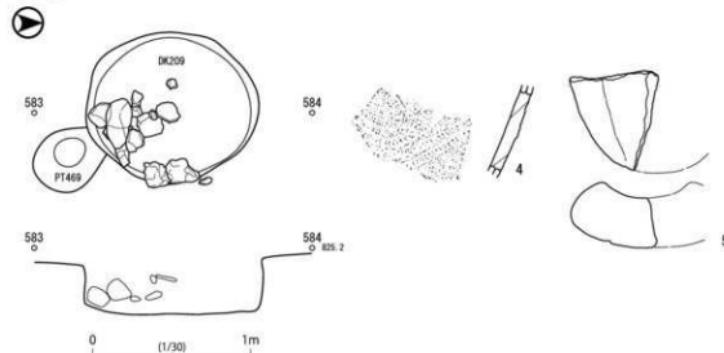
205号土坑



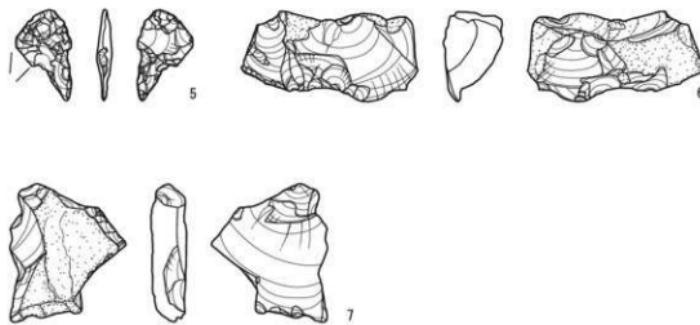
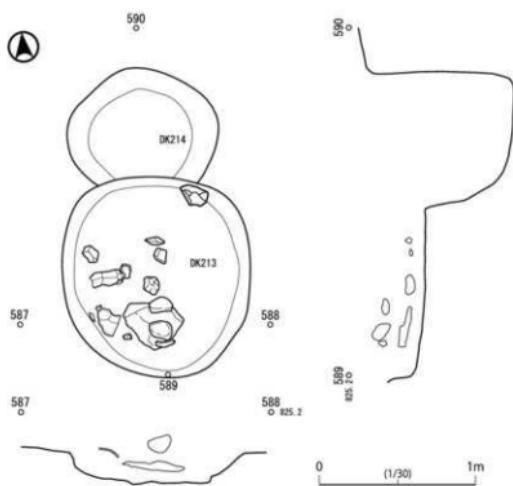
207号土坑



209号土坑

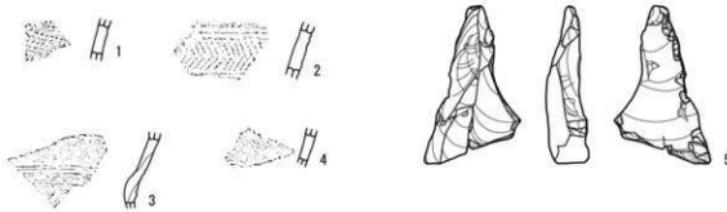


第110図 205号・207号・209号土坑、出土遺物 (1/8、但し2は1/2、3は1/1、4は1/4)

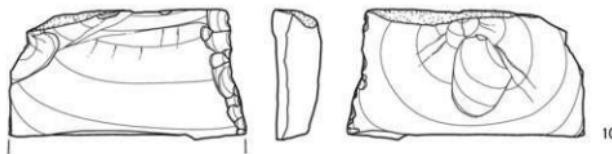
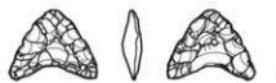
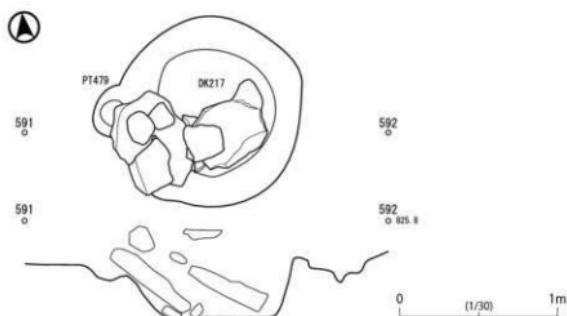


第 111 図 213 号・214 号土坑、213 号土坑出土遺物 (1 は 1/8、2 ~ 4 は 1/4、5 ~ 7 は 1/1)

214号土坑

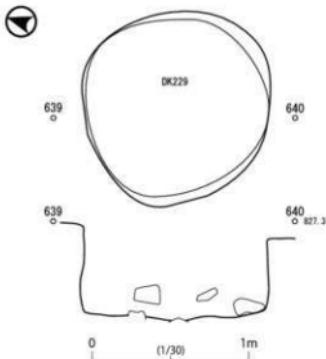


217号土坑

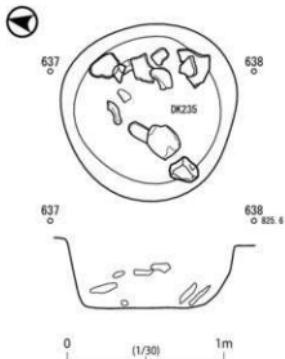


第112図 214号土坑出土遺物(1/4、但し5は1/1)、217号土坑出土遺物(1/4、但し9・10は1/1)

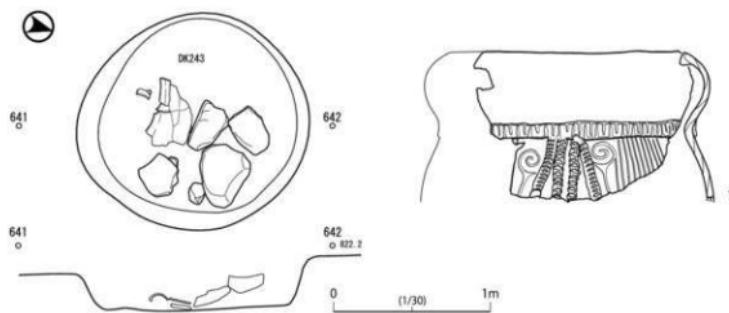
229号土坑



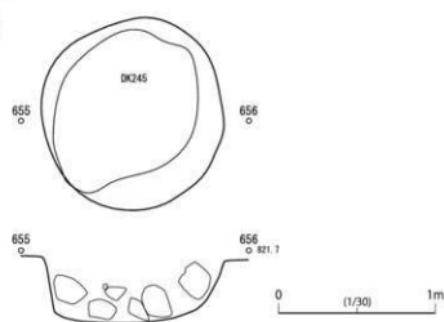
235号土坑



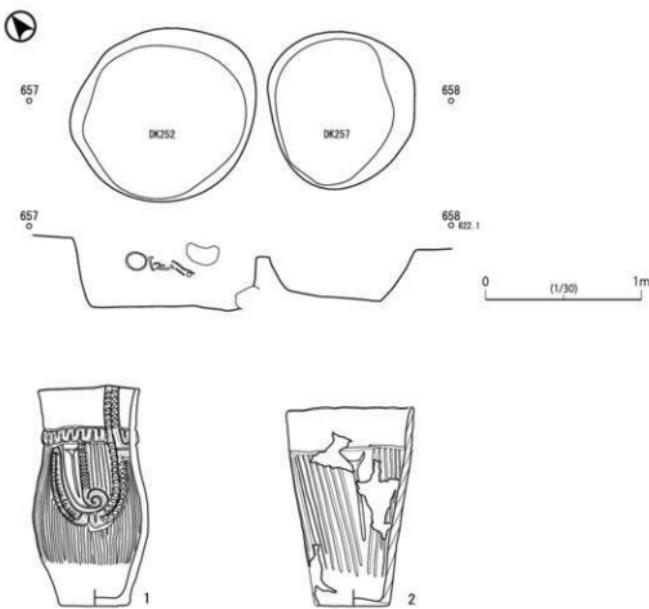
243号土坑



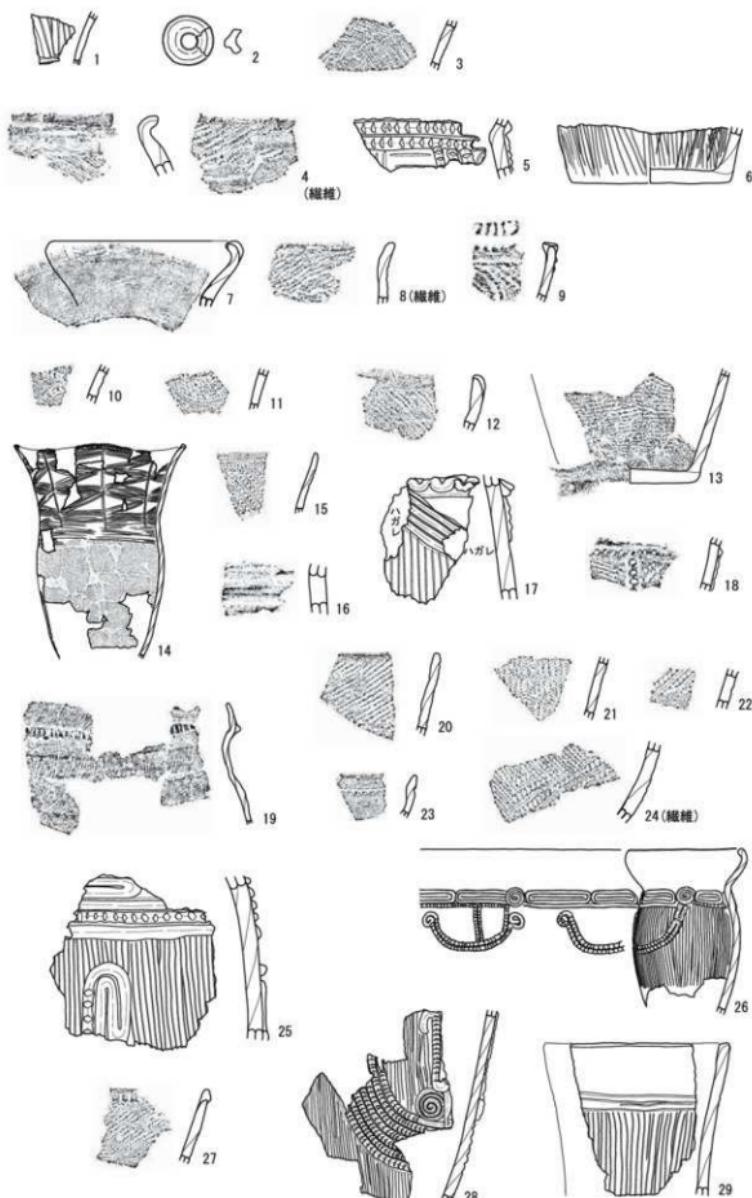
245号土坑



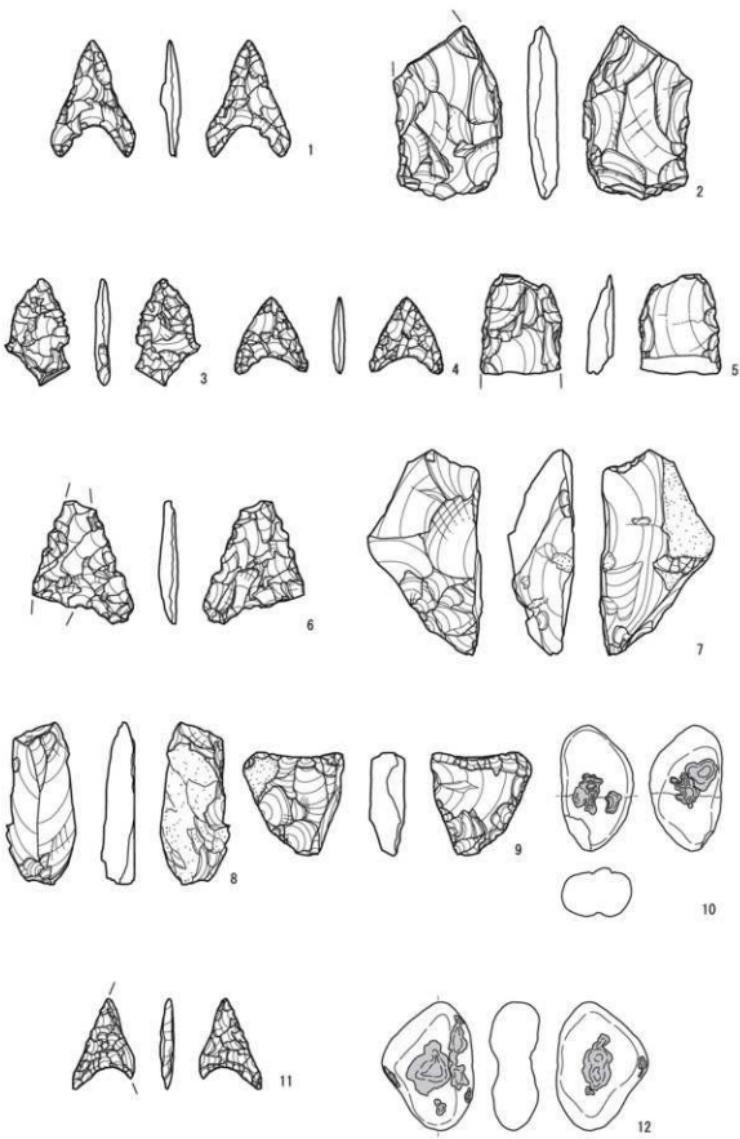
第113図 229号・235号・243号・245号土坑、出土遺物 (1/8)



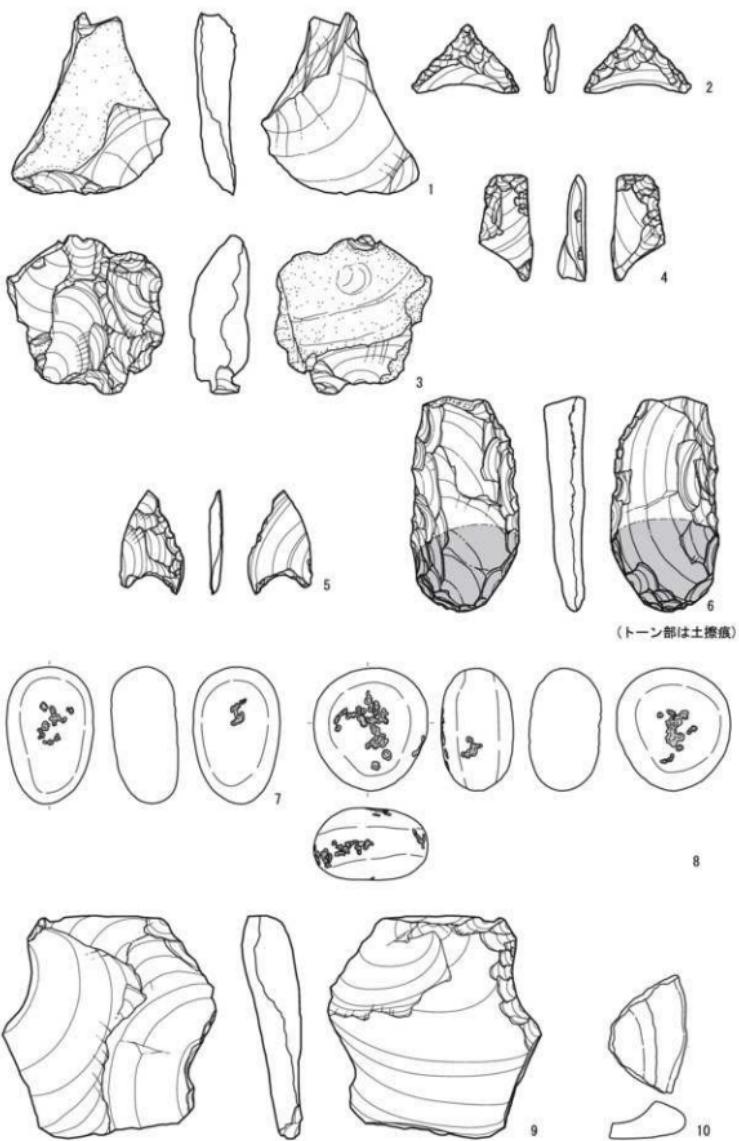
第 114 図 252 号土坑、出土遺物 (1/6)



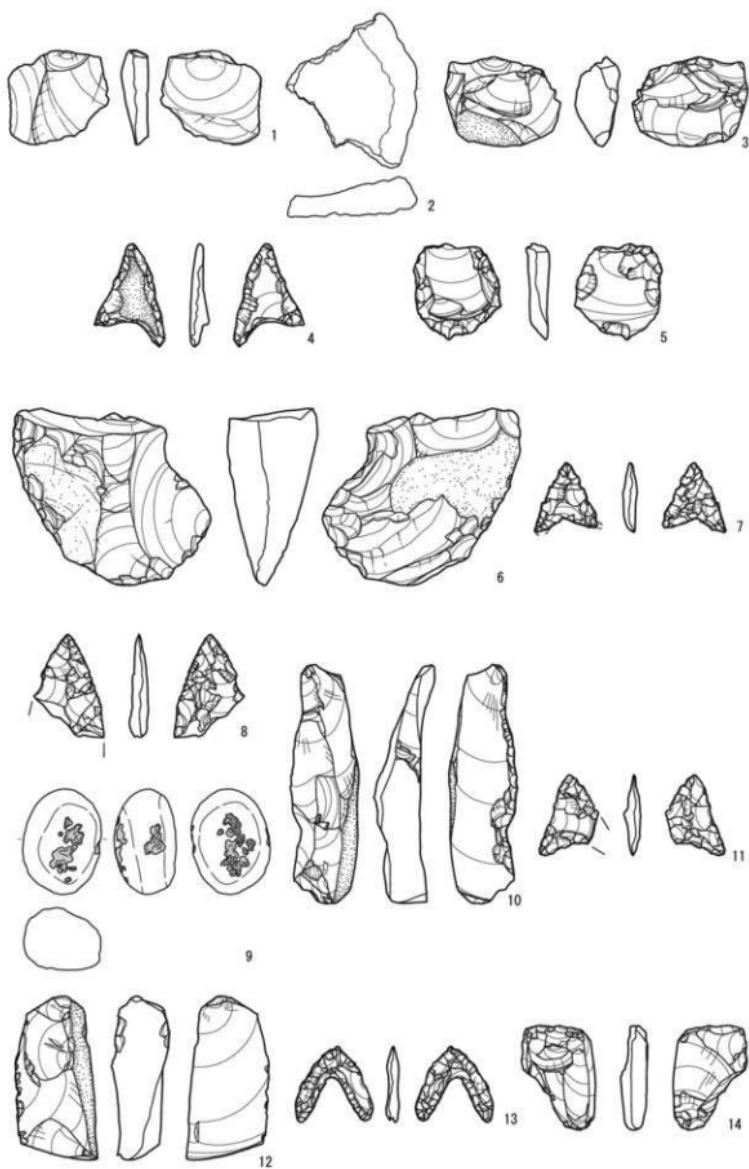
第 115 図 その他の土坑出土遺物(1) (1/4、但し 14 は 1/8、26・28 は 1/6)



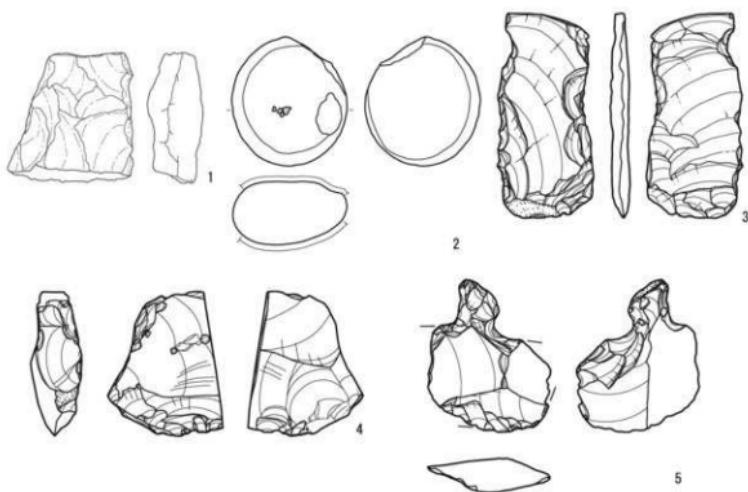
第 116 図 その他の土坑出土遺物(2) (1/1、但し 2・5 は 1/2、10・12 は 1/4)



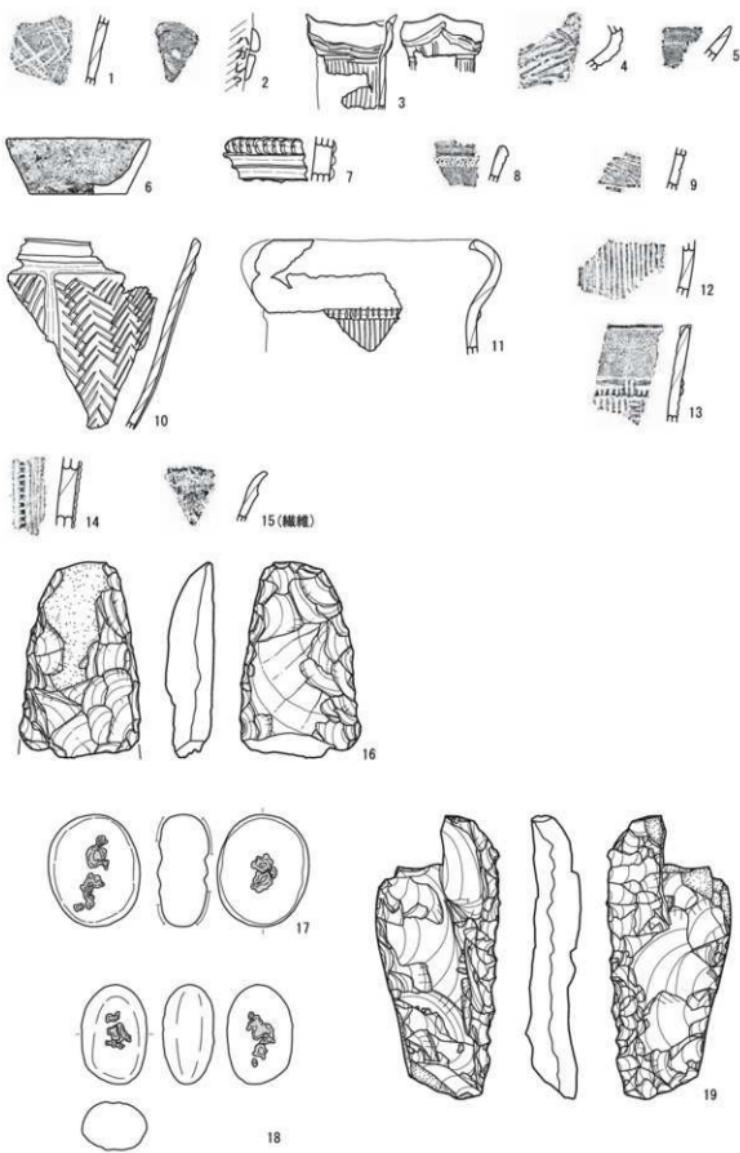
第117図 その他の土坑出土遺物(3) (1/1、但し1・6は1/2、7・8は1/4、10は1/8)



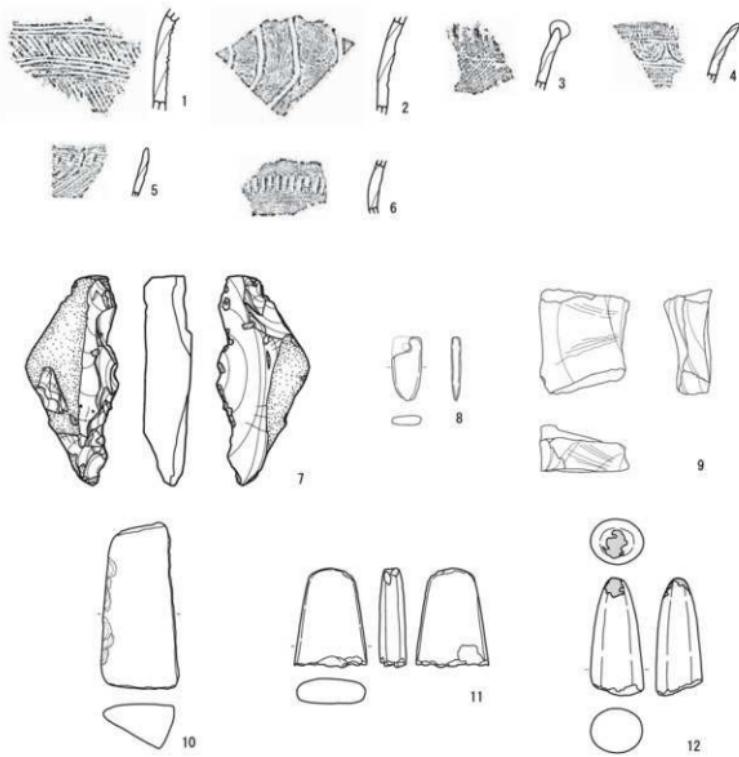
第 118 図 その他の土坑出土遺物(4) (1/1、但し 2 は 1/8、9 は 1/4)



第 119 図 その他の土坑出土遺物(5) (1・3 は 1/2、2 は 1/4、4・5 は 1/1)



第120図 ピット出土遺物 (1/4、但し10は1/6、16は1/2、19は1/1)



第 121 図 その他の遺構・試掘溝・遺構外出土遺物 (1/4、但し 7 は 1/1、8・9 は 1/2)

第1節 対象資料と所見の記載方法

北杜市教育委員会より委託を受けた山崎第4遺跡の石器属性分析と観察所見を、以下に報告する。

分析対象としたのは、住居・土坑・ピットおよび構造外から出土した剥片石器資料698点である。さらにその中から、時期が明瞭な280点を選別し図化した。属性表には非図化資料418点を含め、器種・石材・刃部加工と成形・整形加工を記入し、特記事項については所見に記述した。確認された器種は、石鎌、尖頭器、石錐、石匙、石斧、石核、原石、垂飾品である。小型剥片の内、押圧剥離による平坦剥離がみられる場合は、石鎌と認定し、所見に未製品と記載した。石匙は、明瞭な摘み部を有する石器である。縦形と横形石匙に大きく分かれる。不整形な摘み部が作出されていると判断した場合、粗製石匙として分類した。非常に小さな場合はミニチュア石匙とした。削器は連続的な加工で刃部が作出されている石器であるが、刃部が素材の鋭い刃で、微小剥離痕があり、加工が器体の整形の場合は、素刃削器とした。使用痕剥片は、微小剥離痕がみられ、加工が無い剥片である。微小剥離痕が頗著でない場合は剥片とした。両面加工石器は、正反方向の加工で全体を整形し、器種が特定できない場合は指す。両極石器は、第1表では統一して記載してあるが、属性表ではボジ面が残されている場合は両極剥片とした。加工がみられるが、形状が不明瞭な場合は石器未製品と分類した。

なお、土坑から出土した石器は表3のとおりである。特定の土坑に器種が偏る傾向は窺われなかった。

第2節 使用痕分析

【33号住居跡】

33号住居跡は中越式期の住居である。この住居から出土した剥片石器は、石鎌・石錐・石匙・削器・使用痕剥片・両極石器・剥片・石核である。

図版1-1（第2章第87図1、以下カッコ内は第2章の図版番号を示す）は、使用痕剥片である。左辺に微小剥離痕（写真1）がみられる。高倍率下では、それほど頗著でないが、線状痕がみられる（写真2、3）。ただし方向に一定性がなく、使用によって生じたかは判断できない。図版1-2（第84図4）は、削器である。両側辺に肉眼でも頗著な摩滅がみられる（写真4、5）。高倍率下では黒曜石ガラス質本来の面が失せている（写真6）。写真7はその境界部分であり、摩滅した部分とガラス質部分の差が明瞭にみられる。被加工物は、硬いもの、もしくは頗著な研磨を発生させる被加工物が想定される。線状痕は平行方向であるので、切断する操作が考えられる。図版1-3（第84図4）は、横形石匙である。反方向からの押圧剥離で刃部を整形し、縁辺には微小剥離痕がみられる（写真8、9）。高倍率下では光沢と摩滅がみられた（写真10、11、12）。頗著な摩滅ないので、被加工物はそれほど硬くないと思われる。図版1-4（第84図1）と5（第83図9）は、削器である。押圧剥離で刃部を整形し縁辺には微小剥離痕がみられる（写真13、14）。質の粗い石材のため、高倍率下では使用痕は確認できなかった。

縄文時代前期前半が主体の住居（表1）からは、石鎌が比較的多く、これに石匙・削器・使用痕が加わる。打製石斧の出土はほとんどない。石材（表2）は黒曜石が大半で、石鎌に結びつく。頁岩・凝灰岩は比較的質の粗くないものが用いられている。

【1号住居跡】

1号住居跡は諸磯a～b2式期の住居である。この住居から出土した剥片石器は、石鎌・尖頭器・石錐・石匙・削器・使用痕剥片・石鎌・両極石器・石器未製品・剥片・石核である。

図版2-1（第12図2）は、小型の横形石匙である。刃部は両面加工で、摘み部は急角度に加工している。刃部に平行方向の線状痕がみられる（写真3）。2（第11図7）は、両面加工石器である。押圧剥離と思わ

れる加工で刃部・形態が整形されている（写真4、5）。形状から石箇と思われる。高倍率下では使用痕は確認できなかった。縁辺に微小剥離痕が顕著でないので、未使用もしくは製作途中であった可能性もある。3(第12図3)は、粗製の石匙である。急角度の加工で不整の摘みが左辺に作出されている。加工のない素刃の刃部で、微小剥離痕も顕著でない。また刃部に平行方向の線状痕がみられるが（写真6）、表面にはみられない（写真7）。ここから比較的柔らかい被加工物を切断した用途が窺える。

諸磯式期が主体の住居からは、石鐵が比較的多く、これに石匙・削器・使用痕剥片が加わる（表1）。また打製石斧の出土はみられなかった。石材（表2）は黒曜石が大半で、石鐵に結びつく。頁岩・凝灰岩は比較的質の粗くないものが用いられている。

【17号住居跡】

17号住居跡は曾利I・II式期の住居である。この住居から出土した剥片石器は、石鐵・石匙・削器・使用痕剥片・打製石斧・両極石器・石器未製品・剥片・石核である。

図版3-1（第47図8）は、使用痕剥片である。刃部に平行方向の線状痕がみられる（写真1）。図版3-2（第45図1）は、削器である。反方向からの押圧剥離で刃部を整形している（写真2）。高倍率下では使用痕は確認できなかった（写真3）。図版3-3（第45図4）は、削器である。押圧剥離で鉗歯状の刃部を整形している。高倍率下では光沢と摩滅が確認できた（写真4）。表面にはこうした光沢などはみられなかった（写真5）。図版4-1（第46図1）の打製石斧には、土擦痕が確認できた（写真6）。図版4-2（第45図10）は、粗製石材の縦形石匙である。素刃であり、微小剥離痕がみられる（写真7）。図版4-3（第45図11）は、粗製石材の横形石匙である。不明瞭な摘み部が作出されている。刃部は反方向からの押圧剥離で鉗歯状の刃部を整形している（写真8）。図版4-4（第44図17）と5（第45図2）は、粗製石材の削器である。刃部は正反方向からの加工で整形している（写真9、10）。ハードハンマーによる加工と思われ、部分的に刃部は鉗歯状を呈す。図版4の粗製石材製石器には高倍率では使用痕は確認できなかった。

繩文時代中期が主体の住居からは、石鐵の占める割合が前期に比較して減少する（表1）。また削器・使用痕剥片の他に、打製石斧が加わる。ちなみに本遺跡で分析対象とした打製石斧全45点は、繩文時代前期前半の資料3点を除くと、残りすべてが中期に属する。45点中12点は刃部が欠損しており、7点の打製石斧に土擦痕が確認できた。1点は図版4の資料、他に中越式～諸磯a式期のPJ31出土資料が1点（非図化）、それ以外は遺構外の出土である。石材（表2）は黒曜石が大半であるが、前期と比較すると器種は減少し、かわりにホルンフェルスなどの粗製石材製石器が多くなる。

【その他】

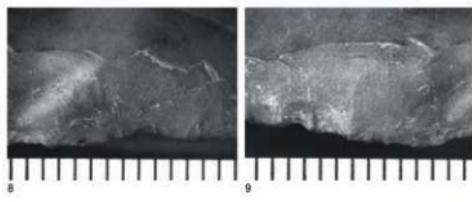
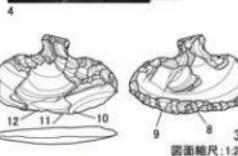
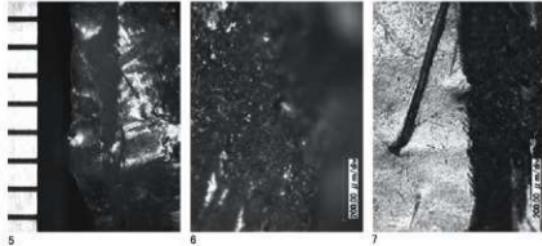
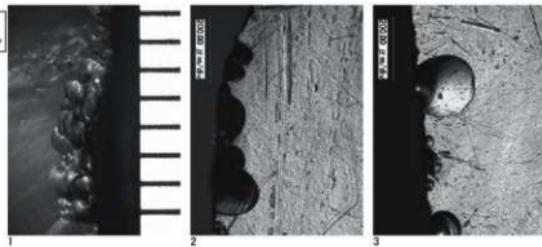
図版5-1（4号住居跡出土、非図化）は、黒曜石製の横形石匙である。刃部は両面加工である（写真1、2）。高倍率下では刃部に対して平行方向の線状痕が顕著にみられる（写真3）。両面摘み部の稜に摩滅が確認できた（写真4）。紐擦れ痕であろう。図版6-1（遺構外出土、非図化）は、黒曜石製の横形石匙である。刃部は両面加工である（写真6、7）。高倍率下では刃部に対して平行方向の線状痕が顕著にみられる（写真5）。黒曜石製石器には使用痕観察した限り、光沢は確認できず、刃部に平行方向の線状痕が確認できたのみである。図版6-2（31号住居跡出土、非図化）は、チャート製の横形石匙である。刃部は片面加工である（写真8）。高倍率下では、刃部に明るく、縁辺に限定して広がる丸みを持たない光沢がみられる。D1タイプ光沢と思われるが、あまり発達していない。光沢に伴い摩滅が確認できた（写真9、10、11）。表面には、こうした光沢などは確認できなかった（写真12）。図版6-3（第49図3）は、搔器である。基部は直接打撃で整形している。刃部は微小剥離痕である（写真13）。刃部に対して直交方向の線状痕が顕著にみられ、摩滅が確認できた（写真14）。線状痕は刃部に対して直交方向であるので、何らかの対象を搔き取る操作が想定される。他の縁辺には、部分的に光沢はあるものの摩滅はみられず（写真15）、使用によるものとは思われない。図版7-1（39号住居跡出土、非図化）は、黒曜石製の使用痕剥片である。刃部に対して平行方向の線状痕が顕著にみられる（写真17、18）。しかし写真16の部位には顕著でないので、写真17、18の部位が主たる刃

部であったと思われる。使用痕剥片の中で、肉眼でもはっきりと摩滅が確認できたのはこの資料である。図版7-2（13号住居跡出土、非図化）は、石籠である。押圧剥離で基部を整形している（写真19、20、21）。全体に片面加工であるが、基部尖端の尖頭部は両面加工である。刃部は素材打面側にあり、大きな剥離があるが、素材打面を除去するためと思われる（写真22）。刃部には微小剥離痕がみられる（写真22）。高倍率下では使用痕は確認できなかった。この資料が出土した13号住居跡は曾利V式期に比定され、剥片石器は、石鎌・石錐・削器・使用痕剥片・打製石斧・両極石器・石器未製品・剥片石核が出土している。石鎌9点の内、1点は図版7-4（13号住居跡出土、非図化）の有茎鎌である。図版7-3（34号住居跡出土、非図化）は、凝灰岩製の大型石鎌である。細かな鋸歯状加工がみられる（写真23、24、25）。他に黒曜石製石器の中に、数点鎌歯縁の石鎌が確認されている。また曾利I式期に比定される21号住居跡から、図版7-5（第56図2）の滑石製の耳飾りが出土している。全面研磨で整形している。

参考文献

- 阿子島香 1981 「マイクロフレイキングの実験的研究(東北大大学使用痕研究チームによる研究報告その1)」『考古学雑誌』第66巻第4号 1-27頁
- 阿子島香 1989 『石器の使用痕』考古学ライブラリー56 ニュー・サイエンス社
- 阿子島香・梶原洋 1984 「石器の使用痕分析と客観化(東北大大学使用痕研究チームによる研究報告その5)」『考古学ジャーナル』227号 12-17頁
- 角張淳一 1998 「石器研究についての感想」『東京考古』16 135-165頁
- 角張淳一 2000 「続・石器研究についての感想」『東京考古』18 46-70頁
- 角張淳一 2002 「石器研究の展望」『利根川』23 1-14頁
- 角張淳一 2003 「剥片剥離技術の検討および石器実測図の評価」『平成14年度 愛知県埋蔵文化財センター年報』愛知県埋蔵文化財センター pp.78-84
- 角張淳一 2007a 「石器の製作」『考古学ハンドブック』図書館 104-105頁
- 角張淳一 2007b 「先土器時代石器技法論」『列島の考古学II 渡辺誠先生古希記念論文集』 263-276頁
- 梶原洋・阿子島香 1981 「貞岩製石器の実験使用痕研究-ポリッシュを中心とした機能推定の試み-」(東北大大学使用痕研究チームによる研究報告その2)『考古学雑誌』第67巻第1号 1-35頁
- 芹沢長介・梶原洋・阿子島香 1982 「実験使用痕研究とその可能性(東北大大学使用痕研究チームによる研究報告その4)」『考古学と自然科学』第14号 67-87頁
- 高橋哲 2003 「使用痕実験報告と使用痕研究の課題」『アルカ研究論集』第1号 54-59頁
- 高橋哲 2008 「押圧剥離実験報告 -ネガ面の研究-」『宮城考古学』第10号 129-144頁
- 高橋哲 2011 「不定形石器の使用痕・剥離面分析-石器の技術・機能形態学の統合試論」『考古学研究』第58号第3号 69-79頁 考古学研究会
- 竹岡俊樹 1989 『石器研究法』言叢社
- 御堂島正 1982 「エッジ・ダメージの形成に関する実験的研究-変数としての刃角」『中部高地の考古学』II 66-98頁
- 御堂島正 1986 「黒曜石製石器の使用痕-ポリッシュに関する実験的研究-」『神奈川考古』第22号 51-77頁
- 御堂島正 1988 「使用痕と石材-チャート、サヌカイト、凝灰岩に形成されるポリッシュ-」『考古学雑誌』第74巻第2号 1-28頁
- 御堂島正 2005 『石器使用痕の研究』同成社
- 山田しょう・志村宗昭 1989a 「石器の破壊力学(1)」『旧石器考古学』38 157-170頁
- 山田しょう・志村宗昭 1989b 「石器の破壊力学(2)」『旧石器考古学』39 15-30頁

〈右側〉
低倍率写真的スケール: 1目盛り: 1mm
高倍率写真的スケール幅: 200ミクロン



200.00 μm/格

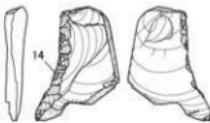
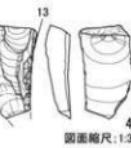
10

200.00 μm/格

11

200.00 μm/格

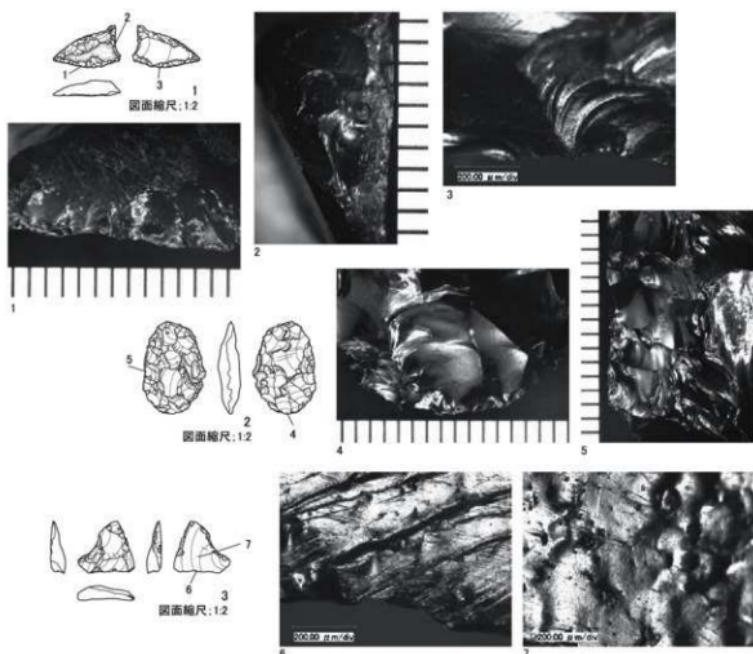
12



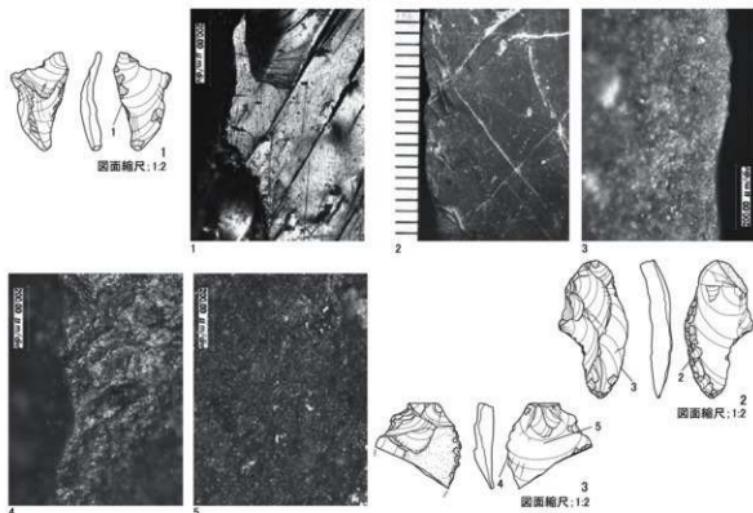
14
5



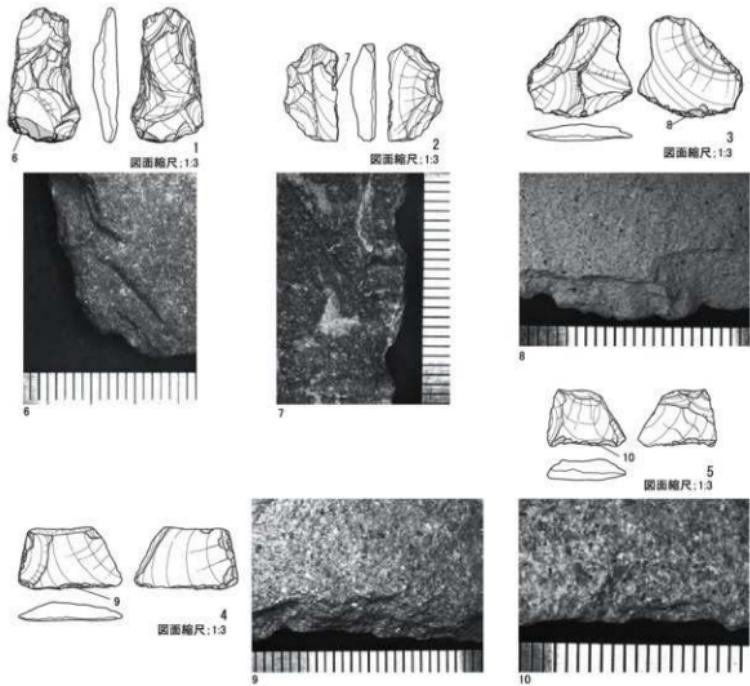
図版 1 PJ33- 中越式期



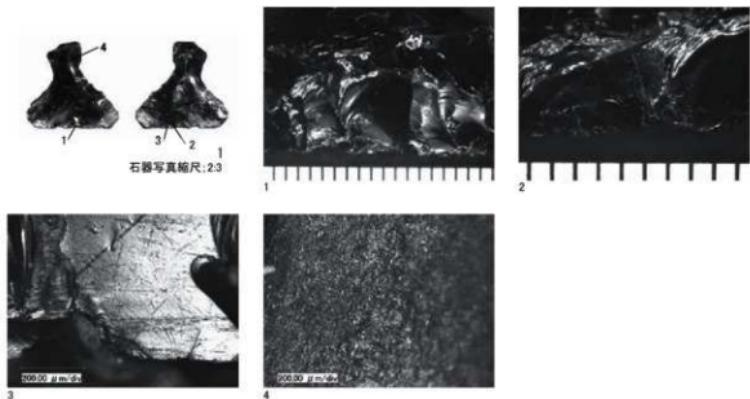
図版2 PJ01-諸磯aからb2式期



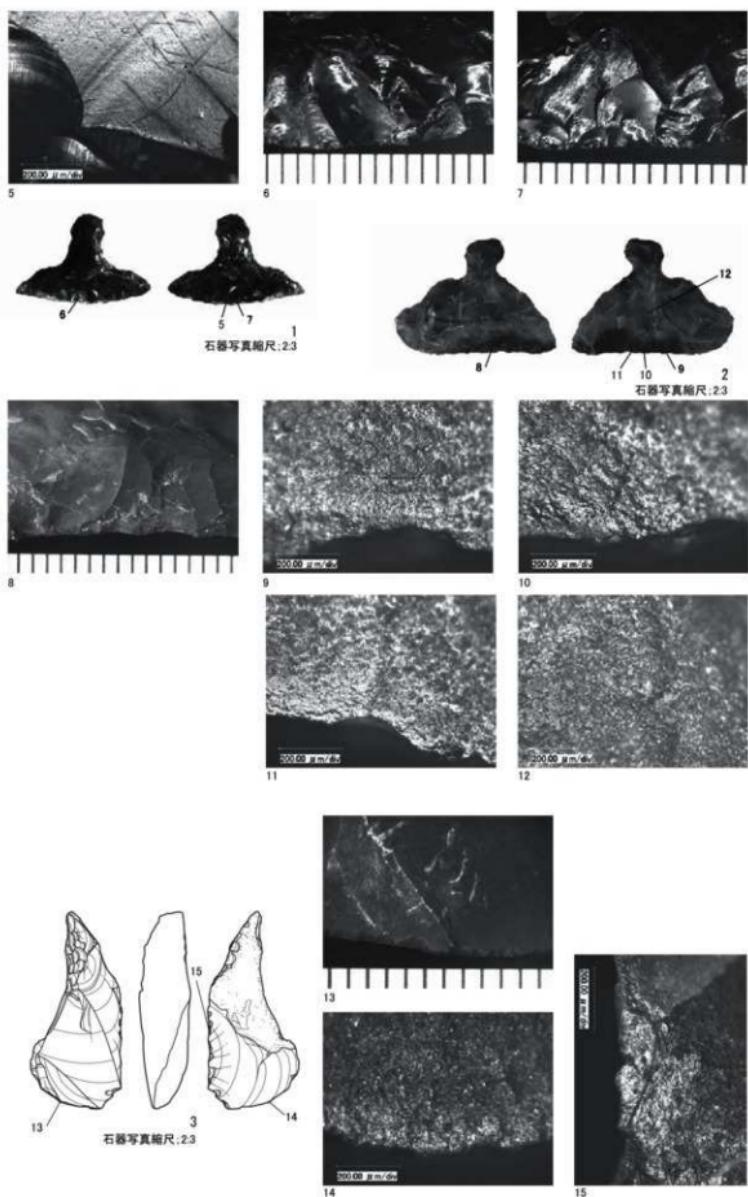
図版3 PJ17-曾利I・II式期(1)



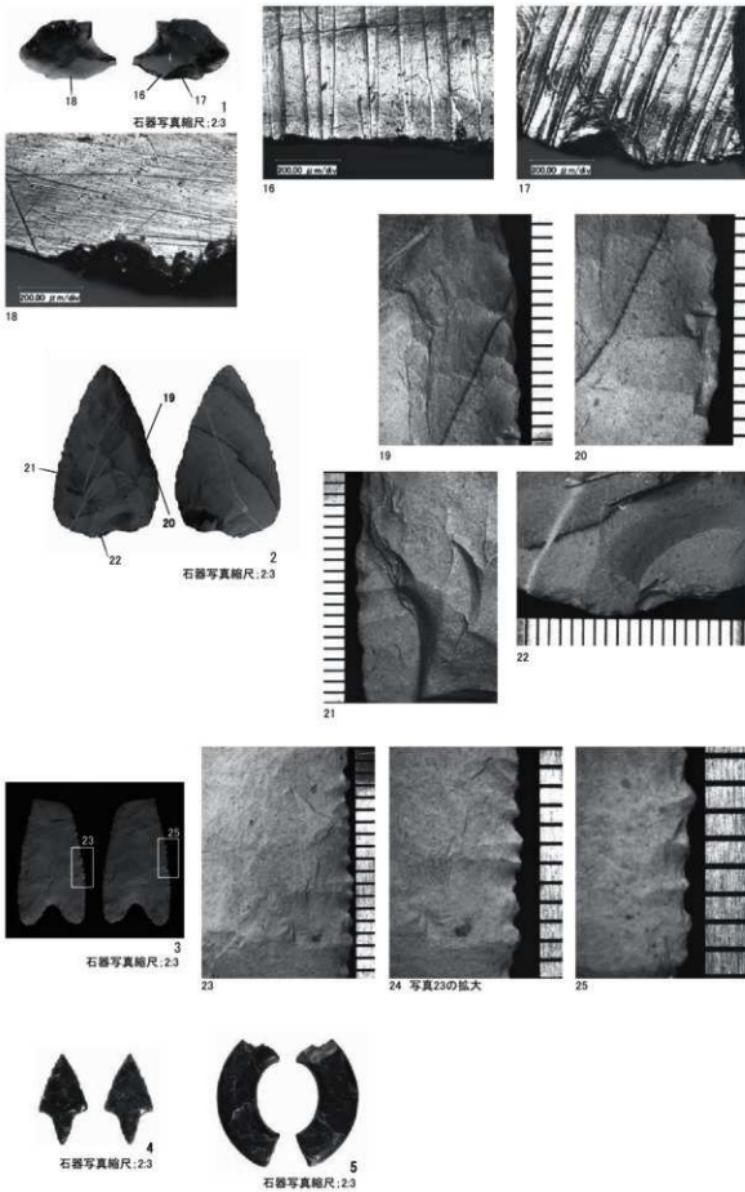
図版4 PJ17-曾利I・II式期(2)



図版5 その他(1)



図版 6 その他 (2)



図版 7 その他 (3)

表 1 石器器種別集計表

◎ 住居出土石器陶化遺物

表2 石器石材別集計表

	真堀石	チャート チャート	水晶	ホルン フェル	安山岩	真岩	基底岩	砂岩	滑石	総計
早期末	s 45		1		2					48
前期前半	b 6				2					8
	c1				1					1
	c2 1				1	1				3
	d 6				2	2				10
	e 17					1				18
	h				2	1				3
	i 9				1					10
	j 5					1				6
	k 12				6	1				19
	l 17					1				18
計	117	1	1	3	17	5				144
前期後半	s 30		2	1	2					35
	a2 2									2
	b 3		1							4
	c1				1					1
	c2 1				2	1				4
	c3 1 1					1				3
	d 10									10
	e 17									17
	f 1									1
	f2 1									1
	i 5									5
	j 14 1			1		3				19
	k 12		1			3				16
	l 17					3				17
計	114	2	4	1	1	11	2			136
前期	s 33	1			1					35
	a 4									4
	c1				1					1
	c2 1									1
	d 3					1				4
	e 16									16
	i 2									2
	j 2					3				4
	k 8					1				9
	l 6									6
計	79	1		1	6	1				85
中期	e 58	1			2	1				48
	a2 1				1					1
	b 11	1								13
	c1 1	1								3
	c2 1				1	1	1			3
	c3 1									1
	d 11				7	5				23
	e 22		2	3	3	6				31
	f 1				1					1
	f2 1									1
	g 2				1					1
	h 15		4	2	5	7	1			19
	j 12 5		1	1	1		1			18
	k 12				1	1	2			16
	l 4		2	1	2					9
	m 2									2
	n 1						1			1
計	131	8		14	4	26	21	2	1	207
総計	435	12	4	2	19	4	60	29	2	146

表3 石器器種別集計表(土坑)

	a	b	c2	d	e	h	i	j	k	l	総計
DK 1	1					1	1	1		1	4
DK 12	1										1
DK 20							1				1
DK 21	1										1
DK 26	1										1
DK 43							1				1
DK 58	1										1
DK 59		1									1
DK 63											1
DK 71										1	1
DK 72						1					1
DK 75	1										1
DK 86									1		1
DK 114	1										1
DK 116										1	1
DK 129								1			1
DK 126	1						1				2
DK 131											1
DK 136	1						1	1	1	1	6
DK 147							1				1
DK 151								1			1
DK 152									1		1
DK 161							1				1
DK 171	1										1
DK 173								1			1
DK 178										1	1
DK 181	2				1						3
DK 182	1										1
DK 188							1				1
DK 205								1			1
DK 207							1				1
DK 206	1								1		2
DK 213	1								1	1	3
DK 214								1			1
DK 217	1						1				2
DK 231										1	1
DK 244							1				1
DK 251										1	1
総計	16	1	1	8	3	7	4	5	4	3	52

第4章 調査の成果と総括

発掘調査と整理作業の過程で気づいた点を記して、総括に代えたい。

第1章で触れたとおり、山崎第4遺跡がある北杜市大泉町は、縄文時代前期から中期の大規模集落遺跡が密集する地域である。天神遺跡では諸磯b式からc式期の住居跡49軒、五領ヶ台式期の住居跡12軒が知られる。天神遺跡の南に隣接した寺所第2遺跡でも五領ヶ台式期の住居跡が少なからず検出されている。寺所第2遺跡は、中期を主体とした径200mほどの環状集落跡で、90軒を超える住居跡が検出されている。その多くは中期前葉から中葉の集落跡である。甲ヶ原遺跡は諸磯式期、中期中葉、曾利式期の環状集落跡が複合した遺跡で、北杜市域では遺跡面積、遺構数ともに最大規模と目される。こうした大規模遺跡のほか中小規模の縄文時代遺跡も多い。

山崎第4遺跡は、渓谷を挟んで天神遺跡と寺所第2遺跡に隣接する中規模集落遺跡と位置づけることができる。継続期間から考えるとこれらの遺跡と密接に関連しながら営まれたものと思われる。ただし、前期では山崎第4遺跡に駿迦堂23式期から諸磯a式期の遺構が認められ、天神遺跡の先駆けとなって、この地で集落を經營したと考えることができる。

山梨県内では諸磯b式期から遺跡数が増加するといわれている（山梨県 1999）。北杜市内でも諸磯a式期の遺跡は多くない。相反するように関東地方で遺跡数が減少し、遺跡の規模も縮小することから何らかの人口移動が想定されているが、山崎第4遺跡で土地利用の基礎を築いた集団が、やがてより広い尾根筋に集落を営み、天神遺跡へと連なったものであろう。

天神遺跡は、黒曜石の保有量が多いといわれている（大工原 2003）。八ヶ岳北麓、霧ヶ峰高原、諏訪湖周辺の黒曜石原産地から黒曜石を入手し、天神型石匙を製作して周辺地域へ供給したとされている。縄文時代前期から中期を通じて黒曜石交易は活発であるが、大泉町一帯が黒曜石流通に地の利があったために、大規模遺跡が継続して営まれた可能性もある。

大泉町一帯はちょうど標高800mから900mに位置する。八ヶ岳山麓を南麓の大泉町から西南麓、西麓へと等高線に沿うように移動すると古の甲信国境、立場川の深い河谷以外にはさしたる障害もなく移動することができる。これがもう少し標高の低い地点で移動しようとすると、八ヶ岳岩層流の流山や小河川の谷筋に阻まれてしまう。八ヶ岳南麓から西麓に至る遺跡分布図をみると、やはり標高900mライン前後に、富士見町井戸尻遺跡群、原村の久保地尾根遺跡、前尾根遺跡、茅野市の茅野和田遺跡、棚畠遺跡、駒形遺跡などがほどよい間隔で分布していることが分かる（井戸尻考古館 2009）。継続性が長く規模も大きな遺跡群が営まれる拠点地域をつなぐようにして黒曜石が流通した可能性があり、山崎第4遺跡周辺は八ヶ岳南麓側の終着点にあたるのであろう。時代は下るが縄文時代晩期の著名的な遺跡、史跡金生遺跡がこの地にあるのは偶然ではないように思われる。

山崎第4遺跡から南側には「大八田」と呼ばれる水田地帯が広がる。平安時代後半から中世にかけての八ヶ岳南麓の開発拠点となった土地柄で、甲斐源氏の祖、逸見冠者清光の居城と伝えられる史跡谷戸城跡は、山崎第4遺跡のすぐ西側にあたる。縄文時代と生業も自然環境も異なったであろうが、この地域の地理条件が、豊かで安全な自然環境を保証していたことが、大泉町の縄文時代遺跡の集中の第二の理由であろうか。

参考文献

- 井戸尻考古館 2009 『井戸尻発掘五十周年記念講演録集』
大工原 豊 2003 『ストーンロード 一縄文時代の黒曜石交易』安中市ふるさと学習館
山 梨 県 1999 『山梨県史資料編2 原始・古代2 考古(遺構・遺物)』

写真図版



調査地点遠景 南から



調査地点遠景 南から



調査地点遠景 西から



1号～3号住居 検出状況



1号～3号住居 埋土断面



1号～3号住居 埋甕炉検出状況



1号～3号住居 完掘状況 南から



4号住居 完掘状況 南から



4号住居 炉跡



5号住居 検出状況



5号住居 遺物出土状況



5号住居 完掘状況 南から



6号住居 検出状況 北東から



6号住居 埋土断面



6b号住居 埋土断面



6a号・6b号住居 検出状況



6号住居 完掘状況 南東から



6号・39号・40号住居 完掘状況 南から



13号住居 炭化材検出状況



13号住居 検出状況 南から



13号住居 埋土断面 南から



13号住居 炭化材・焼土検出状況 北東から



13号住居 焼土と遺物の出土状況



13号住居 焼土断面



13号住居 埋壺と焼土



13号住居 炉跡



13号住居 埋壺検出状況



13号住居 完掘状況 南から



9号住居 検出状況 南から



9号住居 埋土断面 南東から



9号住居 遺物出土状況 南東から



9号住居 ヒシ大珠出土状況



9号住居 完掘状況



9号住居 ヒスイ大珠出土状況



9号住居 炉跡



10号住居 完掘状況 西から



10号住居 カマド検出状況



10号住居 鉄鎖出土状況



12号住居 検出状況



12号住居 炉跡



12号住居 完掘状況



17号住居 完掘状況 南から



17号住居 検出状況 南から



17号住居 遺物出土状況 南から



17号住居 炉跡 西から



18号住居 検出状況 南から



18号住居 炉跡 南から



18号住居 完掘状況 南から



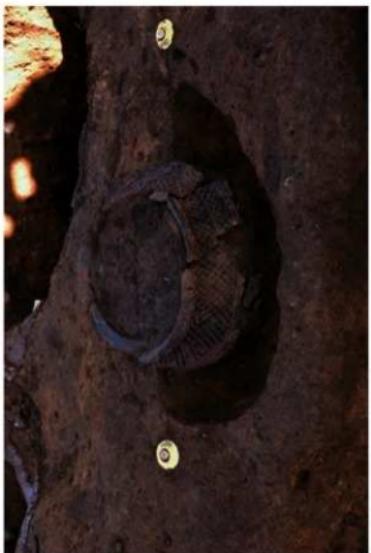
20号住居 検出状況 南から



20号住居 完掘状況 南から



21号住居 検出状況 南から



21号住居 埋葬



21号住居 完成状況 南から



22号住居 炉跡



24号住居 検出状況 南東から



24号住居 遺物出土状況 南東から



24号住居 炉跡



24号住居 地床炉



24号住居 埋甕検出状況



24号住居 完掘状況



25号住居 検出状況 南から



25号住居 検出状況 南から



25号住居 完掘状況 南から



26号住居 検出状況 南から



26号住居 完掘状況 南から



34号・36号・37号住居 検出状況 南から



36号住居 完掘状況 東から



37号住居 完掘状況 東から



34号住居 埋蔵上の遺物出土状況



34号住居 確認時の状況 南から



34号住居 焼土検出状況 東から



34号住居 焼土断面 北から



34号住居 炉跡と焼土



34号住居 埋甕検出状況 北から



34号住居 完掘状況 南東から



27号住居 検出状況 南から



27号住居 遺物出土状況



27・35号住居 完掘状況 南から



28号住居 検出状況 南東から



28号住居 遺物出土状況 南西から



28号住居 完掘状況 南西から



29号・30号住居 検出状況 北東から



29号住居 埋壺炉 検出状況



30号住居 埋壺炉 検出状況



30号住居 西側の埋壺炉 検出状況



29号・30号住居 完掘状況 北東から



31号住居検出状況 北から



31号住居遺物出土状況 北東から



31号住居地床炉



32号住居 完掘状況 南東から



31号住居 完掘状況 北西から



33号住居 検出状況 北西から



33号住居 完掘状況 西から



38号住居 炉跡と遺物出土状況



38号住居 完掘状況 南から



42号住居 完掘状況 南から



43号住居 完掘状況 西から



44号住居 完掘状況 南から



45号住居 完掘状況 南から



46号住居 完掘状況 南から



46号住居 炉跡



47号住居 完掘状況 西から



48号住居 完掘状況 南から



1号土坑



2号土坑 半截状况



2号土坑



4号土坑



5号土坑



8号土坑



39号土坑 半截状况



39号土坑



44号土坑



62号土坑 半截状況



62号土坑 上層の遺物出土状況



62号土坑 下層の遺物出土状況



71号土坑 埋土断面



71号土坑 完掘状況



72号土坑



77号土坑 半截状況 北から



77号土坑 炭化物・骨片出土状況



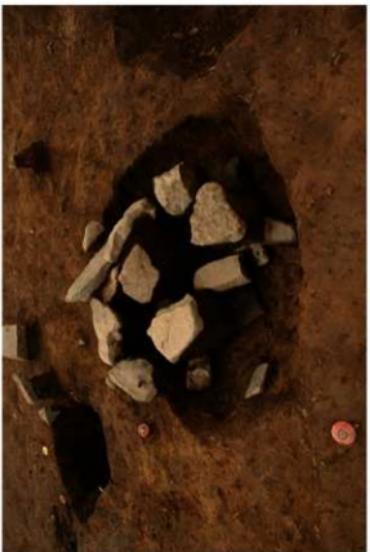
77号土坑 完掘状況 北西から



97号土坑



112号土坑 半截状況



112号土坑 上層の礫出土状況



112号土坑 下層の礫出土状況



112号土坑 底面の土器出土状況



113号土坑



119号土坑



119号土坑 半截状况



123号土坑



127号土坑 半截状况



127号土坑 碟と土器出土状況



130号土坑 半截状况



130号土坑



135号土坑



137号土坑



147号土坑 半截状況



147号土坑



151号土坑 半截状況



151号土坑 下層の遺物出土状況



151号土坑 遺物出土状況



151号土坑 下層の遺物出土状況



187号土坑



200号土坑



205号土坑



207号土坑 検出状況



207号土坑 半截状況





245号土坑



252号土坑



252号土坑 半截状況



作業風景



作業風景



前期前葉の土器群



前期前葉から中葉の土器群



前期中葉の土器群



前期後葉の土器群（1）



前期後葉の土器群（2）



前期末葉から中期初頭の土器群



中期中葉の土器群



9号住居出土品



中期後葉の土器群

報告書抄録

ふりがな	やまさきだいよんいせき
書名	山崎第4遺跡
副題	公営住宅整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告第37集
著者	佐野隆
発行機関	北杜市役所建設部・北杜市教育委員会
編集機関	北杜市教育委員会
所在地／電話	山梨県北杜市長坂町中丸 1996 番地 0551-42-1375
印刷所	株式会社サンニチ印刷 山梨県甲府市宮原町 608-1
発行日	2011(平成23年)年3月31日

ふりがな	やまなしけんほくとしおおいすみちようにして
所在地	山梨県北杜市大泉町西井出 3000-2 番地ほか
位置	北緯 35° 51' 21" 東経 138° 23' 21"
調査原因	公営住宅建設
調査期間	平成21年4月20日から平成21年11月27日
調査機関	北杜市教育委員会
調査面積	4,940 m ²
時期	縄文時代（前期・中期）、平安時代
主な遺構	縄文時代前期前葉から後葉の住居跡20軒、中期初頭から末葉の住居跡15軒、土坑250基、平安時代の住居跡1軒
主な遺物	縄文時代前期前葉中越式、神ノ木式、木島式、闇山式、前期中葉帆瀬堂Z3式、前期後葉諸磯式、北白川下層式、前期末葉十三菩提式併行、中期初頭五領ヶ台式～中期末葉曾利式の土器、石器、土偶、平安時代の土器、石器、金属製品
特記事項	天神遺跡に先行する諸磯式期の集落跡、小堅穴状の特異な墓坑1基、ヒスイ大珠1点

北杜市埋蔵文化財調査報告第37集
山崎第4遺跡
公営住宅整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告

2011年3月25日印刷
2011年3月31日発行

発行 北杜市教育委員会
山梨県北杜市長坂町中丸1996番地
TEL (0551) 42-1375

印刷 株式会社サンニチ印刷
山梨県甲府市宮原町608-1
